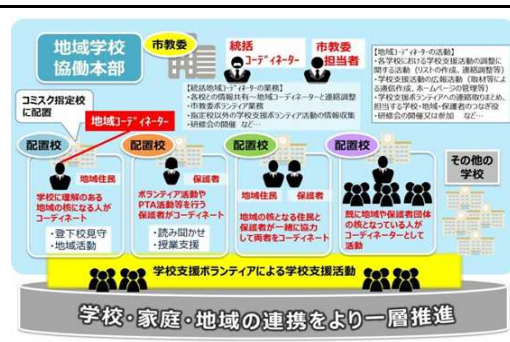


こんな活動です

コーディネーターを核としたネットワークづくりを目指して

北海道釧路市		●活動名 釧路市地域学校協働本部			●関係する学校名 釧路市立中央小学校 釧路市立共栄小学校 釧路市立鳥取小学校 釧路市立釧路小学校		
協働活動開始年度	平成 28 年度	関係学校数	4 校	のべ学級数	57 学級	のべ児童・生徒数	1129 人
活動区分	学校支援活動	—		地域人材育成			
	地域未来塾	—		—			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数			
	1人			8人			
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携		無	
	平成27年3月31日指定		217人				
参考URL	https://www.facebook.com/kushiro.borasute						
●連絡先	釧路市教育委員会教育支援課			☎ 0154-23-5189			

●体制図



●活動の概要・経緯

平成28年度から釧路市地域学校協働本部を立ち上げ、統括コーディネーターと教育委員会の担当者が中心となり、コミュニティ・スクール(以下、CS)である中央小学校、鳥取小学校、共栄小学校に地域コーディネーターを配置。また、昨年度には同じくCSの釧路小学校に地域コーディネーターを配置し、計4校に地域コーディネーターを配置。

活動内容は学校により異なるが、登下校の見守りや本の読み聞かせ・図書整理、学校環境整備など学校からの要望や希望に即した学校支援を行うとともに学校による地域貢献の橋渡しを行っている。また、参加する地域住民が活動を通してスキルアップし、地域を担う人材となるようサポートする仕組みを構築している。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 学校支援活動…本の読み聞かせ活動や図書整理、登下校安全見守り隊、花壇整備等
- 伝統芸能活動…姉妹都市である鳥取県の「鳥取しゃんしゃん傘踊り」の踊り指導や傘の修理
- 地域との連携活動…茶道体験、もちつき大会、昔の遊び体験等
- 授業支援活動…家庭科授業補助、校外学習支援等
- CSとの関わりについて…地域コーディネーターをCS協議会の委員とし、協議会での熟議を通して、学校と地域双方の情報を共有することにより、学校と地域のより一層の連携・協働の推進を図っている。

【実施に当たっての工夫】

- 統括コーディネーターの配置…統括コーディネーターが地域コーディネーターの相談役として、活動の補助・助言をすることで地域コーディネーターが安心して活動できる環境が整備されている。
- 地域コーディネーター交流会…地域学校協働本部の要である地域コーディネーターが集まり、活動内容や課題などの情報を共有し、それぞれの学校の活動に活かすことを目的として年3回実施している。
- コーディネーター通信の作成…各校の地域コーディネーターがボランティアの活動について紹介する「コーディネーター通信」を作成し、保護者や地域の方へ配布することで、ボランティアについて興味をもってもらい、参加するきっかけとなるよう促している。
- メディアを活用した情報発信…ホームページやFacebookを使って学校支援ボランティアの活動や各校の地域コーディネーター通信の紹介、ボランティア活動の啓発と募集を実施している。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 統括コーディネーターが全市的な観点から各地域コーディネーターの活動を支え、関係事業をつなぐ役割を担うことで、地域学校協働活動が総合的にコーディネートされ、より充実したものになっている。
- 地域コーディネーターがCS協議会に参加し、CSと連動した取組を展開することで、実情に応じた地域と学校との「連携・協働」の体制が構築できている。また、学校からボランティアの要望があった際には、地域コーディネーターが学校とボランティアとの連絡・調整を担うことで教職員の負担軽減につながっている。
- 地域のボランティアが学校行事や見守り活動等に関わることで学校・家庭だけではなく、地域全体で子供を見守り・育てるという環境が醸成されている。

●その他

小学校が実施する放課後における補足的な学習を支援するため、退職教員等の専門的ボランティアを小学校に派遣する「放課後学習サポート」を実施している。毎週1回を基本とし個々の、児童の学習のつまづきを解消するなど、きめ細やかな指導を行っている。



で生徒とボランティアの皆さん
傘修理体験活動



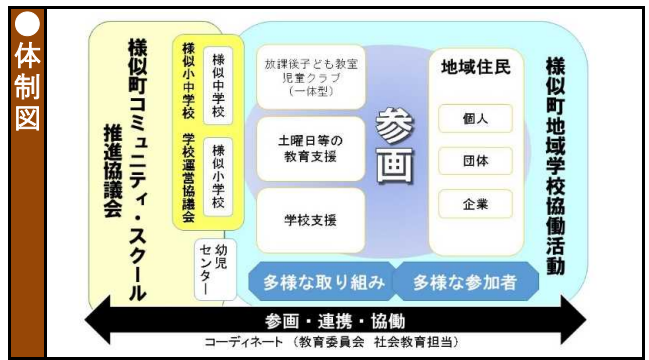
図書ボランティアによる本の
読み聞かせ活動

みんなで育む「様似愛」 自立と共生を目指し、幅広い地域住民のふれあいを通じた教育活動

北海道様似町	●活動名	●関係する学校名
	様似町地域学校協働活動	様似町立様似小学校 様似町立様似中学校

協働活動開始年度	平成 28 年度	関係学校数	2 校	のべ学級数	14 学級	のべ児童・生徒数	255 人
活動区分	学校支援活動	—		—		—	
	—	放課後子供教室		外部人材を活用した教育支援活動			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数			
	1人	1人		1人			
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
	平成30年4月1日設置	—	36人	—	—		
参考URL	http://www.samani.jp/						

●連絡先	様似町教育委員会生涯学習課	☎ 0146-36-2521
------	---------------	----------------



●活動の概要・経緯

様似町では、平成20年度から学校支援ボランティアが小中学校の授業や学校行事の支援、グラウンド整備などの環境整備を行っている。
 平成23年度から放課後子ども教室を開設。平成27年度からは放課後児童クラブと一体型の施設で、学習習慣の定着やボランティアによる体験活動を行っている。
 地域の文化団体による子供向けの文化体験事業「子ども文化クラブ」を平成13年度から開始し、地域の人材を活用した教育支援活動に位置づけて実施。文化団体の中には、学校支援ボランティアとしても活動している団体もある。
 地域と学校が連携・協働し、幅広い地域住民等の協力で、社会総がかりでの教育を実現するため本事業を推進している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ・学校支援活動…家庭科の調理実習やマシン授業、茶道体験や書道、アポイ岳(ユネスコジオパーク認定地域)の調査・探究活動などの「学習支援」、体力測定、体育大会、凧揚げ大会、本の読み聞かせ等の「行事支援」、グラウンド整備や図書整備などの「環境整備」、その他にも「部活動支援」を行い、個人や文化団体等幅広い住民がボランティアに参加している。
- ・放課後子ども教室…放課後等を安全・安心に過ごし、ICT機器を活用した学習習慣の定着やボランティアによる体験活動を実施することにより、家庭外で長時間を過ごす児童にも有意義な活動ができるよう努めている。
- ・外部人材を活用した教育支援活動…町内の文化団体が放課後等に、「将棋」「百人一首」などの教室を実施。子供の健全育成と将来の文化活動の担い手育成を目指している。

【実施に当たっての工夫】

- ・社会教育担当係が地域学校協働活動全体を総合的にコーディネートし、学校・子供・ボランティアそれぞれに有意義な活動となるよう配慮している。また、役場の他部署、関係機関、コミュニティ・スクール等の活動とも連携させ、継続的な活動となるよう努めている。
- ・全戸配布チラシや町広報紙で活動の周知を行っている。
- ・社会教育委員会議や学校運営協議会における意見聴取により、多様な意見を反映させている。
- ・ボランティアが負担のない範囲で参加できるよう配慮し、活動を通して、楽しさとやりがいを感じることができるよう努めている。
- ・ボランティア経験のない人にも社会教育事業等を通じ参加を呼びかけ、多様な人々が参加するよう努めている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ・組織的な活動を継続し、事業の改善を行うことにより、学校や学校支援ボランティアのニーズに合った活動が展開されている。
- ・学校支援地域本部の取組が、小中一貫校(平成29年度～)の取組や、小中一体型のコミュニティ・スクール(平成30年度～)の円滑な導入につながり、学校と地域の連携・協働への機運を醸成することができた。
- ・ユネスコ世界ジオパーク認定地域として、中学生がアポイ岳の自然再生に関わるなど、地域の特色を生かした自然・歴史・文化体験を行うことにより、幅広い住民が関わる教育活動が継続的に実施されている。

● その他

・認定こども園、小学校、中学校がそれぞれ1校ずつの町であり、コミュニティ・スクールの取組をさらに、幼・小・中一体型として発展させ、ユネスコ世界ジオパークに認定されている様似町の特色を生かした、地域社会総がかりでの教育の実現を目指している。



家庭科支援ボランティア(小学校)

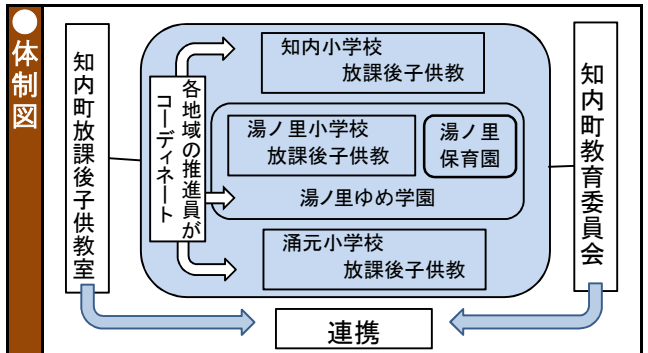


ボランティアに遊戯用紙の指導成果をもらった

北海道知内町	●活動名	●関係する学校名
	知内町放課後子供教室	知内町立知内小学校 知内町立湯ノ里小学校 知内町立涌元小学校

協働活動開始年度	平成 19 年度	関係学校数	3 校	のべ学級数	15 学級	のべ児童・生徒数	199 人
活動区分	学校支援活動	—		—		—	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		—		
	1人	—	3人		—		
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
	平成26年4月1日設置	—	17人	—	—		
参考URL	http://www.town.shiruichi.hokkaido.jp/about/shisetsu/kvoiku/shogakko.html						

●連絡先	知内町教育委員会社会教育課	☎ 01392-5-6855
------	---------------	----------------



●活動の概要・経緯
知内町では、保護者、地域住民が当事者となり、責任をもって子供たちに関わるために、放課後子供教室を基にして、町内の幼稚園から高等学校までにコミュニティ・スクールを導入し、地域学校協働活動を推進している。放課後児童クラブと一体型で活動を展開し、地域の教育力を活用して各学校区における特色ある体験活動を推進するとともに、放課後学習活動や長期休業時における体験活動などの企画・運営を行っている。また、教育委員会や地域団体と連携し、スポーツチャレンジクラブやプールまつり、図書室まつり、読み聞かせ、工作等の活動にも積極的に取り組んでいる。
特に湯ノ里小学校においては、小学校と保育園の複合施設である利点を生かし、幼児や保護者とも交流する放課後活動の場とするとともに、地域住民の交流の場としても活用している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 1 各学校区に放課後子供教室を設置し、それぞれ独立した形で、地域性や特徴を生かした運営を行っている。
- 2 地域の教育力を活用することにより、活動が地域に根付き、保護者や地域住民から安心・信頼される活動となっている。
- 3 イベントごとに放課後児童クラブや幼稚園・保育所等と連携し、多年齢で多様な体験の場を提供している。
- 4 支援員だけでなく、地域のボランティア団体がイベントを支援している。
- 5 長期休業中には、支援員以外の地域の人材等を活用し、様々な体験活動の場を作り上げている。

【実施に当たっての工夫】

- 1 安心・安全な活動を行うため、学校(教頭)、家庭(PTA)、地域(教育委員会や支援員)が連携し、運営委員会を開催している。
- 2 多年齢が楽しく交流ができるよう運営の安全性に配慮している。
- 3 イベント時には、支援員以外にも様々な地域の人材や教育資源を活用するようにしている。
- 4 各コミュニティスクールにおいても放課後子供教室活動の報告を行うことで、広く地域に開かれた事業として実施している。
- 5 自然体験、生活体験、運動体験、交流体験、読書体験の5項目をバランスよくプログラムに取り入れている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

子供たちをよく知る支援員の他、様々な地域の方が関わり、活動を実施しているため、子供たちも元気よく挨拶するなど、積極性が高まるとともに、地域住民も、朝の挨拶や交通安全運動時の声かけが明るくなり、地域全体で子供たちを育てている自覚や、まちづくりに参画しているという機運が高まっている。また、趣味や生涯学習から得た自らの学びの成果を生かし、子供たちに助言・指導することを通じて、大人と子供の学びが循環し、支援員の生きがいづくりにつながっている。

● その他

長期休業中に子供たちの規則正しい生活習慣の定着のため、地域の教育力を活用し、午前中のスポーツチャレンジや学習活動を行っている。季節に合った活動を工夫し、活動後、放課後子供教室の指導員による学習支援活動も行っている。



(夏休みの水泳教室
～スポーツチャレンジ～)



(バドミントン教室
～スポーツチャレンジ～)

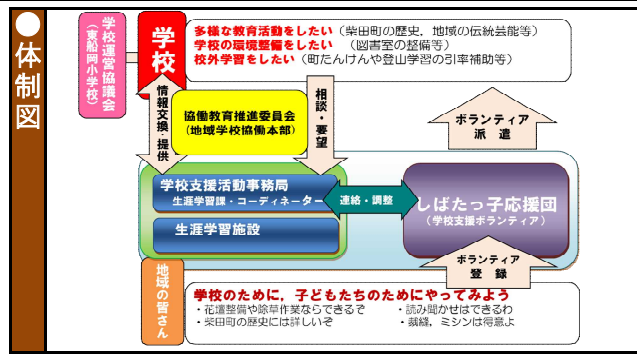
こんな活動です

みんなで育てる しばたっ子！ —「チーム柴田」で 笑顔の花を—

宮城県柴田町	●活動名	●関係する学校名
	しばたっ子応援団（学校支援ボランティア）活動	柴田町立船岡小学校 柴田町立槻木小学校 柴田町立柴田小学校 柴田町立船迫小学校 柴田町立西住小学校 柴田町立東船岡小学校 柴田町立船岡中学校 柴田町立槻木中学校 柴田町立船迫中学校

協働活動開始年度	平成 23 年度	関係学校数	9 校	のべ学級数	92 学級	のべ児童・生徒数	2,879 人
活動区分	学校支援活動				地域人材育成		
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	1人		4人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携			
	平成19年4月1日指定		281人				無
参考URL	—						

●連絡先 柴田町教育委員会生涯学習課 ☎ 0224-55-2135



●しばたっ子応援団(学校支援ボランティア)活動は、家庭・学校・地域の協働による教育活動を通じて、地域全体で子供たちの学びや成長を支える環境づくりを進めるため、平成23年度から実施されている。
平成26年度からコーディネーターを配置、平成30年度からは経験豊かな地域コーディネーターを統括コーディネーターとして委嘱し、コーディネート体制の組織化を実現。学校・ボランティアが円滑に目的を共有できるよう工夫し、両者の負担を軽減した結果、地域学習や地域貢献活動等、子供たちが地域の「もの・こと」と関わる活動まで広がりを見せている。

● 活動の特徴・工夫

- 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】**
- ①柴田町協働教育推進委員会(地域学校協働本部)…地域連携担当教諭、教育委員会各課・生涯学習施設職員、しばたっ子応援団員が事業の方向性や現状、課題などを共有している。
 - ②給食サポート活動…新入学児童の給食サポート活動では、団体登録のメンバーと個人登録者の協働活動や、団体同士の協働活動を行っている。
 - ③地域との関わり…郷土学習(町内の天然記念物や史跡を巡って地域の方に説明してもらう活動、地域の歴史学習、地域の民話を聞く体験、戦争講話等)や、地域貢献活動(ふるさとまつりにおけるおやじの会との協働活動、地域の桜を学習して今後の観光ボランティアにつなげる活動、ラベンダー栽培から地域に植栽する活動、竹ぼうき製作から地域清掃をする活動等。)を行っている。
- 【実施に当たっての工夫】**
- ①活動の周知…活動毎に報告書と活動写真を作成し、学校と教育委員会に掲示。さらに、年度末に全活動をまとめたしばたっ子応援団実践事例集を作成、配布している。
 - ②啓発活動…年1回しばたっ子応援団研修会を開催。登録しても活動依頼がないしばたっ子応援団員に活動の趣旨や現状などを伝え、子供たちの支援への意欲を再認識してもらうとともに、「支援したい内容」だけでなく、「支援できる内容」についての協力もお願いしている。
 - ③つながりづくり…個人登録の方と団体登録の方がともに活動する機会をつくり、後継者の育成等、長く続けられる体制を作っている。
 - ④検証・改善…しばたっ子応援団登録者の増加や実活動率の増加等の数値目標を設定、検証し、次年度目標設定の資料として活用。また、活動終了時に学校としばたっ子応援団員にアンケートを実施し、年度末に集計している。
 - ⑤次年度へのつながり…年度当初にコーディネーターが全学校の校長、教頭、地域連携担当教諭と学年に各1冊、前年度のしばたっ子応援団実践事例集とアンケート集計結果を配布し、学校の現状や活動予定の聞き取りを行い、活動しやすい体制を作っている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

ボランティア登録者の活動率向上の目標設定により、コーディネートする際に団体同士の連携や、これまで活動依頼がない登録者の掘り起こしを行い、新たなつながりが生まれた。また、コーディネーターが学校、ボランティア両者の負担を減らし、思いに寄り添い、接点を見出す活動を続けたことで、学校の要請でしばたっ子応援団が子供たちの支援を行う「支援活動」から、子供たちが地域のためにその学びを生かす「協働活動」へと広がりを見せつつある。

● その他

日本文化を学ぶ活動として、茶道体験や和太鼓体験、和箏体験や昔遊び体験、そろばん学習、浴衣着付け体験等を実施。さらに、登校後の時間を使った新聞を通じた交流活動や、家庭教育支援活動と連携し、次年度入学児童の保護者の家庭教育講座受講中に児童対象で行ったボディ・パーカッション活動等もある。



登校後の時間を活用した新聞の読み聞かせ活動



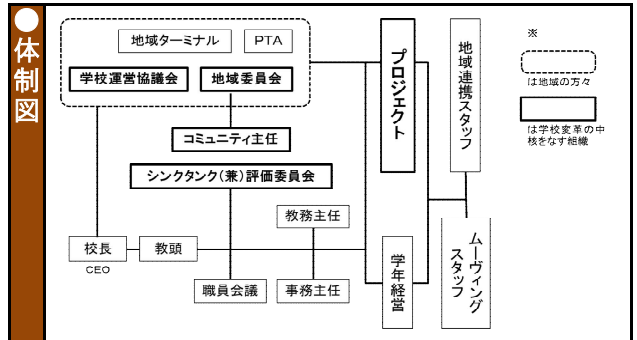
自ら育てた苗木を地域に植栽する活動

～豊かな未来に向けて～ コミュニティ・スクールの機能を生かした地域学校協働活動の推進

秋田県大館市	●活動名 城西小学校地域委員会	●関係する学校名 大館市立城西小学校
--------	--------------------	-----------------------

協働活動開始年度	平成 19 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	16 学級	のべ児童・生徒数	309 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成	地域未来塾	放課後子供教室	—	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	—			
	1人		1人	—			
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
	平成19年4月1日設置		390人		—		
参考URL	http://car2.cmbc.jp/jousei/						

●連絡先	大館市教育委員会 生涯学習課	☎ 0186-43-7113
------	----------------	----------------



●活動の概要・経緯

平成19年度に学校運営協議会が設置され、同時に地域連携の実行組織として「地域委員会」が設立されている。学校運営協議会が、教育活動の方向付けと評価を行い、「地域委員会」が地域学校協働活動を実践している。「地域委員会」は、地域住民やPTA会員等40名で組織され、月1回の「地域委員会」定例会において、学校と地域のよりよい協働の在り方について協議を重ねながら、地域総ぐるみで子供を育てる活動を継続している。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①教育環境整備「グリーンECOプロジェクト」…校地の緑化、通学路のグリーンベルト塗装・地域道路の美化、ゴミ減量化、リサイクル運動
- ②学校安全の取組…登下校の見守りと週1回の定例協議、地域委員会・PTA・学校運営委員会の企画による防災キャンプの実施
- ③多彩な授業支援…生活科・家庭科・総合的な学習の時間・正課クラブ等への支援、高校生によるものづくりの「交流授業」の開催
- ④「ふるさとキャリア教育」の推進…「秋田杉」「地域の仕事」「米作り」等、学年毎の課題設定で、地域と連携した主体的・協働的な学びを実践
- ⑤「城西ふれあいフェスティバル」…児童、学校関係者、地域住民が相互に交流を深める総合イベント
- ⑥家庭教育充実に係る機会の提供…子供たちの健全なインターネット利用を家庭教育の課題ととらえ、ワークショップを実施
- ⑦放課後や長期休業中の学習支援活動…教員OB、地域委員、地元高校生等による放課後や夏季・冬季休業中の自学支援
- ⑧読み聞かせ活動…委員と住民の有志により、月1回のペースで、昼の読書タイムに実施

【実施に当たっての工夫】

- ・活動理念を「できるときに、できることを」とし、特別なことを求めず、学校と地域が互いのよさを生かし、活動の継続を意識している。
- ・地域委員会が機能し、多様な主体が幅広く連携する活動をコーディネートしながら、学校・地域の互いのニーズを取り入れた取組の実践に努めている。
- ・各活動の際に、地域についての情報交換を行い、その結果を、即時に学校や関係組織に伝えて、改善を図ることに努めている。
- ・活動資金を捻出するため、買い物をした際に発行される地域通貨「ワッパル」による募金を地域に依頼している。
- ・地域に縁のあるオリンピック選手を応援しようと、東京オリンピック・メダルプロジェクトに参加し、エコ活動を地域一体で行っている。
- ・関係者の情報交換と地域への周知を目的に、学校のホームページとのリンクによるホームページ、フェイスブックを開設している。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ・地域住民が学校とともに教育活動や地域課題解決に参画することで、地域総ぐるみで子供を育てる気運が醸成されている。また、これにより学校理解が促進され、地域と学校が双方向に支え合う体制が確立されている。
- ・児童が多様な地域人材と関わり、多様な活動を体験してきたことで、学習への興味・関心・意欲が高まったとともに、地域の大人の姿から生き様を学ぶことで、将来に対する視野を広げることにつながった。
- ・地域通貨を活用した募金活動により、地域全体で学校を支え、子供たちを育てていくという意識が地域住民の間で高まった。

●その他

- ・学区内の企業と協働し職場体験活動を行うことで、児童のキャリア意識の形成、地域の経済活動への意識付けを図っている。
- ・地域活性化団体「根の一番共和国」との協働による農作業体験や食の体験等、子供たちに豊かな活動を提供している。



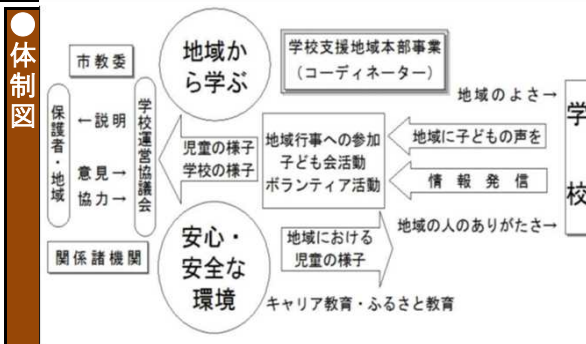
通学路のグリーンベルト塗装



「学校安全ボランティア見守り活動」

三地域のよさを生かした地域と共にある学校づくりを

●活動名		●関係する学校名	
秋田県にかほ市		にかほ市立院内小学校	
院内小学校地域学校協働本部			
協働活動開始年度	平成 27 年度	関係学校数	1 校
		のべ学級数	7 学級
		のべ児童・生徒数	152 人
活動区分	学校支援活動	—	地域人材育成
	地域未来塾	放課後子供教室	—
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数
	1人		3人
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数
	平成27年4月27日設置		51人
		企業・NPO等との連携	無
参考URL	https://www.fureai-cloud.jp/nikaho-innai-e		
●連絡先	にかほ市教育委員会 生涯学習課		☎ 0184-38-2171



- 活動の概要・経緯
- コミュニティ・スクールとして4年目を迎える。学校運営協議会が母体となり、地域学校協働本部、地域、保護者が連携して、教育目標である『夢に向かって学び、共に伸びゆく子どもの育成』に向け、実践を重ねている。
- 地域人材による、俳句教室(5・6年生)、田植え・かかし製作・稲刈り・餅つき(5年生)、生活科での昔遊び(1・2年生)、そろばん(3年生)、福祉体験(4年生)、読み聞かせ・太鼓クラブ(月2回)が行われている。
- 「地域を学ぶ」と称して、ふるさと写生会、小出ウォッチング(なべっこ遠足)、院内ウォッチング(史跡見学)、釜ヶ台番楽や獅子ヶ鼻温泉散策等において、地域の特性を生かした学びを実践している。
- 放課後子ども教室「キッズユートリック」は、学童保育クラブとの連携により月1回程度開催され、土曜日事業として、市スポーツ推進委員事業や冬休みに開催される『子どものつどい』など、特色ある活動が行われている。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①地域から学ぶ…地域コーディネーターのコーディネートにより、多様な学校支援活動が展開されている。
- ②安心・安全な環境づくり…地域団体・組織や地域住民等、多様な主体の連携により、登下校の見守り、あったか声かけ運動、入学記念植樹、通学路の安全確認、集落と協働した美化・栽培活動等に取り組んでいる。
- ③学ぶ機会の充実…院内学童保育クラブとの連携による放課後子ども教室「キッズユートリック」は、地域の特色を生かした、子供の興味・関心を踏まえた活動を実施しているため、参加者も多い。

【実施に当たっての工夫】

- ①コーディネート機能…米作りに関する活動、太鼓・箏等の和楽器体験等の「地域の人から学ぶ」活動では、地域コーディネーターが地域人材と学校をつなぎ、各学年の学習内容や日程等の企画・調整を支援している。
- ②多様な活動…統合前の旧小学校を活用した遠足や、3地域のよさに気付く目的で行われる写生大会、鮭の放流活動など、子供が地域のよさや特色に気付く学習活動を多く取り入れている。
- ③継続的な活動…「なべっこ遠足」や「いんない祭り」は、上学年が主体となって計画・実行し下学年をリードする取組として定着しており、上学年の成長や下学年の憧れにつながっている。活動の継続により、児童一人一人の心の成長とふるさとを支える一員である自覚を育んでいる。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 事業全てが秋田を支える人づくり、「地域の役に立つ人になりたい」をゴールとし、3地域(院内・小出・釜ヶ台)のよさを生かした地域と共にある学校運営ができています。
- 「こいでんびっく」「なべっこ遠足」「いんない祭り」など学校行事を地域住民が支援しており、特に「いんない祭り」は地域の行事との同日開催により、住民と教職員の垣根も低くなった。
- 地域学校協働本部は、教職員にとって創造的でワクワクする授業づくりに、なくてはならない組織となっている。
- ふるさとの「ひと・もの・こと」と関わる豊かな教育活動の推進により、子供たちは地域のよさや地域の方々のありがたさに気付き、地域の役に立つ人になりたいという思いが育まれている。

●その他

2度にわたる学校統合(平成22、27年)を経て、“みんな(児童・教職員・保護者・地域住民)で新しい学校を創っていこう”を合い言葉に、3地域のよさを生かした地域と共にある学校運営を目指しています。



五島まさを先生 絵画教室



にかほ 獅子ヶ鼻 温泉散策

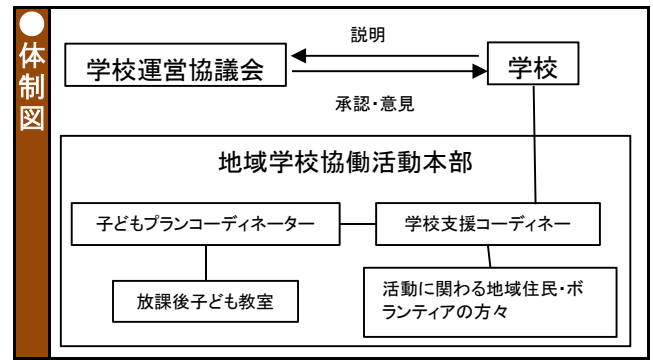
こんな活動です

町全体が学びのフィールド！ 町民みんなが子供達の応援団！

山形県西川町	●活動名	●関係する学校名
	西川町地域学校協働本部	西川町立西川小学校

協働活動開始年度	平成 24 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	10 学級	のべ児童・生徒数	209 人
活動区分	学校支援活動	—		—		—	
	—	放課後子供教室		—		—	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数			
	—	—		5人			
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
	平成28年5月1日設置	—	25人	—	—		
参考URL	—						

●連絡先 西川町教育委員会 学校教育課 ☎ 0237-74-2114



●活動の概要・経緯

平成24年4月1日、町内5つの小学校を統合した西川町立西川小学校が開校し、町内唯一の小学校となった。もともと、学校の教育活動には大変熱心で協力的な土地柄であり、地域の子供たちは地域で育てるという意識が住民たちに強かった。そこで、地域の方が総合的な学習や、地域での学習の支援を包括的に行っていくことを目的に地域学校協働活動運営委員会が組織された。平成28年度第2回学校運営協議会では、「地域と繋がって生きる人を9年間で育む学校とは」のテーマで熟議を行い、学校として地域として何が出来るのかについて話し合われた。それを受けて、学校と地域が共催で実施する「ふるさと楽行」が行われて、今年度で2年目となる。他に放課後子ども教室も実施し、子供たちの様々な体験活動を計画的に行っている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

小学校全校児童が各学年毎に分かれて、西川町内各所に赴き、自然体験や施設見学、歴史探索等の活動「ふるさと楽行」を行っている。少子化が進み、かつて小学校があった地域でも子供は0～数人がいる程度である。そこへ訪問することにより、子供たちは地域の「宝」を発見し、地域の大人は自分たちの地区の良さを見直すきっかけとなればという願いが込められている。この活動は平成28年度の学校運営協議会で「地域と繋がって生きる人を9年間で育む学校とは」のテーマで熟議が行われたことがもとになっている。熟議で話し合われた内容に基づいて行う活動のうち、教育課程内で出来ないものについては、コーディネーター同士が連携を取り、放課後子ども教室において実施され、学校支援活動と放課後子ども教室が一体となった活動が行われている。

【実施に当たっての工夫】

学校支援コーディネーターと放課後子ども教室それぞれにコーディネーターを配置している。「ふるさと楽行」は、学校支援コーディネーターが町内各地域に赴き、活動を担当する地域の方と活動の調整を行い、学校の計画に応じて幅広い地域住民を活動に参画させている。さらには、コーディネーターとの調整の後、各地区における活動の準備については、地域の指導担当者等がその任に当たり、学校と地域がそれぞれ責任を分かち合って活動を展開している。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 各小学校が開校する前は、それぞれの学区内での活動が中心で、学区外の自然に触れたり施設に入ったりする機会はあまりなかったが、現在は6年かけて西川町全体をめぐることができている。
- 「ふるさと楽行」で各地域の方々に協力していただいているが、その方々にとってもやりがいをもてるようになっている。各地域での評判も良い。

● その他

学校支援コーディネーターは、「ふるさと楽行」以外にも、地域が関わる教育活動の際には、地域との調整役を担っている。



地域の方から地元の歴史などに



二泊三日のキャンプで旧六み

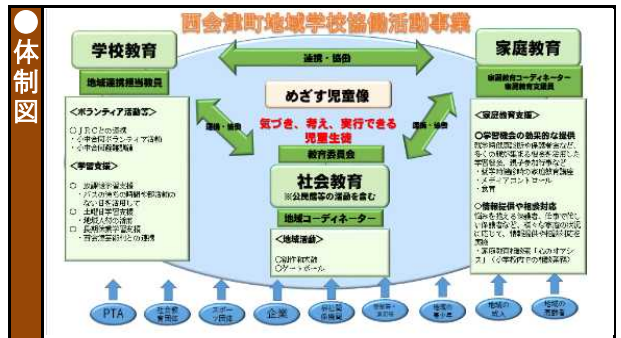
こんな活動です

学校と地域が一体となって子どもを育てる環境づくり

福島県西会津町	●活動名	●関係する学校名
	西会津町地域学校協働本部	西会津町立西会津小学校 西会津町立西会津中学校

協働活動開始年度	平成 29 年度	関係学校数	2 校	のべ学級数	18 学級	のべ児童生徒数	310 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習		—			
	地域未来塾	放課後子供教室		外部人材を活用した教育支援活動			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数			
	—	—		3人			
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
	平成32年6月1日設置予定	—	110人	—	—		
参考URL	http://www.town.nishiaizu.fkushima.jp/						

●連絡先	西会津町教育委員会 生涯学習課	☎ 0241-45-3244
------	-----------------	----------------



●活動の概要・経緯

西会津小学校は、平成24年4月1日に5校が統合され設立された。それに伴って、町には小学校1校、中学校1校となった。また、両校とも同じ敷地にあるということもあり、日常的に小・中の連携が図られている。学校支援事業は平成21年度から、放課後子供教室事業は、平成24年度の学校統合に伴い、5教室を1教室に統合した。さらに、29年度から「地域学校協働活動事業」を開始し、推進委員を26名委嘱し地域活動・ボランティア活動、学習支援活動、家庭教育支援活動に取り組んでいる。

地域活動・ボランティア活動では、双方の要望から中学生が地域のゲートボール協会のお年寄りに指導を仰ぎながら活動している。学習支援活動では、地域の方が講師となって、主に長期休業中や土曜日に教科指導、さらには絵画指導を行っている。家庭教育支援活動では、小学校の一室を活用して家庭教育相談室を開設し、「気軽に訪問できる場所」をモットーに日常的に家庭教育支援を行っている。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ① 今までになかった太鼓集団を結成し、様々な町イベントのアトラクションとして演奏を発表するまでになった。(町民10名、中学生12名で結成)
- ② 中学生と地域のゲートボール協会との交流から始まった活動が、全国大会出場を果たすまでになった。何より、お年寄りが、いきいきとしている。
- ③ 夏季休業中に小学生を対象に学習会を開催した。また、スポ少、部活動で忙しい小中学生を対象に土曜日学習会を開催し、休業中の宿題を中心に、絵画や作文の書き方についても支援を行った。
- ④ 「気軽に訪問できる場所」をモットーに、家庭教育相談室を開設した。
- ⑤ 定期的に家庭教育講座(就学時健康診断講話)やイベント(小学校見学ツアー、手打ちうどん教室)を開催した。また、家庭教育年間カレンダーを作成し、多くの町民が参加できるようにしている。

【実施に当たっての工夫】

生涯学習課職員、地域コーディネーター、地域連携担当教職員、家庭教育コーディネーターが、週に1回定期的に話し合いの場を設け、つねに連携を図っているため、学校の要望や地域住民の要望に対してすぐに対応できている。また、運営委員会(推進委員会)の中に、地域活動・ボランティア活動部会、学習支援活動部会、家庭学習支援活動部会ができ、それぞれが部会を開くなど、地域住民が自主的に活動するようになってきた。そのため、全体ではなかなか吸い上げることができなかった活動案が多数出てくるようになった。さらに、家庭教育支援活動では、小学校の一室に設けられた家庭教育相談室は、公的な相談窓口とは違い気軽に何でも相談できる空間となっており、お茶飲み話だけでストレス解消されて帰る町民の方もいる。今後は、「届けたいところに届かない」という課題の解決のために、子育て中の保護者が働く企業へ向いて家庭教育教室を行う。本町の特徴の一つであるケーブルテレビを活用し、町民に本事業の趣旨の周知や活動の報告をし、情報の共有を図るとともに、事業への参画を呼びかけている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 生涯学習課職員、地域コーディネーター、地域連携担当教員が連携を密にすることによって、各事業の連絡・調整の一元化が図られ、より広く地域の教育資源の情報共有が可能になり、双方向の協働体制が構築された。
- 子供たちの体験活動は、学校内で味わえない経験と成就感を得ることができた。さらに、地域の方々と交流しながらの体験活動は大変貴重であり、町の本事業の目標でもある「コミュニケーション能力の向上」にかなり役立っている。何より、創作太鼓、ゲートボール、地域ボランティア活動を通して地域が活性化している。
- 学習支援活動をとおして、子供たちがやる気を出してきた。また、地域の講師の方々が、生きがいになっている。

●その他

きっかけは交流学習。ゲートボール協会の方からの「もっと子供たちと一緒に活動したい。」の声から、中学生から希望者を募りゲートボールチームを結成。合い言葉は、「目指せ！全国大会」。子供たち以上にお年寄の方々がいきいきしてきており、地域の活性化に繋がっている。



すをゲ
中受
学ト
生な
がが
ら全
国協
会の
の方
に指
導

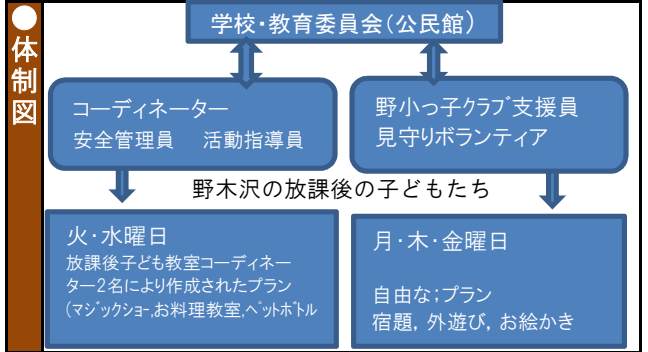


ける家
庭家
庭就
学教
育育
時育
健康
。診
断断
時時
にに
おに

こんな活動です

子どもの心を育てる放課後の居場所作りと楽しい活動 ～手を繋ぎ合いながら～

福島県石川町		●活動名 野木沢子ども教室				●関係する学校名 石川町立野木沢小学校			
協働活動開始年度	平成 26 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	7 学級	のべ児童・生徒数	117 人		
活動区分	学校支援活動		—		—		—		
	—		放課後子供教室		—		—		
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数				
	—		—		5人				
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無			
	平成31年3月31日設置予定		—	30人	—	—			
参考URL	—								
●連絡先	石川町教育委員会 公民館 生涯学習係				☎ 0247-26-2566				



●活動の概要・経緯

平成19年より、「野木沢子ども教室」は、「放課後に楽しい時間を一緒に過ごそう!!」と職員により、週1回の活動を始めた。活動を知った地域の方々の参加があり、ボランティアも増え、支えられながら継続できている。安心して安全な居場所を提供するだけでなく、コーディネーターにより考え出された独自の斬新なプログラムを子供たちは、毎週楽しみに参加している。様々な活動を通し、心豊かで健やかな子供たちが地域の大人たちとの関わりの中、育っている環境である。野木沢の子供たちの大半がこれらの活動に参加し、平成25年度より、徐々に回数を増やし、コーディネーターを配置するなど、現在は週2回の活動を行い、平成26年度からは子ども教室のない日も放課後の居場所をつくるために、「野小っ子クラブ」が開かれ、支援員や地域のボランティアに支えられ過ごすことができている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①週2回の「子ども教室」、週3回の「野小っ子クラブ」にこれらの連携により、野木沢小学校の子供たちの放課後がいつも見守られている。
- ②学校の支援を行なうコーディネーターの配置をし、放課後だけでなく学校側の支援を行なえる体制を取っている。
- ③読み聞かせの会があり、学校の授業前には朝の読書活動を行い、子供たちが本を身近なものとして触れ合うことが出来ている。
- ④活動の楽しさを保護者にも知らせ、子供たちがたくさんの活動を行っている様子がわかる写真入りの「子ども教室通信」を定期的に発行している。
- ⑤「体験の場」、「交流の場」、「遊びの場」として、豊かな体験活動や地域の大人との交流や異年齢の子供同士の交流を大切に活動プログラムを実施している。

【実施に当たっての工夫】

- ・朝の読書時間により、普段の授業に入る前に落ち着いた心を持ちながら望むことが出来るようになってきている。
- ・コーディネーターの知恵を絞ったアイデア満載の活動、多彩なメニューは、毎日毎日違ったものを見せてくれる。
- ・大人も子供も忙しく、普段の学校や家庭で経験できないことも多くあるため、たくさんの仲間と学び・遊び・体験できる貴重な時間をつくる。
- ・子ども教室で制作した作品を地区文化祭に出品している。地域の住民に活動内容を発信することができ、子ども教室についての理解・支援に繋げている。
- ・保護者や児童にアンケートを実施し、事業評価に活かすとともに、次年度の事業改善に生かしている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

季節に応じた野菜づくりや料理実習活動は、農作業にかかわる機会が少ない子供たちに対して、生きた教材を使った体験活動が提供でき、農作業の苦勞を知るとともに達成感を得ることができた。大人から学び、実際にやってみる、一人だけでなく周りの友達と共に行なう体験はたくさんの楽しみがあり、これらの実施にあたっては各ボランティア団体の多くの支えがあって活動できている。アンケート結果では、家庭での会話が増えた、家事の手伝いが増えた、苦手な野菜が食べられるようになった等うれしい回答が見られ、活動に参加している住民からも生きがいや生活に刺激がある等の声があり双方にとってやりがいのある教室となっている。

● その他

地域の関係団体の協力を得て、「読み聞かせ」や「料理教室」などを実施し、子供たちに豊かな体験活動を提供し、活動の充実を図っている。



て読み聞かせの様子(団体による)



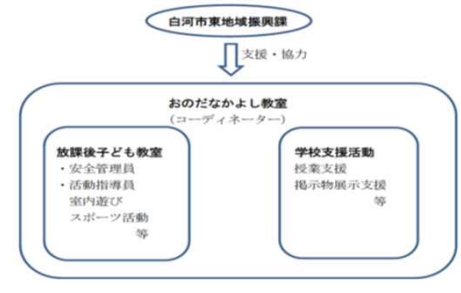
で縦割り調理実習をする(調理教室)

こんな活動です

地域の人材による学習支援・スポーツ活動・伝統行事体験

福島県白河市		●活動名 おのだなかよし教室				●関係する学校名 白河市立小野田小学校			
協働活動開始年度	平成 17 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	8 学級	のべ児童・生徒数	89 人		
活動区分	学校支援活動		—		—		—		
	—		放課後子供教室		—		—		
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数				
	—		—		1人				
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無			
	平成32年4月1日設置					10人		—	
参考URL	—								
●連絡先	白河市子ども未来室子ども育成課			☎ 0248-22-1111					

●体制図



●活動の概要・経緯

平日約2時間、放課後児童クラブと連携をとりながら、放課後子ども教室を実施している。地域のボランティアにより学習・室内遊び・スポーツ活動を中心とした活動を運営し、放課後の児童の居場所として機能している。また、季節ごとの日本の伝統的な行事（七夕、お月見様、団子さしなど）を学校の授業の一環として行い、伝統文化の継承を通じ地域の方との交流を推進している。学校支援にも取り組み、生活科における季節の行事の事前準備（材料の収集や必要な道具の準備等）や実際の活動の支援、校舎内へのちぎり絵やお便り等の掲示、保護者懇談会での児童の安全管理、登下校の見守り活動など積極的に関わっている。このことで、地域と学校との距離感が縮まり、地域の方が気軽に来校し支援できる体制が整ってきた。そして、これらの活動を様々な機会に地域に発信し、学校支援を地域全体に広げている。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①地域の人材を活用し、放課後の児童の安心・安全な居場所づくりに貢献している。
- ②日本の伝統的な行事を通して、地域住民の交流を図っている。
- ③白河市東地区の文化祭へ参加（ちぎり絵の出品）している。
- ④授業での学習支援（生活科、家庭科）及び登下校や保護者懇談会での児童の安全管理を行っている。
- ⑤校舎内の環境整備（掲示物や作品展示）を行っている。

【実施に当たっての工夫】

- ・コーディネーターに教員OBを配置し、活動拠点を小学校内に置くことで、学校との意思疎通を密にとることができ、運営もスムーズに行うことができています。
- ・お便りを発行することで情報提供し、学校や保護者との連携を図っている。
- ・ちぎり絵制作の文化祭への出品や校内への掲示を通して、地域と学校との協働連携を地区全体に周知するようにしている。
- ・学校支援活動をスムーズに進めることができよう、教員との情報交換に努めている。
- ・授業の活動での支援は、学校の負担が軽減されるよう事前の準備や当日の支援の仕方を担当教員と入念に確認している。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ・継続的な活動を行っていくことで、安心・安全な子供たちの居場所となっている。
- ・季節に応じた日本の伝統的な行事を体験することで、薄れつつある伝統文化を継承し、地域の方々との交流を深めることができる。
- ・学校への支援を進めることで、地域全体で子供を見守り育てていこうとする意識が高まり、見守り隊や婦人会などでも学校支援を行っている。
- ・地域と学校との協働連携を進めることで、質の高い体験活動の提供、子供の安全確保、教員の負担軽減、地域の方と子供とのコミュニケーションの増加などの効果があらわれている。

●その他

通常の放課後活動の他、季節行事のための製作等を協力して行っている。校内へも掲示し、環境整備にも役立っている。



七夕（七夕さま）季節に合わせ、



に「ちぎり絵」地域の作品を作っている。成の方し、文緒

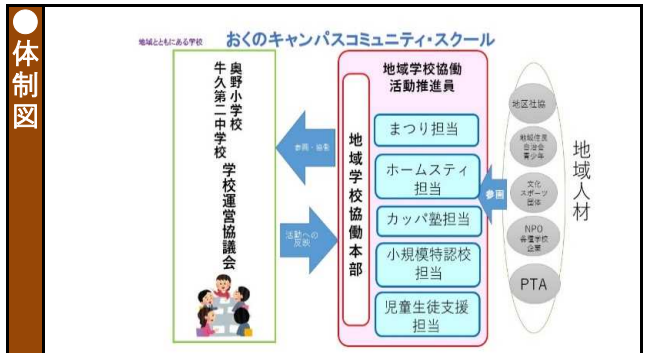
こんな活動です

多くの人との交流や豊かな体験を子供たちに！ -おくのキャンパス地域学校協働活動を通して-

茨城県牛久市	●活動名	●関係する学校名
	おくのキャンパス地域学校協働本部	牛久市立奥野小学校 牛久市立牛久第二中学校

協働活動開始年度	平成 27 年度	関係学校数	2 校	のべ学級数	14 学級	のべ児童・生徒数	304 人
活動区分	—	—	—	—	—	—	地域人材育成
	地域未来塾	—	—	—	—	—	外部人材を活用した教育支援活動
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	5人			
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
	平成29年3月1日設置	30人	30人				
参考URL	http://www.ushiku.ed.jp/es/okuno/ http://www.ushiku.ed.jp/jhs/ushiku2/						

●連絡先 牛久市教育委員会 放課後対策課 ☎ 029-873-2111



●活動の概要・経緯
奥野地区は奥野小学校、牛久第二中学校、おくのさくらふれあい保育園を「おくのキャンパス」とし、保小中一貫教育を推進している。「おくのキャンパス」では、少子化・人口減少に対応するため、小規模特認校制度の導入と国際理解環境・郷土教育を核とした特色ある教育活動を展開することで、児童生徒を増やし、学校存続によって地域創生につなげよう取り組んでいる。そのような中、平成27年度にコミュニティ・スクール推進委員会を立ち上げ、2年間の準備期間を経て、平成29年3月に奥野小学校、牛久第二中学校に「おくのキャンパス学校運営協議会」が設置された。子供たちが多くの人との交流を通して豊かな経験ができるように学校運営協議会で協議され、地域学校協働活動として、地域の人とともに実践できる体制を構築している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①土曜カッパ塾とSunday Okuno Kappa Academy(通称:日曜カッパ塾)・土曜カッパ塾は検定試験(英検・漢検)に向けた学習支援とダンス教室、日曜カッパ塾は地域の方や地元の企業、NPOを講師として多種多様な体験活動を実施。
- ②ふれあいまつり・以前は学校の企画運営による祭りだったが、地域学校協働活動として地域主体の祭りに移行中。ふれあいまつり実行委員会を組織して、学校と地域の連携を密にし、保小中の交流や地域との交流の場として実施。
- ③英語活動の支援・海外交流先からのホームステイ(H29年度実施)の受入先の調整、滞在中の留学生のサポートやさよならパーティーの企画運営。また、地域の英会話ボランティアと共に行う週3回イングリッシュタイムの実施。
- ④放課後カッパ塾・奥野小は週2日、牛久二中は週3日、地域の方が指導員となり、放課後に無料学習塾を実施。

【実施に当たっての工夫】

- ・地域学校協働活動推進員が学校運営協議会委員となり、学校の教育方針や目指す児童生徒像を共有化した上で、教育ビジョンに沿った地域学校協働活動を展開している。
- ・牛久市では平成27年度から地域学校コーディネーター養成講座を実施し、人材育成を行ってきた。現在、小中学校に推進員が委嘱されている。おくのキャンパスでは、5名がそれぞれの得意分野を生かし、チームで活動を実施している。
- ・地域学校協働活動の実施にあたっては、地域との連携を密に実施しており、特に、地域サークル(料理や折り紙、読み聞かせ等)や子供たちに関わる身近な人々、NPO法人や地域の企業等、社会総掛かりで子供の学びを支える仕組みを構築している。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 子供たちにとっては、様々な体験や多様な人々との交流から地域の方に認められる機会が増え、自己肯定感が高まった。また、留学生との交流や英語活動を通して、多くの子供たちが英語を好きになり学習していることがわかった。
- 学校にとっては、ホームステイの受入やふれあいまつりの運営など、学校から地域へ企画運営が移行することで学校の役割が明確となり、教職員の負担軽減につながった。
- 地域住民にとっては、子供たちと関わる活動を通して、人とのつながりが深まり、地域ネットワークが広がった。学校が生涯学習の場となり、地域の人にとっても、良い学びの場となっている。子供たちの成長に主体的に関わろうとする地域の方が増えてきた手ごたえを感じる。

● その他

・他にも地域学校協働活動として、地域の方が中心となった読み聞かせボランティアや歩く会ボランティア、クリーン作戦ボランティア、学習ボランティア等があり、児童生徒のために様々な支援活動を実施している。



地域のボランティアの手料理でもてな



おくのふれあいまつり

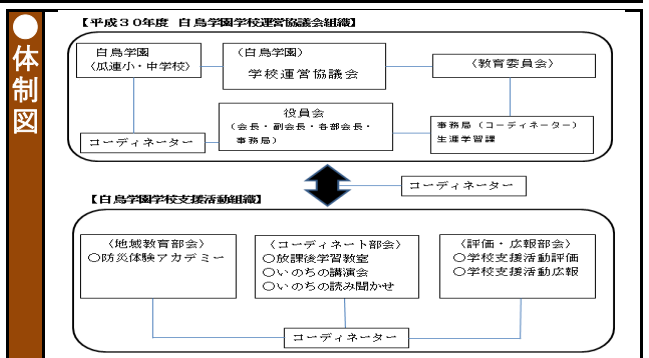
こんな活動です

地域は学校の応援団！ 学校は地域の活力源！ — 地域・学校・家庭・行政で協働する学校応援活動 —

茨城県那珂市	●活動名	●関係する学校名
	白鳥学園学校運営協議会	白鳥学園那珂市立瓜連小学校 白鳥学園那珂市立瓜連中学校

協働活動開始年度	平成 27 年度	関係学校数	2 校	のべ学級数	21 学級	のべ児童・生徒数	518 人
活動区分	学校支援活動	—		—		—	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	1人		3人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
	平成28年4月1日設置		47人				
参考URL	http://academic4.plala.or.jp/urishou/						

●連絡先 那珂市教育委員会 生涯学習課 ☎029-298-1111



●活動の概要・経緯

那珂市におけるコミュニティ・スクールのモデル校として、平成27年度から白鳥学園コミュニティ・スクール推進委員会を設置し、学校・保護者・地域が連携した「地域とともにある学校」を目標に、学校と家庭と地域が連携した活動を実施している。平成28年度から那珂市学校運営協議会規則が施行され、正式にコミュニティ・スクールとなった。

白鳥学園学校運営協議会の連携組織として白鳥学園学校支援活動組織「地域教育部会」「コーディネイト部会」「評価・広報部会」の3部会を設置しており、それぞれの分野に特化した地域学校協働活動を企画・実施をすることで、効率的な活動を展開している。

また、事務局を市教育委員会生涯学習課内におき、学校運営協議会及び各部会のコーディネイト業務にあたっている。

● 活動の特徴・工夫

- 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】
- 《地域教育部会》白鳥学園の児童・生徒及び地域住民の防災意識の向上を目的に「防災体験アカデミー」を開催している。具体的には防災士会やまちづくり委員会等の協力のもと、1泊2日で防災体験活動(起震車体験、ペットボトルろ過器の作成、ロープワーク体験、AED体験等)を実施している。
 - 《コーディネイト部会》放課後学習教室を地域及び企業の学習支援ボランティアの協力のもと、子供たちの算数の補充学習を支援する活動をしている。また、子供たちにいのちの尊さ大切さを伝える機会として中学校でいのちの講演会を、小学校でいのちの読み聞かせ活動を実施している。
 - 《事務局》各部会の開催文書や会議資料を作成したり、関係団体との連絡・調整等の業務を担っている。

【実施に当たっての工夫】

学校運営協議会の委員が各部会に所属しているので、学校運営協議会が出た意見が反映されやすくなっている。よって、学校のニーズに対応した活動の提供につながっている。さらに、部会委員が企画・運営することで、やらされているという感覚でなく、当事者意識をもって意欲的に活動している。なお、活動の成果や課題について毎年度評価を行い、その結果を次年度の活動計画に反映させるなどPDCAサイクルを構築しており継続的な取組がなされている。

生涯学習課内で事務局を担当することにより、多様な人材や活動団体・グループを、それぞれの活動にコーディネートすることができ、より効果的で多様な学習活動を仕組むことができる。さらに、学習支援ボランティアの支援依頼文書や礼状なども、事務局が発送し、教職員の負担軽減にもつながり、持続可能な活動につながる1つの要因となっている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

学校運営協議会委員及び各部会委員が「学校の応援団」という姿勢で協議したり、活動の運営にあたりしているため、活動が充実したものになっている。そうした活動に参加した子供たちの中には、アンケートに「将来大人になったら、今度は自分が子供のために、返していきたい」との感想を書いている子供もおり、意識の変容が図られている。また、地域の支援ボランティアも、子供たちの役に立っているというやりがいを感じながら支援している。少しずつではあるが、「地域とともにある学校」の実現に近づいている。

● その他

放課後学習教室では、地域の方の協力ばかりでなく、(株)横河住金ブリッジからも、地域貢献の一環として社員を学習支援ボランティアとして派遣いただいている。子供たちはわかる喜びを感じながら意欲的に学習している。



起震車体験アカデミーの



放課後学習ボランティアによる

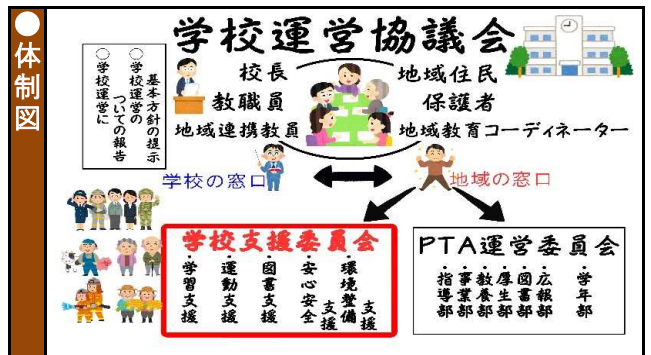
こんな活動です

地域教育コーディネーターがつなぐ学校と地域の絆 —学校支援委員会の活動を通して—

栃木県那須町	●活動名	●関係する学校名
	黒田原小学校支援委員会	那須町立黒田原小学校

協働活動開始年度	平成 26 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	16 学級	のべ児童・生徒数	311 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	—				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 2人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
参考URL	平成29年4月1日設置						
参考URL	—						

●連絡先	那須町教育委員会事務局生涯学習課	☎ 0287-72-6923
------	------------------	----------------



●活動の概要・経緯

平成26年度より、ボランティアとして学校支援にあたる地域人材を発掘し、学校教育の充実を図るための組織「学校支援協議会」を組織し、地域と学校の連携体制を構築してきた。地域の窓口となる「地域教育コーディネーター」と学校の窓口となる「地域連携教員」の連携により、多くの学校支援ボランティアが、様々な学校支援活動にあたった。平成29年度より、「学校支援協議会」から「学校運営協議会」へと移行し、それまでに築いた支援体制を「学校支援委員会」として、運営協議会内に位置づけて活動している。また、児童たちの総合的な学習の時間での地域学習を通して、多様な地域課題を把握し、地域に向けた提言を発信したり、地域の事業者と共同開発を行ったりして、地域参画を果たしている。

●活動の特徴・工夫

- 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】
- ①学校運営協議会内に「学校支援委員会」を位置づけ、2名の地域教育コーディネーターの連絡調整の下、充実した学校支援活動を行っている。
 - ②総合的な学習の時間における地域学習を、福祉・環境・町づくりなどのテーマで展開し、その成果を地域に向けて発信している。
 - ③地域事業者の支援により、食品を共同開発したり共同販売したりする機会を設け、地域に向けた発信の場としている。
 - ④「子どもの居場所づくり」として、地域教育コーディネーターの人材ネットワークと、町立公民館職員の講座運営スキルを活用した放課後子供教室の在り方を検討している。（平成30年度に年間を通して毎月1回試験的に実施し、平成31年度から本格実施する予定）
- 【実施に当たっての工夫】
- ①地域教育コーディネーターがもつ人材ネットワークを、5つの分野（学習支援・運動支援・図書支援・環境整備支援・安心安全支援）に分けて活用している。
 - ②地域学校協働活動の実施にあたっては、地域連携年間活動計画を作成し、各学年の月毎の活動が見えるようにしている。
 - ③学校に「ボランティアルーム」を設け、学校支援ボランティアが自由に利用できる環境を作っている。
 - ④学校支援活動の啓発の場として、地域教育コーディネーターがPTA運営委員会に赴き、活動について説明している。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ①地域教育コーディネーターと地域連携教員の連携により、平成29年度は延べ256人の学校支援ボランティアが活動した。
- ②学校支援に対する依頼文書や礼状の送付は地域教育コーディネーターが担当し、学校支援ボランティアとのつながりを強固にするとともに、教職員の負担軽減につなげている。
- ③学習発表会場で児童と共同開発した食品等を販売することで、支援者にとっても利益につながっている。
- ④地域に合った放課後子供教室の在り方を検討した結果、文化協会やサークルの会員が活動の場を広げて子供たちの指導にあたる体制づくりが進み、学びのサイクルの充実が期待されている。

●その他

・土曜授業において、町学校教育課と連携した「プログラミング・デイ」を開催した。様々な関係企業による体験コーナーを設け、児童の学びの充実のみならず、教職員・保護者の啓発の場となった。



催し「地域に向けた学習発表会」の開催



備前の先生との交流会（畑の整備指導までの支援をしてきた）

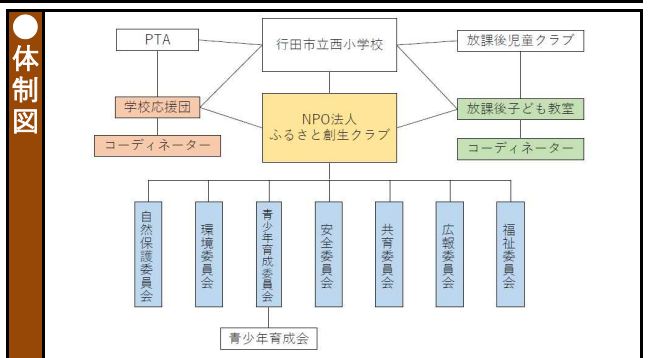
こんな活動です

自然と共生する「ふるさとのおまち行田」の創生 一子どもたちに安全・安心なまちづくり

埼玉県行田市	●活動名	●関係する学校名
	ふるさと創生クラブ	行田市立西小学校

協働活動開始年度	平成16年度	関係学校数	1校	のべ学級数	20学級	のべ児童・生徒数	480人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	1人		4人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
	平成30年4月1日設置		118人				
参考URL	http://www.tvg.ne.jp/furusatos/						

●連絡先 行田市教育委員会ひつくり支援課 ☎ 048-556-8319



●活動の概要・経緯
「NPO法人ふるさと創生クラブ」は、平成16年に発足した、埼玉県行田市で活躍しているボランティア団体である。活動は主として、行田市の西部地区が中心だが、自然保護活動などは他の団体と連携し、対象地域は拡大している。活動目標は、地域の子供の安全と健全育成、高齢化社会に対応する地域福祉、より良い環境を次世代へつなぐための自然保護と環境改善など多岐にわたっており、活動は全てボランティア活動である。組織体制は、自然保護委員会、環境委員会、青少年育成委員会、安全委員会、共育委員会、広報委員会、福祉委員会の7つの委員会を組織し活動している。現在、行田市立西小学校内の教室に活動の拠点を設け、地域と学校が連携・協働した活動を展開している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①学校安全パトロール隊：毎日の児童の登下校見守り。
- ②学校応援団：まち探検、ピオトープ観察などの授業支援。
- ③ふるさとこども教室：夏休みに生き物観察、魚釣り、水鉄砲大会、昔の遊びなどの教室を実施。
- ④放課後子ども教室：こま回し、郷土かるた、折り紙、紙飛行機など、昔の遊びを取り入れた活動を実施。
- ⑤地区青少年育成会事業への参加：親子川遊び大会や親子餅つき大会に参加。
- ⑥地域福祉活動：高齢者行政について学ぶ会を実施。男性会員による料理教室を開催。

【実施に当たっての工夫】

行田市立西小学校の空き教室に拠点を設け、学校・家庭・地域と連携した活動を推進している。「学校安全パトロール隊」として毎日児童の登下校の見守りをしているため、その他の事業でも子供たちは安心して活動に参加している。夏休みに行く「ふるさとこども教室」では、多いときで100名前後の申し込みがあり、クラブで所有する水田を活用して魚釣りや生き物観察などを行っている。放課後子ども教室では、これまで経験してきたスキルを活かしたメニューを組んでおり、放課後児童クラブ(学童保育室)に所属する児童も多く参加し、連携が図られている。また、さらに活動の幅を広げるために、本クラブの代表が「行田市民大学」の創設に携わり、平成28年に「NPO法人行田市民大学活動センター」を設立し、市内のものづくり大学等と連携して行田市全域で活動をしている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

子供たちが安全・安心に登校できるようになり、「地域の方々に見守られている」という意識が子供たちの中に芽生えている。また、子供たちはふるさと行田の自然と共生することの大切さを学んでいる。スタッフは、行田市民大学等で学んだ経験を「放課後子ども教室」や「ふるさとこども教室」等の活動に生かしており、生涯学習の循環がなされている。スタッフは子供たちから多くの元気をもらい、子供たちは地域の方々とコミュニケーションをとることで、社会性が培われている。保護者にとっても今の親世代では伝えられない昔の伝承遊びを子供たちに教えてもらったり、登下校の見守り活動をしてもらったりすることで、スタッフに感謝している。

● その他

持田地区青少年育成会の事務局として、西小学校を拠点に運営と事業への参画をしている。夏休みのふるさとこども教室では、子供たちにパソコン教室を実施している。自然環境を守る取組として、忍川里川づくり協議会に参加している。



行田郷土かるたを使用した放課後子ども教室



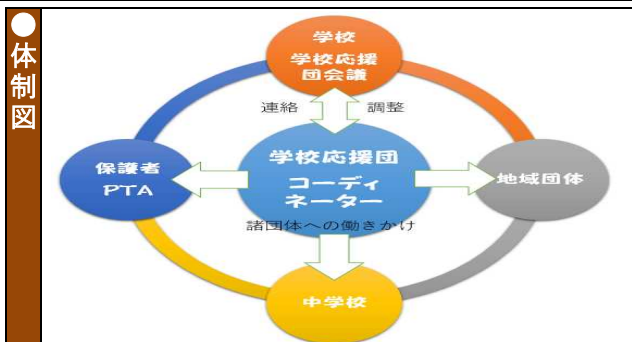
こま回しのコツを教える放課後子ども教室

学校・家庭・地域の絆で子供を育てる「北小No.1大作戦」

埼玉県上尾市	●活動名 大石北小学校学校応援団	●関係する学校名 上尾市立大石北小学校
--------	---------------------	------------------------

協働活動開始年度	平成 21 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	27 学級	のべ児童・生徒数	770 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習		地域人材育成			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		1人	
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携		有	
参考URL	http://www.city.agee.lg.jp/site/oishikita-elementaryschool/						

●連絡先	上尾市立大石北小学校	☎ 048-775-4428
------	------------	----------------



●活動の概要・経緯

大石北小学校学校応援団の活動は、主に「登下校の見守り」「学習補助」「環境教育」の3つである。特に、校内に設置されているピオトープは、平成7年に作られ、平成23年より再生活動が行われている。地域・保護者ボランティアと環境委員会児童を中心に管理・活用し、毎年6月には「ホタル観賞会」が開かれ、本校児童のみでなく、多くの地域の方々が参加している。また、5年生の総合的な学習の時間で、地域のボランティア団体(鴨川を愛する会等)の協力の下、環境問題について学び、鴨川の清掃活動を行ったり、3年生の社会科の授業では、地域の方から学校周辺の昔の様子の話の聞いたりなどして、地域に根付いた学習を進めている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①学区内の各防犯ボランティア団体と定期的に情報交換会を行い、通学路の改善に役立っている。
- ②学習補助活動として、家庭科での裁縫学習や、生活科でのさつまいもづくり・町たんけん、生き物学習の際に地域・保護者の方々の協力がある。3年生の社会科では、地域の方に講師となってもらい昔のようすの学習を行っている。
- ③総合的な学習の時間で学区の鴨川の生態を学習する際には、地域のボランティア団体(鴨川を愛する会等)から講師を招き、実際に川の水を観察しながら学習を行っている。
- ④学校応援団主催で毎年美化・清掃活動が行われており、地域・PTAの方々以外にも学校開放団体や、隣接する中学校から生徒の協力がある。
- ⑤環境教育の一環として、ピオトープの保全活動を行っている。また、環境委員会児童と学校応援団(親父の会)が中心となって、校内でホタルの育成を行っている。育てたホタルの観賞会を毎年6月に開催しており、毎年多くの来場者がある。

【実施に当たっての工夫】

- ①学校応援団コーディネーターが中心となって地域の団体との調整を図っている。元々地域にあった組織を学校に協力していただけるような体制に整えるため、毎年学校応援団会議を開き、情報交換や要望等の伝達をしている。
- ②昨年度より「感謝の会」を開き、日頃協力していただいている学校応援団の方々を招き、感謝を伝えている。直接お礼の言葉を言う機会を通して、児童が学校は地域によって支えられているということを知る良い機会となっている。
- ③美化・清掃活動に中学校生徒が協力することで、小中一貫教育の一つとして位置づけている。
- ④環境学習を軸に、地域の方と協力し、地域について学ぶことをとおして、地域への愛着を深めている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

地域と学校の距離が非常に近くなり、様々な場面で学校の教育活動への協力が得られるようになった。特に防犯ボランティア団体については、学校応援団コーディネーターの働きもあり、活動がより活発化している。ピオトープを中心とした環境教育についても、本校の特色ある活動として地域に知られるようになった。児童も環境教育に対して関心が高く、校内で展示されている生き物を大切にしている。鴨川の学習が、児童の視野を学校から地域へと広げることにつながっている。

● その他

本校は、平成28年度彩の国埼玉環境大賞において奨励賞を受賞、また、全国学校・園庭ピオトープコンクール2017にて日本生態系協会賞を受賞している。



いたに鴨年
たに川生
だいを
いるを
た生総
。きす
。きす
物に
会的
な合
つ一
の学
習の
方々
の教
えに
間
で鴨



ルのホ
を方
タ
間
々
ル
近
で
見
オ
セ
ト
て
い
プ
た
だ
放
い
す
た
ホ
。タ

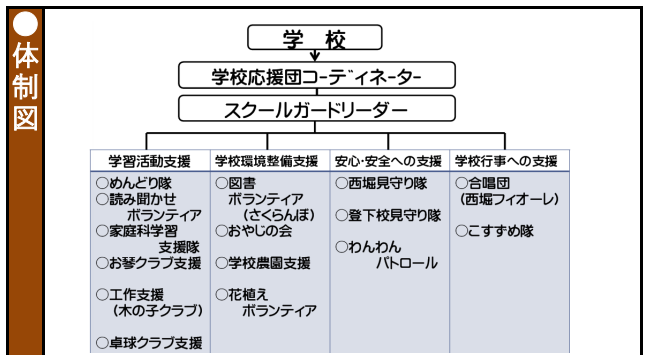
こんな活動です

『学校・家庭・地域の絆を深める輝く学校づくり』 ～子供が輝き、保護者・地域が輝く、教師が輝く、学校応援団活動～

埼玉県新座市	●活動名 西堀小学校学校応援団	●関係する学校名 新座市立西堀小学校
--------	--------------------	-----------------------

協働活動開始年度	平成 29 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	14 学級	のべ児童・生徒数	375 人
活動区分	学校支援活動	—		—		—	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人		外部人材を活用した教育支援活動		
学校運営協議会	指定・設置日 平成30年4月1日設置	ボランティアの数	延べ登録人数 150人	企業・NPO等との連携	無		
参考URL	http://www.c-niiza.ed.jp/e-nishibori/						

●連絡先	新座市教育委員会教育支援課	☎ 048-477-7142
------	---------------	----------------



●活動の概要・経緯

西堀小学校の学校応援団は、「学習活動支援」「学校環境整備支援」「安心・安全への支援」「学校行事への支援」の4つの部会、15の活動団体が組織され、児童の健全育成を目的とした活動を行っている。元保護者の方が、児童卒業後も学校応援団コーディネーターとして教育活動に関わり続け、学校を支えている。年に4回学校応援団会議を開き、活動団体同士の横の連携が図れるようにして活動が持続するように工夫している。土曜日は地域の方が主体となり、「新座っ子ぱわあっぶくらぶ」事業の一環として休日の子供たちの活動を支援している。

また、地域の方々に支援していただくだけでなく、感謝の会を開いたり地域の行事に参加したりと、学校からも主体的に地域の方と関わることで互恵性のある取組となり、地域との絆や所属意識が育まれている。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①地域の方々による主体的な活動
 - ・学校応援団会議を年に4回実施し、複数の活動団体が合同で集まる機会を設け、学校応援団員同士の横の繋がりを育てるようにしている。
 - ・わんわんパトロール(犬の散歩時に、子供たちの安全見守り)。
 - ・おやじの会(運動会テントの片付け、町内会秋祭りの出店、草取り)。
 - ・「新座っ子ぱわあっぶくらぶ」事業として、「お琴」「忍たま(体づくり運動)」くらぶの実施。子供たちに土曜日の多様な活動の提供。
- ②めんどり隊とこすずめ隊による生活指導、サポート
 - ・めんどり隊(地域の方々による1年生の給食配膳・片付け、清掃活動の補助)やこすずめ隊(低学年懇談会時の図書室での読み聞かせや折り紙教室による見守り)の活動を通じた児童との交流。

【実施に当たっての工夫】

- ①ユニークなネーミング(めんどり隊、こすずめ隊、わんわんパトロール)により、児童にも親しみをもってもらえるようにしている。
- ②学校応援団の方々への感謝の会を年間指導計画に位置づけ、継続した関わりが持てるようにしている。
- ③和太鼓クラブ、お琴クラブ、ダンスクラブの児童が西堀町内会秋祭りや特別養護老人ホームの夏祭りに参加し、児童も積極的に地域と関わっている。
- ④学校応援団めんどり隊が、校舎内に設置している高齢者いきいき広場利用の高齢者と連携し、「昔遊びの会」を実施し、地域と児童の橋渡しをしている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ・学校応援団が、様々な教育活動で支援をすることにより、地域との連携が深まっている。
- ・学校応援団のメンバーと児童が交流する機会が増えたことにより、地域の方と顔なじみになり地域の方に見守られているという安心感が生まれている。
- ・児童との関わりを多く持ったり感謝の会を開催したりしたことで、地域の方々の自己肯定感が高まり、継続して活動していただけるようになってきている。
- ・学校応援団会議を年4回定期的に開催することにより、学校応援団員同士の連携が強化されるとともに、人間関係が築かれ活動を継続していただける方が多くなっている。

●その他

- ・平成29年度は「おやじの会」が中心となって、冬の星の天体観測会を実施した。市の生涯学習スポーツ課の職員を講師に招き実施し、今後も引き続き活動していく。



めんどり隊による給食配膳支援の様子



こすずめ隊による懇談会時の見守り活動の様子

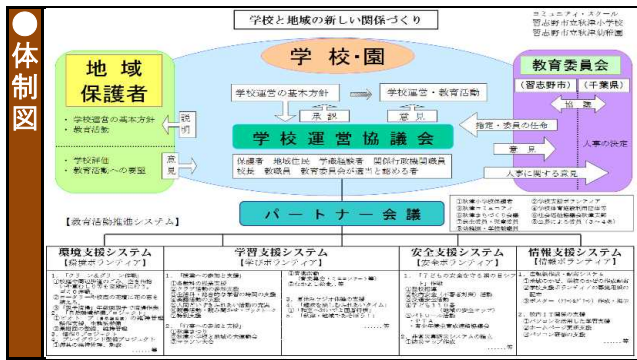
こんな活動です

学校と地域をつなぐ「パートナー会議」 —子どもと大人が楽しく学ぶ場—

千葉県習志野市		●活動名	秋津小学校パートナー会議	●関係する学校名	習志野市立秋津小学校
---------	--	------	--------------	----------	------------

協働活動開始年度	平成14年度	関係学校数	1校	のべ学級数	12学級	のべ児童・生徒数	237人
活動区分	学校支援活動	—		地域人材育成	—		
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		
	20人		6人		6人		
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
	平成18年10月1日指定		82人				
参考URL	http://www.nkc.city.narashino.chiba.jp/akitu/						

●連絡先 習志野市立秋津小学校 ☎ 047-451-8111



●活動の概要・経緯

平成14年度より「新しいタイプの学校運営の在り方に関する実践研究について」という文部科学省指定の研究が始まった。「少子化時代の大家族、学校と地域で育てる秋津っ子」の推進を目的に「学校運営協議会」の前身となる「運営会議」を平成15年より発足させた。同時に「パートナー会議」の前身となる「地域学校協議会」が①学校と地域協働の推進事業の計画・立案・実施・評価②学校及び運営会議への要望と協力要請③学校教育活動についての提言をねらい、役割を担って開催するに至った。本校はそれまでに、学級減に伴う余裕教室が地域に開放され、「秋津コミュニティ」が住民による文化活動の拠点(夜間平日はシャッター等で間仕切りされている)として活用されている。また、現在も本校のシンボルとなっている、ピオトープや水田なども地域住民の奉仕作業として、子供たちの学習に参画意識を持つことのできる施設として、設置されてきた。

●活動の特徴・工夫

- 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】**
- ・地域主催の「秋津まつり」と連携し、子供たちが「地域の子ども」として育つことを通して地域との一体化を図る。
 - ・学校運営に関する地域や家庭による評価、意見や提案などを通した学校と地域の連携・協働体制の確立。
 - ・授業や行事等、また、学習環境の整備(ピオトープ・水田・果樹園)に関する支援・協力などを通した学校教育活動の充実。
 - ・学校と地域・家庭が連携した登下校の見守り活動などを通した、子供の安心、安全の確保。
 - ・地域、家庭の教育力向上を目指した学校施設や機能の活用。
 - ・児童民生委員も参画した児童・家庭の健全育成体制の確立。
 - ・放課後子供教室を実施し、子供たちの安心安全な居場所を確保している。
- 【実施に当たっての工夫】**

学校と家庭と地域が一体となった子供の育成及び、学校と地域の連携・協働を組織的、継続的に行っていくために、学校支援ボランティアコーディネーターを配置している。また、「学習支援」「安全支援」「環境」「情報」の4部会の支援ボランティアを組織し、「パートナー会議」や学校支援ボランティアコーディネーターを中心に地域資源を活用した多様な活動を展開している。

学校では、地域連携について積極的に掲載した学校だよりの発行やホームページへ地域との連携について情報を掲載し、学校と地域の協働について積極的に情報発信している。また、「秋津コミュニティ」とのコミュニケーションやボランティアへの感謝の会の実施など、地域やボランティアとのより良い関係づくりに努めている。また、「まちづくり会議」とも積極的に連携し、地域に情報を発信している。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ・地域の方々の学校への理解が深まり、地域に根ざした信頼される学校づくりに結実した
- ・地域ぐるみでの子供たちの安心、安全の確保につながった。
- ・地域の様々な人々との交流を通して、コミュニケーション能力及び学習への興味、関心が向上した。
- ・子供たちの学びや体験活動が充実した。
- ・地域の伝統や、文化の継承に対する興味が深まった。

●その他

○クラブ活動「PC・カメラクラブ」にて利用している。



ピオトープの活動「米作り」に隣接した田にて



の会「秋津小学校と地域のソールン演奏」

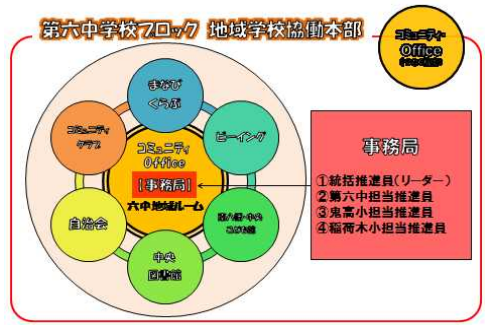
『出来る！』第六中学校ブロック地域学校協働本部

千葉県市川市	●活動名	●関係する学校名
	第六中学校ブロック地域学校協働本部	市川市立第六中学校 市川市立鬼高小学校 市川市立稲荷木小学校

協働活動開始年度	平成 29 年度	関係学校数	3 校	のべ学級数	58 学級	のべ児童・生徒数	2006 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	—				
	—	放課後子供教室	—				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	1人	4人	4人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
	平成29年4月1日設置	80人	—				
参考URL	http://www.dai6-tyu.ichikawa-school.ed.jp/						

●連絡先 市川市教育委員会 学校教育部 学校地域連携推進課 ☎ 047-383-9386

●体制図



●活動の概要・経緯
 永年、市川市では、地域連携推進事業“コミュニティサポート事業”が展開されてきた。平成23年度からは、事業の重点を『学校支援』に置き、学校支援活動を推進するために、コーディネーター養成事業を展開した。市川市立第六中学校ブロック内の第六中学校、鬼高小学校、稲荷木小学校は、学校支援コーディネーターを中心に、学校支援活動に積極的に取り組んできた。中学校ブロック内は、中1校、小2校であり、連携が図りやすい規模でコーディネーターがチームとなって連携を深めている。
 平成28年度から、市の方針により「コミュニティ・スクールへの転換」が推進され、当ブロックは、平成29年度からコミュニティ・スクール研究モデル校の一つとして中学校ブロックでの取組について研究を深めてきた。また、これまでの地域連携の取組を集約し、地域学校協働本部として再スタートした平成30年度も、地域学校協働活動を精力的に取り組み、市川市内のパイオニア的存在となっている。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①統括的な地域学校協働活動推進員をリーダーに、各校担当の推進員がチームとなってまとまっている。
- ②地域学校協働本部の組織として地域性を生かし、公立図書館、科学館などと連携を深めコミュニティカレンダーを発行している。
- ③地域支援者による『道徳実践講座』を地域学校協働活動推進員が主導して開催している。(平成28年度から)
- ④3校合同の学校運営協議会を年2回行い、地域と学校の連携について『熟議』を行い、ビジョンの共有を深めている。
- ⑤3校合同学校運営協議会から発信された「挨拶運動」を第六中生徒会に提案し、具体的な活動を地域学校協働本部で担う計画を立てている。
- ⑥放課後子供教室(ビーイング)を実施し、子供たちの安心安全な居場所を確保している。

【実施に当たっての工夫】

『道徳実践講座』を第六中学校で行うために、推進員が地域支援者を募り、学校に派遣している。中学校ブロックの推進員がチームとなってコーディネートすることにより、教職員の手を借りずに、毎年36名の地域支援者を集め、各学級で「いじめ問題の未然予防プログラム」を実施することができた。この取組は、コミュニティ・スクールを導入する前年度の平成28年度から行い、今年度で3回目を実施した。このプログラムは、いじめの未然防止のために「架空事例」を元に、約6人の生徒と1人の地域支援者が2時間かけてグループごとに様々な話し合いをする活動となっている。『道徳実践講座』は、学校運営協議会の委員や、より多くの地域住民が学習に参画し、地域の大人と生徒が直接話し交流する良い機会となっている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

これまで培ってきた地域と学校の連携をさらに一歩進め、より広い範囲で子供の教育に対する当事者意識を高め、地域を活性化するために「学校運営協議会」、「地域学校協働本部」を両輪として設置することができた。この充実期に、地域学校協働本部として「コミュニティカレンダー」を作成し地域に配布したり、地域のお祭りに出店したり、本部の認知度をさらに高める活動を行い、協働活動へのボランティアを多く募ることができている。

こうした活動が、地域のつながりづくりの醸成に効果を発揮している。現在計画中の「地域ぐるみでの挨拶運動」に対して、地域から様々な提案をいただき、地域みんなで活動していこうという機運が見られる。

●その他

琵琶・虚無僧体験(鬼高小)、教職員向けの研修サポート(鬼高小)、地域の祭りに出店、保育交流(中・家庭科)引率、花壇整備



と「道徳支援実践講座」で生徒協働活動推進員統括的な地域学校

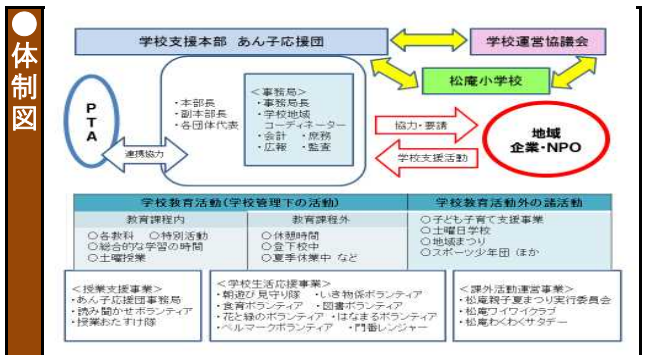


する地域学校協働本部として地域の

東京都杉並区	●活動名	●関係する学校名
	松庵小学校学校支援本部 あん子応援団	杉並区立松庵小学校

協働活動開始年度	平成 21 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	17 学級	のべ児童・生徒数	450 人
活動区分	学校支援活動	—		地域人材育成			
	地域未来塾	—		外部人材を活用した教育支援活動			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		
	1人		—		9人		
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有	
	平成29年10月1日設置					393人	
参考URL	anko-ouendan.sblo.jp						

●連絡先 杉並区教育委員会 学校支援課 学校支援係 ☎ 03-5307-0756



●活動の概要・経緯 「子供たちの学校生活の充実発展のために」という共通の目標のもと、松庵小学校の教育活動や学校運営をサポートする応援団として、地域の人々、組織・団体、PTAなど多様な人材が連携し活動している。地域ぐるみで子供の健全育成に取り組む歴史は古く、松庵親子夏まつりでは40年、松庵ワイワイクラブは24年の思い・実績を現在につないでいる。平成21年に設立した松庵小学校支援本部の事務局が活動の中心となり、「あん子応援団」としてボランティアチームを統括している。学校経営を支援する「学校運営協議会」と学校運営支援・実働部隊としての「あん子応援団」が両輪となり教育活動を推進している。学校・地域コーディネーターが学校、各組織・団体との調整役を担い、時には活動同士をつなげてダイナミックに展開している。活動は①授業支援事業、②学校生活応援事業、③課外活動運営事業の三つを柱としている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①授業支援事業:キャリア教育、国際理解教育、食育、読み聞かせなど、学年のニーズに合わせた講師・ボランティアを調整。土曜授業ではワイワイキャンプ、科学の祭典など防災・科学的体験ブースを設営し、地域・企業・NPOなど多彩な人材と運営。
- ②学校生活応援事業:門番レンジャー、朝遊び見守り、いきもの係、図書、花と緑、食育装飾、ベルマークなど、学校生活を安全で充実させるための環境を整備。
- ③課外活動運営事業:わくわくサタデー、夏まつり、花まるボランティアなど、地域の伝統文化継承、幅広い年齢の交流の場づくり、卒業生による地域貢献の機会。

【実施に当たっての工夫】

- 学校運営協議会での活動報告・協議による、地域住民の学校運営参画。
- 年間指導計画に基づき、担当者と早い時期に相談、情報の共有化。
- 新年度最初の土曜授業ではじまりの集い(ハレルヤ集会)を開き、皆が楽しんで活動している様子を子供・大人に紹介し、地域一体感の醸成と新たな参加者の裾野を広げる。年度末の土曜授業では感謝の集いを開き、「ありがとう」の気持ちを伝え合う機会を設定。
- ボランティアは年度ごとの登録とし、できる時にできる範囲で負担なく、誰もが活動に参加可能とする。
- 地域子育てネットワーク、地域教育連絡協議会、震災救援所運営協議会、町会など既存の組織・団体との相互連携を強化し、地域総がかりでの活動となる仕組みの構築。通信の発行、ブログ掲載により活動への理解を促進。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

学校とコーディネーターの打ち合わせにより、授業のねらいに適した講師・ボランティアを確保でき、連絡役はコーディネーターが担うことで教員は子供の指導に専念できた。子供たちは多様な人とのコミュニケーションを経験し、地域への理解と愛着を深めるとともに、地域に守られ生活していることを実感している。地域の大人たちは、学校支援活動を通して子供たちとふれ合うことで、生きがいを見付けたり、自己有用感を更に高めたりした。地域住民や既存の各団体は協働活動により、互いが出会う機会を得て、「子供の幸せ」という共通目標のもと、より一層関わりの輪を広げ、活動を持続・発展させながら安心感のあるコミュニティ創りにつなげている。

● その他

休みの学校を舞台に、子供が地域の中で多様なことに挑戦・体験できる機会を提供しようと、平成15年よりわくわくサタデーを企画・運営。授業や地域行事のない土曜日に工作、料理、伝統文化、スポーツ教室等を開催。冬には300人分の防災用大鍋で作る鍋の会も毎年好評を得ている。



わくわくサタデー！
 子供たちが準備した野菜や
 子供たちのおいしく煮込む



わくわくサタデー
 年代の大人と子供が飯盒を炊く

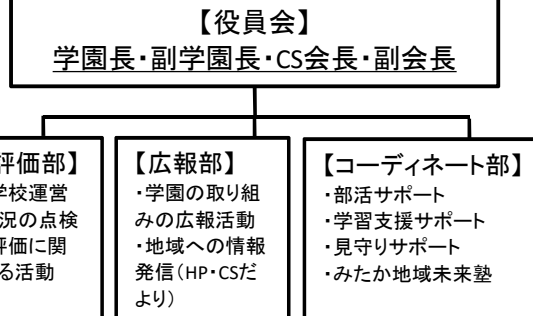
こんな活動です

地域の子どもは地域で育てる！

～子どもたちを中心につながる家庭・地域・学校は豊かなコミュニティを創り出す～

東京都三鷹市		●活動名 おおさわ学園コミュニティ・スクール委員会				●関係する学校名 三鷹市立大沢谷小学校 三鷹市立羽沢小学校 三鷹市立第七中学校				
協働活動開始年度	平成 20 年度	関係学校数	3 校	のべ学級数	40 学級	のべ児童・生徒数	981 人			
活動区分	学校支援活動	—		—		—				
	地域未来塾	—		—		—				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数					
	4人		—		8人					
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有	—			
	平成20年4月1日指定						413人		—	
参考URL	www.mitaka-school.jp/ohsawa/cs_iinkai.html									
●連絡先	三鷹市教育委員会指導課			☎ 0422-45-1151						

●体制図



●活動の概要・経緯

○平成20年4月に、大沢谷小学校・羽沢小学校・第七中学校の3校が、コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育校、「おおさわ学園」として開園した。同時に設置された、おおさわ学園コミュニティ・スクール委員会では、「子どもたちを中心につながる家庭・地域・学校は豊かなコミュニティを創り出し、地域の子どもは地域で育てる」を合言葉に活動している。

○地域学校協働活動として、おおさわ学園コミュニティ・スクール委員会コーディネート部会が、みたか地域未来塾や教育活動を支援する「サポート隊」の運営、地域人財活用等の調整を行ってきた。地域交流活動等への保護者・地域住民の参画促進、地域の伝統文化や豊かな自然環境を次世代に継承する多世代交流活動も大切にしている。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①サポート隊の活動: みたか地域未来塾の運営、校外での体験学習での安全管理や算数習熟度別指導での学習支援、小学校各クラスで読み聞かせの実施、中学校部活動での見守り。
- ②地域交流活動: 田植え・稲刈り収穫祭(地域の方から指導を受けた中学生が小学生に教えながらの活動)、ファミリーコンサート(第七中学校卒業生を中心とした武蔵野シンフォニック・ブラス・オーケストラ、中学校吹奏楽部、小学校音楽クラブの合同コンサート)
- ③「地域の皆様とお話とふれあひ会」: 学校、保護者、地域が子供たちの学びや育ちについて、目的や方向性を共有しながら支援できるよう、共通理解を図る場を設けている。学校や子供をめぐる課題解決に向けた、それぞれの立場での取組について議論し、それぞれの活動に繋げている。

【実施に当たっての工夫】

- ・活動を実施するにあたり、学校と連携し、ニーズの把握、ICTを活用して人財派遣、ボランティアの募集を行い、教員の負担が大幅に軽減されている。
- ・学習支援や授業補助のほか、見守り活動、行事の手伝いといった幅広い活動を企画し、多くの地域人財が活躍できる仕組みを作っている。
- ・各活動について、コミュニティ・スクール委員会では、毎年、保護者、地域を対象にアンケートを行い、効果を検証し、改善を加えながら、子供たちにとってよりよい活動になるよう支援している。
- ・広報部が中心となりそれぞれの活動の内容や様子についてコミュニティ・スクールだよりやホームページ等を通じて情報発信し、人財確保に繋げている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ・子供たちが地域の方々と接する機会が多くなることで、思いやりの心や地域の方々と協力して活動する大切さを学び、豊かな人間性を育むことができる。また、活動が定着しており、地域の方々から信頼され喜ばれている。
- ・地域の活動として単体で行われていたものが、コミュニティ・スクール委員会が学校と地域をコーディネートすることにより、横のつながりが生まれ、地域活動に盛り上がりが出てきた。学校への理解が進み、教育活動への協力体制が広がった。
- ・ボランティア延べ参加者は2,963人、ボランティア登録者は413人もの登録があり、前年度の352人から大幅な増となっている。地域からの学校への理解も進み、教育活動への協力体制が広がっている。

●その他

学園の活動を年間を通して評価・検証するPDCAサイクルを確立しており、本地域学校協働活動についても評価・検証対象事業に位置付け、改善事項の具現化に向けて取り組んでいる。サポート隊事務局がスムーズに運営できるよう、手引き等を作成し持続可能な取組を大切にしている。



よボサ
らポ
ー
ン
ー
テ
ー
ミ
タ
カ
地
域
未
来
塾
」
に
テ
ィ
ア
学
習



学生祭東
習が：京
小地都
学域内
生たの
の方の
をサか
ー田
指植
しえ
な稲
が刈
ら取
中獲
学験

こんな活動です

コミュニティ・スクール西ヶ原

～子供を育て、大人も学ぶ、地域コミュニティの核となる学校 共生・共有・協働の学校づくり～

東京都北区	●活動名	●関係する学校名
	北区立西ヶ原小学校学校支援活動	北区立西ヶ原小学校

協働活動開始年度	平成 18 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	14 学級	のべ児童・生徒数	344 人
活動区分	学校支援活動	—		—			
	地域未来塾	放課後子供教室	外部人材を活用した教育支援活動				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	—	3人					
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
	平成19年4月1日設置	157人					
参考URL	http://bit.ly/nishigahara						

●体制図

東京都北区学校支援地域本部

(地域学校協働本部)



●連絡先 北区教育委員会教育振興部生涯学習・学校地域連携課 ☎ 03-3908-9323

●活動の概要・経緯

- 文部科学省が進める「学校支援地域本部事業」に位置付けて取組を進め、「北区スクールコーディネーター連絡協議会」を母体に、学校を拠点としたボランティア活動の取組を進めている。
- 学校運営協議会がコーディネートする「技科(地域の方々から伝統の技を学ぶ授業)」において、体験や交流を通して学ぶ楽しさを感じさせるとともに、将来への夢を育み、キャリア形成を促す取組を継続している。
- 学校図書館ボランティアが学校司書と連携・協力し、環境整備や読み聞かせ等に取り組み、児童の読書習慣の定着を図っている。
- 子供たちの放課後の居場所として、学校運営協議会の下に放課後子ども教室実行委員会を組織し、平成20年10月から「すくすく」という名称で活動を行っている。平成28年度より学童クラブと一体的な運営を実施する放課後子ども総合プラン事業として実施している。平日の放課後の時間や、長期休業期間中に地域スタッフを中心に自由遊び、自主学习に加え、将棋教室、卓球教室などを実施している。平日、土曜ともに大勢の子供たちが参加し、楽しく安全・安心な居場所になっている。
- 学校、PTA主催、学校運営協議会が共催で毎年、「西小まつり」を開催している。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 学校・家庭・地域社会の三者が子育てに関する情報・課題・責任を共有するという方針のもと、以下の取組を継続している。
 - ①ようこそ先輩交流会：地域の方の専門分野の授業や昔遊びを伝える授業
 - ②技科(わざか)活動：地域の名人が子供たちに直接伝統の「技」を伝授する。本物を体験する機会となる授業
 - ③放課後子ども総合プラン：わくわく西ヶ原ひろば
 - ④PTA西小まつり
 - ⑤学校図書館ボランティア
- 家庭科や総合的な学習を中心に、地域ボランティアを積極的に導入し、授業支援を充実したものにしている。また、新1年生をサポートする支援も活発に行われている。
- 放課後子ども教室の実施を通じた学校との連携：子供たちの状況を地域スタッフが詳細に把握し、日々学校に連絡をとっている。また家庭とも密接に連携をとり子供たちに対応している。

【実施に当たっての工夫】

- 地域学校協働活動に係る関係団体が学校運営協議会の構成メンバーとなり、相互に情報交換や相互理解を図りやすい体制をつくっている。
- 放課後子ども教室「すくすく」の実施にあたっては、業者に委託するのではなく、地域の方と保護者が協働で実施しており、地域社会が子供たちを支える態勢をとっている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 北区内初のコミュニティ・スクールの指定校として取組を開始し、あわせて学校支援ボランティア活動・放課後子ども教室も開設した。学校と地域、相互に顔の見える関係づくりの積み重ねにより、確たる信頼関係が根付いてきており、区内他校の学校運営協議会においても本校の取組の紹介やコミュニティ・スクールの運営について助言している。
- あらたな協働活動として学校図書館ボランティアが生まれ、さらに「技科」活動によって提供される豊かな体験や教育活動の改善が子供たちの学力向上にもつながっている。
- 自治会でも行われなくなった「盆踊り」を学校、PTA、元PTA、自治会が協力して復活させるなど(今年で2回目)、学校が地域を活性化する流れをつくっている。

●その他

学校の行事「ようこそ先輩交流会」(写真左)ではロボットプログラミングや天文など、また放課後の「わくわく西ヶ原ひろば」(写真右)では卓球・コマ・けん玉など、多様な取組の中で地域の方々から様々なことを教えていただいています。



地域住民から昔の西ヶ原・昔遊びについて学ぶ



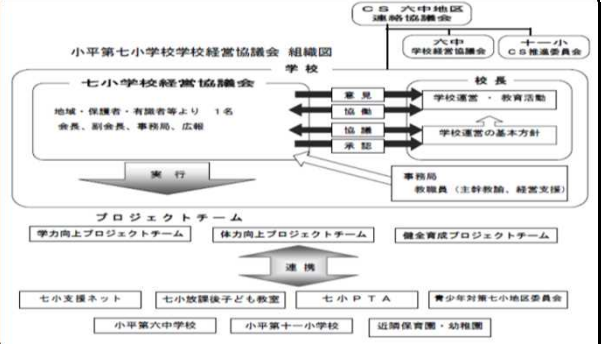
わくわく西ヶ原ひろば将棋教室

こんな活動です

地域に見守られて育つ子どもたち ～子どもも、大人も、みんなの笑顔がいっぱいの学校～

東京都小平市		●活動名 小平第七小学校コミュニティ・スクール			●関係する学校名 小平市立小平第七小学校		
協働活動開始年度	平成 18 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	22 学級	のべ児童・生徒数	710 人
活動区分	学校支援活動		—		地域人材育成		
	—		放課後子供教室		—		
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		
	—		—		3人		
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有	
	平成26年4月1日指定		—	400人	—	—	
参考URL	http://www.kodaira.ed.jp/07kodaira/						
●連絡先	小平市教育委員会 教育部指導課			☎ 042-346-9572			

体制図



●活動の概要・経緯

本校は、放課後子ども教室や七小支援ネット、青少年対策七小地区委員会等との連携を図り、地域ぐるみで児童の学力向上・体力向上・健全育成等の課題への対応に取り組んでいる。平成26年4月にはコミュニティ・スクールの指定を受け、これまで以上に地域・保護者との連携を充実させつつ、地域とともにある学校づくりに取り組んでいる。

なお、本校の放課後子ども教室は、平成21年度にスタートし、平成29年度は半数を超える児童の登録があり、13教室で300回以上の活動を行った。また、七小支援ネットでは、コーディネーターが中心となりボランティアなど地域人材の確保に当たり、校外学習の見守りや算数の学力向上をはじめとした様々な学習活動に関わっている。ボランティアを活用した学習活動は、年々充実し、現在では学習支援ボランティアの存在は、本校の児童にとって欠かせない存在となっている。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①コミュニティ・スクール(CS)・・・学校独自の課題の解決に向けて、学力向上・体力向上・健全育成という3つのプロジェクトチーム(PT)を設置し、具体的な方策について検討している。また、放課後子ども教室や七小支援ネットとも連携し、地域住民や保護者等の協力により様々な取組を実施している。
- ②放課後子ども教室・・・『まなびひろば』では、宿題や用意したプリントを学習することで、学習習慣と基礎学力の定着を目指している。『なないろよさこい』『吹奏楽部』は、地域の行事にも積極的に参加している。その他にも『音楽と遊ぼう』『かがく工作』『おりがみひろば』『けん玉ひろば』『グリーンクラブ』『アートクラブ』『ミニバス』『英語ひろば』など、子供たちの成長に合わせたプログラムを行っている。
- ③七小支援ネット(学校支援活動)・・・安全・図書・環境支援・飼育・学習支援のほか、地域交流の一環として、小平グリーンロード灯りまつの運営支援を行っている。たくさんの方が日々学校を訪れて、七小を中心とした地域の輪はますます広がっている。

【実施に当たっての工夫】

放課後子ども教室では、コーディネーターが中心となり、教室に登録している児童の保護者に対し、年に一度はボランティアに入ってもらおう、年度当初の段階で割り当てを行い円滑な運営を図っている。

CSの活動では、一例として学力向上PTにおいて、放課後子ども教室「まなびひろば」との連携を強化し、担任教員が「まなびひろば」での児童の様子を観察したり、逆に「まなびひろば」のスタッフが授業支援を行うなどの協力体制を築いている。教員とスタッフが、児童の学力向上に関して共通理解を図りながら、課題の解決に向けて取り組むことができている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

地域住民や保護者など教職員とは異なる視点から学校経営に参画してもらうことで、多様で特色ある教育活動の展開につながっている。コミュニティ・スクールに指定されたことにより、各種のプロジェクト活動などを通して、これまで以上に地域や保護者が学校に関わる機会が増え、学校経営の充実が図られている。

保護者アンケートにおいても、コミュニティ・スクールとして指定されて以降、ボランティアに参加する機会が増え、教育活動への理解が深まっていることが確認されている。また、近隣の中学校と連携することにより、地域の課題についての共通理解が図られ、様々な活動を行うことができるとともに、小・中の教員間の連携も深まり、より有効な情報交換や実践につながっている。

●その他

学校経営方針においても、目指す学校像の一つとして、「地域が学校と共に子どもたちを育てる学校」掲げるなど、地域と学校との連携により子供たちを育てるという明確なビジョンをもっている。その具体的な方策の一つとして、七小支援ネットと連携した地域の教育力の活用などがある。



(まなびひろば
(放課後子ども教室))



73年総合的な学習の時間(七小支援ネット)の学習

こんな活動です

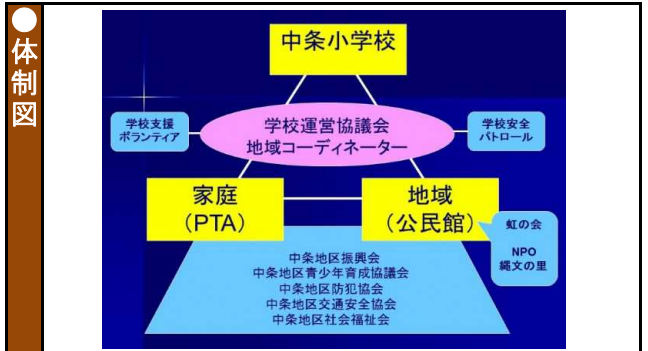
「うまし里・中条」に生きる

～異文化都市間交流・国宝火焰型土器の里・中条小学校は地域とともに～

新潟県十日町市	●活動名 中条小学校地域学校協働活動	●関係する学校名 十日町市立中条小学校
---------	-----------------------	------------------------

協働活動開始年度	平成 29 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	6 学級	のべ児童・生徒数	163 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習		地域人材育成			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		1人	
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携		有	
参考URL	http://www.edu.city.tokamachi.niigata.jp/els/nakajo/						

●連絡先 十日町市教育委員会文化スポーツ部生涯学習課 ☎ 025-757-5011



●活動の概要・経緯
南北朝時代の歴史的背景をきっかけに、平成9年2月から岡山県総社市(旧山手村)山手小学校と新潟県十日町市中条小学校の相互交流事業が始まり、夏冬計44回(うち自然災害により2回中止)実施、参加人数は延べ2,600人を超えている。また、新潟県唯一の国宝、火焰型土器の出土地として、地域づくりと新たな時代づくりを目指して平成12年から開催されている笹山じょうもん市に、中条小学校全校児童が授業日として参加し、地域の活性化に寄与している。いずれも、学校、地域、公民館、関係団体の協力・連携・支援により、次世代を担う青少年の健全育成と「うまし里(美しい故郷)・中条」づくりへの取組である。さらに、日常的な教育活動にも学校支援ボランティアが講師、あるいは学習支援者としてサポートしている。縄文学習や笹山縄文太鼓などの郷土・伝統文化学習から、着衣水泳や救命救急法講習など高度・専門分野にまでも幅広い学びにおける貢献は大きい。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

○3つの活動(①学校に入って助けをもらう ②地域に打って出る ③家庭・地域ともにつくる)推進
・地域の先達や縄文学習への学校支援ボランティアから指導講師を迎えている。地域素材を教材化したり、学習成果発表の場を地域に求めたりして、児童の活躍・成長を見ていただく機会を増やしている。学校行事としての笹山じょうもん市への参加、やまて十日町市中条交流への積極的参加を通して、時中はもちろん事前学習から事後の振り返りまで地域力を借りながら実現している。

【実施に当たっての工夫】

○3つの活動(①学校に入って助けをもらう ②地域に打って出る ③家庭・地域ともにつくる)推進
・力になりたいとする保護者に呼び掛け、毛筆・裁縫学習への指導補助として協力してもらっている。公民館と連絡を取り合い、相互の学習や活動が活性化に向かう互惠関係の可能性を探っている。笹山じょうもん市ややまて十日町市中条交流に企画段階から児童が参画して地域とともに創り上げていく活動に徐々に近付けている。
また、やまて十日町市中条交流事業実施にあたっての資金援助や人的協力は、虹の会による支援、地域の民俗伝統文化である「ちんころ」づくりによる多額な寄付など、学校、地域が連携協力して支え、笹山じょうもん市では、地域の豊かな文化資源を生かしたまちづくりに、児童自ら参加意識を高めるようにしている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

○3つの活動(①学校に入って助けをもらう ②地域に打って出る ③家庭・地域ともにつくる)推進
・学校教職員にとっては、より専門的な指導や手厚い補助を得ることで、負担軽減にも寄与している。保護者・地域にとっては、児童の笑顔や活躍を目の当たりにする機会が増えている。児童にとっては、郷土愛や人間関係構築力を高める機会となり、三者の協力・連携が好循環に入ってきた。
やまて十日町市中条交流では、児童の交流を核とした中条地区と山手地区の絆と輪が深まり、笹山じょうもん市の参加を通じて児童自身が社会の一員であることを自覚し、「うまし里・中条」づくりに学校と地域が協働で取り組む活動が育まれている。

● その他

○やまて十日町市中条交流実施にあたって、保護者や協賛団体などで設立した「虹の会」が資金援助や人的協力活動を行っている。「中条ちんころ伝承会」は、十日町市の冬の風物詩であるちんころの販売収益のほとんどを寄付してこの事業を支え、地域の民俗文化の継承にも貢献している。



井業「やまて十日町市中条交流事業」の一環として、地域の民俗文化を学ぶ機会を提供している。



練「笹山じょうもん市」の音頭歩き。大の坂、天神ばり、縄文の里など、地域の民俗文化を体験している。

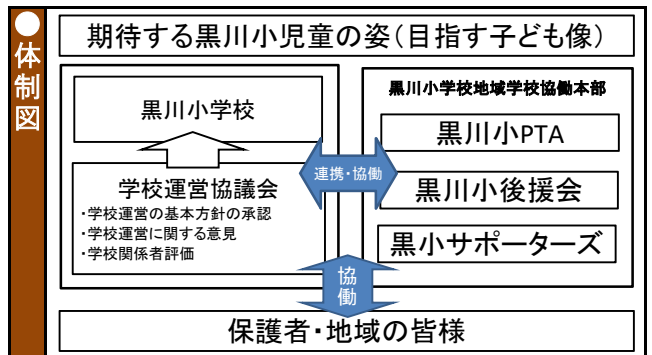
こんな活動です

思いやりをもって未来を切り拓く黒川っ子の育成を目指して

新潟県胎内市	●活動名	●関係する学校名
	黒川小学校地域学校協働本部	胎内市立黒川小学校

協働活動開始年度	平成 28 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	11 学級	のべ児童・生徒数	227 人
活動区分	学校支援活動	—		地域人材育成		—	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		
	1人				5人		
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
	平成30年4月1日設置		68人				
参考URL	http://tainai-ed.nxc.jp/kurokawa-es/						

●連絡先	胎内市立黒川小学校	☎ 0254-47-2405
------	-----------	----------------



●活動の概要・経緯

学校支援ボランティア組織として「黒小サポーターズ」の発足を契機に、学校と保護者・地域が一体となって教育活動を進めていく気風が育まれてきた地域である。黒小サポーターズとともに、黒川小後援会、黒川小PTAが黒川小学校地域学校協働本部として、「ふるさとを愛し、大切にす黒川っ子」等、目指す子供像を共有し、学校と地域が連携・協働し、地域総がかりで取組を進めてきた。さらに、市ではじめてのコミュニティ・スクールの指定を受け、学校運営協議会と地域学校協働本部とが一体となり「黒川のよさを発信し、体感する」「絆づくり」等を中核として、思いやりの心をもって、未来を切り拓く子供たちの育成を目指し取組を進めている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ・地域と学校の密接な関わり・・・「黒小サポーターズ」を中心に、学習支援、環境整備、あいさつ運動等で、日常的に来校し、子供たちと親しい関係を築いている。
- ・黒川小学校地域学校協働本部及び学校運営協議会による活動・・・地域との合同防災訓練、ようこそ先輩授業、親子ふれ合い登山等
- ・黒川小学校地域学校協働本部(学校運営協議会)の多彩な顔ぶれ・・・区長、PTA役員、地域おこし協力隊、青年会議所メンバー等、それぞれの視点からアイデアを提供している。
- ・学校評価とリンクした課題の共有・・・学校評価で浮かび上がった「思いやりの育成」をテーマとして共有し、各活動で「思いやりが見られた具体的な姿」を観点に活動の評価を行っている。

【実施に当たっての工夫】

キーワードは「巻き込む」。一部の人々による活動にとどまらず、多くの人々が参加できる活動を常に考え、関係機関と連携して事業を進めている。「親子ふれあい登山」では、登山道入り口神社にある文化財を地元の方から説明してもらったり、校区外の方にも参加を呼び掛けたりしてきた。また、「ようこそ先輩」授業として、卒業生である声楽家を招き、ミニコンサートを開いた。「地域との合同防災訓練」では普段学校に足を運ぶことのない人々と子供が一堂に会する機会となり、交流を深めることができた。様々な人々とかかわる機会をもつことで、共有課題である「思いやりの育成」の達成に向けた活動を積み重ねている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

学校支援活動や放課後子ども支援活動等の活動ごとに、参加者アンケート等をもとに成果と課題を洗い出し、黒川小学校地域学校協働本部及び学校運営協議会で共有している。視点をしぼりこみ、活動ごとに評価を行うことで、よりよい活動となるようにという意識が高まり、子供たちの姿から「思いやりある行動が見られた」「地域のよさを見付けることができていた」といった手応えを感じている。活動を通じてできた様々な人々とのかかわりやネットワークが、思いやりの育成や郷土愛を育み、「黒川に生まれ育ってよかった」という思いをベースに未来へはばたく人材育成につながることを期待する風土が生まれてきている。

● その他

学校と地域の人々が協働して、学校や地域をよりよくする様々な活動を数多く行っている。多くの人々とのかかわりを通して、子供たちは地域の一員としての自覚を深めている。



水泳プール清掃を行うと、子供たちと一緒に



地域との合同防災訓練で避難所を確かめる子供

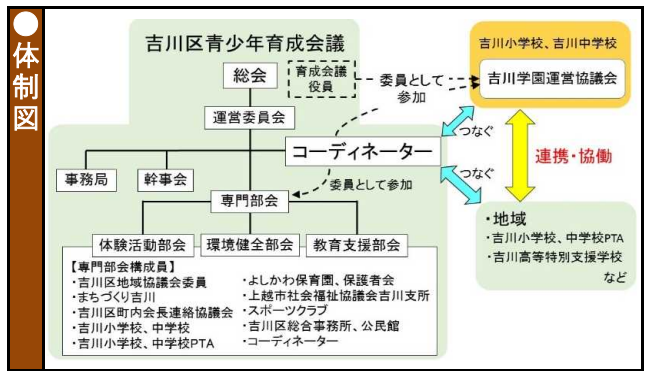


子どもも地域も笑顔 一宝磨かざれば輝りなし

新潟県上越市	●活動名 吉川区青少年育成会議	●関係する学校名 上越市立吉川中学校
--------	--------------------	-----------------------

協働活動開始年度	平成 21 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	5 学級	のべ児童・生徒数	109 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習		地域人材育成			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		14人	
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数		延べ登録人数	企業・NPO等との連携	105人	無
参考URL	http://www.city.ioetsu.niigata.jp/soshiki/yoshikawa-ku/hanaipai.html						

●連絡先 上越市教育委員会 社会教育課 ☎ 025-545-9245



●活動の概要・経緯
吉川区青少年育成会議では、「地域の子どもは地域で育てる」という目的のもと、育成会議が中心となって学校支援活動を行っている。具体的には、育成会議の役員やコーディネーターが、学校と地域、関係団体をつなぎ、地域における子供の活動の場を広げているほか、子供たちと一緒に地域の諸課題を把握し、地域を巻き込んで解決に取り組んでいる。
また、育成会議の会長及びコーディネーターが学校運営協議会に参加し、学校の状況と育成会議の状況を両者が共有しており、育成会議の活動に対し、学校からの理解も得られている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①花いっぱい運動…中学生の提案により、地域を華やか(美しく・明るく・元気)にするために、育成会議が中心となって中学生や学校、PTA等と一緒に「花いっぱい運動」実行委員会を立ち上げ、学校及び地域ぐるみで取り組んでいる。
- ②自然体験学習(尾神キャンプ)…小学校で行われていた宿泊体験学習のキャンプがなくなったため、育成会議や子ども会、PTA、公民館、ボランティアが実行委員となり、小学生を対象に「アルミ缶炊飯」「飯ごう炊飯」「テント張り」等の学校活動ではできない体験を通して、子供たちの協調性等を育てている。
- ③ニュースポーツ大会(世代間交流)…青少年の健全育成及び世代間交流を目的としてスカットボール大会を、幼・小・中学生3人+高校生以上2人の5人チームを編成して実施している。

【実施に当たっての工夫】

①の「花いっぱい運動」は、平成28年2月に育成会議が中学生と一緒に活動するテーマを決める際に、吉川区の中学2年生を対象に地域の現状についてアンケート調査を実施したことから始まった。アンケートからは「自然の緑だけで、華がない」「活気がない」等の回答があったことから、中学生が自分たちができることは何かを考えたところ、地域を華やか(美しく、明るく、元気)にすることを目的とした、「花いっぱい運動」の実施を企画し、地域に協力を呼びかけた。育成会議は中学生の提案を実施に結びつけるために、平成29年5月に中学生、学校及びPTA等と一緒に「花いっぱい運動」実行委員会を立ち上げ、学校及び地域ぐるみで花の育成・管理及び花を使った「おもてなし」に取り組んでいる。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ・育成会議の役員とコーディネーターは、各活動の実行委員会に所属しており、その活動の想いを学校と共有している。
- ・子供たちが地域の方と活動することにより、地域イベント「やったれ祭り」や「福祉まつり」への子どもの参画が定着するなど、子供たちの地域への関心が高まっている。
- ・「花いっぱい運動」実行委員会を組織したことにより、地域住民の方々がボランティアに参加し、中学生と地域住民との関わりが深くなった。
- ・中学生から地域住民に対して声掛けがあり、地域住民の方が喜んでいといった声を聞いている。

● その他

特徴的な活動の他に、子供と一緒に「あいさつ運動」を行ったり、広報を発行するなどの活動を通して、地域の方々に広く育成会議の活動を知ってもらいながら、継続的に活動を行っている。



中学生と一緒に地域のいろいろな方が一緒に取り組んで花いっぱい運動に取り組んでいる。



「やったれ祭り」における中学生神輿の様子

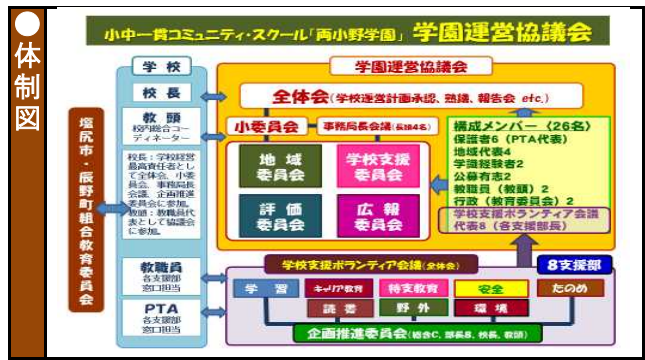


ふるさと「たのめの里」を知り、共に愛し、貢献できる子供たち ～たのめ科・アントレプレナー学習・地域貢献型生徒会による「夢プロジェクト」の活動を通して～

長野県塩尻市辰野町	●活動名 たのめの里の未来を切り拓く 夢プロジェクト	●関係する学校名 塩尻市辰野町中学校組合立両小野中学校 辰野町塩尻市小学校組合立両小野小学校
-----------	-------------------------------	--

協働活動開始年度	平成 24 年度	関係学校数	2 校	のべ学級数	12 学級	のべ児童・生徒数	210 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	—				
	地域未来塾	放課後子供教室	外部人材を活用した教育支援活動				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 5人				
学校運営協議会	指定・設置日 平成27年4月1日設置	ボランティアの数	延べ登録人数 70人	企業・NPO等との連携	無		
参考URL	https://www.shiojiri-ngn.ed.jp/ryoono-j/						

●連絡先 塩尻市辰野町中学校組合立 両小野中学校 ☎ 0266-46-2957



●活動の概要・経緯
平成23年度、地域主導による施設分離型の小中一貫「両小野学園」が設置された。そして翌24年度より、小学校では教育課程特例校制度による「たのめ科」が、中学校では総合的な学習の時間を使った「プリアント活動」(地域人材の活用による文化活動)と「アントレプレナー学習」(小学校「たのめ科」で学んだことを基盤に、地域を活性化し、地域に発信し、貢献する活動)をスタートさせ、本格的に地域学校協働体制による「ふるさと学習(キャリア教育も含む)」が始められた。この年度から、教育に対する地域の力強い支援を基盤に、小中一貫教育に保育園も加え、保小中一貫教育体制も整えられた。平成29年度には、保小中一貫教育「両小野学園」のランドデザインも整備され、学園が願う園児・児童・生徒の姿を「ふるさと『たのめの里』」を知り、共に愛し、『たのめの里』に貢献できる子ども」とした。『油屋清掃』、地域の山を名所にしようと植樹活動をした『僕らの記念樹』、地域活性化活動としての『小野宿市』へ共に参画している。夢プロジェクト生徒会は生徒と地域の絆を深め、地域と学校を結ぶ活動となり、生徒自身の「地域の未来の担い手」としての意識が高まってきた。昨年度、生徒たちから「自分たちも、この地域に生きる一人ひとりなので、もっと地域貢献する中学生でありたい。」という申し出があり、『たのめの里』夢プロジェクト生徒会が立ち上げられ、より主体的で積極的な地域貢献を行おうと、学園運営協議会に参加したり、公民館活動で行われる地域の課題解決講座等に参加したり、地域の行事に参画したりしてきている。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 地域の学校教育参画の協働活動：「たのめの里：教育の日」を企画実施している。公民館活動が企画していた学校開放講座を一步進めて、地域募集による「中学校一日入学」を実施している。2時間の授業参加、「ふるさとコンサート」観覧、給食・清掃、生徒とのパネルディスカッションを実施し、生徒と共に学ぶ教育の日を設定した。「ふるさとを『共に愛し』」の具現の活動となり、今後、企画内容が更に豊かになっていくことが考えられる。
- 地域活性化活動としての協働活動：地域貢献型生徒会「たのめの里：夢プロジェクト生徒会」との協働活動。夢プロジェクトに協働し、地域の文化遺産(県宝)『油屋清掃』、地域の山を名所にしようと植樹活動をした『僕らの記念樹』、地域活性化活動としての『小野宿市』へ共に参画している。夢プロジェクト生徒会は生徒と地域の絆を深め、地域と学校を結ぶ活動となり、生徒自身の「地域の未来の担い手」としての意識が高まってきた。
- 学校支援ボランティアの積極的な協働活動

たのめ科：小学校(自然・歴史・文化・産業・人の生き方)に関わる探求的・体験的学習への支援。アントレプレナー学習・プリアント学習への支援。

【実施に当たっての工夫】

○たのめ科・アントレプレナー学習・プリアント学習等を通して、地域の教育資源を活用し協働する中で、地域のことを知り、地域を愛する子供を育成する地盤が本学園にはある。こういった中、地域貢献型生徒会を昨年10月から構想し、12月の引き継ぎ時から活動を開始した。上記の活動に、生徒会理事等が、計画段階から事務局会、役員会に、大人に混じって役員として参加し活動に取り組んだ。また、アントレプレナー活動とも、うまく活動を絡ませながら活動した。昨年度、アントレプレナー「地域広報・キャラクターグループ」では、地域の民話をもとに作成した「うとう」というキャラクターを制作し、広報活動を展開している。知的財産として、著作権登録の申請を進めながら、グッズ制作にも企業と協力・作成し、「小野宿市」でも販売活動などを通して、地域PR活動を進めてきたが、地域と生徒が直接対話し、地域行事への参加を企画段階から生徒が関わるようにすることで、一層協働活動が一体化し深まってきていて本物の地域貢献の姿が見えてきた。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

○運営協議会による協議(熟議)と地域教育協議会(学校支援ボランティア)による協働が、コミュニティ・スクールの両輪だとすれば、その両輪をつなぐ軸の部分が、一貫教育を概念とする「学校」であり、両輪を回す軸の部分が地域貢献型生徒会だと考えられる。地域貢献型生徒会が、運営協議会でも自分たちの意見を述べ、地域ボランティアの方の力を得ながら課題解決の活動に取り組むことで、地域の連帯感が深まり、生徒自身も「地域の一人」としての自覚を深めている。一方、地域貢献の志や願いをもった生徒の取組の姿は、地域活性化の力となり、大きな刺激となっている。地域行事には、生徒が運営のものに携わり、役割をもって活動することで地域の方から認められ、感謝されることにより、生徒一人ひとりに大きな「自己有用感」を生み「自己肯定感」を高め、地域により一層貢献し、地域の方々と共に「地域創生」の一翼を担いたいという思いが育まれようとしている。

●その他

保小中一貫教育の集大成としての「地域貢献型生徒会」による夢プロジェクト2号「僕らの記念樹」、夢プロジェクト3号「小野宿市」の様子



数年前の支援の名所を受けてなるが、地域の植樹をしました区のみ、この紅葉を日本でも有名なところへも



【両小野PRキャラクター「うとう」】

旧中山道にある「小野宿」を地域の無類のグッズ販売手伝いして盛り上げる活動。そばの振舞いも楽しませました。

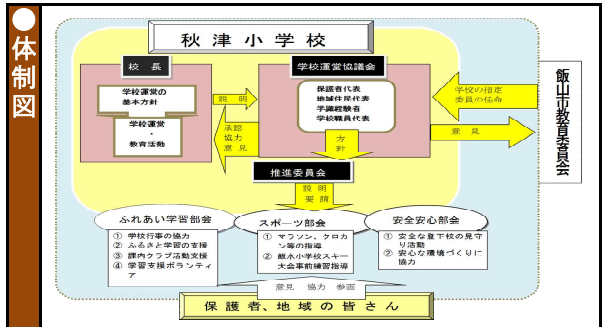
こんな活動です

地域と保護者と学校が「秋津の子ども」を「共に」育てるために！ ～できることを、できるときに、できることから始めよう～

長野県飯山市	●活動名 秋津小学校学校運営協議会	●関係する学校名 飯山市立秋津小学校
--------	----------------------	-----------------------

協働活動開始年度	平成 22 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	9 学級	のべ児童・生徒数	128 人
活動区分	学校支援活動	—		地域人材育成			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	1人		地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		
学校運営協議会	指定・設置日	平成22年4月1日設置		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無
参考URL	http://www.iiyama-catv.ne.jp/~akitsu/						

●連絡先 飯山市教育委員会 子ども育成課 ☎ 0269-62-3111



●活動の概要・経緯

<概要> 学校・保護者・地域が一体となって地域に開かれ、地域に信頼される学校づくりを目的に、「地域の大人も共に子どもたちを育てたい」「ふるさとを大切に子どもを育てたい」「保護者・地域・学校の連携を深め子どもたちのためという意識を育てたい」という願いを共有し、子供たちの確かな育ちに向けて、計画的に活動をしている。

<経緯> 平成20・21年度に、コミュニティ・スクール設立の準備期間として研究を進め、平成22年4月飯山市教育委員会よりコミュニティ・スクールの指定を受け、学校運営協議会が設置された。以前より、地域の方が、学校の教育活動に進んで参加していたので、その活動をもとに、3つの部会を作って活動が始まった。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①学校運営協議会で、学校運営方針を承認し、その内容に沿って学校をサポートしている。
- ②ふれあい学習部会(学習活動へのサポート)…スキー教室の講師、生活科や総合的な学習の時間の講師、クラブ活動の講師、九九の暗唱補助やミシン学習の補助など教科学習での講師など、学校の要望に応じて連携。
- ③スポーツ部会(スポーツ活動へのサポート)…マラソンの走り方の指導、冬季のクロスカントリースキーの指導、飯水小学校スキー大会出場のための事前練習の指導など学校と連携。
- ④安全安心部会(安全な登下校へのサポート)…登下校時の見守りを行っていただき、PTAとも連携。
- ⑤地域とPTAと学校との熟議…参観日に合わせて保護者・地域・学校で「熟議」を行い、地域の課題を共有。

【実施に当たっての工夫】

- 4月に2回の学校運営協議会を開催し、校長からの学校運営方針の提案を行い、次の学校運営協議会で慎重に審議し、承認するようにしている。
- 3つの部会にそれぞれ正副部長があり、その方が中心になって学校との要望を調整し、地域の中からかかわっていただける方を見つけてきてもらえるので、学校職員の負担軽減になっている。
- 校長のリーダーシップで、参観日に合わせ、地域の方やPTAと学校職員が交流する機会をもち、今の状況を理解し、今後のあり方について情報交換する場をつくる。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 学習支援として、家庭科や習字、音読や九九の暗唱といった朝学習に参加してもらい、指導する人数が増えたため、指導する職員の助けとなり、子供たちも充実感をもって活動している。
- 地域の方が、子供たちと一緒に活動するので、元気をもらっている、地域で会ったときに挨拶をしてくれるなどという声が聞こえるようになり、お互いに良い関係ができています。
- 子供たちも毎朝出会う見守りボランティアの方と顔見知りになり、安心して登下校している。また、見守りボランティアの方から学校にも子供たちの良い姿を知らせていただき、そのことを子供にも知らせることができ、子供の成長にも大いに役立っている。

● その他

○ボランティアの方の若返りを図りたいと願いを共有したところ、クラブ活動にかかわってくださる保護者の方が、一緒に活動したいと申し出てくださった。今後はさらに増やしていきたい。



スキー教室の指導員として子供たち（学校行事）



家庭科のミシン学習で職員を補助するボランティア

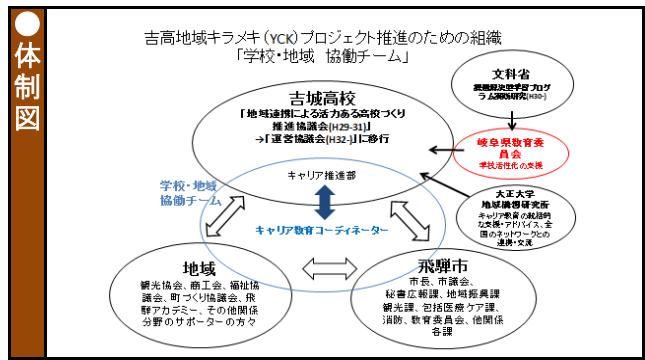
こんな活動です

地域が学びのフィールドだ！地域課題解決型キャリア教育「吉高地域キラメキ(YCK)プロジェクト」

岐阜県飛騨市	●活動名	●関係する学校名
	吉高地域キラメキ (YCK)プロジェクト	岐阜県立古城高等学校

協働活動開始年度	平成 28 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	12 学級	のべ児童・生徒数	355 人
活動区分	—	地域課題解決学習		地域人材育成			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		
	1人				2人		
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
	平成32年4月1日設置予定	—	—	—			
参考URL	http://school.gifu-net.ed.jp/wordpress/yosiki-hs/main/yckproject/						

●連絡先 岐阜県立古城高等学校 キャリア推進部 ☎ 0577-73-4555



●活動の概要・経緯
 古城高校はこれまでも地域からの要請を受け、ボランティアとして地域行事に参加してきた。これら諸活動を地域をフィールドとした生徒の学びの場であると位置付け、「地域観光」、「地域福祉」、「地域教育」、「地域防災」の4分野を柱に地域課題解決型キャリア教育として、「吉高地域キラメキ(YCK)プロジェクト」と命名(H27)、校内にキャリア推進部を設置(H28)し、その活動の充実と精選を進めてきた。さらに地域の有識者を委員とする「地域連携による活力ある高校づくり推進協議会(H29設置)」の後押しも得て、キャリア教育コーディネーターを配置(H29～)、YCKの取組を「教科」、「総合的な学習の時間」、「課外活動」、「YCKリーダー特別ミッション」の4つの方法で実社会との接点を重視した学習プログラムとして、将来社会に必要な学力の育成をめざし研究を進めている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

1. 「地域観光」…4月の古川祭では飛騨市観光協会と連携、2日間で「英語観光案内ボランティア」、「屋台曳ボランティア」、「清掃ボランティア」など、延べ200名の生徒が参加し、地域と一体となって盛り上げた。その他の地域行事に多くの生徒がスタッフとして参加。
2. 「地域福祉」…老人福祉施設「和光園」と交流し、年末には大掃除、花や手作りの品をプレゼントする。
3. 「地域教育」…夏休みに地域の小中学校生を対象に高校生が「学習サポート」を行う。理科科生徒が「小学生サイエンス教室」を主催、小学5・6年生を対象に科学実験の面白さを伝える。
4. 「地域防災」…「被災地の痛みを忘れない！」を合言葉に、東北地震の被災地から譲り受けたひまわりの種を地域の方々と一緒に植えて育てている。また、防災リーダーがハザードマップを使って聞き取り調査を行うなど、地域の防災に貢献している。

【実施に当たっての工夫】

学習メニューの精選については、キャリア教育コーディネーターを介して、地域の方々と、どのような生徒の成長や地域の活性化の姿を目指すのか、目的や目標を共有するように努めている。また、各メニューの実施に当たっては、生徒が自身で選んだ活動が彼らにとって意義ある学びの場になるように、関係する地域の方々を招いて「事前学習」を行い、地域の方々の思いを知り、自らがどのように関わり、何を達成することを期待するかを確認する。実施後は、「振り返り」を行い、どのような発見や学びがあったのか、改善点は何かなど、自身の活動を評価することを大切にしている。これら一連の学習の成果は、生徒の学びと成長の記録であるポートフォリオとして蓄積し、進路選択や進路実現に活用することを目指している。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

生徒の活動が地域の多くの方々の目に触れ、本校教育活動が理解されるようになった。YCK活動への保護者の肯定的意見が昨年度79%から85%に、生徒は85%から95%に増加した。今年度、70周年を迎えるが、同窓会をはじめ多くの支援を受けて、生徒と地域が一体となった活動に、多くの地域の方々が参加し、協力が得られるようになった。生徒は、地域の課題に目を向けるようになり、その解決のために自身の進路や学ぶ意義を考えるようになり、それが学習意欲にも反映されている。大学卒業後に地元で就職したいと考える生徒も増え、将来の地域を担う人材育成や地域活性化に少なからず貢献できていると感じる。

● その他

飛騨市長や市議会から積極的な支援を得られる。市長は「政治経済」で地方自治の授業をしたり、「地域の課題解決」をテーマに特別補習をした。また、飛騨市観光協会や飛騨古川青年会議所、養護老人ホーム和光園、NPO法人「思い出の絵本展」等とも連携している。



「古川祭英語観光案内ボランティア」の活動の様子



「老人福祉施設」を訪問し、老人と歌やゲームなどで交流

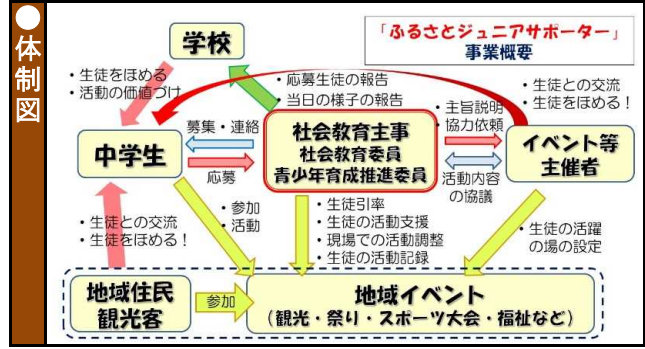
こんな活動です

「自己有用感」と「ふるさと愛」を伸ばす！ ～下呂市ふるさとジュニアサポーター～

岐阜県下呂市	●活動名 下呂市ふるさとジュニアサポーター	●関係する学校名 下呂市立下呂中学校 下呂市立竹原中学校 下呂市立小坂中学校 下呂市立萩原北中学校 下呂市立萩原南中学校 下呂市立金山中学校
--------	--------------------------	--

協働活動開始年度	平成 29 年度	関係学校数	6 校	のべ学級数	37 学級	のべ児童・生徒数	792 人
活動区分	—	地域課題解決学習	—	地域人材育成	—	—	—
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	2人	60人	—	—
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有	600人	—
参考URL	https://www.facebook.com/geropapamamakodomo/						

●連絡先 下呂市役所 市長公室 市民活動推進課 ☎ 0576-24-2222



●活動の概要・経緯

中学生が市内で行われる地域事業(イベントや福祉活動)にボランティアスタッフとして参加することにより、中学生の社会性を育成し、自己有用感を高め、地域への愛着と地域社会の担い手としての自覚を高めることを目的とした「ふるさとジュニアサポーター」事業を市の青少年育成事業として行っている。

2名の市社会教育主事が事業をコーディネート。29年9月からの1年間で、地域のスポーツイベントや祭り、福祉事業、観光事業など36件の行事等に延べ300人以上の中学生が参加している。生徒の活躍が地域で広く承認されるようになり、各地域の社会福祉協議会、観光協会、商工会、企業などの連携が進んでいる。各校で設置が進んでいる学校運営協議会とも連携がなされ、生徒会活動に地域ボランティア活動を取り入れるなど、中学生が地域貢献する機会も多くなっている。

●活動の特徴・工夫

- 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】**
- ①地域を挙げて中学生が地域で活躍できる場を設定し、次世代の人材育成と地域の活性化を図る「ふるさとジュニアサポーター事業」を市の青少年育成事業の柱の一つとしている。
 - ②主要産業である観光分野で多くの活躍の場を設定。観光産業に対する職業観の育成を図っている。
 - ③スポーツ、福祉、文化、祭りなど、イベントが活性化。地域住民の参加数も増加し、地域の絆づくりにつながっている。
 - ④中学生と地域住民が互いに願いを交流する座談会(熟議)を行い、新たに生まれ実践された活動も多々ある。
 - ⑤観光協会、商工会(地元企業)、社会福祉協議会、NPO法人等と学校運営協議会との連携が進んでいる。

【実施に当たっての工夫】

本事業は、これまで中学校がそれぞれで地域の力を借りながら実施してきた。しかし、市の事業として立ち上げたことで、市社会教育主事が社会教育委員や青少年育成推進委員らと共に、地域学校協働活動推進員の役割を担い、行事主催者と学校・地域とのコーディネートを行い、それぞれの役割分担を明確にして効果的な活動に仕組んでいる。

活動の企画、行事主催者との連絡調整、中学生への募集連絡、中学生からの参加受付、中学生や保護者への連絡、活動当日の引率や指導、活動の記録と報告などを社会教育主事やイベント主催者で行い、教職員の負担軽減につなげている。学校は、生徒に活動を奨励し、地域での活躍の情報を受け取り、生徒に賞賛の声をかけたり、学校便りや生徒指導便りなどで活躍の周知や活動の価値付けを行ったりする。各校の学校運営協議会や生徒会活動とも連携し、確実に地域や生徒の主体的な活動へと移行できている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 【生徒】**人とかかわりや、地域の行事・福祉・観光・商業などの体験を通して、コミュニケーション能力の向上や職業観の広がりなど社会性が高まった。地域貢献したという達成感・成就感と他者からの活躍の承認を得たことで、自己肯定感や自己有用感が高まった。これら成功体験を地域で経験することにより「ふるさと愛」が高まった。
- 【地域】**中学生の地域行事参加により地域が活性化。地域で青少年を育てることが地域づくりにつながるという意識が高まった。中学生の地域での活躍の場を認め励まし、役割づくりを意図的・計画的に推し進めるようになった。
- 【学校】**教師が生徒の地域での活躍を承認し価値付けることで、生徒の自己肯定感がさらに高まり、積極的な生徒指導やキャリア(進路)指導へとつなげることができている。

●その他

観光協会、旅館組合、JR東海、商工会、漁協等との連携により、観光イベントへの参加も活発！主要産業である観光業の将来の担い手になってほしいという地域の期待は大きい。また、社会福祉協議会やNPO(サンはぎわら、ふるさと金山)との連携により、福祉分野の活動も広がってきている。



中学生も観光客に着ぐるみ。撮影をしながらの撮影もしている。



撮影する列車の中での乗務員との記念撮影。

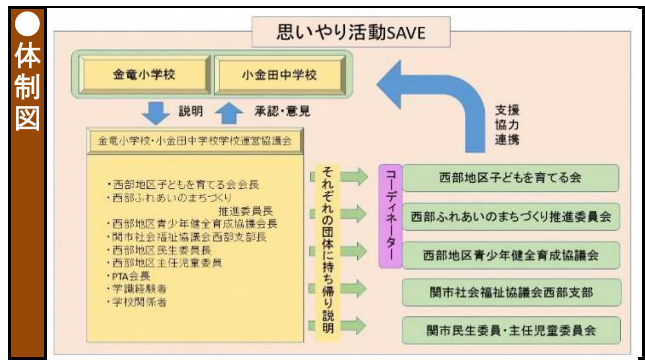


地域・家庭・学校が一体となって故郷を愛する子どもを育てる ～合言葉は「なかまのしあわせのために」～

岐阜県関市	●活動名	●関係する学校名
	おもいやり活動 SAVE	関市立金竜小学校 関市立小金田中学校

協働活動開始年度	平成 29 年度	関係学校数	2 校	のべ学級数	35 学級	のべ児童・生徒数	1087 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	—				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	—	配置人数	—	地域学校協働活動推進員等の数	1人		
学校運営協議会	指定・設置日	平成29年5月29日設置	ボランティアの数	延べ登録人数	20人	企業・NPO等との連携	有
参考URL	http://seibufureai.sub.jp						

●連絡先	岐阜県関市立金竜小学校	☎ 0575-28-2303
------	-------------	----------------



●活動の概要・経緯

SAVE活動は、平成21年に「西部地区子ども育てる会」の発足とともにスタートした。S(掃除)A(挨拶)V(ボランティア)E(エコ)の頭文字を西部地区と掛け合わせ「おもいやり活動SAVE」とし、活動範囲を小学校、中学校だけでなく、各家庭、地域、幼稚園、保育園まで広げて、児童生徒が行ったことを自分専用のSAVEノートに記したり、それを認める言葉をかけ合ったりして地域全体で子供の自己有用感を高めようとする取組である。時が経ち、活動が停滞していたが、平成28年にふれあいのまちづくり推進委員会の発足と同時に、多くの団体を巻き込み本当の意味で地域全体で子供を育てていこうという機運が高まった。学校運営協議会は、諸団体の代表者から構成されており、お互いの願いを共有しながら、より意味のある「おもいやり活動SAVE」となるよう取り組んでいる。

● 活動の特徴・工夫

- 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】
1. 小中連携したSAVE活動：自分が行ったSAVE活動をノートに記録し、先生、家族、地域の方はそれを認める言葉かけを行う。
 2. 地域もSAVE活動を実践する場：S→地域の掃除
A→あいさつ運動
V→ふれあいサロン、フラワープレゼント等 E→津保川観察会、ホテルの観察会、資源回収等
 3. 諸団体同士がつながった行事等の開催：「ホテル観察会」⇒ふれあいのまちづくり推進委員会(統括)、NPO(ホテルの生態説明)自治会(観察しやすいように草を刈ったり、地域の明かりを暗くしたりといった配慮)、青少年健全育成協議会(飲料準備等)
 4. 学校と地域の願いと課題を共有する仕組み：学校運営協議会、ふれあいのまちづくり推進委員会で定期的に願いや課題を共有し行事等の実施に活かしている。
- 【実施に当たっての工夫】
1. 学校運営協議会の構成を以前から子供たちのために意欲的に取り組んできた諸団体の代表者だけでなく、これまでつながりが希薄であった諸団体の代表とし、横のつながりが生まれるよう意識したこと。
 2. 「子ども育てる会」「ふれあいのまちづくり推進委員会」「青少年健全育成協議会」のどの団体にも所属し、熱心な方がコーディネーター役を担った。(地域学校協働活動推進員としての委嘱はしていない。)
 3. SAVEにかかわる具体的な取組を見つけた際には、大人から声をかけてノートに記録するようPTA総会、学校運営協議会、ふれあいのまちづくり推進委員会等で確認したこと。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

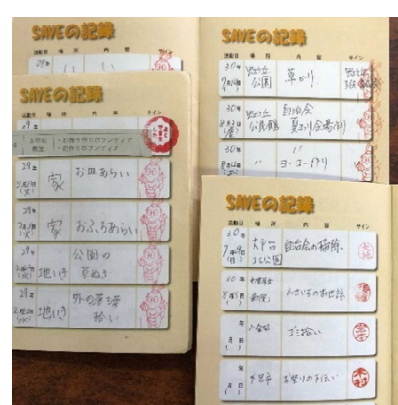
1. 地域を対象とした「ふれあいサロン」などへの児童の積極的な参加が増え、子供から元気をもたらえるという喜びの声が聞かれるようになってきた。
2. 地域の大人からSAVE活動に関わる価値付けの言葉が増えてきたので、子供たちが日常的に公園の掃除をする姿が見られるようになった。また、認められる機会が増えたためか、子供の姿に一層の落ち着きが出てきた。
3. 子供や保護者に関わる地域の行事が精選されて参加しやすくなり、地域の子供と大人がつながる場が増えた。
4. 地域に受け継がれてきた地域の宝物(各務用水など)について、幅広い世代の住民や子供たちが学ぶ機会が生まれた。

● その他

NPO団体「ギンブナの会」の協力を得て「津保川自然かんさつ会」を行っている。川に入ってタモで魚を捕まえたり、「ギンブナの会」の方から説明を聞いたりするなど、体験を通して地域のよさを学んでいる。



住地らの心民域観説ホがにの察明夕育広方会をルちめ々を受のまるがしけ生すこ、ま、態。と子しくにで供たいつ故を。ズい郷含地大てをめ域会N大たのをP切地良しOに域さてかすのをから



もやかん述多地しど内始く域たで容めなのこしはたつ方とた、傾てかになが家はきらよ、や、て認っ学学Sいめて校校Aまら、運でVすれ地営のE。る域協こノ言で議とノ葉の会がトか活をほのけ動活と記

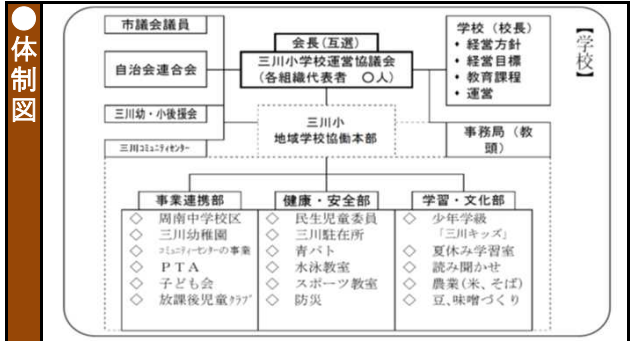
こんな活動です

ふるさと三川を大切に思う子を育てたい！ ～みつかわスタッフとともに～

静岡県袋井市	●活動名 袋井市立三川小学校 地域学校協働本部	●関係する学校名 袋井市立三川小学校
--------	----------------------------	-----------------------

協働活動開始年度	平成 28 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	10 学級	のべ児童・生徒数	180 人
活動区分	学校支援活動						外部人材を活用した教育支援活動
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数 7人			
学校運営協議会	指定・設置日 平成28年4月1日設置	ボランティアの数		延べ登録人数 128人	企業・NPO等との連携	無	
参考URL	http://www3.tokai.or.jp/mitukawa/						

●連絡先	袋井市教育委員会 学校教育課	☎ 0538-44-3172
------	----------------	----------------



●活動の概要・経緯
本校は、古くから食育を中心とした地域学習やふるさと遠足など地域とのつながりを大切にきた教育活動を行ってきた。地域のよさを知ること、ふるさと三川に愛着をもった子供を育てたいと考えてきた。しかし、学校では、授業時数の増加や体験的な活動の縮小、教職員の勤務負担軽減などが課題となっており、地域では、生活の不便さや高齢化が課題となっている。そこで、若者が定住したいと思えるような地域の魅力を子供たちに学ばせたり、子供から高齢者までの交流の場を増やして高齢者も生きがいを感じる地域づくりをしようと考えた。そこで、H28年に地域学校協働本部を立ち上げた。公民館(当時:現在はコミュニティセンター)長がコーディネーターとして学校と地域をつなぐ役割を担っている。地域の方々から学校の様々な教育活動へ支援をし、公民館の行事や社会教育事業に学校が協力する体制ができた。さらに、学校からの協力依頼に対して、できる時にできることをしてもらい「みつかわスタッフ」の体制づくりに取り組んでいる。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①授業支援・米・そば・大豆等の栽培、収穫、調理などの本物体験を行う。コーディネーターが地域の協力者と連絡調整を行う。
- ②活動支援・竹馬づくり、青墓小との交流、登下校の見守りパトロールなどは、公民館の高齢者学級や自治会の活動として協力する。
- ③学習支援・夏休み学習室や作文教室などは、放課後や長期休業に行う。募集ちらしその他、学校よりメール等で保護者に周知する。
- ④教育環境整備・「みつかわスタッフ」登録者が、職員員の休憩時間に行う竹馬一輪車の昇段テストや校庭の草刈りに協力する。
- ⑤公民館の社会教育事業「三川キッズ」・学校で募集や連絡等を行い、活動後には内容や児童の表れを情報交換する。
- ⑥地域の行事に参加・敬老会、公民館祭り、地域の公園イベント等に児童が合唱・作文・竹馬一輪車披露などで参加をする。

【実施に当たっての工夫】

地域学校協働本部のコーディネーターを公民館長(当時)に依頼し、地域の教育力を学校の中で生かす仕組みをつくった。学校教育では指導困難な部分を協働本部に協力依頼をし、コーディネーターが連絡調整をして協力体制をつくった。これまで各学年担任が個々に地域人材を探し、授業準備をしていたものが一本化され、スムーズに計画立案ができるようになった。順調に移行できた要因として、地域の学校への協力体制が定着していたこと、自治会連合会と公民館の密接な結びつきがあること、三川公民館がコミュニティセンター移行のモデル館として地域づくり事業を先行していたことなどが挙げられる。学校運営協議会で、学校・家庭・地域が「育てたい子ども像」や「目指す学校像」を共有した上で、活動の方向性を協議し、学校運営や教育活動の改善・充実に向けた取組を進めた。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ・子供たちに地域資源を生かした多様な教育活動を集団で体験させることにより、たくましく生きる力を育てることができた。また、異年齢の交流を通して協調性や思いやりの心、社会性を身に付けることができた。さらに、地域の大人とのふれあいを通して、地域の一員であるという自覚を育てることができた。
- ・子育てを終え、学校と疎遠になりがちな世代の推進委員が教育活動の一端を担い、地域づくり・人づくりの責任とやりがいを感じることができた。「子供たちから元気ももらえた。」「学校で地域の新しい仲間と知り合えた。」「自分の知識や経験を生かすことができた。」など、肯定的な感想が多く寄せられた。

●その他

土曜日の子供の居場所づくりとして、社会教育事業「みつかわキッズ」を開催している。農業体験、防災体験、座禅体験、川遊び、スポーツ、イングリッシュ講座、高齢者からの伝承体験など、多様な活動を行っている。



(夏地域住民の協力を得て、公民館で作文学習室や宿題の補助)

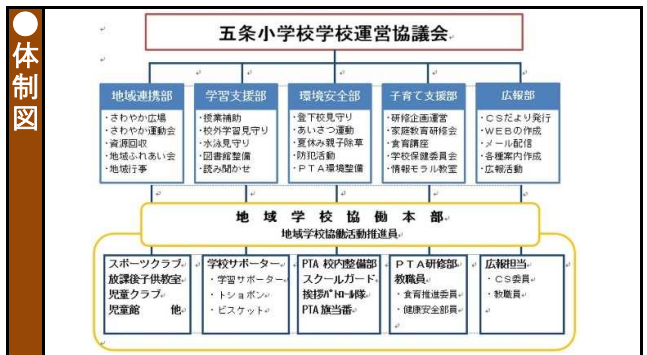


家防どの手作りをすすめては、地域の防災専門

愛知県北名古屋市	●活動名 北名古屋市立五条小学校地域学校協働本部	●関係する学校名 北名古屋市立五条小学校
----------	-----------------------------	-------------------------

協働活動開始年度	平成 28 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	18 学級	のべ児童・生徒数	472 人
活動区分	学校支援活動		—		—		
	—		放課後子供教室		外部人材を活用した教育支援活動		
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		
	1人		—		6人		
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携		
	平成26年4月1日設置		—	154人	有		
参考URL	http://www.cnt.kitanagoya.ed.jp/weblog/index.php?id=goioel						

●連絡先	北名古屋市立五条小学校	☎ 0568-21-0083
------	-------------	----------------



●活動の概要・経緯

平成18年度に「スクールガード」、20年度に「ビスケット」(読み聞かせ)、22年度子供たちの学校生活を支援する「学校サポーター」が発足するなど、すでに地域で子供を見守り育てようという動きは見られた。PTA活動も盛んであったが、個別の活動の総合化・ネットワーク化が未熟で、独自に活動しているような状況であった。24年度に「学校運営協議会」設置に向けて2年間の研究指定を受けたことを機に、教育ビジョンを共有し、同じ方向で子供たちの成長を支援できるよう、組織を整備し、活動の見える化を図った。26年度には、正式に学校運営協議会の指定を受け、本格実施となった際には、教育ビジョンは学校運営協議会で熟議し、「地域学校協働本部」が実際の支援活動を行う体制を整えることができた。以来、「学校・保護者・地域」が一体となって活動を進め、地域とともにある学校づくりを推進している。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①学校支援ボランティア「学校サポーター」の設置
 - ・学習サポーター…実習補助や校外学習の付添、プール安全見守りなどの授業支援活動、および基礎学力の定着と学力の向上を目指す「音読・脳トレランド」での聴き役・認め役。
 - ・トショボン…図書館整備、学級文庫の選定補助、児童図書委員会との共同活動。
 - ・ビスケット…朝の読み聞かせを定期的実施。
- ②「スクールガード」による児童登下校時の安全指導や行事における校内外安全見回り活動。
- ③「五条スポーツクラブ」による体育的行事の支援、及び子供の体力向上を目指した土日スポーツクラブの運営。
- ④放課後子供教室と児童クラブの連携による多様な学習機会の確保、子供の居場所づくり。

【実施に当たっての工夫】

「学校サポーター」の各部ごとに、地域学校協働活動推進員がコーディネーター役を担い、活動の計画や調整、学校教育活動との連携を中心となって行っている。地域担当のコーディネーターを設置したことで、多様な地域人材の活用が可能となった。また、サポーター同士の横のつながりを大切に、絆づくりを図るために、年に3回サポーター交流会を開催している。企画・運営、連絡役を地域学校協働活動推進員が担当することで、教職員の負担軽減をしている。また、ホームページやコミュニティ・スクールだよりを活用して、地域学校協働活動の見える化に努めている。コミュニティ・スクールだよりは地域学校協働活動推進員が互いに協力して取材・編集にあたり紙面を作成し、地域に回覧することで地域住民への啓発に努めている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

保護者をはじめ地域住民による「学校サポーター」や「スクールガード」の登録も年々増え、活動の幅も広がっている。ボランティアによる献身的な支援が積極的に行われるようになり、本校にとっては教育活動を支える大切な活動となった。日常的にボランティアが来校することで、教育活動の現状や学校運営について理解が深まり、保護者や地域からの信頼も高まってきた。様々な立場の人による支援を受けることで、子供たちには、よい生活習慣が形成され、学習意欲も着実に向上している。また、ボランティアの活動を見たり、一緒に活動したりすることにより、体験の量と質を高めることができた。

●その他

学校運営協議会では、全体会・各部会ともに、委員一人一人が当事者意識をもって、本音で話し合っている。どんな子供に育てたいかをとことん熟議することで、明確な教育ビジョンを共有し、ベクトルを揃えて地域学校協働活動を実施している。



学習サポーターととも「音読・脳トレランド」(学習支援)



「トショボン」による週一回の図書館整備活動(環境整備)

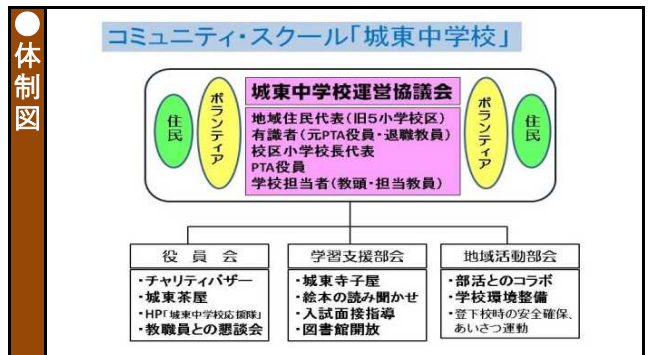
こんな活動です

城東中学校が新たな校区に愛され根づいていくために ～城東中学校運営協議会は「学校応援隊」です～

三重県伊賀市	●活動名 城東中学校運営協議会	●関係する学校名 伊賀市立城東中学校
--------	--------------------	-----------------------

協働活動開始年度	平成 22 年度	関係学校数	5 校	のべ学級数	14 学級	のべ児童・生徒数	332 人
活動区分	学校支援活動		—		—		
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数 6人		
学校運営協議会	指定・設置日 平成22年10月1日指定	ボランティアの数	延べ登録人数 35人	企業・NPO等との連携	無		
参考URL	http://www.iga.ed.jp/joutou-j/						

●連絡先	伊賀市立城東中学校	☎ 0595-26-7022
------	-----------	----------------



●活動の概要・経緯

城東中学校は、伊賀市の校区再編にともない3中学校区が統合・再編によって開校した。新中学校の校区の融合と地域との信頼関係の醸成を目指す仕組みとして、コミュニティ・スクールに指定され、城東中学校運営協議会が設置された。学校運営協議会は「城東中学校応援隊」として、学校と地域をつなぐコーディネーター役を担い活動を仕掛けている。学校運営協議会は、4つの小学校区の住民自治協議会から委員と有識者、4小学校長代表と学校担当者で組織され、学校の課題解決に向けて住民が協働できること、そして学校・地域・人が「つながる」ことを目指した実働的な活動に取り組んでいる。地域の学習ボランティアが家庭学習習慣や学習意欲の育成を目指して実施する「城東寺子屋」や朝の読書の時間を利用して行う「絵本の読み聞かせ」は、生徒の心に響く豊かな支援となっている。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

学校運営協議会事業として、①「役員会事業」、②「学習支援部会事業」、③「地域活動部会事業」に取り組んでいる。
 ①では、吹奏楽部定期演奏会にコラボし、校区住民から提供してもらった品物をもとにチャリティバザーと住民交流の場「城東茶屋（飲食物の提供）」を並行して開催する等、学校支援と住民交流の場を創出。
 ②では、生徒の学力向上の課題を学校と共有して「城東寺子屋」（年12回、参加生徒延べ280名）を開催して、生徒の実態に応じた学習機会を保障。読書習慣に弱さを抱える生徒達への情感溢れる絵本の読み聞かせ（年間30回）。
 ③では、地元バンドを結成し吹奏楽部の定期演奏会にコラボ。地域ボランティアの方が植木の剪定・芝生の管理・除草等の作業を実施。登下校時のあいさつ運動と安全確保を校区の全戸に依頼。

【実施に当たっての工夫】

城東中学校運営協議会は「学校と地域をつなぐ役割を担う」目的のため、次のことを意識して取り組んできた。
 ア：バザーや演奏会とのコラボ等、地域住民に來校してもらう事業を創出する。
 イ：あいさつ運動や環境整備等、地域住民が学校に関わる当事者意識をつくりだすための企画や試みを展開する。
 ウ：城東寺子屋講師等、学校運営協議会事業に関わる地域ボランティアを増やすため、校区はじめ関係機関に募集する。
 エ：城東寺子屋開催等、学校の課題解決のために学校と地域住民が協働できる事業を実施する。
 この他、学校運営協議会が学校の実態を共有できるように、できる限り透明性をもって学校が実態を発信するとともに、学校運営協議会のHPを通じて活動の様子を詳細に広報するよう努めている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

学校運営協議会の活動を通して、校区の住民・学生・元教員・経験豊かな高齢者・各自治協担当者が経験や強みを発揮して学校と関わり交流する機会が創出されてきた。開校当時、地域住民は学校に対し批判的な面も見られたが、活動を通し、学校が地域住民から信頼や愛着を寄せてもらえる「地域の学校」として位置ついてきた。また、学力、生徒の関係性、学校と保護者との関係、学校への満足度等を、学校と学校運営協議会が共有することによって、学校が弱みや課題に向き合って着実に取り組む姿勢が生まれ、活動の関係者が「自分達にできる活動で応援しよう」という協働への活力が生み出されてきた。

●その他

教職員の教育への思いやニーズを把握し、また関係づくりのために年2回以上の懇談会を開催し、そこで出された意見を事業の企画に生かしている。また、中学3年生の高校入試を前にした最終面接指導も担って進路保障を支援している。



左は城東寺子屋の読み聞かせ。右は城東茶屋のチャリティバザー。

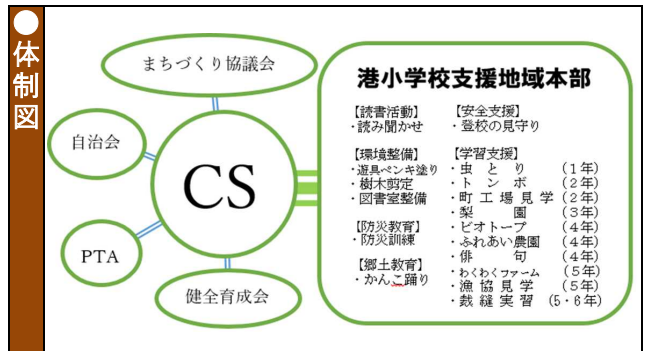


吹奏楽部定期演奏会とコラボする城東茶屋。

三重県松阪市	●活動名	●関係する学校名
	港小学校支援地域本部	松阪市立港小学校

協働活動開始年度	平成 23 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	13 学級	のべ児童・生徒数	281 人	
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習		地域人材育成				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		1人		
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携		無		
参考URL	平成25年4月1日設置						84人	
	http://www.kamada-matsusaka.com/minato/							

●連絡先	松阪市教育委員会 学校支援課	☎ 0598-53-4398
------	----------------	----------------



●活動の概要・経緯

平成25年度より、鎌田中学校区3校の一つとして、小中連携型のコミュニティ・スクールを導入する。「学校の教育力の向上」「家庭の教育力の向上」「地域の教育力の向上」を実現するために、地域住民等の学校運営への積極的な参画と、学校支援ボランティアの連携・協働を図り、地域とともにある学校づくりを進めている。ボランティアによる学習支援では、きめ細やかな支援により子供たちの学習意欲が向上している。また、登下校の安全支援等では、地域の方からの声掛けにより、子供の安心・安全につながり、豊かな心の醸成につながっている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 地域住民の学校参画
 - ・保護者、地域住民、教職員等が自分たちができることを話し合う熟議やスクールミーティングの実施
- ボランティアによる学校支援活動
 - ・スクールガードによる登下校の見守り活動、朝の読み聞かせ活動、家庭科実習などの授業支援、樹木剪定などの環境整備
- 地域力を生かした体験活動
 - ・地域の人材を生かした自然活動体験、農業体験活動、漁業体験など、子供たちが地域に出て学ぶ校区ウォークラリーの取組

【実施に当たっての工夫】

- 学校運営協議会等の中で、子供の課題を討議し、その課題解決に向けた取組を進めている。
- ボランティアによるスクールミーティングを開催し、自分たちができることを主体的に考え、実行している。
- 年2回の校区連携協議会を開き、中学校区での連携を深めている。
- 学校運営協議会が主体となり、地域と学校が連携・協働した学校支援活動を進めている。
- 生活科や総合的な学習の時間等の学習計画と連動した地域連携を図りながら、豊かな体験活動を進めている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ボランティアの支援の充実により、子供たちはこれまでより落ち着いて授業に臨めるようになり、基礎・基本の学力が定着した。
- 子供たちは、地域住民に励まされたり、褒められたりする機会が増え、自尊感情が高揚した。
- 地域住民や保護者は、学習支援、読書支援、安全支援をきっかけに、さらに学校への関心が高まり、ボランティアの輪が広がった。
- 子供たちは、地域の特色を生かした自然活動体験、農業体験活動、漁業体験などを通して、地域への愛着を深めた。
- 学校は、地域住民の協力を得ることで、これまで以上に特色ある教育活動を進められた。

● その他

地域の特色を生かした様々な教育活動が行われている。子供たちは、たくさんの地域の人たちに支えられ、自尊感情や地域愛を育てている。



近隣の川の水を観察（3年総り合）



梨園で収穫（4年総り合）



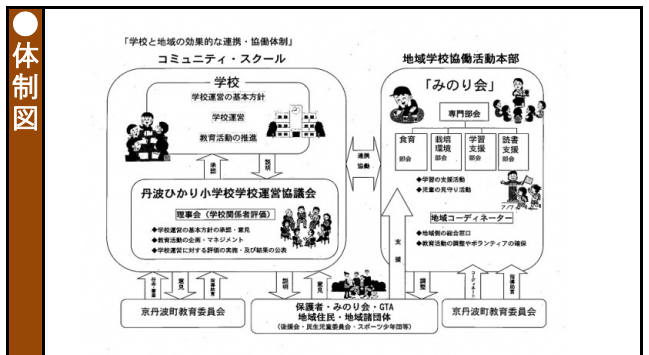
こんな活動です

夢に向かう子どもたちのために、 よきパートナーとして「響」きあう活動を

京都府京丹波町	●活動名 京丹波地域学校協働本部丹波ひかり小学校部会 「みのり会」	●関係する学校名 京丹波町立丹波ひかり小学校
---------	--------------------------------------	---------------------------

協働活動開始年度	平成 27 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	11 学級	のべ児童・生徒数	218 人
活動区分	学校支援活動		—			地域人材育成	
	—		—			外部人材を活用した教育支援活動	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数 1人			
学校運営協議会	指定・設置日 平成19年6月2日設置	ボランティアの数		延べ登録人数 100人	企業・NPO等との連携	無	
参考URL	http://www.kyoto-be.ne.jp/tanbahikari-es/cms/?page_id=56						

●連絡先	京丹波町立丹波ひかり小学校	☎ 0771-89-2353
------	---------------	----------------



●活動の概要・経緯

- ・平成18年度に文部科学省から「コミュニティ・スクール推進事業」の指定を受ける。(推進委員会の設置)
- ・「ひかり小方式」の基本的な指針を検討、委員の委嘱、PTA総会での説明等を経て学校運営協議会を設置(学習支援部会・読書支援部会・食育部会・栽培環境部会)
- ・先進校視察(鳥取県)、「コミュニティスクール推進フォーラム」(文科省主催)等で情報収集
- ・支援組織として「GTA(祖父母による支援組織)」「みのり会」を整備
- ・学校評価の実施(計画→実行→評価→次への行動)

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

【特徴的な活動内容】

- ・学習支援部会: やりきり道場(補習ワークの採点)、ミシン学習の支援、戦争体験の語り、昔の遊び体験支援
- ・読書支援部会: お話会の開催と朝の始業前の読み聞かせ
- ・食育部会: 家庭科学習支援、地元特産の黒豆の栽培と調理(きんつば作り)、大豆の栽培と調理(きなこ、味噌造り)
- ・栽培環境部会: 米作り挑戦(田植えから稲刈り、しめ縄づくり)、GTAによるサツマイモ作り指導、バラ園づくり
- ・安全見守りボランティアの活動

【実施に当たっての工夫】

【実施に当たっての工夫】

- ・「学校と地域住民が相互に信頼関係を深めながら、子供の豊かな学びを支援すること」を活動の基盤にしている。
- ・児童の祖父母等も含め、広い年代の住民による支援を進めている。
- ・特に学習支援については、教育課程を踏まえた学習や体験活動の支援を進めている。
- ・各学期ごとに広報誌「響」を発行し、校区内全戸に配布することで、開かれた学校づくりの一翼を担っている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ・児童の学習意欲が向上し、平日の授業も活性化してきた。自信を持って落ち着いて学習する姿勢が育っている。
- ・学校だけでは体験できないことを数多く体験することで、新しいものに挑戦したり、協力して取り組むことの大切さが身についてきた。
- ・地元の自然や特産物、文化、まちづくりなどを学習することで、地元を愛する気持ちが強まった。

● その他

・4つの専門部会の部長は学校関係者評価委員であり、学校の実情を理解して活動に取り組んでいる。ボランティアメンバーは、地域ボランティアを生きがいとして、ふるさと「京丹波」の人づくりをめざして活動を続けている。



ん読書支援部の読み聞かせ



テイクリアブ活動での外部ボランティアによる専門指導

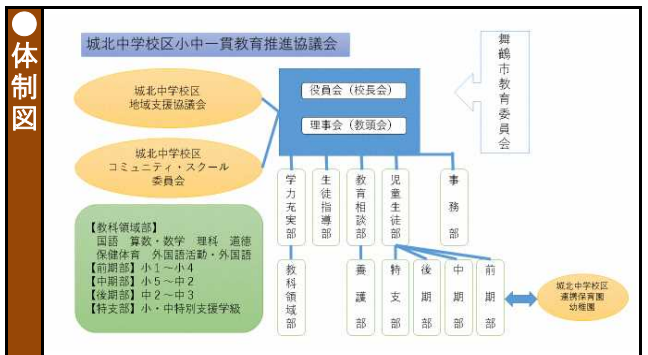
こんな活動です

夢プロジェクトを中心に 地域とつながり児童生徒をみんなで育てる活動

京都府舞鶴市	●活動名	●関係する学校名
	城北中学校区地域支援協議会	舞鶴市立城北中学校 舞鶴市立明倫小学校 舞鶴市立余内小学校 舞鶴市立福井小学校 舞鶴市立吉原小学校

協働活動開始年度	平成 24 年度	関係学校数	5 校	のべ学級数	59 学級	のべ児童・生徒数	1252 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習		地域人材育成			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	1人		1人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携			
	平成29年7月1日設置		215人	無			
参考URL	https://www.city.maizuru.kyoto.jp/kyouiku/0000001477.html#pagetop						

●連絡先	舞鶴市立城北中学校	☎ 0773-75-0158
------	-----------	----------------



●活動の概要・経緯

平成24年度に城北中学校地域支援協議会として発足。平成28年度に小中一貫教育が始まり、城北中学校区地域支援協議会と改名し活動している。

民生児童委員連絡協議会やPTA等の校区の各団体と連携した校区一斉挨拶運動や見守り活動、環境整備、城北中学校生徒会「夢プロジェクト(フジバカマを植栽し、旅をする蝶・アサギマダラを飛来させる取組など)」とタイアップした活動などを行っている。また、詩吟などの教室、おせちなどの伝統食の料理教室を行い、ふるさとに関心を持たせる取組(郷土学習)も行っている。

「夢プロジェクト」の取組は、小学校が閉校となった地域では、フジバカマ祭を開催するなどまちづくり・地域活性化への活動となっている。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①中学校地域支援協議会を母体に、PTAや民生児童委員連絡協議会など各団体と連携。
- ②城北中学校生徒会と連携し、「夢プロジェクト」(フジバカマを校区各所に植栽し、アサギマダラを飛来させる取組など)と協働する活動(苗づくり、植栽、贈呈式、手入れ、観察会、匂い袋作成)。
- ③花壇の整備、伝統食(おせちやいもつるなど)料理教室、匂い袋作成、体育祭・文化祭の審査員などの学校支援活動。
- ④地域支援協議会員による校区の小学校との連携(小学校区の公園等に植栽したフジバカマの手入れ、除草作業)。
- ⑤学校と支援協議会が定期的に会議を行い、学校や地域の課題を共有、活動の点検・評価。

【実施に当たっての工夫】

コーディネーターと中学校との連携を密にし、各小学校の教育支援活動を中心的に関わってきた方々とコーディネーターとのつながりを深める機会と場を設定して協働関係を強めた。当初は、中学校の教頭が連絡調整を行っていたが、小中一貫教育の推進とともに、活動状況の把握や連絡調整がスムーズになるよう、小中学校教頭間の連携を強めた。また、小学校区ごとの連絡体制も設けた。

コーディネーターと地域の方々、学校とのつながりが深まる中、必要な支援やどのような協働活動ができるか、そのためのネットワークの強化を話し合うことを大切に、そのことが各教室の開催など活動の広がりに繋がった。また、母親教室の開催など、若い世代から高齢の方まで幅広く活動に参加し、取組が充実し継続するよう考えながら進めている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

学校と地域住民が連携・協働し子供たちに関わり、学校教育活動を支援する活動が進められたことで学校が安定してきた。子供たちは、さまざまな教育活動に熱心に活気を持って取り組んでいる。また、地域の方と子供が顔の見える関係を築くことで、安心・安全な地域づくりにつながっている。

会員は、学校の安定化に関わったという自信と、子供たちと触れ合う中で「子供たちから逆に元気をもらっている」「小学校から中学校を卒業するまで見守ったり関わったりしたい」とやりがいを感じている。また、閉校となった小学校のある地域では、「夢プロジェクト」により、子供たちの声が地域に戻り、アサギマダラの観察に多くの人が訪れる状況が生まれ、地域の活性化につながっている。

●その他

旧青井小学校で、9月に地域の方が講師となり、校区の小学3年生が合同で『こん虫のかんさつ』の学習をしている。今年11月、学習の際にマーキングした蝶が、948km離れた鹿児島県喜界島で捕獲され、ロマンある取組に発展し、校区は大いに盛り上がっている。



小中合同でのフジバカマの植栽(旧青井小学校)



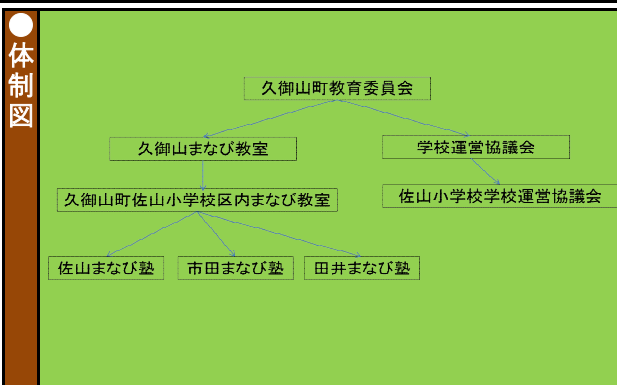
校区小学校へのフジバカマの贈呈式

こんな活動です

地域の特性を活かしたまなび塾 ～多様な各種団体や人材と連携した取組～

●活動名	●関係する学校名
京都府久御山町 久御山町佐山小学校区内まなび塾	久御山町立佐山小学校

協働活動開始年度	平成 20 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	15 学級	のべ児童・生徒数	337 人
活動区分	学校支援活動	—		—		—	
	—	放課後子供教室		—		—	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		—		
	—	—		3人			
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
	平成24年4月1日設置	—		85人	—		
参考URL	http://www.town.kumiyama.lg.jp/contents_detail.php?co=cat&frmId=253&frmCd=3-3-2-0-0						



●連絡先	久御山町教育委員会 社会教育課	☎ 0774-45-3918
------	-----------------	----------------

●活動の概要・経緯

- ・茶摘みやニュースポーツ、畑仕事など様々な体験活動の実施
- ・授業等における学習支援活動
- ・見守り活動等による子供たちの安心・安全の確保
- ・学校の教育環境の整備

学校運営協議会における協議や放課後子供教室(まなび塾)運営委員会における協議をととして、地域や子供たちの実態を見極めながら取組内容を整理する中で現状の活動へと進んできた。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ・「総合的な学習の時間」を活用した「農業体験学校」の実施
- ・子供たちによるボランティア活動の支援
- ・自治会など地域の団体等と連携した見守り活動の実施
- ・地域の特性を生かした様々な体験活動の実施

【実施に当たっての工夫】

- ・様々な手立てで活動状況等を発信し、地域の理解を深めるよう努めている。
- ・ボランティアの募集、活動の実施に当たっては、無理なく長く続けられるよう、「できるときに」「できる範囲で」を基本として取組を進めている。
- ・取組を担う人材の継承に配慮し、情報収集しながら人材の発掘に努めている。
- ・学校教職員への取組の周知に努めるとともに、教職員の積極的な関わりに向けて働きかけを強めている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ・地域、学校双方がその存在をより身近に感じ、関わりを強めるきっかけとなっている。
- ・子供たちの様々な学習場面への地域ボランティアの関わりにより、学習活動が充実してきている。
- ・子供たちが学ぶ場としての教育環境の充実、また、安全確保など子供たちが過ごす地域の環境向上へとつながっている。

●その他

まなび塾、校区青少年健全育成協議会、学校運営協議会等をはじめとした地域の団体・関係者の連携・協働により、子供たちのための体験活動機会の充実や見守り活動をととした安心・安全の確保など、具体的な活動が進んできている。



(佐山小学校青少年健全育成協議会)



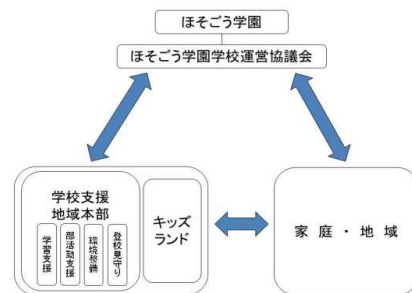
大会 佐山まなび塾ランドゴルフ

こんな活動です

みんなで子どもを育てよう -つながりを大切にしたほそごうの取組-

大阪府池田市		●活動名 ほそごう学園学校支援地域本部			●関係する学校名 池田市立ほそごう学園		
協働活動開始年度	平成 20 年度	関係学校数	200 校	のべ学級数	18 学級	のべ児童・生徒数	497 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	—	—	—	—	—
	—	放課後子供教室	—	—	—	—	—
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数	配置人数			
—	—		—	11人			
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
—	平成29年4月1日設置	—	84人	—	—		
参考URL	www.schooliked.osaka.jp/hosogou-ac/						
●連絡先	池田市教育委員会 教育政策課			☎ 072-754-6294			

●体制図



●活動の概要・経緯

平成27年4月に本市で初めての施設一体型小中一貫校である細郷小学校と細郷中学校が開校。平成29年4月に学校運営協議会を設置するとともに、市内在住であれば校区の壁を越えて通学できる特認校制度を導入。今年度より義務教育学校として「ほそごう学園」が開校。旧細郷中学校区の学校支援地域本部は卒業生が学校支援を申し出たことがきっかけで平成20年9月に発足。OSP(Our School Project)と名付け、旧細郷中学校、旧伏尾台小学校、旧細郷小学校で学習支援を中心に活動を行ってきた。現在では、登校時安全見守り活動をはじめ、環境整備、早朝学習・放課後学習・読み聞かせ活動等の学習支援を行い、子供たちの学校生活をサポートしている。キッズランド(放課後子ども教室)については、平成16年度より活動を開始。当初は旧細郷・旧伏尾台小学校の2校で活動していたが、統合された現在もコーディネーターを中心とした活動が行われている。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 「OSP学習会」・・・火・水・木曜の7時35分～8時15分に学習会を実施。自主的に参加する子供たちの学習をサポートしている。
- 「ほそごうタイム」・・・月曜の6時間目1～6年生を対象に算数の計算問題を中心に学習を行っており、地域の方や学生も授業補助として参加。
- 「ほそごう秋まつり」・・・旧伏尾台小学校で行われていた「地域と学校をつなぐ文化祭」を継承し、今年度で34回目を迎える。吹奏楽部や金管クラブの演奏をはじめ、子ども落語寄席、校区内の施設・教室の作品展示、バスケットボール体験等を開催。
- 花いっぱいプロジェクト・・・対象学年は3年生と7年生。7年生は大阪府の補助事業を終えた「卒業校」だが、継続実施。地域の「花の会」の協力を受け花の苗を移植し、育てている。校区内の施設等に苗を渡す「出荷式」は、3年生と7年生の合同で開催。
- ほそごうキッズランド・・・水曜に開催。異年齢の子供たちが自由遊びを通して、交友関係や対人関係を築くことを目的としている。

【実施に当たっての工夫】

- 学校支援地域本部より事務局長が学校運営協議会に委員として参加。OSPでの生徒たちの様子を情報提供し、共通理解を図っている。英語検定の2次面接前は、希望者を対象に英会話の練習を実施。地域・学生に加え、後期課程の教職員もOSPに参加。
- 細郷・伏尾台地区の地域やPTA、学校で実行委員会を構成し文化祭を企画・運営。昨年度より実行委員会で検討した名称「ほそごう秋まつり」を新たに加え開催。
- 「子育てに関する講演会」を開催し、教職員や保護者、地域住民がともに子育てや地域について考える機会を設定。昨年度は「地域コミュニティ推進協議会との連携研修会」を行い、「地域とともにある学校づくり」について考えた。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 学習支援を行うことで学習習慣が身につく児童生徒が増えている。朝学習では、生徒が学習支援員に「英検合格したよ!」と報告に来ており、ともに喜びあう場面に立ち会うことができた。朝学習やほそごうタイム等、教職員とともに活動することにより子ども理解につながり、基礎・基本の定着の礎にもなっている。
- 保護者や地域の方々の協力の下、子供たちは多様な体験が出来る。活動を通して関係づくりを築くだけでなく、地域の方々にとって「やりがい」につながっている。

●その他

・「Hosogo Walker」の作成・・・昨年度7年生が細郷地域・伏尾台地域に赴き、話を聞き取ったものを大新社に編集方法を教えてもらいながら情報誌を作成。今年度も継続して取り組むとともに、1年生から9年生まで系統立てた地域学習に取り組んでいる。



キッズランド(7年生の活動の様子)(左)(中)

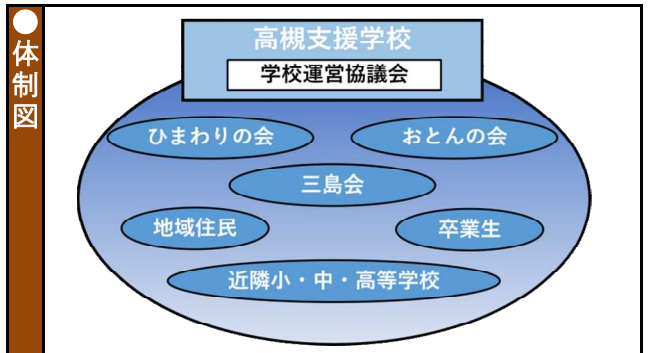


朝学習(OSP)の様子(右)

大阪府	●活動名	●関係する学校名
	高槻支援学校学校支援活動	大阪府立高槻支援学校

協働活動開始年度	平成 20 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	73 学級	のべ児童・生徒数	324 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成				
	—	放課後子供教室	—				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	—	—	6人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携			
	平成30年5月11日設置	—	280人	無			
参考URL	http://www.osaka-c.ed.jp/takatsuki-y/						

●連絡先	大阪府立高槻支援学校	☎ 072-696-2836
------	------------	----------------



●活動の概要・経緯

府立高槻支援学校では、地域のシニアグループで構成された『三島会』、児童生徒の父親を中心とした『おとんの会』、児童生徒の母親を中心とした『ひまわりの会』、卒業生などのOB、学生ボランティアグループ、他校からの参加者、地域の『赤大路コミュニティー』等々、地域の様々な団体、家庭を中心とした団体があり、そこに、学校の分掌の一つである『地域連携部』が関わって、地域学校協働活動を行っている。それぞれが年々連携協力を大切に考えるようになり、お互いの理解も深めつつ活動を進歩させている。

●活動の特徴・工夫

- 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】**
- ・親子音楽会・ピクニック・防災学習会…おとんの会を中心に企画運営し、OBや他校からの参加者なども協力して実施。
 - ・環境整備…ひまわりの会を中心に、草抜きや体育館清掃、花壇整備など、校内の環境整備活動を実施。
 - ・学習支援活動…三島会を中心に、授業の補助活動や、紙芝居、絵本の読み聞かせを実施しており、子供も地域の方も楽しみにしている。
 - ・学校行事の支援…全団体が連携し自転車整理や巡回指導等の役割を担うことで、先生が子供の指導に専念できる環境を作る。
 - ・地域行事へ積極的な参加…生徒から交流委員を選び、福祉展、地域文化祭等への参加など、子供と地域が関わる機会を作る。
 - ・高槻市の小・中・高と交流し、その後教員が集まって振り返るなど、地域連携のための教員向け研修も行っている。
- 【実施に当たっての工夫】**

- ・地域(『三島会』『赤大路コミュニティー』)、家庭(『おとんの会』『ひまわりの会』)、学校(『地域連携部』)が各グループを作り、協働の取組を行う。
- ・転任してきた教員に地域を学ぶ研修をおこなったり、高槻市内の小・中・高の教員が集まって交流するなど、地域との連携を深めるために、学校の教員育成を進め、教員の地域連携の意識を高める取組を行っている。
- ・高槻市と連携して福祉展や地域文化祭への参加を積極的に行い、地域とのつながりを広げている。
- ・学校運営協議会に地域の方が参加することで、学校と地域が同じ目標に向かって取り組める基盤を作っている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

支援学校は広域から児童・生徒が通学することから、地域との連携の取り方も難しい。そんな中、地域の方々と学校が協力した学校づくりができており、地域文化祭への参加、高槻市福祉展への参加等、地域へ出ようという意識が高い。また、地域の方が、それらの活動を通して、児童・生徒の障がいの理解、支援学校への理解・協力をするこへとつながっている。また、地域の方が協働する中で、自分の力を生かす場面が作られ、必要とされることで喜びを感じてくださっている。「参加してよかった」という感想も多い。子供たちにとっても、様々な活動を通して社会性を育み、より豊かで多様な経験をする機会となっている。

●その他

地域・家庭・学校がそれぞれ子供たちのために、協力し合うことでより深い協働活動を行っている。



ひまわりの会を中心とした環境整備活動



おとんの会が行った親子音楽会を招いて行った企画で、演奏家を

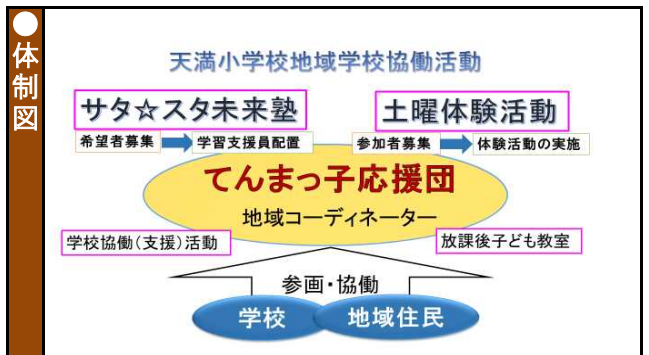
こんな活動です

子どもと大人を笑顔でつなぐ「てんまっ子応援団」 ～サタ☆スタ未来塾と土曜体験活動～

兵庫県稲美町	●活動名	●関係する学校名
	天満小学校地域学校協働本部（てんまっ子応援団）	稲美町立天満小学校

協働活動開始年度	平成 29 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	26 学級	のべ児童・生徒数	711 人
活動区分	学校支援活動	—		—		—	
	地域未来塾	放課後子供教室		外部人材を活用した教育支援活動			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数			
	—	—		1人			
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
	平成32年4月1日設置	—	114人	—	—		
参考URL	http://www.town.hyogo-inami.lg.jp						

●連絡先	稲美町教育委員会生涯学習課	☎ 079-492-2340
------	---------------	----------------



●活動の概要・経緯

稲美町では、平成20年度より取り組んでいた学校支援地域本部事業を平成29年度に刷新し、地域で子供たちの健やかな成長を支援する地域学校協働活動「いなみ いきいき共育ネット事業」を開始した。「地域の子どもと大人が共に育つ」「人と人とのつながりネットワークをひろげる」をスローガンとして、小学校区単位で地域学校協働本部を立ち上げている。

天満小学校地域学校協働本部（てんまっ子応援団）は、各種団体からの代表者組織ではなく、地域学校協働活動の主旨に賛同した熱意ある地域住民と学校代表（教員）でスタートした。主な活動は、サタ☆スタ未来塾と土曜体験活動の企画・運営である。サタ☆スタ未来塾は学力補充を、そして土曜体験活動は生活体験不足を補ったり、地域の特色を学んだりすることを主目的とし、いずれも地域の人材と教育資源を活かした自主的主体的な取組をしている。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①教員と地域住民の連携協働活動『サタ☆スタ未来塾』（長期休業中に実施）
 - ・未来塾の主旨から指導方法、教材等にいたるまで基本方針について学校との共通理解を重視。
 - ・教員と地域住民が同じ立ち位置でひとつの学習支援員チームとなり、協力して参加児童を指導。
- ②参加者みんなが感動と成就感を共有できる『土曜体験活動』
 - ・「天満神社探検隊」…郷土の文化遺産を学ぶ活動。参加者は探検隊となって秘密を発見していくという楽しさ重視のストーリー。
 - ・「ちびっこ家具づくり」…体験不足を補う活動。参加者全員が木作品を仕上げられるよう、てんまっ子応援団の入念な下準備。

【実施に当たっての工夫】

- ①子供も大人も共に楽しみながら学ぶ…大人と子供が単に支援する、されるの関係ではなく、スタッフ（てんまっ子応援団）自身も楽しいと感じながら参加できることを基本と考えている。土曜体験活動では子供と大人、どちらにも興味がわく内容となるようメンバーで熟議を重ねている。
- ②人と人のつながりを大切にしている…てんまっ子応援団では、地域学校協働活動の企画とともに協力者を発掘することも大きな役割となっている。ボランティアや指導者等の人材探しは原則公募にたよらず、人のネットワークにより身近なところから徐々に範囲を広げていき、人伝で活動に適した知識、技能や経験をもつ潜在的な人材にたどり着くこともよくある。参加した子供と大人が新たな人間関係を生み出し、地域の人と人のつながりを一層ひろげている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

サタ☆スタ未来塾後のアンケート結果によると、子供、保護者とも「満足度」は、ほぼ100%であった。特に学習に苦手意識を抱いている子供からは「分からないところなどを分かりやすく教えてもらった」、保護者からは「自主的に勉強する姿勢が見られるようになった」等の声が聞かれた。学校では個別指導の時間がとれないなかで、地域住民3名と教員1名がチームとなった学習支援活動が成果をあげている。また土曜体験活動後の感想では、「楽しく学べた」「また参加したい」という声が多い。そのほか、てんまっ子応援団への感謝の言葉が子供からも保護者からも多数寄せられた。学力と体験の両面において、地域の多様な大人がかかわることで子供たちには多くの学びがあり、心の成長が感じられた。

●その他

『サタ☆スタ未来塾』：長期休業中に実施。めいめいが宿題を持って集まってくる。午前中1時間30分があつという間に過ぎる。『土曜体験活動』：てんまっ子応援団と協力者が自らも楽しみながら、ひと手間かけてニコニコ、ワクワク体験プログラムに仕立てる。



サタ☆スタ未来塾に参加する子供が多い。自分の意思で参加する子供が多い。



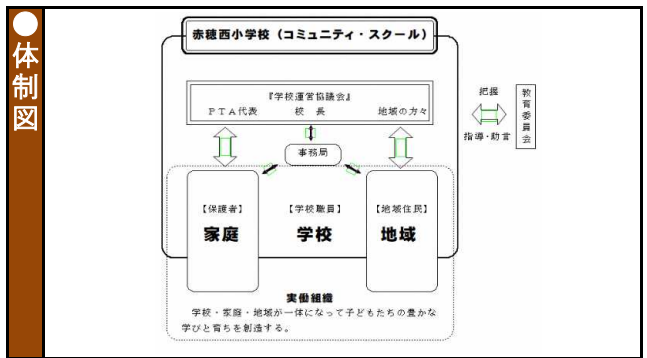
土曜体験活動「天満神社探検隊」に挑戦。天満神社探検隊。

「地域に愛され、地域と共に創る学校」をめざして

兵庫県赤穂市	●活動名	●関係する学校名
	赤穂西小学校コミュニティ・スクール	赤穂市立赤穂西小学校

協働活動開始年度	平成 25 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	6 学級	のべ児童・生徒数	69 人
活動区分	学校支援活動		—		—		
	—		放課後子供教室		土曜日の教育活動		
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		
	1人		—		14人		
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無	
	平成25年4月1日指定		—	328人	—	—	
参考URL	http://www.ako-hyg.ed.jp/~akonishi-e/2018album/albumtop.html						

●連絡先	赤穂市立赤穂西小学校	☎ 0791-45-0538
------	------------	----------------



●活動の概要・経緯

本校は、赤穂市コミュニティ・スクールとして6年目を迎える。「地域に愛され、地域と共に創る学校」のテーマのもと、「学びのコミュニティ」「心を育むコミュニティ」「安心・安全のコミュニティ」を3本柱として、学校・保護者・地域が一体となった学校運営を進めている。

約2ヶ月に1度開催する学校運営協議会では、教育活動の報告や行事の改善点、反省点などについて話し合いが行われている。そこでは、真に学校のこと、子供のこと、地域のことを考えた建設的な意見が出され、年々充実したコミュニティ・スクール活動に成長してきている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

【学びのコミュニティ】地域の方々から現地や教室で教えていただき、学校単独ではできない深まりのある学習やきめ細い学習に取り組んでいる。例：生活科での夏野菜植え、総合的な学習での地産地消・田植え・稲刈り・収穫祭など各学年がより深まりのある充実した学習に取り組んでいる。

【心を育むコミュニティ】体験活動や交流活動を通して人とのふれあいを大切にし、人を思いやる心や美しい環境を守っていこうとする心を育む活動に取り組んでいる。例：全校児童が参加する地域の方々とのグラウンドゴルフ大会、児童と高齢者大学との合同講座(交通安全教室、交流給食)、地区連合運動会など様々な活動を通して、心豊かな児童を育成している。

【安心安全のコミュニティ】地域をあげて『三歩一声運動』を実施している。三歩一声運動とは、玄関から三歩出て、登下校時・放課後に子供を見送ったり出迎えたりして、子供たちに「おはよう」「おかえり」の声をかけることで安全を確認するもので、地区全体で子供を見守り育てている。

【実施に当たっての工夫】

○約2ヶ月に1度開催する学校運営協議会では、教育活動の報告や行事の改善点、反省点などについて話し合いを行い、様々な活動や行事がよりよいものになるようにしている。

○年度末には学校関係者評価を行い、小さな意見ほど大切に作るスタンスで、これまでの取組の振り返りを行い、次年度へつなげている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

地域の方々の意識が高く、「おらが村の学校」づくりを目指して、積極的に取り組んでおり、学校との良い関係が築けている。児童は地域の方々や高齢者の方々と活動を通して、地域や高齢者の方を思う心が育ち、地域の方々も児童を覚え、児童の見守りにつながっている。保護者も地域の行事や学校行事に積極的に参加している。このように、学校・保護者・地域が三位一体となって子供を育てる形が充実してきているところである。

● その他

「心を育むコミュニティ」の活動では、ふれあいグラウンドゴルフ、交流給食の他に、高齢者大学との合同講座やキャップハンディ体験など、地域の高齢者の方々と活動が多くあり、人への優しい接し方や人を思いやる気持ちが育つように取り組んでいる。



高齢者大学の方々と交流給食を大変喜ばれた。楽しい給食を大変喜ばれた。楽しい給食を大変喜ばれた。



ふれあいグラウンドゴルフ大会が楽しかった。時間を過ごしてもらいたいが、大人も楽しんでいる。

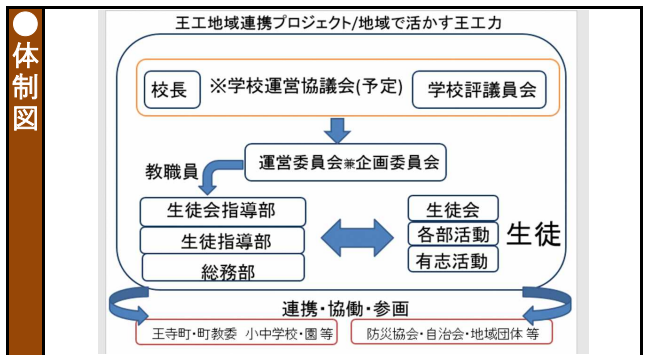
こんな活動です

「王寺工業で学ぶことが地域貢献」と生徒が実感 — 自分たちの強みを活かした地域との協働 —

奈良県王寺町	●活動名 地域で活かす「王工力」	●関係する学校名 奈良県立王寺工業高等学校
--------	---------------------	--------------------------

協働活動開始年度	平成22年度	関係学校数	1校	のべ学級数	18学級	のべ児童・生徒数	648人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習		地域人材育成			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		1人	
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数		延べ登録人数	3人	企業・NPO等との連携	有
参考URL	http://www.nps.ed.jp/oji-ths/						

●連絡先	奈良県立王寺工業高等学校	☎ 0745-72-4081
------	--------------	----------------



●活動の概要・経緯
本校は町内唯一の県立高校として地域の期待が大きく、積極的に地域との協働に取り組んでいる。平成28年度に町との連携協定を締結し、危機管理や社会福祉等行政各部とも協働し取組を進めている。工業高校の特性を活かし、地域の小学生を対象に「夏休み工作教室」を実施、町管理の展望台に「悠久の鐘」を鑄造作成し公園づくりに参画、地域自治防災協会と協働した「防災カマド」の設置、町の環境整備活動への生徒の参加、様々な部活動による地域貢献活動など、学校各部署あげて地域活動を展開し、周辺地域との関係を密にしている。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 地域代表・町教育機関・警察署長・駅長・地元企業などが学校評議員を務めていることから、多彩な地域協働活動への提言をいただき協働している。
- 地域の小学生対象に「夏休み工作教室」を実施。生徒が参加児童を指導する。
- 吹奏楽部は「学校による地域支援」として町内小学生との合同コンサートや町内中学校吹奏楽部への練習指導等を行うだけでなく、近隣保育園・福祉施設・自治会等を訪問し、演奏を行っている。
- 地元の防災協会と共同企画し、「防災カマド」を作成。地域住民とともに公園等に設置している。
- 町との連携協定に基づき、行政各課と連携し町の展望台に「悠久の鐘」を作成し公園作りに参画した。
- 交通事故防止啓発の「飛出し坊や」を製作した。また町の「あいさつ+1運動」の一翼を担っている。

【実施に当たっての工夫】

- 学校評議員会において評議員より、工業科の特性を生かした地域協働活動への提言をいただき、活動の実施に向けて町教委や行政機関と共に企画する機会が多くある。
- あいさつ実践運動等、地域から生徒の日常生活態度等に高い評価をうけ、好意的に接していただいている。
- 地域の要望を直接学校教育諸活動につなげることで、より効果的な学習効果を得ることができている。
- 様々な取組が町や自治会の広報に取り上げられることで、生徒の自己有用感が高揚し、学校が活性化している。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 様々な部活動等による強みを活かした地域貢献活動
 - ・写真部と地域写真クラブによる合同写真展
 - ・機械科生徒によるミニ鉄道体験
 - ・放送部による地域イベントの音響係ボランティア など
- 生徒は自分たちが取り組んでいる内容を用いた地域活動を行うことができ、自己有用感を高めている。
- 地域から本校生徒の熱心な活動に対し高い評価をうけており、学校の教育諸活動に対する地域の関心が高い。

●その他

- 地域から「生徒と地域が顔の見える関係を築くことができおり、地域の安心・安全の確保につながっている」という声をいただいている。



防災カマド作戦



「王寺南小学校
地域連携ものづくり教室」

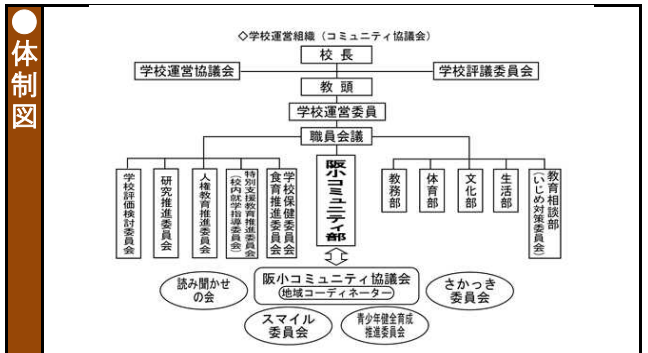
こんな活動です

夢をもち ふるさを愛し 心豊かにたくましく生き抜く 児童の育成を目指して

奈良県五條市	●活動名	●関係する学校名
	阪合部小学校コミュニティ協議会	五條市立阪合部小学校

協働活動開始年度	平成 25 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	6 学級	のべ児童・生徒数	64 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成	—			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 8人	—			
学校運営協議会	指定・設置日 平成28年4月1日設置	ボランティアの数	延べ登録人数 17人	企業・NPO等との連携	無		
参考URL	http://www.gojo-nar.ed.jp/sakasho						

●連絡先	五條市教育委員会事務局 生涯学習課	☎ 0747-22-4001
------	-------------------	----------------



●活動の概要・経緯

本校は「地域学校協働活動」事業に取り組む以前より、地域の方々の協力により田植え体験や見守り活動等が行われていた。さらに本校の行事の多くは地域の行事と一体となっており、保護者だけでなく多くの地域住民の参加している。それが児童数の減少により、学校行事だけでなく地域の行事も中止や縮小せざるを得ない危機に直面したが、学校と地域が一体となって取組を存続させることができた。

その後、コミュニティ・スクールへの取組を進めていくにあたり、それまでの活動の世話役に「地域コーディネーター」として学校の運営に参画してもらい、学校と地域の協働をすすめ、学校運営協議会の充実深化を図っている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①「ヒメタイコウチを守る会」によるヒメタイコウチの保護と飼育・・・郷土の保護生物であるヒメタイコウチの孵化と飼育を経て、ピオトープにおける放虫までの支援
- ②「念仏寺陀々堂鬼はしり保存会」による「子ども鬼はしり」の指導・・・郷土学習の一つとして、国の重要無形民俗文化財に指定された「陀々堂の鬼はしり」の指導を通じた地域の伝統文化の後継者の育成
- ③稲作づくり・・・地域課題解決学習において田植えから稲刈りまで、地域の「相谷いきいきクラブ」の協力を得て児童に体験
- ④読み聞かせ・・・放課後の活動として本校地域を中心に活動しているグループにより定期的実施
- ⑤クラブ指導・・・放課後活動している金管クラブの指導ボランティア

【実施に当たっての工夫】

それぞれの活動には「いきいきクラブ」や「保存会」「守る会」など、地域の様々なコミュニティが各々の内容で、学校活動に参加してもらっていた。しかし、それぞれに共通する人材が参加していたり、互いの知人や友人が参加していたりしていた。そこで、各団体・コミュニティ同士の横関係を学校が繋げることで、コミュニティ・スクールとして地域全体と連携・協働できるよう取り組んでいる。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

児童数が減少してきた時期から、学校行事が小さくなっていくと同時に、学校活動が地域では見えにくくなってきていた。そのようなとき、この事業を通して自治会長に学校通信を届け地域に回覧してもらうなどの活動を実施することで、学校への興味も高まってきた。

そのような中、本校が「中遺跡」の跡地にあることから、ふるさと学習において竪穴式住居の復元を目指した。竪穴式住居の茅葺き屋根は、「陀々堂」の茅葺き屋根用の茅を利用させてもらい、地域の全面的な協力を得てグラウンド内に完成した。この復元遺跡が校内にあることが本校の特徴となっておりと同時に、子供たちの知的好奇心の醸成につながっている。

● その他

更生保護女性会の協力を得て、毎年ひまわりや多くの花を校内に植えている。また、水泳指導や金管クラブ指導としてボランティアの協力を得ると同時に、地域の高校生にも指導を補助してもらうことなどがある。



「国の重要無形民俗文化財「鬼はしり」前の子ども鬼はしり」



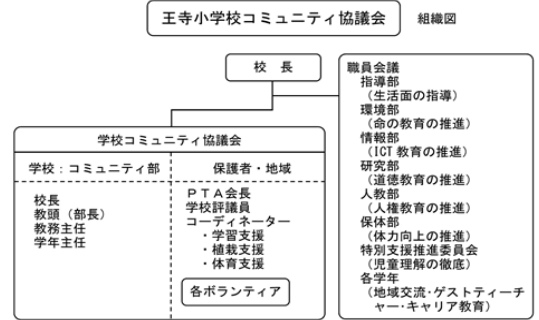
「相谷いきいきクラブ」の協力を得て田植え体験

こんな活動です

明日を担う王寺っ子を地域で育む ～学校・家庭・地域とのパートナーシップの強化を推進～

奈良県王寺町		●活動名 王寺小学校コミュニティ協議会				●関係する学校名 王寺町立王寺小学校			
協働活動開始年度	平成 24 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	20 学級	のべ児童・生徒数	506 人		
活動区分	学校支援活動	—		—		—			
	地域未来塾	放課後子供教室		—		—			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数				
	—		—		3人				
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無			
	平成34年4月1日設置予定		—	130人	—	—			
参考URL	http://oji-syo.sakura.ne.jp								
●連絡先	王寺町教育委員会 生涯学習課			☎ 0745-72-1031					

体制図



●活動の概要・経緯

本校は以前から環境・栽培学習に取り組んでおり、過去に「全国花いっぱいコンクール」総務大臣賞など、数々の賞を受賞してきた。これらの取組から、「『一人一鉢』で花づくり」、学年園では「野菜作り」を栽培ボランティアの方々にお手伝いいただき、「食」の分野にも拡大した栽培活動を今も継続し、さらに「命」の教育につなげている。その他、体育支援・学習支援・放課後子ども教室へとボランティアの方々による支援が広がり、様々な場面で学校と地域の交流がすすんでいる。

「王寺町教育振興ビジョン」において、「『和(やわらぎ)』地域とのふれあいを推進する」という基本方針の下、「よく考える子 ささえ合う子 たくましい子 やりぬく子 元気にあいさつのできる子」を協議会における目標として掲げ、学校、家庭、地域が連携を深め、地域と共にある学校づくりを推進し、日常的に世代を超えた多くの人たちとのふれあい、地域と共に豊かな心を育むことを狙いとしている。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

〔学校支援活動〕

- ①栽培活動:「一人一鉢」で花づくり、学年園で野菜づくりをすることを通した命の学習。
- ②体育支援活動:「たくましい心身」の育成を目指した、水泳、運動会の練習、マラソン大会などの、多様な支援をいただいた。
- ③学習支援活動:読み聞かせ、九九暗誦、実技教科での技術面サポートや、グループ、個別指導。

〔放課後子ども教室〕

サタデースポーツでは、本校の運動場・プール等を利用し、様々な球技や水泳大会、地域中学生指導による陸上競技、地域の方々やランドゴルフの交流等、様々な種目のスポーツを実施。

〔地域未来塾〕「王寺小学校寺子屋塾」

週3日の放課後2時間、地域の方々との支援をいただいて、宿題や教材プリントを使用しての学習支援を実施。

【実施に当たっての工夫】

年間3回の学校コミュニティ協議会を年間計画に位置づけ、教職員とコーディネーターとの連携を深めている。支援に関しては、PTA総会において保護者ボランティアの活動報告とボランティアの募集を行い、さらに、学年便り、学校便りだけでなく、校内をはじめ王寺町教育委員会や地域の郵便局等の掲示板を利用し、活動内容を地域の方々へ提示している。また、1ヶ月毎のボランティア依頼表を作成し、学校教育活動や授業における要望を示すことで、支援に向けた計画的な準備を行っている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

教職員は学習計画案を事前に立て、コーディネーターとの連携を綿密に行っている。教職員が希望する内容のボランティアを、コーディネーターが保護者ボランティアに連絡をとり、活動へと結びつけることで、各授業において多くの保護者ボランティアが支援してくださっている。それによって、多様な学習内容を計画することができるようになり、また、体育科の運動領域や家庭科における学習支援のおかげで、児童は、安全面において安心して授業に取り組むことができている。

保護者ボランティアは、毎年多くの方々の応募があり、児童にとって様々な関わりをもっている。さらに、保護者・地域の方々も、学習支援を通して保護者間のつながりが生まれ、保護者同士・地域住民同士の連携も強化されている。

●その他

寺子屋塾は、王寺町教育委員会が主体となって、学校を通じて参加者を募って運営している。地域の経験豊富な人材を活用し、小学4年生～6年生を対象に、火・木・金の放課後2時間、宿題や教材プリントを使用して、個人のペースに合わせた学習支援を行っている。



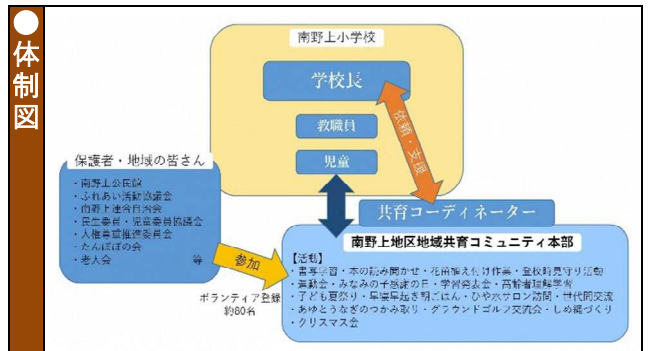
「一人一鉢」学校支援活動(栽培支援活動)



「放課後子ども教室」サタデースポーツ

和歌山県海南市	●活動名	●関係する学校名
	南野上地区地域共育コミュニティ本部	海南市立南野上小学校

協働活動開始年度	平成 23 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	4 学級	のべ児童・生徒数	18 人
活動区分	学校支援活動	—		—		—	
	地域未来塾	—		—		—	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数			
	1人	1人		1人			
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
	平成30年4月1日設置	80人					
参考URL	—						



●連絡先	海南市教育委員会 生涯学習課	☎ 073-492-3349
------	----------------	----------------

●活動の概要・経緯

和歌山県で提唱されている「きのくに共育コミュニティ」構想のもと、「子供も大人も共に育ち、育て合う関係づくり」を目指し、平成23年度から学校・家庭・地域が連携し、南野上地区での活動が開始された。地域共育コミュニティ事業の推進にあたっては、地域と学校の願いを調整する「共育コーディネーター」を配置し、学校との連絡調整、地域へのはたらきかけ等を実施している。普段の活動は、コーディネーターを中心に、学校職員やボランティアを含め運営されており、ボランティアには地域の方々(約80名程度の登録)が、実施される活動によって、得意な分野を生かしながら参加していただいている。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①「南野上わくわくルーム」:南野上小学校と南野上公民館が隣接している条件を生かし、毎週水曜日の放課後に南野上公民館会議室を主な会場として実施。日々の宿題等の学習や踊りの稽古、小学校運動場を利用して皆で遊ぶなどの活動を行っている。
- ②「早寝・早起き・朝ごはん運動」:夏休みに、午前7時からラジオ体操と地域に古くから伝わる無形文化財の踊り(亀の川念仏踊り)を地域の方から教わるなどして汗を流し、その後、地域の女性会などの協力により調理された朝ごはんを公民館内で地域の方と一緒に食べるという活動を行っている。
- ③通学の見守り:約2kmの距離を毎朝子供たちと一緒に小学校まで歩いて安全確保に努めている。
- ④学校行事への協力:小学校の秋の運動会にも、地域の各種ボランティア団体が参加して、児童数が少ない小学校の運動会を地域全体で盛り上げていく。

【実施にあたっての工夫】

活動には、地域の方々がボランティアとして、数名から多い時には数十名が参加してくれている。もちろん学校職員の参加もあるが、子供たちと地域の方々がかわることで、学校でも家庭でもない雰囲気の中、楽しく活動することを心掛けている。地域の伝統的な踊りを子供たちに伝えることにも取り組み、伝えるだけでなく、夏祭り等の場で発表の機会も設け、子供たちの意欲向上にもつなげる。また、「早寝・早起き・朝ごはん運動」については、長期休業中の子供たちの生活リズムを整えるため、夏休み期間中に開催するなどの工夫もしている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

活動を通じて、多くの地域の方々がボランティアとして参加いただき、今まで以上に学校教育諸活動や地域の子供たちの育成に関心を持ってもらえるようになってきた。活動に参加することによって、地域の中でも、挨拶や声掛けなどができる関係づくりも進んでいる。また、そういった関係を築くことにより、安全・安心の確保にもつながっている。子供たちは、地域の方々と一緒に活動することを楽しみにしており、地域の方々を招いての感謝イベント等様々な行事において、地域の方々に対する感謝の気持ちが芽生えていると感じることができる。

●その他

同じ中学校区に属する地区と合同で通学合宿を開催。もらい湯、調理などの活動に地域の方々も多く参画し、子供たち同士だけではなく、地域の方々との交流を深め、将来中学校に入学した際のギャップ軽減にも役立っている。



子供たちと一緒に通学

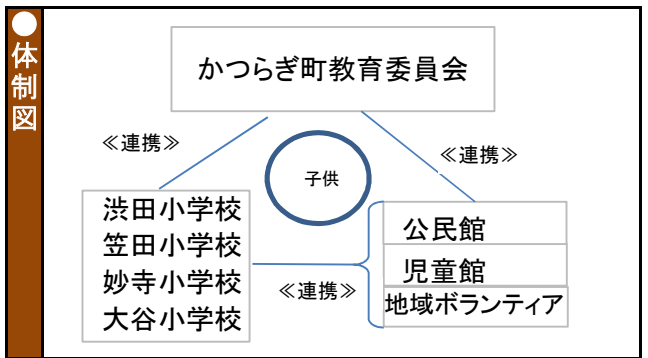


地域の方から無形文化財の踊り(亀の川念仏踊り)を教わる

和歌山県かつらぎ町	●活動名 かつらぎ町地域学校協働活動	●関係する学校名 かつらぎ町立笠田小学校 かつらぎ町立妙寺小学校 かつらぎ町立浜田小学校 かつらぎ町立大谷小学校
-----------	-----------------------	--

協働活動開始年度	平成 16 年度	関係学校数	4 校	のべ学級数	42 学級	のべ児童・生徒数	698 人
活動区分	—	—	—	—	—	—	—
	地域未来塾	放課後子供教室					
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人				
学校運営協議会	指定・設置日 平成30年4月27日設置	ボランティアの数	延べ登録人数 135人	企業・NPO等との連携	無		
参考URL	http://www.town.katsuragi.wakayama.jp						

●連絡先	かつらぎ町教育委員会	☎ 0736-22-0303
------	------------	----------------



●活動の概要・経緯

生涯学習課がコーディネーター役をし、学校と地域・関係団体をつないで活動している。学校と地域・関係団体は、子供の成長にきめ細やかなサポートができるよう、4小学校の担当教員、生涯学習課担当職員、地域の方と小学校単位で協議を行い、連携をしている。

- ・放課後子ども教室では、7児童館で季節感のある催しや地域と共に活動できる催しを計画している。また、4公民館では4小学校を対象に「通学合宿」を行っている。
- ・子供の居場所づくりでは、地域の施設を利用して教員OBや地域の方を指導者に、「ふれあい塾」「わくわく塾」を開催し、学校での学習をサポートしたり、机上では学べない体験活動にも取り組んでいる。学校、地域、家庭、行政が互いに知恵を出し合い、よりよい学校、地域づくりをめざしている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①通学合宿：2泊3日で地域の方の協力を得ながら自分たちで生活する。学校や地域の団体、公民館とも連携している。
- ②児童館活動：各児童館での季節に合わせた催しについては、計画、実施、振り返りの活動を通して、内容に工夫を凝らしている。また、児童の安全安心できる居場所づくりに向けては、研修をしたり、学校との懇談会をしたりしている。育成協会とも連携を取り、子供の健全育成に向けて地域の催しに参加している。
- ③「ふれあい塾」「わくわく塾」：4小学校を対象に地域の施設を利用し行っている。指導員、学校、地域、家庭、関係職員が連携し、子供を核として周りの大人を巻き込み、いろいろな角度から子供をサポートできるように努めている。

【実施にあたっての工夫】

生涯学習課が中心になり、コーディネーター役を担うことで、多様な人材や活動団体・グループを、諸活動につなげることができるとともに、より効果的な事業を仕組むことができる。学校、公民館、児童館、それぞれに関わりのある団体・グループ、個人をつなぐことで、多様な活動の選択が可能となっている。依頼文や案内などは生涯学習課職員が作成、発送することで、各関係者の負担軽減にもなっている。

「地域総がかりで子どもを育てる」という活動がより効果的に行えるように、活動内容や意図を各広報だよりで取り上げ、地域住民への啓発に努めている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ・通学合宿ではあたりまえに過ごしていた日常は、家族や地域の方の支えがあつてのことであると感じられるよい機会となっており、実施後、家の手伝いをしたり、地域の方に挨拶したりする姿がみられた。
- ・児童館では異年齢交流や地域住民との交流をとおり季節感を感じることができたり、コミュニケーションの取り方を自然に学んだりできている。
- ・子供の居場所づくりでは「自分はできるんだ。」というような思いがもてるよう学習支援を中心に行う他、簡単な英会話や地図パズル等を行ったりしている。また、地域の方との学習を通じて子供たちは感謝の気持ちを持ち、地域の方は、「このような催しを手伝うことができて嬉しい。」と言ってくれた。

● その他

3児童館合同で「児童館フェスタ」を行った。段ボール迷路は地域の方の協力のもと完成し子供たちは存分に楽しんでいた。子供の居場所づくりは、毎週水曜日に教員OBや地域の方が「ふれあい塾」「わくわく塾」を開催している。学習支援を中心に行い、時にはふれあい活動も行っている。



に児童館フェスタ（3館合同）における段ボール迷路



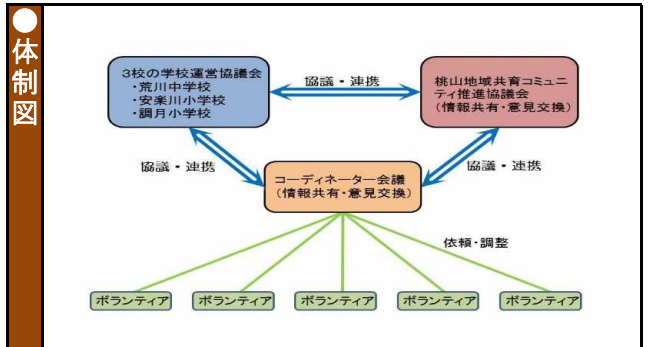
の「ふれあい塾」での学習支援の様子

こんな活動です

「いってよかった 来てもらってよかった」をモットーに ～学校とボランティアが共に喜びを感じる活動～

和歌山県紀の川市	●活動名	●関係する学校名
	桃山地域共育コミュニティ推進協議会	紀の川市立荒川中学校 紀の川市立安楽川小学校 紀の川市立調月小学校

協働活動開始年度	平成 20 年度	関係学校数	3 校	のべ学級数	23 学級	のべ児童・生徒数	516 人
活動区分	学校支援活動		—			地域人材育成	—
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数				配置人数	
	1人					4人	
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携		無	
	平成29年5月17日設置		389人				
参考URL	—						



●連絡先	紀の川市教育委員会 生涯学習課	☎ 0736-79-3907
------	-----------------	----------------

●活動の概要・経緯

学校を支援する目的で、その希望に沿った内容のボランティア活動をしている。公民館がコーディネーターの役割を果たし、学校とボランティアの調整をしている。ボランティア同士の交流を持つための交流会を開催することにより人のつながりが広がっている。また、学校運営協議会とも情報共有し連携している。平成20年度からはじめた共育コミュニティ事業は、ボランティアが行ってよかった、学校が来てもらってよかったと喜びを感じることをモットーにWINWINの関係で息の長い活動となっている。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①人材育成：職場体験において、地元の特産である桃の袋がけの体験活動をする前に、地元の農家の方にブランドを維持するための苦勞や農家としての喜びを話してもらい、郷土を愛する心を育てている。
- ②防災訓練：平成20年度から避難訓練の際に、地元の和歌山大学や消防署と連携して、地域と学校が共に防災訓練を行っている。その後、共育ミニ集会を開くことで、学校関係者、保護者、地域住民が身近の防災を考える場となっている。
- ③協議会の開催：子供たちを学校・家庭・地域で育てる為に必要な情報共有・意見交換を図っていく場として年間2回開催している。
- ④学校支援活動：学校の地域連携担当教員とコーディネーターが連携して、年間計画をもとにミシンやそろばんの補助等を行っている。

【実施に当たっての工夫】

公民館に統括コーディネーターを置くことで、学校との連絡が早くスムーズに行えるようになる。また公民館が、各種団体とつながっているため協力への依頼がしやすくなっている。統括コーディネーターと学校コーディネーターが密に連携を取り合うことで情報共有が図れ、活動の幅が広がっている。年2回の協議会を開くことで、学校運営協議会・ボランティア・PTAの間で情報の共有を図り意見交換を通じてボランティア・PTAの考えや意見を学校に届けようになっている。また、交流会ではグランドゴルフを通じ、ボランティア、地元住民や保護者が集まり、話をする場となり、自然とつながりが生まれてきている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

地域の各種団体がボランティアとして登録し活動をしている。また団体のメンバーは個人として引き続きボランティアへ参加してくれている。学校での活動が生きがいとなりボランティア自らが更なる学びを続け、良いものを提供できるよう努力をしている。多くの知識や経験が子供のために生かされることで喜びを感じている。

保護者として支援されていた人が、活動を通してボランティアと交流することで、その必要性に気づき支援する側になってくれた。また、ボランティアの中からリーダーが生まれ、コーディネーターとしても活躍してくれている。

学校運営協議会にコーディネーターが参画することで、学校と共育コミュニティ推進協議会が目標やビジョンを共有した取組になっている。

●その他

学校支援としてミシンの学習支援などの事業補助をはじめ、ボランティア自らが戦争体験を子供に伝えていかなければと申し出、学校が受け入れるなど、学校と地域との関係は良好であり、潤滑油となる公民館やコーディネーターの役割が重要となる。



域73
のグ
年生
方ル
とー
一社
ブ会
緒に
分科
にの
訪か
問れ
、探
9検
名の
様地
子



月2回、低学年、高学年に分かれ、朝の学習時間に読みかせ（のべ80名の地域の方々）

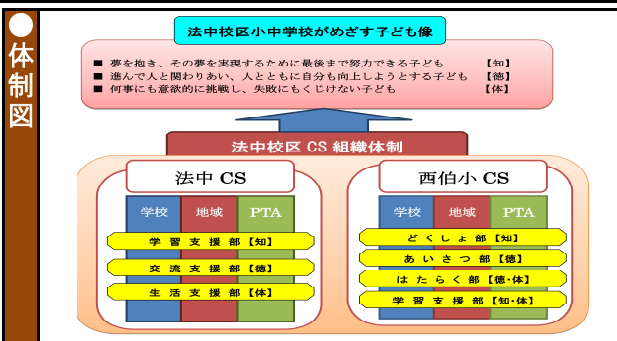
こんな活動です

西伯小学校地域学校協働本部は、学校とパートナーとなって活動しています！

鳥取県南部町	●活動名 西伯小学校地域学校協働本部	●関係する学校名 南部町立西伯小学校
--------	-----------------------	-----------------------

協働活動開始年度	平成 27 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	15 学級	のべ児童・生徒数	344 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	—				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
参考URL	http://cmsweb2.torikyo.ed.jp/saihaku-e/						

●連絡先	南部町教育委員会 総務・学校教育課	☎ 0859-64-3787
------	-------------------	----------------



●活動の概要・経緯

西伯小学校地域学校協働本部(以降「本部」という)は、「はたらく部」「どくしょ部」「あいさつ部」「学習支援部」の4つの部を組織し、「笑顔！元気！一人ひとりがつながる西伯の子～あったかい地域・あったかい家庭・あったかい学校～」をスローガンに地域学校協働活動を続けている。

平成29年度より法勝寺中学校の本部と連携して「法勝寺中学校区地域学校協働本部(学校運営委員会)」を組織し、小中一貫教育の視点をもって地域学校協働活動を行っている。(当該校は法勝寺中学校区にあり、小学校は当該校1校である)

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

法勝寺中学校区学校運営委員会では、法勝寺中学校区の「CSグランドデザイン」及び「小中一貫グランドデザイン」をもとに「法中校区めざす子ども像の段階別系統表」(以降「段階別系統表」という)を作成し、各学年のねらいを明確にした。本部は、そのねらいを達成するよう地域学校協働活動を進めている。

また、本部の委員(地域代表)・児童生徒・保護者・教職員の4者による「段階別系統表」にそった評価項目によるアンケートを実施し、活動の見直しや重点化を重ねている。

【実施に当たっての工夫】

授業補助では、事前・事後に、地域コーディネーターが中心となってミニミーティングを行っている。事前のミーティングでは、地域コーディネーターが学習のねらいや具体的なめざす子供の姿など授業者の思いをボランティアに伝えている。事後のミーティングでは、それらの実現状況や改善点を出し合い、地域コーディネーターが授業者に伝えている。授業補助以外の活動においても、「段階別系統表」を意識した活動と評価を行い、次の取組につなげている。

本部の委員全員が4つの部それぞれの運営に関わる形態(分担ではない)をとることにより、本部の委員やボランティアが、協働活動に主体的に取り組んでいる。

PTA役員代表、地域振興協議会代表が本部の委員の一員となり、ボランティアとの円滑な調整・分担、ねらいの共有化を図っている。また、活動を安全にかかわることに焦点化することで、活動の必要感が高まり、幅広い地域住民の参画を得ている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

○地域学校協働活動の質の向上

・つけたい力を明確にした活動をPDCAサイクルを回しながら行うことで児童の学びが充実している。また、協働活動を通じて、学校や本部に次の取組を提案するなど、主体的な活動が展開されている。

○地域住民の願いがこめられた教育活動の実現

・「まち未来科」(南部町独自のふるさと学習)の実践に大きく貢献し、「まち未来科」で育みたい4つの力(ふるさと愛着力・社会参画力・将来設計力・人間関係調整力)の育成に、学校とともに取り組んでいる。

○授業改善と教職員の指導力向上(人材育成)

・地域との協働的な活動は、教職員の授業改善の意欲と指導力の向上につながっている。

●その他



三年生算数科における授業補助「そろばん」



児童・地域住民による「ひきわたし」職員協働による「ひきわたし」

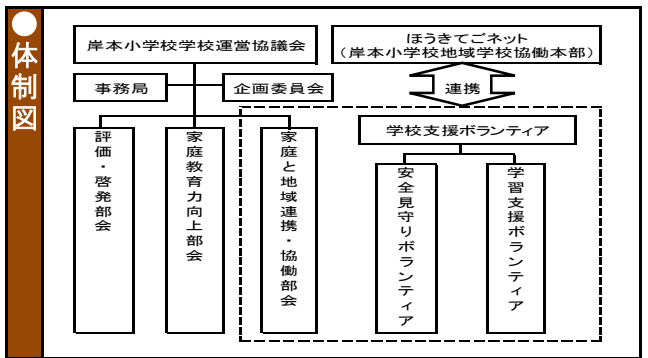
こんな活動です

ふるさとを愛する心を育て、人と人の心をつなぐ「ほうきてごネット」

鳥取県伯耆町	●活動名	●関係する学校名
	ほうきてごネット（岸本小学校）	伯耆町立岸本小学校

協働活動開始年度	平成 23 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	16 学級	のべ児童・生徒数	314 人
活動区分	学校支援活動	—		—		—	
	—	放課後子供教室		—		—	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		
	1人		—		1人		
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無	
	平成23年4月1日設置		—	323人	—	—	
参考URL	http://www.torikyo.ed.jp/kisimoto-e/						

●連絡先	伯耆町教育委員会事務局 生涯学習室	☎ 0859-62-0712
------	-------------------	----------------



●活動の概要・経緯

平成17年より岸本小教育活性化委員会を立ち上げ、地域の方との意見交換や学校安全ボランティアを募集するなどして学校支援者を拡大し、学校支援ボランティア活動にも広がる。平成21年に伯耆町学校支援地域本部を設置することで、地域住民にとり学校がより近い存在となる。岸本小学校では、平成23年から学校運営協議会を設置し、協議会委員・学校支援コーディネーターが核となり、学校支援者自らが責任を持ち積極的に子供の教育に携わる体制を整えてきた。近年では、学校運営協議会の部会構成を改編し、従来の「地域部会」と「学校支援部会」を統合して、「学校と地域連携・協働部会」を含めた3部会を立ち上げ、地域学校協働本部と学校運営協議会の機能的な連携が図られている。学校と地域が連携して熟議を重ね、1年間を通した学校評価スケジュールに基づいたPDCAサイクルで活動を進めることで、「めざす子どもの姿」に向けた取組につながっている。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 学習支援活動…読み聞かせや、5年生で地域の水田の代かき・田植えから脱穀までの米作り、1、2年生の野菜作りの畝づくりから収穫まで、3年生でのホタルやサケの育成活動など教科や総合的な学習「伯耆(アイ)学習」の支援。学校行事では全校遠足、スキー教室の補助や指導、運動会での岸本音頭の練習指導。
- 児童の地域交流…地区の運動会や総合作品展、世代間交流会での餅つき等、地域と子ども会が連携して活動する場の設定。
- 創立50周年記念事業…ふるさとを愛する心を育むため学校・PTA・学校運営協議会の三者が協働して事業を計画し、実施。
- 地域学習…学校運営協議会委員・学校支援ボランティア・全教職員で学習内容や方法、地域素材の発掘等を熟議し、社会に開かれた教育課程となるよう年間指導計画の見直しに反映。

【実施に当たっての工夫】

- 町内各小中学校に学校支援コーディネーターが1名ずつ配置され、週3日勤務し担当教員との連携を図っている。また、統括コーディネーターが各学校支援コーディネーター間の連絡調整を行い、月例の定例会では互いの情報交換と活動の改善を図っている。
- 学校にボランティアルームを設け、ボランティアとの打ち合わせ、反省会などができるようにしている。
- 学校支援コーディネーターは学校支援ボランティア活動年間計画を作成しており、これにより教師や地域にとっても活動の内容や時期が明確になり、計画的で充実した活動につながっている。計画の作成段階では学校のニーズに応えるためボランティア登録者だけでなく、多様な人材や活動団体につなげてより効果的な活動をめざしている。
- 学校運営協議会の中に企画委員会を設け、活動の総合的な推進や調整を行っている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ・地域の方は児童との交流の中で「子供の笑顔から、いっぱい元気をもらった。」と喜びややりがいを感じると共に、子供の姿がよくわかり学校への理解が高まって、学校と共に子供を育てていこうという気持ちが醸成されてきた。
- ・見守りによる子供たちの安心・安全の確保や、ラジオ体操・あいさつ運動の推進等、家庭や地域と協働した取組が進みつつある。
- ・児童にとって、地域の方と共に学習することに喜びを感じるだけでなく、地域からの励ましの声が児童の自信や学習意欲につながっており、地域への感謝の気持ちが生まれてきた。
- ・地域の人や物・事柄などを生かした授業を工夫することで、ふるさとへの理解と関心、愛着や誇りを感じる子供が増えてきた。

●その他

・放課後子供教室では、週1回一般社団法人のスポーツクラブ指導員による体力づくりを行っている。夏休みには、公民館や図書館、社会福祉協議会等が主催する地域とのふれあい活動や体験活動の事業が実施され、多くの小中学生が参加している。



避難訓練

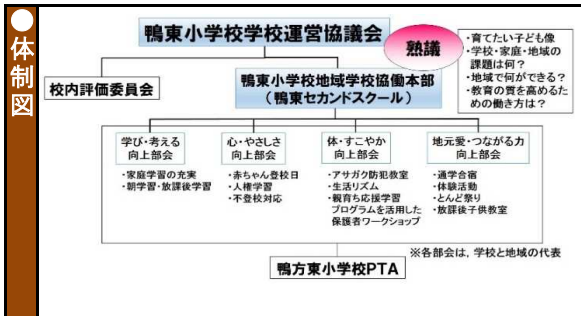


ホタルの学習（幼虫の放流）

こんな活動です

鴨方東小学校の魅力化を支援！ 自分が好き 地元が好き 鴨東っ子～つながりでつくるJIMOTOのカタチ～

岡山県浅口市		●活動名 浅口市立鴨方東小学校地域学校協働本部（鴨東セカンドスクール）		●関係する学校名 浅口市立鴨方東小学校	
協働活動開始年度	平成20年度	関係学校数	1校	のべ学級数	14学級
				のべ児童・生徒数	356人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	—	放課後子供教室	外部人材を活用した教育支援活動		
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		
	—		1人		
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有
	平成30年3月5日設置		514人		
参考URL	http://ns1.kamogatahigashi-e.ed.jp/				
●連絡先	浅口市教育委員会 生涯学習課		☎ 0865-44-7001		



●活動の概要・経緯

浅口市の学校支援地域本部事業導入に伴い、鴨方東小学校においても、地域連携担当と地域コーディネーターが学校と地域の窓口となり、学校支援活動を行ってきた。そして、学校・家庭・地域で「地域みんなで子どもの未来を考えるワークショップ」を実施し、この地域で育てたい子供の姿や三者の課題とビジョンを共有してきた。そのワークショップからできたテーマ「自分が好き 地元が好き 鴨東っ子～つながりでつくるJIMOTOのカタチ～」を目指して、平成30年3月に「コミュニティ・スクール」(学校運営協議会制度)を導入し、学校と保護者、地域がパートナーとなって、より一層連携協働して子供を育てている。

本校コミュニティ・スクールは、ワークショップで共有した三者の課題を類型化し、「学び・考える向上部会」「心・やさしさ向上部会」「体・すこやか向上部会」「地元愛・つながる力向上部会」を下部組織として位置づけ、学校と地域の代表者で構成し、課題解決へ向けた協議や情報共有を行っている。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 学習支援では、読み聞かせや放課後学習、家庭科の実習など地域のボランティアが支援に入っている。また、音楽や陸上の学習などでは、専門的な知識や技能をもつ地域人材がゲストティーチャーとして活動しており、児童の活動意欲が高まっている。さらに、総合的な学習の時間に幼稚園児と共に、田植え・脱穀体験を行うなど幼稚園との交流も深めている。
- 6年生の家庭科の学習の中で「赤ちゃん登校日」を実施している。地域の赤ちゃん(2ヶ月～)と母親6組に来てもらいふれ合うことで、家族への協力・感謝や地域の方との関わりについて考える貴重な機会となっている。
- 環境整備では、校内の生け花、草取り、体育館や校舎内のワックスがけ等のボランティアによる学校支援が幅広く行われている。
- 老人会の方を中心に登下校の見守りパトロールやPTAの方に「スクールガード」として休み時間に校内巡視・安全対応をし、児童の安全を維持する取組を実施している。また、「アサガク防犯教室」を開催し、老人会パトロールのメンバーが年4回来校し、1年生対象に地域での安全な過ごし方について指導し、効果を上げるとともに、互いに親しみをもって接することができるようになっている。
- 教育課程外では、「通学合宿(3泊4日)」「(年2回)」「みんなのおうち(こども食堂)」「(月1回)」「放課後子供教室」「親子体験活動教室」「とんど祭り」などを地域が中心となって実施している。さらに、夏休みに、教職員、保護者、地域住民などが集まって、「地域みんなで子どもの未来を考えるワークショップ」を行い、課題とビジョンを共有して、地域ぐるみで子供を育てる気運を高めたり、課題解決の方策について熟議をし、様々な意見を教育活動に反映している。

【実施に当たっての工夫】

- 教職員と家庭・地域の代表者が集い、「目指す子どもの姿」「三者の課題」について熟議を行うことで、学校に対する地域や家庭の理解が進み、学校・家庭・地域のそれぞれの役割が共有された結果、教育活動の充実や学校・家庭・地域の課題解決につながっている。
- 昨年度実施した働き方改革の取組をコミュニティ・スクールと一体化して行うことにより、民間の視点から学校を見直すことができ、働くことへの意識の違いを感じることができた。また、より生産的で創造的な場になるように職員室レイアウト改善を行った。この取組においても、教職員と保護者・地域の方々約50人が参加して、床の磨き上げ、配線、搬入作業などを協力して行い、職員室がすっきりと明るくなったほか、動線が確保され、コミュニケーションもとりやすく機能的になった。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 地域人材を生かした放課後学習や授業支援、通学合宿や赤ちゃん登校日等の多様な取組が、児童の規範意識や学習意欲の高まり、ボランティアの自己実現につながっている。
- PTA役員や地域住民で構成された「親育ち応援学習プログラム推進チーム」が新入生の保護者対象に参加体験型学習を実施し、保護者同士のつながりづくりに貢献している。
- ボランティアがアシスタントティーチャーやゲストティーチャーとして授業に参加することで、教師だけでは十分体験させられないこと(安全管理・個別指導・専門的な指導)を補っており、授業の効率化と質の向上の両面に効果がある。また、参加したボランティアから、活動に参加する充実感や子供たちとふれ合う喜びが得られるという前向きな感想が多く挙げられている。

●その他

- 教職員・PTA役員・地域住民による熟議。育てたい子供の姿や課題を共有し、ビジョン実現のためにアイデア出しをしている。
- 見守りパトロールの方が、1年生対象に年4回、朝学習の時間に防犯教室を実施している。



地域みんなで子供の未来を考



アサガク防犯教室(1年生)

地域と共に創る学校，将来の“ふるさと”を担う人材の育成

広島県北広島町	●活動名	●関係する学校名
	ともに豊平っ子を育てる会	北広島町立豊平小学校 北広島町立豊平中学校

協働活動開始年度	平成 26 年度	関係学校数	2 校	のべ学級数	15 学級	のべ児童・生徒数	174 人
活動区分	学校支援活動	—		地域人材育成			
	—	放課後子供教室		—			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		
	—		—		3人		
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有	
	平成26年4月1日設置		—	103人	—	—	
参考URL	http://www.khiro.jp/toyohira-syou/						

●連絡先 北広島町教育委員会生涯学習課 ☎050-5812-1864

●体制図

学校運営協議会設置校(コミュニティ・スクール)

【コミュニティ・スクールの基本方針】

- 1 学校は、深い愛情と強い使命感を持って子どもを育てる。
- 2 地域は、地域の教育力を結集して学校教育活動を支援する。
- 3 子どもを育みながら、大人(教師・保護者・地域)も学びを深め地域教育活動の充実を図る。

豊平学園 学校運営協議会 (会長・副会長・委員8名) ↔ 小中一貫校【豊平学園】 ↔ 学校支援地域本部「ともに豊平っ子を育てる会」

1. 学校運営の基本方針の承認
2. 学校運営に関する意見(学校評価)
3. 人事に関する意見

【教育環境支援】
環境整備・挨拶運動や見守り等への支援
【教育活動支援】
特色ある教育活動・部活動等への支援

●活動の概要・経緯

平成25年に併設型小・中一貫校となり、また、平成26年に学校運営協議会設置校となったことを契機にして、「地域と学校が一体となった学校を創る」ことを合言葉にして、学校支援地域本部「ともに豊平っ子を育てる会」を設立した。学校運営協議会と連携しながら、地域の特性を生かした多様な支援を実施している。特に地域への愛着心や将来の地域を担う人材の育成を目指す「ふるさと学習」において、地域特産のそば作りをはじめとする体験学習の機会の提供や地域学習に係る外部講師の選定等のコーディネートを行い、ふるさと学習の効果的な実施に向けて支援を行っている。また、活動には多くの地域住民が参加し、地域公開文化祭を開催する等、地域の活性化にも貢献している。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ふるさと学習等，学校の多様な体験学習への支援(関係団体の学校支援体制の確立・外部講師の選定)
- 地域に貢献する人材の育成(小中学生による地域特産のそば作り体験の実施，また，後継者の育成のため「豊平手打ちそばクラブ」の立ち上げ)
- 学校と地域が一体となった子育ての支援(毎月14日を「とよの日」とし地域全体で児童生徒の登下校の見守りを実施，子育て10カ条の共有による学校地域一体となった子育て)
- 学校の環境整備(地域に呼びかけを行い，保護者と地域住民が一体となって実施)
- 地域行事等への児童生徒の参加等をコーディネート

【実施に当たっての工夫】

- 地域の老人会や女性会など関係団体を「ともに豊平っ子を育てる会」の構成団体とし，各団体の責任者を学校運営協議会の委員とすることで，学校と地域の外部講師や関係団体等を円滑につなぐことができた。
- 構成団体として，老人会や女性会等に加えて，営農集団やJA，NPO法人など多様な団体を組み込むことで，多くの地域住民の参画を得ることができ，様々な活動につながっている。また，多様な立場の地域住民が活動に参画することで，参加児童・生徒が地域の人材や特産品及び伝統行事などをより深く知ることが出来ている。
- 更なる活動の充実のため，コーディネーターを中心に，学校行事への参加依頼や活動への協力依頼を行っている。そして，活動への理解を促すために町のケーブルテレビ・地域公開文化祭・学園便り等で情報発信するなどの取組を行っている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

活動をとおりして，児童・生徒と地域住民が交流し，地域住民の学校教育への理解や関心が高まった。その結果，地域公開文化祭への参加者の増加や，登下校の見回りの輪が広がるなど，地域と学校が一体となった子育ての環境が整ってきた。学校が支援を受けるばかりではなく，活動に参加する地域住民自身が，この活動が児童生徒のふるさとへの愛着心を育て，将来の地域を担う人材の育成につながると意義を感じて参加されている。そして地域住民自らが様々な提案を行い，実際に取り組むことにより，地域の活性化にも繋がっている。また，地域学習の計画の段階から地域住民の支援を受けることができる等，学校職員の負担軽減にも繋がってきている。

●その他

放課後子供教室では，総合型地域スポーツクラブどんぐりクラブ屋台村と連携しスポーツや地域住民との交流活動等を実施している。



学校近くの畑を借りてのそば作り(種まき刈取り)



そば手打ちの後継者育成のため，手打ちの年間を通して活動の立ち上げ

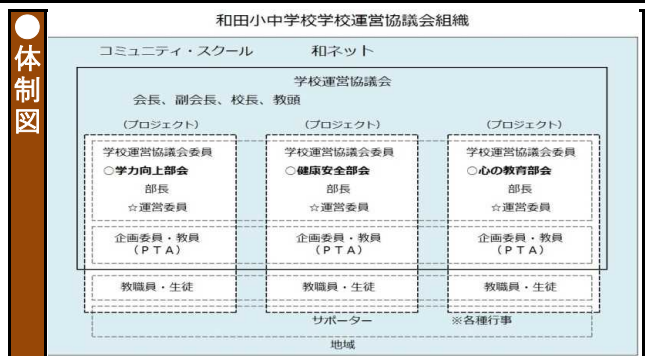
こんな活動です

学校と地域が”共に”元気になる、和ネット ～持続可能な和田地域をめざして～

山口県周南市	●活動名	●関係する学校名
	和ネット（なごみネット）	周南市立和田小学校 周南市立和田中学校

協働活動開始年度	平成 27 年度	関係学校数	2 校	のべ学級数	9 学級	のべ児童・生徒数	49 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成	外部人材を活用した教育支援活動			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	1人			
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
参考URL	http://www.shunan.ed.jp/wadasho/						

●連絡先	周南市教育委員会 生涯学習課	☎ 0834-22-8621
------	----------------	----------------



●活動の概要・経緯

平成24年に和田小学校、和田中学校に学校運営協議会が設置されたが、当時は和田コミュニティ協議会(和田の里づくり推進協議会)に属する各団体の長が形式的に役を担い、実質的な活動までに至らなかった。平成27年5月の小中合同学校運営協議会で、山間過疎地で少子化の進む和田において「なぜ今、コミュニティ・スクールが和田に必要なか」を論議し、これから将来の和田を支える人材育成を学校と協力して地域も頑張ることとなった。これを契機に、明確な組織づくりと実践的なプログラムを検討し、活動の実動体となる3部会(学力向上・健康安全・心の教育)の動きが活発になってきた。現在では、年4回の小中合同学校運営協議会、年7回の企画委員会、それに加え毎月3部会の部長会を行っている。関係機関としては、和田の里づくり推進協議会、社会福祉協議会、老人クラブ、民生委員、和田支所、和田市民センターと連携し活動にも広がりが出てきている。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①学力向上部会:放課後子ども教室の運営参加。毎月学校の研究授業での授業評価。学校での地域住民向け講座(英会話・絵画教室等)。外部講師授業。地域教育(和田学)支援。高校入試面接指導。
- ②健康安全部会:見守り隊活動。学校環境整備(草刈り等)。夏休みラジオ体操(6地域で実施)。地域と合同の避難訓練。自転車安全点検。和田地区清掃活動。
- ③心の教育部会:定期的な活動として、一輪挿し活動。読み聞かせ活動。地域文化継承として三作神楽を授業に導入。
- ④全体活動:運動会支援。文化祭支援。小中合同駅伝支援。

【実施に当たっての工夫】

学校経営とすりあわせ、具体的な活動方針および活動計画を立案し(P)、毎月計画に沿って部会が動き内容を展開していく(D)。また毎月3部会長会議、企画委員会で1ヶ月の活動状況を確認・反省し(C)、次の活動の微調整を行う(A)。部長会議は3部会の部長に加え小中学校の校長、学校の地域担当教員、そして会長で構成する。企画委員会は、会長、副会長、3部会長、企画委員長、企画委員6人、地域担当教員で構成する。なお年4回の学校運営協議会でPDCAの状況を総括的に検討・協議する。運営委員の多くは、和田の里づくり推進協議会の中心メンバーということから、地域づくりとの関係も深く、和田小中学校コミュニティ・スクール(和みネット)の運営が大きく地域づくりにも繋がっている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

平成27年5月に実質的活動に移り、最初に「広報」と「具体性のある主体的活動」の2件について取り組んだ。コミュニティ・スクールについての理解が地域にほとんどなかったのが、コミスク通信「和田の里」を毎月発行し和田地区全戸に配布した。その中で学校・児童生徒の状況やコミスク活動の実態、そして地域教育力の必要性などを説明してきた。すでに32号を発刊し、その結果、多くの理解者がサポーターという形で生まれてきた。「具体性のある主体的活動」に関しては、これまでできることから着実に実施し、活動の大きな広がりが見えてきた。こうして学校教育に参画していく中で、メンバーの意識の高まりが見えてきた。

●その他

生徒が主体となつての和田地区清掃活動を行った。生徒が企画し、多くのゴミが投げ捨てられている校区内の国道沿いを清掃するとともに、ドライバーへの意識改革を訴えた。協力団体として、コミスク、支所、福祉委員、警察、老人クラブ等80人が活動。



国道沿いの清掃活動とドライバーへの意識喚起



委員長、コミスク、老人クラブ、警察、行政、福祉協働活動

こんな活動です

学校を核とした地域づくりをめざして ～やまぐち型地域連携教育の実践～

山口県山陽小野田市	●活動名 竜王中学校区りゅうみんネット	●関係する学校名 山陽小野田市立竜王中学校 山陽小野田市立赤崎小学校 山陽小野田市立本山小学校 山陽小野田市立竜王中学校松原分校 山陽小野田市立赤崎小学校松原分校
-----------	------------------------	--

協働活動開始年度	平成 24 年度	関係学校数	4 校	のべ学級数	34 学級	のべ児童・生徒数	679 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習		地域人材育成		外部人材を活用した教育支援活動	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		4人	
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数		延べ登録人数	188人	企業・NPO等との連携	有
参考URL	http://www.edu.cty-so.jp/ryuoh-jhs/						

●連絡先	山陽小野田市教育委員会 社会教育課	☎ 0836-82-1204
------	-------------------	----------------



りゅうみんネットは、竜王中学校区の各小・中学校のコミュニティ・スクールを中核として、概ね中学校区でまとまり、地域住民や地域の関係団体、企業等を巻き込んで学校を核とした地域づくりを図るやまぐち型地域連携教育のモデル的な取組を行っている。この取組により、竜王中学校区独自のさまざまな特色ある活動が生まれ、小中連携も深まっている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①小中それぞれの学校での特徴的な取組
竜王中・・・かるた学習、競技かるた(永世クイーンを輩出、山陽小野田市の重点的取組) 赤崎小・・・木戸刈屋盆唄の継承(地域の伝統行事) 本山小・・・アサギマダラおいでませ作戦(地元の方と一緒にアサギマダラの好むヒヨドリバナの植栽や下草刈りなどを行う竜王山環境保全活動) 松原分校・・・感謝の集い(お世話になっている地域の方々へのおもてなし)
- ②小中合同の地域貢献活動
りゅうみんネットクリーン作戦の実施、地域の行事(祭り)へのステージ参加や司会
- ③地元大学、企業との連携
山口東京理科大学学生の学習支援ボランティア、りゅうみんネット懇談会の会場提供 地元企業による職場見学、職業講話、職場体験の受け入れ
- ④地域への啓発活動(りゅうみんネットカレンダーの配付)

【実施に当たっての工夫】

関係校それぞれに地域コーディネーターと校内コーディネーターを置き、相互に連携をとりながら、コミュニティ・スクールの取組である学校運営、地域貢献、学校支援活動を幅広く展開している。さらに竜王中校区としての連携を深め、地域全体で子供を見守り、育てるしくみを構築している。また、校区内の小中校長が月1回集まり、連携活動の推進に向けて協議するほか、教頭、教務主任は小中合同の行事の調整、生徒指導主任は子供たちの健全育成に向けた課題、研修主任は学力向上の課題について定期的に協議する等、小中連携を深めている。このように学校、家庭、地域を中心とする横のつながりと、小中連携を中心とする縦のつながりのバランスを図りながら、包括的、継続的な取組を推進できるようにしている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

地域住民や女性団体、自治会、ふるさとづくり推進協議会、さらに地元大学や企業が連携協働し、子供たちを見守り、育てる活動を幅広く推進していくことで、学校の教育活動への関心が高まり、学校支援の充実が図られている。子供たちも地域に出て多様な体験をすることで、郷土に誇りと愛着をもち、郷土を担う一員としての自覚や、勤労感、コミュニケーション能力等を高めている。高齢化や人口減少、地域の担い手の不足は、地域にとっても深刻な課題であるが、この取組を通して子供たちが地域に笑顔と活力を与え、地域が活性化すると共に、保護者や地元企業で働く人々等、いわゆる生産年齢人口も関わるしくみになりつつあり、地域の次代を担う人材育成にもつながっている。

● その他

学校、保護者、地域が一体となって地域づくりをすると共に、地域の宝物ともいえる子供を、協働して見守り、育てるため、関係者が一同に集い、子供の健全育成をテーマに、熟議をする場を設けている。



が小中合同で、保護者の清掃活動、地域住民



者中りゅうみんネット、PTA、懇談会、地域関係小

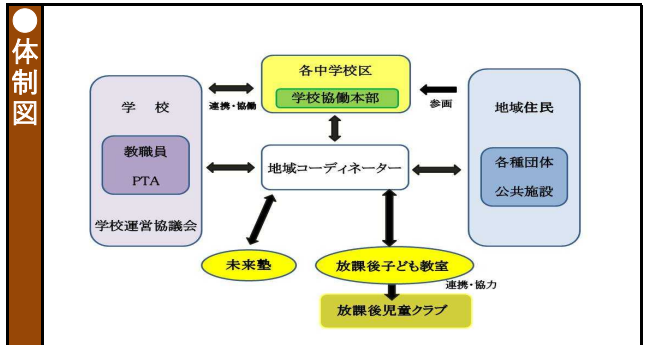
こんな活動です

地域力・子どもパワー全開！ ～地域ぐるみで子どもを育てよう～

徳島県つるぎ町	●活動名	●関係する学校名
	つるぎ町貞光地区学校協働本部	つるぎ町立貞光小学校 つるぎ町立太田小学校 つるぎ町立貞光中学校

協働活動開始年度	平成 27 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	6 学級	のべ児童・生徒数	127 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成				
	地域未来塾	放課後子供教室	—				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	2人	2人	2人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
	平成28年4月19日設置	100人	—				
参考URL	—						

●連絡先	つるぎ町教育委員会	☎ 0883-62-2331
------	-----------	----------------



●活動の概要・経緯
山間部の小学校のみで行っていた放課後子供教室を平成27年度から平坦部の小学校でも実施することにより、全小学校で放課後子供教室を開校、未来塾も平成27年度から全中学校で実施している。これらの事業にかかわる教育活動推進員やPTA、婦人会組織、老人クラブなどの社会教育関係団体の協力により学校協働本部を立ち上げる。未来塾は生徒、保護者に強い支持を受け、5割以上の生徒が参加している。放課後子供教室も自分の好きな活動を児童が選択し活動を楽しんでいる。両活動共に、年2回の運営委員会を開催し、活動の反省や次年度の取組について協議している。協議の中で活動に地域の伝承や伝統文化を取り入れることが決まり、平成30年度からは、郷土伝承活動と地域文化の学習、町並み案内を取り入れ、地域の活動に参加し、地域を知り地域の人と共に活動が行えるよう計画、実践している。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ・中学生対象の未来塾は、個別指導で各学年3教科(数・英・国)、各2名の学習活動支援員を配置し取り組んでいる。ICT機器を利用し、学習支援ソフトによる学習の確認や予習を行っている。1年間を3回に分け各学年から1名ずつ選出し努力賞を渡している。保護者には、学習報告書を配付し、連携を図っている。
- ・放課後子供教室は、いろいろな分野の活動を行い、伝統文化や郷土芸能は専門の指導者から学んでいる。今年度は、地域の文化を学習し、地域の課題を学び、地域イベントで町並み案内を行う。地域で行う文化協会の発表会に参加したり、学習の報告として「春の発表会」を企画したりする。
- ・学校運営協議会が主体となり、月1回貞光中学校の図書室を地域に開放している。

【実施に当たっての工夫】

- ・生徒の学習状況を保護者に理解してもらうため、学習の理解度や学習態度を報告書にまとめ定期的に報告する。また、安心・安全な活動場所として未来塾の活動ができるよう、欠席時の連絡を義務付けている。
- ・山間部から通学している子供は、放課後子供教室の終了時間と迎えの時間に空白時間が出来ないよう保護者とコーディネーターが連絡を密にして連携を図っている。
- ・伝統文化や郷土芸能などの指導者を専門家に依頼し、日本文化の学習内容を深めるようにしている。
- ・つるぎ広報や防災無線を利用して、学校図書室の開放を全町民に周知している。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ・未来塾の学習報告を行うことで、保護者の未来塾に対する関心が高まり、子供の学習意欲や学習態度の向上につながっている。
- ・放課後子供教室では、春の発表会や地域での催し物に参加することで、地域住民との結び付きが深まり、子供たちの活動に強い関心を持ってくれるようになった。地域にどのような子供がいるか情報交換の場にもなり、地域で子供を見守ろうとする気持ちが芽生えている。
- ・協働活動支援員や学習支援員は、活動を通じて子供や保護者と良い関係を築くことができ、子供たちと一緒に活動することを楽しみにしており、地域の活性化につながっている。

●その他

・地域文化や郷土芸能を地域住民の方々から学習する。発表会は町の文化財や公民館など、地域の人が身近に行き来できる施設で毎年行っている。



り地域の方から松尾神社の秋祭太鼓を学ぶ



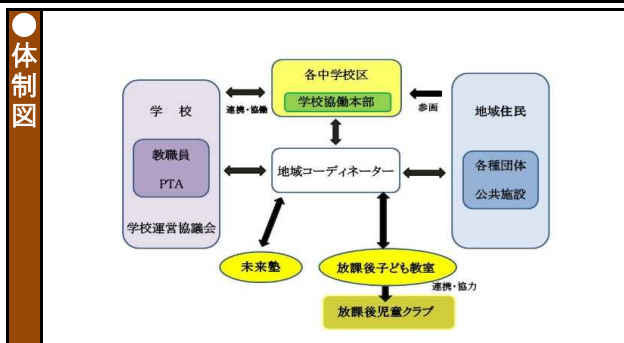
者いろいろな実践を友達や保護者協力して行う(サイエン)

こんな活動です

地域力・子どもパワー全開！ ～地域ぐるみで子どもを育てよう～

徳島県つるぎ町	●活動名	●関係する学校名
	つるぎ町半田地区学校協働本部	つるぎ町立半田小学校 つるぎ町立半田中学校

協働活動開始年度	平成 27 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	6 学級	のべ児童・生徒数	102 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成				
	地域未来塾	放課後子供教室	—				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	2人		2人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
	平成24年2月8日設置		64人				
参考URL	—						
●連絡先	つるぎ町教育委員会	☎ 0883-62-2331					



●活動の概要・経緯
山間部の小学校のみで行っていた放課後子供教室を平成27年度から平坦部の小学校でも実施することにより、全小学校で放課後子供教室を開設、未来塾も平成27年度から全中学校で実施している。これらの事業にかかわる教育活動推進員やPTA、婦人会組織、老人クラブなどの社会教育関係団体の協力により学校協働本部を立ち上げる。未来塾は生徒、保護者に強い支持を受け、5割以上の生徒が参加している。放課後子供教室も自分の好きな活動を児童が選択し活動を楽しんでいる。両活動共に、年2回の運営委員会を開催し、活動の反省や次年度の取組について協議している。協議の中で活動に地域の伝承や伝統文化を取り入れることが決まり、平成30年度からは、郷土伝承活動と地域文化の学習、町並み案内を取り入れ、地域の活動に参加し、地域を知り地域の人と共に活動が行えるよう計画、実践している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ・中学生対象の未来塾は、個別指導で各学年3教科(数・英・国)、各2名の学習活動支援員を配置し取り組んでいる。ICT機器を利用し、学習支援ソフトによる学習の確認や予習を行っている。1年間を3回に分け各学年から1名ずつ選出し努力賞を渡している。保護者には、学習報告書を配付し、連携を図っている。
- ・放課後子供教室は、いろいろな分野の活動を行い、伝統文化や郷土芸能は専門の指導者から学んでいる。今年度は、地域の文化を学習し、地域の課題を学び、地域イベントで町並み案内を行う。地域で行う文化協会の発表会に参加したり、学習の報告として「春の発表会」を企画したりする。
- ・学校運営協議会が主体となり、空き缶・空き瓶の回収を行い資源の再利用に取り組んでいる。

【実施に当たっての工夫】

- ・生徒の学習状況を保護者に理解してもらうため、学習の理解度や学習態度を報告書にまとめ定期的に報告する。また、安心・安全な活動場所として未来塾の活動ができるよう、欠席時の連絡を義務付けている。
- ・山間部から通学している子供は、放課後子供教室の終了時間と迎えの時間に空白時間が出来ないよう保護者とコーディネーターが連絡を密にして連携を図っている。
- ・伝統文化や郷土芸能などの指導者を専門家に依頼し、日本文化の学習内容を深めるようにしている。
- ・町広報誌や防災無線を利用して、空き缶・空き瓶、段ボールなどの回収を呼びかけ、全町民に協力をお願いし実施している。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ・未来塾の学習報告を行うことで、保護者の未来塾に対する関心が高まり、子供の学習意欲や学習態度の向上につながっている。
- ・放課後子供教室では、春の発表会や地域での催し物に参加することで、地域住民との結び付きが深まり、子供たちの活動に強い関心を持ってくれるようになった。地域にどのような子供がいるか情報交換の場にもなり、地域で子供を見守ろうとする気持ちが芽生えている。
- ・協働活動支援員や学習支援員は、活動を通じて子供や保護者と良い関係を築くことができ、子供たちと一緒に活動することを楽しみにしており、地域の活性化につながっている。

● その他

- ・地域文化や郷土芸能を地域住民の方々から学習する。発表会は町の文化財や公民館など地域の人が身近に行き来できる施設で毎年行っている。



地域文化の伝承「坂外獅子舞」を学ぶ



国登録有形文化財「織本屋」で「春の発表会」実施

徳島県東みよし町	●活動名	●関係する学校名
	三庄小学校 放課後子ども教室・学校運営協議会	東みよし町立三庄小学校

協働活動開始年度	平成 25 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	9 学級	のべ児童・生徒数	184 人
活動区分	学校支援活動	—		—		—	
	—	放課後子供教室		—		—	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数			
	—	—		2人			
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
	平成25年5月29日設置	—	175人	—	—		
参考URL	http://sansyo-es.h-miyoshi.andteacher.jp/						

●連絡先	東みよし町教育委員会 生涯学習課	☎ 0883-79-3217
------	------------------	----------------

●体制図



●活動の概要・経緯

三庄小学校では、平成24・25年度の2年間、文部科学省のコミュニティ・スクール推進事業調査研究校の指定を受け、平成25年5月29日には学校運営協議会を設置した。保護者や地域の意見を学校運営に反映させることで、保護者・地域・学校が一体となって、地域に開かれ地域に支えられる学校づくりの実現を目指している。また、学校運営協議会では、3つの部会を構成し、それぞれの部会での多様な人とのふれあいや体験活動を通して、子供たちの可能性を引き出す取組をしたいと考えている。

その他にも、学校以外で町内の子供たちに安心・安全な居場所を提供するとともに、地域と子供・学校との交流の機会を作ることを目的として、放課後子供教室を実施している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

学校運営協議会で3つの部会を構成し、部会毎に学校教育目標達成に向けた活動をしている。

- ①学力向上部会:保護者や地域の方による読み聞かせ、夏休みの講座(そろばん講座・習字講座)の実施、漢字能力検定の運営等
- ②豊かな心部会:放課後子供教室(生涯学習課と共催)、「育ちっ子タイム」(地域の諸団体による放課後の活動)等
- ③健康安全部会:地域交通安全立哨、敷地内清掃・除草作業、空き缶・古紙回収協力等

また、放課後子供教室では、地域の老人クラブ会員からなる活動支援員により昔ながらの遊びや工作活動を行っている。子供たちに普段の学校の授業ではできない体験をさせることができるとともに、地域の人々との交流の場となっている。

【実施に当たっての工夫】

【学校運営協議会・部会での活動】

- ・夏休みの講座や育ちっ子タイムでの活動等、地域の教育的ニーズをつかみ、具体的な目標を共有し、方法について話し合っている。
- ・HPやCS便り、町内各校の行事一覧表の配布等を通して、保護者や地域住民への広報を積極的に行っている。

【放課後子供教室】

- ・活動内容をコーディネーターと支援員が協力して考案し、支援員が有する技能、知識を活用した活動ができている。また教職員が子供たちの学びのために、どのような方法が効果的なのかを考え、コーディネートすることにより子供たちの学びを豊かにしている。
- ・子供たちが喜ぶ運動や物作りだけでなく、防災の歌を歌ったり、新聞紙スリッパの作り方等に取り組んだり、堅く作りがちな防災啓発についても楽しみながら学んでいる。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ・夏休みの講座や漢字能力検定等の活動により集中力や基礎学力の向上が図れた。
- ・詩吟・生け花・昔遊び等、子供たちが普段の学校の授業でできないことが体験できた。
- ・地域の人と関わる機会が増えて、その温かさにふれたことで、感謝の気持ちをもてるようになった。
- ・あいさつや言葉遣いについて改めて考える機会になり、学校以外の場所で出会った時にも、進んであいさつをする等、児童から自発的に地域の人と交流しようとする意欲が高まってきた。
- ・保護者や地域の方の協力を得ることにより、教職員の負担を増やすことなく豊かな活動を行えた。

● その他

家庭科授業でのミシンの支援や阿波踊り・水泳・陸上練習等の指導と、幅広く学校の教育活動の支援をしてもらっている。また、三庄ミニギャラリーのコーナーを設け、地域の方の書道・俳句等の作品を展示し、地域の文化活動との連携を図るとともに、来校の機会を増やしている。



(放課後子供教室)
豊かな心部会



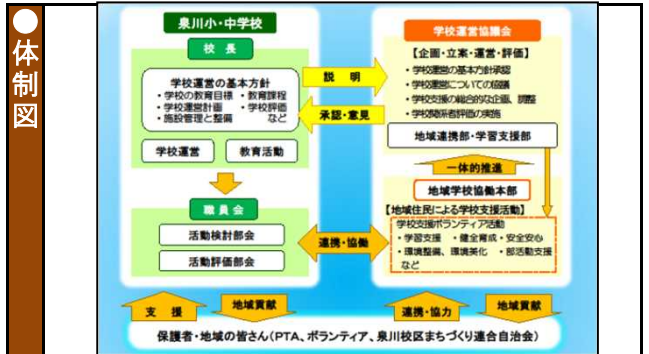
(学力向上部会)
習字講座

こんな活動です

地域社会で生き生きと活動する泉川っ子の育成 ～コミュニティ・スクールと一体的な地域学校協働活動の推進～

愛媛県新居浜市	●活動名 泉川校区学校支援地域本部	●関係する学校名 新居浜市立泉川小学校 新居浜市立泉川中学校
---------	----------------------	-----------------------------------

協働活動開始年度	平成 29 年度	関係学校数	2 校	のべ学級数	31 学級	のべ児童・生徒数	773 人
活動区分	学校支援活動	—		—		—	
	地域未来塾	放課後子供教室		—		—	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		
	—		—		1人		
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有	
	平成29年3月1日設置						
参考URL	https://izumigawa-iesnet.ed.jp/						



●連絡先	新居浜市教育委員会 学校教育課	☎ 0897-65-1301
------	-----------------	----------------

●活動の概要・経緯

市内でもいち早く平成21年度から地域住民による学校支援(登下校の見守り活動、読み聞かせ、学校の環境整備、地域清掃等)に取り組んでおり、長年にわたって地域と学校との間で課題や目標を共有しながら課題解決のための活動を続けてきた。平成29年3月には泉川小学校、泉川中学校がコミュニティ・スクールとなったことにより、地域全体で教育目標を共有し、学校運営協議会と一体的な地域学校協働活動を推進している。

小学生の居場所づくりとして地域住民との体験・交流による「泉川っ子体験教室」や平日の放課後に自主的な学習を教員OB等が学習支援員としてサポートする「放課後まなび塾」を実施している。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

平成29年3月に泉川小・中学校がコミュニティ・スクールとなったことで、校区の教育目標が地域にも共有され、学校運営協議会で活発な熟議を行うことで、これまでの教育活動を見直し、従来からの活動に加えて様々な地域学校協働活動(小中が合同で実施した防災交流遠足、職場体験学習の拡充、地域の大学生や高校生が小・中学生に勉強を教える夏休み・冬休み学習会など)が実施されている。

「大好き泉川の日」は、毎月第2日曜日に泉川中学校の生徒と、保護者、地域の方々が集まり、泉川校区をきれいにするために行う奉仕作業で、実施場所は、中学生が生徒会の中で話し合い、地域の方々と相談をしながら決定している。

【実施に当たっての工夫】

実施にあたっては学校と地域からの信頼の厚い元公民館長に、市内で初めて地域学校協働活動推進員を委嘱し、学校運営協議会の委員長を兼任することで、地域での連絡・調整がスムーズになり、学校運営協議会での意見を協働活動につなげることができている。また、学校と地域の行事を掲載したコミュニティ・カレンダーをリニューアルし、校区内で全戸配布するなど、多くの地域住民の参加を促す工夫も行っている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

「心豊かで社会の一員としての自覚と責任をもった子どもの育成」を校区全体の教育目標として地域学校協働活動を実施した結果、子供たちが地域活動に自主的に参加するようになってきた。毎月の地域の清掃活動「大好き泉川の日」についても、今では中学生が主体的に清掃場所の選定を行うなど、自分たちに何が出来るのかを考えて行動するようになっており、地域貢献したいという意識が高まっている。また、学校運営協議会の充実と、子供たちのまちづくりへの参画をさらに進めるため、泉川中学校の「生徒会の専門委員会」と、地域の方々が構成される「泉川校区まちづくり連合自治会の各部会」とが連携して、様々な活動を企画・運営する「まちづくり専門委員会」を開催するなど意欲的な取組につながった。

●その他

小学生の放課後の居場所づくりとして、公民館・各種団体・地域ボランティア等と一緒に「泉川っ子体験教室」を実施している。また、平日の放課後は「放課後まなび塾」を開催し、地域の教員OB等が児童の自主学習のサポートを行っている。



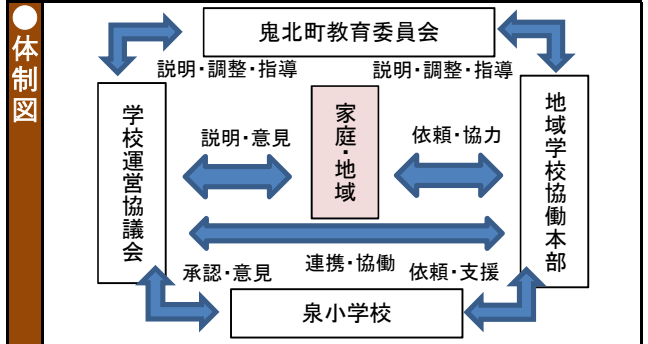
生徒会と地域住民で構成された「まちづくり専門委員会」での熟議



地域住民と一緒にけん玉(泉川っ子体験教室)

地域とともにある学校づくりを目指して

愛媛県鬼北町		●活動名 泉小学校区地域学校協働本部			●関係する学校名 鬼北町立泉小学校		
協働活動開始年度	平成 28 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	6 学級	のべ児童・生徒数	39 人
活動区分	学校支援活動		—		地域人材育成		
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		—		配置人数		
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数		延べ登録人数		企業・NPO等との連携
参考URL	https://izumi-e.esnet.ed.jp						
●連絡先	鬼北町教育委員会 教育課 文化スポーツ係			☎ 0895-45-1111			



●活動の経緯
泉小学校は、平成28年度にコミュニティ・スクールに指定され、同時に学校支援地域本部(現在の地域学校協働本部)を導入した。以来、この2つの仕組みを学校経営の柱として「地域とともにある学校づくり」を進めている。

●活動の概要
○学校支援活動・・・児童の登下校の見守り活動、古代米栽培活動の支援、ぶどう栽培の支援、鬼北文楽クラブ・茶道クラブの支援、生活科・社会科見学の支援、環境整備活動
○地域人材育成・・・泉地区に保存継承されている人形浄瑠璃「鬼北文楽」や手漉き和紙「泉貨紙」の探究・体験学習支援

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①古代米栽培活動支援：泉地区には縄文時代と弥生時代の遺跡があり、それにちなんで毎年6年生が中心となって、古代米の一種である黒米と赤米を学校横の水田で栽培している。毎年、もみを育てるところから始めて、田植え、稲刈り等の一連の作業を支援している。なお、関連学習として遺跡の現地見学も行い、町教育委員会学芸員からの説明も受けている。
- ②鬼北文楽クラブ支援：鬼北文楽は泉地区で伝承されている人形浄瑠璃である。泉小学校には鬼北文楽クラブがあり、毎回の活動日には、鬼北文楽保存会のメンバーが指導や助言等を行っている。その成果は、毎年11月に開催される、学校と地域合同の「学芸会・遺跡まつり」で披露するとともに、校区内の高齢者施設との交流活動も行っている。

【実施に当たっての工夫】

鬼北町教育委員会では、地域コーディネーターを泉小学校に配置している。このことにより、学校と地域・関係団体等との連絡・調整がたいへん円滑に行われている。地域コーディネーターは、学校側からの、見学や活動、講師を招く依頼などを受け、担当者と打ち合わせを行い、交渉や調整を行うとともに、当日及び事後の対応、広報活動なども行っている。また、地域からの支援や協力に関するコーディネートも行っている。このことにより、学校教職員は、より一層教育活動に専念できるようになっている。なお、毎回の学校運営協議会にも出席し、泉小学校の学校運営協議会と地域学校協働本部の連携・協働の機能の向上に努めている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ①事業の導入により、学校の授業等でのゲストティーチャーの活用や地域との連携・協働が円滑に行えるようになった。
- ②学校と地域のつながりが一層深まるとともに、体験活動や地域の人たちとの交流を通して、児童が地域のよさを実感できてきていると感じる。
- ③地域で保存継承されている貴重な伝統文化について、実際にそこに携わっている人々と接することで、その価値を認識するとともに、その人たちの思いに気付きつつある。
- ④地域にとって学校がより近い存在になり、主体的・自主的に学校に協力しようとする人たちが増えてきた。

●その他

平成29年度から「放課後子ども教室」を開設した。今年度は28名の児童が登録している。全校児童は39名なので約70%の児童の登録である。この「放課後子ども教室」では約20名の地域の人たちがサポーターとなり、輪番で児童の学習等を支援している。サポーターの多くは地域学校協働活動でも活動されている方々であり、情報共有を図りながら地域学校協働活動との連携を模索している。



おえ地にぎりに秋の方をいたは稲刈り。古代米の収穫祭です。田植え



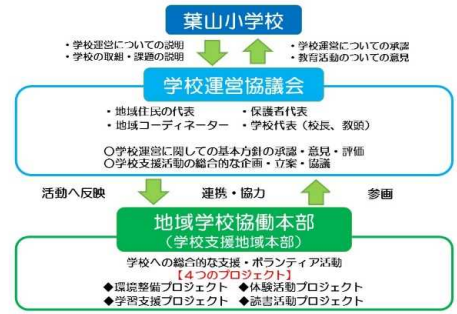
ブ存泉地区に残る「人形浄瑠璃保存会」の方から「人形浄瑠璃」の体験学習支援

こんな活動です

地域とともにある学校をめざして！ — 参画・協働・つながり —

高知県津野町		●活動名 葉山小学校地域学校協働本部				●関係する学校名 津野町立葉山小学校			
協働活動開始年度	平成 20 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	9 学級	のべ児童・生徒数	118 人		
活動区分	学校支援活動		—		地域人材育成		—		
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数				
	1人				5人				
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無			
	平成28年9月16日設置			130人					
参考URL	http://www.kochinet.ed.jp/hayama-e/								
●連絡先	津野町立葉山小学校				☎ 0889-55-2020				

●体制図



●活動の概要・経緯

葉山小学校支援地域本部は、平成20年度に組織され、未来を担う子供たちを健やかに育むために、地域、学校、家庭が一体となって連携し、地域の方とのふれあい活動を通して、学校への総合的な支援・ボランティア活動を行うとともに、「環境整備プロジェクト」、「体験活動プロジェクト」、「学習支援プロジェクト」、「読書活動プロジェクト」の4つのプロジェクトを主体として事業展開している。

また、平成28年度には当小学校がコミュニティ・スクールの指定を受け、より地域に開かれた学校となり、学校と地域との連携・協働が深まったことで、さらに地域に密着した学校運営が行われるとともに、本年度より地域学校協働本部に名称を改め活動を継続している。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 【環境整備プロジェクト】畑の整備と野菜作り、交通安全見守り活動、校舎内建具の軽微な補修、屋外の庭木剪定や除草作業
- 【体験学習プロジェクト】芋の植付けや芋掘り、田植えや稲刈り等の体験学習
- 【学習支援プロジェクト】保護者や地域の方の道徳授業への参画、毎週水・金曜日にドリルやプリントのマル付け作業、町内学芸員による津野町歴史学習、地域の方々による手作りおもちゃを使った昔遊び授業
- 【読書活動プロジェクト】毎週金曜日は全学年に保護者や地域の方による読み聞かせを実施、町内の図書館と連携した移動図書による本の貸し出しなど学校の道徳教育活動として町の図書館との連携、校内の図書室を地域の方の協力で改装

【実施に当たっての工夫】

- あらゆる場面で子供の発表の場を設けるとともに、日頃の学習や実習の成果を「学校だより」に掲載し、地域に配布することで、地域の方々が気軽に参画できるように努めている。
- 活動の取組を載せたパンフレットを作成し、地域に配布することで、活動の周知と新たなボランティアの参画を図っている。
- 継続的に地域の無償ボランティアだけで活動を行えるよう、ボランティア自らが中心となって考え取り組める体制としている。
- 道徳を通して価値を深め、子供たちが地域に関心を持ち、積極的に地域行事に参加している。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 子供たちは、道徳を通して地域の人や地域の行事を知ることができ、地域内での挨拶も積極的にできるようになり、教師も同様に地域の人と接する機会が多くなり、人との繋がりが出来て地域に溶け込んだ関係を築くことができた。
- 地域の方々に参加・協力していただき、教師は時間的余裕が確保でき、授業に集中することができるようになってきた。また、時間的余裕から授業改善に取り組む時間ができたことにより、より深みのある授業が展開できている。
- 道徳や教科の授業改善により、主体的・協働的に学ぶ子供が育ち、学力向上が見られる。

●その他

○地域の方とのふれあい活動が多彩である。中でもPTAと地域・児童が一体となった地域行事への参画が多く、「せんだんまつり」の開催や自然体験学習で栽培収穫した野菜やお米を使って「感謝祭」を開催し、お世話になった地域の方々を招いてごちそうするなど地域に根付いた行事を行っている。また、県指定無形文化財にも指定されている「葉山村花取踊り」や町内久保川地区における「御伊勢踊り」などにも児童自らが積極的に参加し、伝統的文化の継承に繋がっている。



米地域の方々から体験を通して



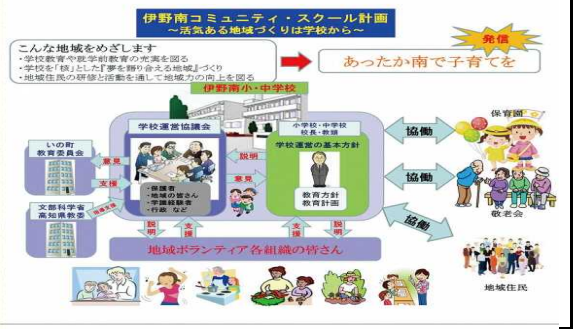
授業への参画 地域・保護者の方による道徳

こんな活動です

伊野南応援団 — 学校を核とした「新しい公共」型地域コミュニティ学校の創造 —

高知県のいの町		●活動名 伊野南応援団		●関係する学校名 いの町立伊野南小学校 いの町立伊野南中学校	
協働活動開始年度	平成 27 年度	関係学校数	2 校	のべ学級数	16 学級
				のべ児童生徒数	253 人
活動区分	学校支援活動	—		地域人材育成	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	—		配置人数	
		地域学校協働活動推進員等の数		2人	
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無
	平成25年4月1日設置		85人		
参考URL	http://www.kochinet.ed.jp/inominami-e/				
●連絡先	いの町教育委員会事務局		☎ 088-893-1922		

●体制図



●活動の概要・経緯

平成22年度に放課後子ども教室として『南っ子コミュニティ』を設立し、4つの教室を開設した。その活動は、現在の学校支援地域本部事業・生涯学習教室及び学校のクラブ活動として広がりを見せている。

平成25年度には、伊野南小学校運営協議会を立ち上げ、コミュニティ・スクールとしても活動を始めた。平成27年度からは、伊野南中学校と共に「伊野南応援団」として小中合同の地域協働活動を開始した。

ボランティア組織は4つあり、代表は学校運営協議会の委員となっている。

●活動の特徴・工夫

- 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】
- 小学校と中学校が連携し、学校運営協議会を年間6回行っている。委員には、校区内の保育園園長も入っており、保育園から中学校までを見通し、地域ぐるみで子供を育てている。また、保小中連携による伊野南クリーン大作戦(地区のゴミ拾い活動)を実施した。
 - 放課後等体験活動・・・ダンス、三味線など15教室 ボランティア(85名登録)・・・安全、環境、図書、学習の4つ
 - 小学校では、総合的な学習の時間を中心に地域と触れあう機会が多く設けられ、「奥田川親水公園まつり」も地域と協働して実施している。それを基に中学校では、地域の実情をさらに知る取組に発展させ、(1)必要な情報を集め、地域の現状を知る。(2)地域の方々の思いを知る。(3)地域の一員として自分たちに何が出来るか考え、行動する。に焦点をあて、各年齢層の方から情報を収集し、自分たちに今できることやこれから考えていくことなどの学習をしている。

【実施に当たっての工夫】

- 学校運営協議会では、学校運営・教育課程、児童生徒の様子、ボランティア活動及び児童会・生徒会からの活動報告等について協議・意見交流を行う。そして、各ボランティアの代表は協議内容をボランティアに報告し、意見を集約したものを学校運営協議会に反映させていくシステムを構築している。
- ボランティアの中には民生・児童委員がおり、児童のことについて日頃から話し合う体制ができています。
- コミュニティ・スクールディレクター(兼地域コーディネーター)は、学校運営協議会事務局支援、ボランティア組織の連絡調整、学校情報の適切な提供をホームページ、いの町広報等で行っている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 学校や学校運営協議会が、地域にある既存の組織や地域住民、保護者と連携して学校や地域の情報を発信したり、地域のボランティア人材を組織化したりして、学校運営や教育活動に地域ぐるみで取り組んでいる。
- ボランティアとして地域住民の学校運営への参画を促進することにより、地域の創意工夫を生かした特色あるコミュニティ・スクール・学校力を生かした地域づくりを進めることができています。
- 放課後等の学習や体験活動を行うことで、子供の居場所や異年齢交流の場ができ、子供のコミュニケーション能力や経験の機会が広がっている。
- 小学校が地域と関わりを持つことで、地域の方の学校への関心度が高まり、中学校では、その関心度を生かし、地域人材を各分野で活用することで学習内容の充実に繋がっている。

●その他

- 学習支援は、わくわく教室。全校児童を対象に放課後加力学習を行う。
- ICT活用は学校ホームページで発信。

4年総合的な学習とボランティアが協働して実施



奥田川親水公園まつり

保小中連携による地区のゴミ拾い



児童からボランティアの方へ感謝状贈呈

伊野南クリーン大作戦・ありがとう集会

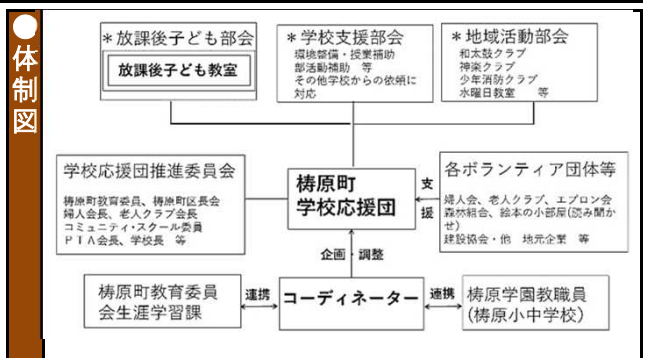
こんな活動です

地域の力を子どもたちへ！ 梶原町学校応援団

高知県梶原町	●活動名	梶原町学校応援団	●関係する学校名	梶原町立梶原小学校

協働活動開始年度	平成 23 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	9 学級	のべ児童・生徒数	136 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
参考URL	http://www.yusuharagakuen.jp/alliance/						

●連絡先 梶原町教育委員会事務局生涯学習課 ☎ 0889-65-1350



【経緯】平成23年4月に開校した小中一貫教育校「梶原学園」では、地域の力を学校(子供たち)に生かせるよう「梶原町学校応援団」を設置している。本応援団は3部会に分かれており、その中の「放課後子ども部会」において、地域と連携した子供たちの安全・安心な居場所作りである「梶原町放課後子ども教室」が取り組まれている。

【概要】梶原町放課後子ども教室では、「やさしさと確かな学力を身につけ、未来に向かってたくましく生き抜く梶原人の育成」をスローガンに、年間200日以上開設している。普段は宿題や自由遊びを中心に、長期休業中は地域住民と触れ合える行事を積極的に取り入れ活動を行っている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

梶原町学校応援団として学校支援地域本部と梶原町放課後子ども教室のコーディネーターが兼務で行っており、コーディネーターの席が、教職員室内とコーディネーター室の両方にあるため、学校との情報共有を密にすることができている。

普段の活動としては、下校後にまず宿題に取り組み、その後運動遊びをととした元気な身体づくりに取り組んでいる。また長期休業中等には、川遊びや和太鼓体験のほか、地域の食材を使った「おにぎりランチ」等の料理教室や、地元の高校野球部とのキャッチボール体験、認定こども園・老人クラブ、民生委員との交流会も実施している。この他に、消防訓練に消防署員からの指導を受けたり、地域探検でAEDを探すことや、避難訓練を含めた安全対策にも取り組んでいる。

【実施に当たっての工夫】

活動の実施にあたっては、地域の人材やモノを最大限活用できるよう、コーディネーターが企画・調整を行っている。料理教室では、地域の方から提供していただいた食材をもとに、婦人会や食生活改善推進員を講師に招き実施している。また、子供たちが楽しみにしている夏休みの川遊びでは、各地区の区長や社会福祉協議会の職員が安全管理スタッフとして参加し、子供の安全管理に協力している。こうした地域の大人とのかかわり以外に、地元の高校や認定こども園と連携した活動を実施することにより、子供同士の交流の幅もより一層広いものとなっている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

梶原町放課後子ども教室は、単なる放課後等の安全・安心な居場所ではなく、様々な体験活動ができる魅力的な場所であるため、参加希望児童が年々増加傾向にある。生活リズムが乱れがちな長期休業中にも色々な体験活動に取り組んでいて、保護者や学校から、児童の健康な身体づくりにつながっているとの意見も多く聞かれる。また、本来は学校とは別組織ではあるが、教職員が様子を見に来てくれたり、時には学習指導を行うことで、相互理解ができています。こうした幅広い体験活動を実施することをおして、梶原町放課後子ども教室がさまざまな人や関係機関と連携できるようになった。そして、地域における支援の輪も徐々に広がり、地域全体で子供を育む「地域の教育力の向上」にもつながっている。

● その他

下校後の学習活動では、学校とも相談しながら児童が取り組む内容等を決めている。時間内に終わらなかった課題等は家庭に連絡を取るようになっているので、保護者等が児童の学習内容を把握しやすいとの声がある。このように、学習習慣が定着するように家庭、学校と連携し、学力向上に取り組んでいる。



夏休み（長期休業中）
手作り筏に乗って川遊び



学校の代休日
消防署員の指導に
実際に学んでい
ます。消火器の
使用

こんな活動です

学校と地域が協働し、地域の課題を解決する

高知県香美市		●活動名 山田高校学校地域協働本部			●関係する学校名 高知県立山田高等学校		
協働活動開始年度	平成28年度	関係学校数	1校	のべ学級数	14学級	のべ児童・生徒数	404人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習					
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		10人	
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携		有	
参考URL	http://www.kochinet.ed.jp/ya.ada-h/						
●連絡先	高知県立山田高等学校			☎ 0887-52-3151			



●活動の概要・経緯
本校では、地域に開かれ信頼される学校づくりをめざし、生徒会、ボランティア部や商業科の商品開発など学校をあげ地域貢献活動に取り組んできた。これらの活動をさらに充実・発展させるため、平成28年度から、地域の発展に思いを馳せ、地域創生に有為な人材を、地域と一体となって輩出することを目的とした、本事業に取り組んでいる。この事業を通して、生徒の主体性や協働性を育成するとともに、地域に貢献できる人材や、高知県産業の担い手となる人材を、ひとりでも多く輩出できる学校づくりを進めている。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 普通科「総合的な学習の時間」において、「チームでイノベーション」をテーマに、5人でチームを組み地域課題探究型学習に取り組んでいる。
 - 1年生
 - 前期(4月～9月):香美市商工会と連携し、地元企業のCM制作(H28年度25社, H29年度28社, H30年度18社)
 - 後期(10月～2月):香美・香南・南国の三市の観光政策について市長に提言
 - 2年生
 - 地域課題から高知県全体の課題へと発展させ、県政課題の解決策を知事に提言(県知事や県庁職員から県政課題や政策提言のポイントについて指導助言を受け、夏季休業中にはフィールドワークを実施、2月には県庁で知事に政策を提言)
 - 3年生
 - 自らのキャリア形成に直結するテーマを設定し探究。調査・分析した内容を整理し、論文にまとめ発表する
- 土曜塾
 - 高校入学時の英語・数学検定の取得率が低いことから、1年生を対象に英語・数学検定取得に向けた「土曜塾」を開講(毎週土曜日の朝90分実施、年間を通して25回程度開講)

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

生徒が1年間を通して、地域創生のために地域住民と深く関わったり、地域課題解決のために地域のことを深く考えたりしたことは、生徒の学習意欲や進路意識を高めるとともに、生徒の自尊心や自己有用感の醸成につながる良い機会となっている。これらの地域との関わりを通して、学校内での学びでは得られない実践的な学びの機会が得られたことや、地域を巻き込んでCM発表や政策提言などの情報を発信したことにより、地域の方々から多数の賞賛を得るばかりではなく、地域企業・住民との信頼関係を築くことができた。また、地域連携コーディネーターの導入により、教員が本来行う準備や様々な調整等の負担減にもつながっている。

●その他

- ICTの活用
- 地域企業のCM作成では、動画・静止画・音楽・音声を組み込んだCMを作り上げるので、マイクロソフトのムービーメーカーを使って製作している。
 - 地域への政策提言では、パワーポイントを使ったプレゼンテーションを行うため、聴衆者に伝わりやすいスライドの作成に取り組んでいる。
 - 土曜英語塾においては、学習指導のひとつとしてインターネット学習ツール(スタディサプリ)を活用している。



地域でのCM発表会



県政課題の解決策を知事に提言

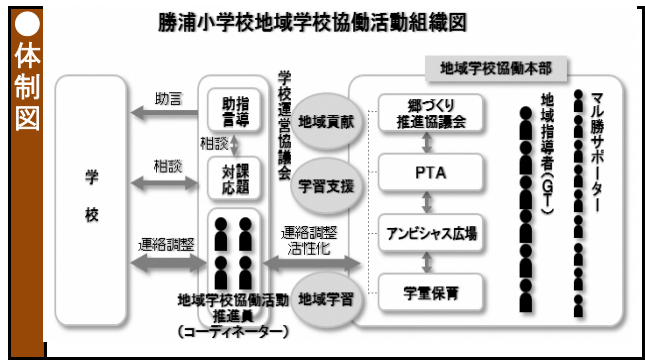


子どもの社会力と地域の笑顔をめざして —地域コーディネーターを位置付けた協働活動の一体的推進—

福岡県福津市	●活動名	●関係する学校名
	勝浦地域学校協働本部	福津市立勝浦小学校

協働活動開始年度	平成 27 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	6 学級	のべ児童・生徒数	82 人
活動区分	学校支援活動	—		地域人材育成	—		
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		
	—		—		4人		
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
	平成21年2月17日設置	—	52人	—	—		
参考URL	http://www.city-fukutsu.ed.jp/katsuura-e/						

●連絡先	福津市教育委員会 学校教育課	☎ 0940-62-5090
------	----------------	----------------



●活動の概要・経緯
勝浦小では、人・自然・文化に恵まれた小規模校の特色を生かし、「一人ひとりの確かな自己存在感と郷土に生きる誇り」を醸成している。そのために従来より「獅子楽」「人形浄瑠璃」「稲作体験」などの郷土学習を推進しているところであるが、その継承と発展をめざし、地域コーディネーターを配置し、学校支援地域本部を組織してきた。このような組織基盤を基に、平成29年度からは郷土学習のみならず、福津市独自の自治活動組織である勝浦郷づくり推進協議会、PTA、アンビシャス広場、学童保育などの関係団体との連携を深め、地域学校協働本部として地域学校協働活動推進員（以下地域コーディネーター）を核としながら活動を推進している。活動の中では、郷土学習や学習支援はもとより、デイサービスセンターとの交流、新原奴山古墳群でのイルミネーションの装飾など地域貢献活動を位置付け、学校と地域が互いに元気と笑顔になるよう一体的な協働活動を推進している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①多様な郷土学習：「獅子楽」「人形浄瑠璃」「稲作体験」「みそづくり」など、伝統文化や地域人材を中核にした学習の継承・発展
- ②地域貢献活動：「デイサービスセンター交流」「古墳・de・イルミネーション」など関係団体とタイアップした活動の推進
- ③マル勝サポーター制度：郷土学習、補充学習を支援する「マル勝サポーター」登録制度によるスタッフの確保と活用
- ④地域一体となった地域学校協働本部：勝浦郷づくり協議会、PTA、アンビシャス広場、学童保育、地域団体と一体となった協働活動の推進
- ⑤地域学校協働活動推進員の効果的配置：学校と地域学校協働本部との連絡調整と活性化を図るコーディネーターの配置と活用

【実施に当たっての工夫】

地域と一体となった双方向的な活動にするために、福津市独自の自治活動組織である郷づくり推進協議会・PTA・アンビシャス広場・学童保育などで構成した「地域学校協働本部」を設置し、組織的に推進している。ここでは、全団体の行事を記載した「年間計画一覧表」を作成し、地域全体で年間を通してどのような活動が行われているか周知され、より効果的な活動になるようそれぞれの立場で支援することで円滑な取組がなされている。このような情報をもとに、地域コーディネーターが中心となり、学校や学級担任と打ち合わせをしながら、地域との連絡・調整を図っているため、全体としてよりよい活動に発展している。

また、教職員や担当者が代わっても持続可能なシステムが構築できるよう、「地域コーディネーター活動記録」をデータ化し、共有している。学校及び多様な関係団体の活動を取りまとめたり、それぞれに関わる人々の思いをすりあわせたりすることで、地域コーディネーターと学校・地域団体との連携が緊密になり豊かな教育活動が推進されている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

子供たちと地域の大人がともに汗を流すことで、「子ども達のために」「地域のために」という思いが深まっている。また、これまで関わりの薄かったデイサービスセンターと交流したり、みそづくりなど新たな郷土学習を進める中で地域人材の掘り起こしも可能となった。

多様な郷土学習や地域貢献活動の成果として、「学校教育そのものが豊かになってきている」という声が多数聞かれ、伝統文化の継承や自己存在感の醸成など教育活動の面からも非常に効果が高い。さらに、それまで教師と地域指導者が直接計画してきた郷土学習をコーディネーターが連絡調整することで、教員の業務改善につながっていると、教師と指導者それぞれの思いを生かしながら活動を推進できるようになってきている。

● その他

マル勝サポーターは、郷土学習だけではなく、教科補充学習の支援も定期的に行っている。また、郷土学習の成果は地域のみならず、様々なステージで発揮され、広く地域貢献を果たしている。



マル勝サポーターはなまると先生（学習補充活動）



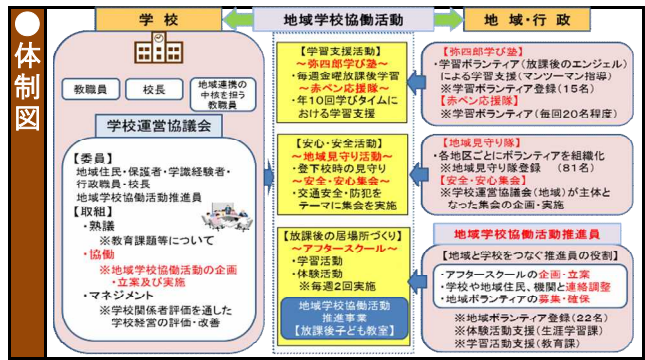
郷土学習「人形浄瑠璃」を披露する（地域貢献活動）



地域の中で、子どもたちの「安心・自信・居場所」づくりを！ ～学校運営協議会、地域学校協働活動推進員との連携を通して～

福岡県筑前町	●活動名	●関係する学校名
	中牟田小学校地域学校協働活動	筑前町立中牟田小学校

協働活動開始年度	平成 29 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	14 学級	のべ児童・生徒数	330 人
活動区分	学校支援活動	—		—		—	
	—	放課後子供教室		—		—	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数			
	—	—		2人			
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
	平成24年4月1日設置	—	128人	—	—		
参考URL	http://nakamutaes.chikuzen.ed.jp						
●連絡先	筑前町生涯学習課		☎ 0946-24-8762				



●活動の概要・経緯

平成24年度よりコミュニティ・スクールに指定され、「熟議・協働・マネジメント」を柱に地域と連携した学校教育の推進に努めている。この間、学校運営協議会や既存のボランティア組織を母体に、放課後学習「弥四郎学び塾」がスタートし、地域ボランティアと学校が協力を重ね、子供たちの学びへの自信を育むためにマンツーマン方式での学習支援活動に取り組んできた。また、学校運営協議会の働きかけにより、子供たちの「安心・安全」を目的とした地域見守り隊が組織され、地域の中で子供たちを見守る取組も進められている。このような地域ボランティアによる学校支援を基盤として、平成29年度より、中牟田小アフタースクール(放課後子供教室)事業をスタートさせ、地域コーディネーター(現在、地域学校協働活動推進員)、地域ボランティア及び生涯学習課、教育課と連携を図りながら体験活動や学習活動を通じた子供たちの居場所づくりに取り組んでいる。

● 活動の特徴・工夫

- 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】**
- ①「学びへの自信」を育むための弥四郎学び塾:「放課後のエンジェル(学習ボランティア)」が、マンツーマンで学習を支援。
 - ②学習の定着を育むための中牟田小学びタイム(年間10回):赤ペン応援隊(保護者)として、1～3年生への丸つけの支援。
 - ③安心・安全な地域づくりのための学校支援:「地域見守り隊」による登下校時の安全及び不審者等に対する見守り活動の実施。
 - ④交通安全・防犯意識を育むための学校支援:学校運営協議会委員(地域住民)による、地域目線からの安全・安心集会の実施。
 - ⑤放課後子供教室(中牟田小アフタースクール)による多様な体験活動と学習活動を実施:遊び、作品づくり、英会話、ミニ運動会等多様なメニューの工夫。家庭学習の定着、習慣化をめざし、指導経験を有する講師・地域ボランティアによる指導の充実。

【実施に当たっての工夫】

学校運営協議会のメンバーが、地域学校協働活動のコーディネーター役を担うことで、学校のニーズや課題を踏まえた熟議を行うことができ、より効果的で地域主体の学校支援活動を仕組むことができる。また、コーディネーターのネットワークを生かすことでボランティアの拡充につながっている。

既存の学校支援ボランティアグループのメンバーが、地域学校協働活動推進員になったことで、アフタースクール(放課後子供教室)のボランティアとしても積極的に活動してもらっている。また、推進員と筑前町教育委員会(生涯学習課、教育課)とが連携して事業を実施することで、生涯学習課が把握している多様な人材、団体、機関を体験活動に活用することができたり、教育課指導主事が学習活動への支援を行うことで、より専門的で、児童の実態に応じた活動を実施することができたりすることにつながっている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

弥四郎学び塾における地域ボランティアのマンツーマン指導が、子供たちの学びへの自信、学力の向上につながっている。また、親身になって指導していく地域ボランティアは、子供たちの変容を通して、やりがいを感じ、自己有用感の向上にもつながっている。さらに、様々な取組に対して、学校運営協議会のメンバーや地域学校協働活動推進員が主体的に企画、実施していくことで、ボランティアの輪が広がり、今まで以上に学校教育活動に関心をもち地域の方が増え、学校支援活動に広がりをもつことができた。

地域見守り隊のボランティアについては、交通安全指導だけでなく、子供たちと挨拶や言葉を交わすことで、顔が見える関係を築くことができ、子供たちの安心・安全の環境づくりにつながっている。

● その他

地域・保護者からなる読書ボランティア(サークル「エルル」)が、定期的に読み聞かせをしたり、休み時間を利用して工夫を凝らしたお話を企画したり等、子供たちの読書活動の推進に関わっている。



弥四郎学び塾においての学習支援の様子



アフタースクールでの「放課後子供教室」の体験活動

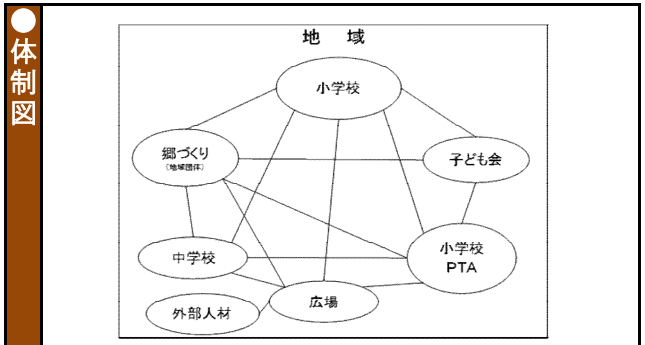
こんな活動です

地域ぐるみの子育てを目指して 一子どもたちが輝く明日のために

福岡県福津市	●活動名 つやざきアンビシャス広場	●関係する学校名 福津市立津屋崎小学校
--------	----------------------	------------------------

協働活動開始年度	平成 27 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	32 学級	のべ児童・生徒数	849 人
活動区分	—	—	—	放課後子供教室	—	—	—
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	—	配置人数	—	地域学校協働活動推進員等の数	—	配置人数	7人
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	—	延べ登録人数	—	企業・NPO等との連携	有
参考URL	http://www.ambitious.pref.fukuoka.jp/circle/detail?h_id=62						

●連絡先	つやざきアンビシャス広場運営委員会	☎	090-6429-3412
------	-------------------	---	---------------



●活動の概要・経緯

拠点である津屋崎小学校の協力の下、地域の方・保護者・学生などがボランティアとして子供を見守る居場所を平成14年から開設している。つやざきアンビシャス広場は「子ども同士の出会い、子供と大人の出会い、大人同士の出会い」の場としての機能を担っており、地域ぐるみでの子育てを目指し、地域で活動している団体・小学校PTA・中学校PTAをつないで活動している。平日は放課後の子供の居場所として、子供たちは学年を超えて思い思いの活動を実施している。また、土日や長期休業日は、外部人材を活用して、自然体験や宿泊体験、社会体験などの豊かな体験・教育活動を実施している。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①保護者に2～3か月に1回、放課後の見守り当番をお願いしている。当番の日には児童の弟や妹(乳幼児)を連れて来る方もいて、小学生が乳幼児と触れ合う場となっている。
- ②社会体験として、年数回はバスや電車などの公共交通機関を利用して市外に行く活動を実施している。
- ③15年超と長期に亘って活動してきたことから、つやざきアンビシャス広場を巣立った中学生や大人が、見守りや指導者として活動するという機運が醸成されている。また、上級生が下級生に遊び方や料理などの体験活動を教えている。
- ④土日や長期休業日に、地域の特産品の畑や観光地を巡るウォークラリーを開催するなど、地元へ愛着が湧く活動を取り入れている。

【実施に当たっての工夫】

つやざきアンビシャス広場は、地域の大人が主体となって運営委員会を設置して運営している。拠点となっている小学校との連携を図るため、適宜、先生方と情報提供し合いながら、子供たちの安全・安心な居場所づくりに努めている。また、地域ぐるみでの子育てを目指すため、地域の読み聞かせ団体や自然学校、食品加工所などの団体の協力を得て、子供が地域の大人と繋がる機会を設けている。

保護者には、学校や家庭以外で過ごす子供の様子を見て、子供の成長を感じてもらうため、2～3か月に1回、子供たちの見守り当番をしてもらっている。当番制を採用することで、どんな活動をしているか保護者が理解し、安心して子供たちを参加させている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

「地域ぐるみの子育て」を目指し、地域の大人が積極的に体験活動の指導をしている。指導に関わった大人からは「子どもから元気をもらった」という声がある。

自由遊びやさまざまな体験活動を通して、異年齢間交流が盛んに行われ、上級生が下級生の面倒をみたり思いやりの心や感謝の気持ちで育まれたりしている。

活動の終了時には、帰りの会を子供の司会で実施しており、1年間で子供が物怖じせずに人前で話せるようになっていく。

保護者が活動を見守ることで、活動への理解や協力が進んでいる。

外部人材の方の活動への理解や協力が進み、毎年、子供たちに指導してもらえる関係が構築できた。

●その他

平日のつやざきアンビシャス広場には、お母さんと乳幼児も参加。休日は、月に1～2回、地元の自然環境や人材を活用した様々な体験活動を行っている。



松林についで物に詳しい方々を自然学習に招いて



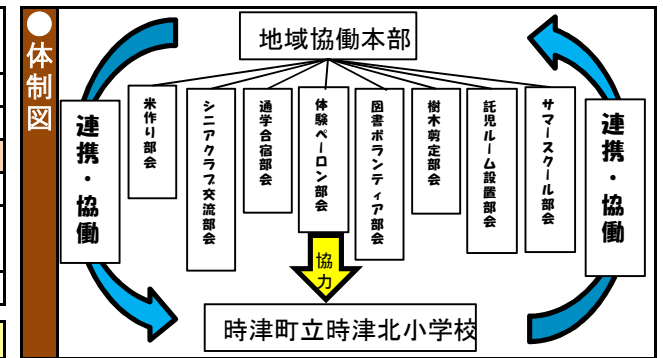
放課後の居場所―乳幼児との出会いも楽しい時間―

～地域とともに歩む学校を目指して～

長崎県西彼杵郡時津町	●活動名 時津北小学校地域協働本部	●関係する学校名 時津町立時津北小学校
------------	----------------------	------------------------

協働活動開始年度	平成 29 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	15 学級	のべ児童・生徒数	318 人
活動区分	学校支援活動 地域未来塾		—		—	地域人材育成	—
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		9人	
学校運営協議会	指定・設置日 平成29年4月1日設置	ボランティアの数		延べ登録人数	115人	企業・NPO等との連携	無
参考URL	http://www1.cncm.ne.jp/~togitsukita-e/						

●連絡先	時津町教育委員会社会教育課	☎ 095-882-2211
------	---------------	----------------



●活動の概要・経緯

学校と地域で決めた共有目標のもと、地域のニーズを学校運営に反映させ、学校の求めを地域が円滑に支援するために、シニアクラブや地域の青年団体、図書ボランティア、長崎大学学生ボランティアなど、様々な関係団体が学校と繋がり、活動を行っている。

当地域協働本部は、「学習支援部」「環境整備部」「地域体験部」「安全安心部」から成り、各部に所属する関係団体が所属している。4月の総会の際には、「体験ペーロン部会」「米作り部会」「サマースクール部会」等、さらに細かく部会を設けて、年間の活動計画を協議する。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①活動に応じた部会の設置・・・活動に参画する各種団体関係者が一同に会し(北小地域協働本部総会)、日程や活動内容の確認をする。
- ②朝の見守り活動・・・シニアクラブの協力のもと、校区内の要所所で子供たちの安全のために立哨活動を行っている。
- ③文字、活字に触れる機会の充実を目指した活動・・・読書活動の充実と本好きの子供を育てるため、保護者を中心に図書ボランティア「ブックロー」を発足。また、シニアクラブ有志による「読み聞かせ隊」を発足し、授業前の読み聞かせ活動を低学年を対象に実施。
- ④サマースクールの開講・・・夏休み期間中、子供たちの安全・安心な居場所作りと学力の向上のため、サマースクールを開講(14日程度)している。教科を算数科のみに絞り、主に地域の元教員や大学生ボランティアが指導にあたっている。
- ⑤ペーロン体験・・・地域住民によるペーロンチーム「海遊会」協力のもと、高学年を対象にペーロン体験を実施。

【実施に当たっての工夫】

- ・見守り活動では、登下校の挨拶のみではなく、「ちゃんとお飯食べてきたね。」「おはよう。今日は元気ないね。どうしたの。」等、温かい言葉をかけたり、会話をしたりするように心がけている。
- ・ふるさとである時津町のよさを実感させるために、各種団体の協力のもと、地域の風土や伝統に根差した取組(「ペーロン」「かんころもち作り」「みかん狩り」等)を多く取り入れている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

地域学校協働活動を通し、地域の各種団体や長崎大学の学生ボランティア等、様々な団体とつながりができている。シニアクラブと子供たちとの活動では、交流が深まり、地域に顔見知りの大人が増えることで、安全・安心な町づくりにもつながっている。子供だけでなく、大人同士のつながりや、地域と学校との交流も深まり、住民の学校理解の促進につながると同時に、地域の方々にとっては、様々な活動に参画することが、やり甲斐や生き甲斐にもつながっているのではないかと感じる。子供たちも、様々な活動を通して体験を豊かにし、感謝や思いやりの心を育てている。

● その他

- ・図書ボランティア「ブックロー」は、学校図書館の環境整備の他にも、自ら企画・運営して、新春福引き会(写真左)を開催している。
- ・サマースクール(写真右)には、毎年30名以上の5・6年生が参加している。算数科の復習を中心に取り組んでいる。



会大好評だった新春福引き

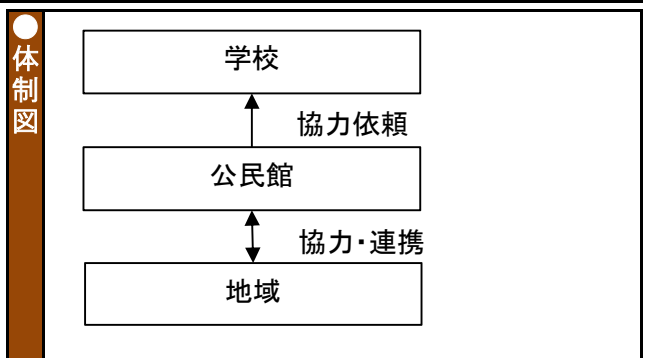


のサマースクール(夏休みの補習活動)

長崎県北松浦郡小値賀町	●活動名 おちか山学校	●関係する学校名 小値賀町立小値賀小学校 小値賀町立小値賀小学校大島分校
-------------	----------------	---

協働活動開始年度	平成 29 年度	関係学校数	2 校	のべ学級数	10 学級	のべ児童・生徒数	85 人
活動区分	—	地域課題解決学習		地域人材育成			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		
	—		—		1人		
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
	平成31年4月1日設置予定	—	—	—			
参考URL	—						

●連絡先	小値賀町教育委員会教育生涯学習班	☎ 0959-56-3838
------	------------------	----------------



●活動の概要・経緯

平成19年度より発足、翌年の平成20年度から活動の名称を「おちか山学校」に正式に決定、現在まで続いている。平成28年度までは、毎週月曜日に子供たちが自由に活動を行う「放課後子ども教室」、土日祝日に普通の放課後ではできない特別な活動を行う「土曜学習」としての2つの役割を果たしていた。

また、「おちか山学校」は「土曜学習」の場を中心として、大人と子供の協働活動により地域課題の解決や地域人材の育成に力を入れている。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

おちか山学校では、開催する講座ごとに参加者の募集を行っている。講座の日程を決定後、案内チラシを作成、小学校に全児童へのチラシの配布及び参加を依頼している。活動の際には土曜教育支援員として、婦人会やNPO団体等の地域の方に参加、協力をお願いしている。活動内容については、小値賀町公民館から月1回発行している「こうみんかんだより」で町民に報告している。

【実施に当たっての工夫】

活動は主に子供(小学生児童)とその家族を参加対象としているが、離島の地域性から、幅広い住民に参加対象を広げたり、他の団体や事業と協同行っている活動がある。

- 三代交流グラウンドゴルフ・町内の高齢者、女性、子供を対象としたグラウンドゴルフ大会。
- すつてくる広場・町内の育成会に依頼して参加者を募集、もちつき大会を行う。もちつき終了後は、婦人会が中心に調理したお雑煮を参加者全員で食べる。「すつてくる」は小値賀の方言で「やんちゃ」という意味。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

カヌー教室などを行う際には町内のNPO法人、料理教室を行う際は町内の婦人会に講師を依頼する、というように地域の人材、団体を活用している。また土曜教育支援員を務めている方々は「おちか山学校」以外の町内の子供を対象にした活動にも参加しており、子供からも親しまれている。

子供は活動を通して地域の人々とのつながりを強めたり、地域の良い部分を認識したりしながら、地域に根付く人材としての資質を身につけることができる。また、普通の学校などではできない体験活動を行うことを通して、子供や関わる大人のがんがりが広がり、地域の元気づくり、活力のあるまちづくりにもつながる。

●その他

平成29年度は初めての試みとして、護岸壁に描かれた壁画の修復を目的とした「野外アート教室」、また「ながさき土曜学習応援団」を活用し、町外から講師を招いて「科学実験教室」を開催した。



「実際には子供たちが竹を切ったりして作る」



「20年以上前に描かれた壁画の修復を行う」

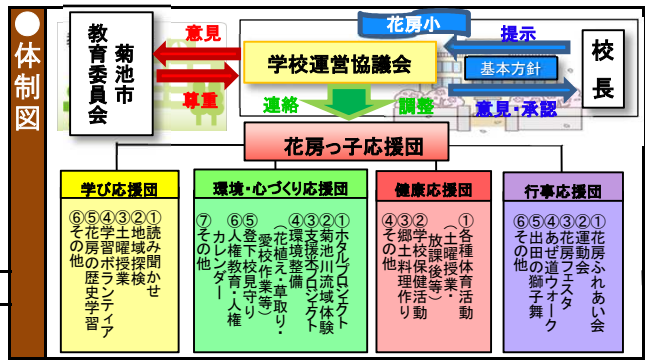
こんな活動です

花房っ子応援団「どなたでも できるしこ」

熊本県菊池市	●活動名	●関係する学校名
	花房っ子応援団	菊池市立花房小学校

協働活動開始年度	平成28年度	関係学校数	1校	のべ学級数	7学級	のべ児童・生徒数	74人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習		地域人材育成		外部人材を活用した教育支援活動	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	1人		32人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携			
	平成28年10月13日設置		32人	無			
参考URL	https://www.city.kikuchi.lg.jp/school/hanabusa-es/						

●連絡先	菊池市教育委員会 学校教育課	☎0968-25-7230
------	----------------	---------------



●活動の概要・経緯

花房小学校は、従来から地域密着の学校であり、ゲストティーチャーや学習アシスタントとして地域の教育力を活用してきた。平成20年度から平成24年度までの5年間は、放課後子供教室を実施していた。現在は、「子どもの登下校見守り」や「昔遊び体験」、郷土伝統芸能「出田の獅子舞」、地域の環境の再生を目指しての「ホタルプロジェクト」、花房飛行場跡地での平和学習、菊池川体験等を地域人材を活用した取組を実施している。また、学校と地域が共催で行う地域文化祭「花房フェスタ」も10年以上実施している。3年前から学校運営協議会(委員15名による)を立ち上げ、学校、保護者、地域が協働し運営するコミュニティ・スクールになった。その学校運営協議会の中に学校と地域人材をつなぐ地域コーディネーターを置き、連絡調整を行い、スムーズな運営が可能となっている。学校への協力体制として「花房っ子応援団」を募集している。学校の取組を地域が一体となって応援し、活気のある学校づくり、地域づくりにつながっている。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①「子どもの登下校見守り」では、多くの方が横断歩道に立ち、交通指導をする。中には、遠距離の登校班と毎日一緒に歩いてくる地域人材もいる。
- ②地域の伝統芸能「出田の獅子舞」は、総合的な学習の時間を活用し、地域保存会から10年以上指導いただいている。
- ③土曜授業の時間を活用したホタルプロジェクトや菊池川体験では、地域人材がゲストティーチャーとして児童に指導することで、環境教育学習につながっている。
- ④学校と地域が共催で開催する「花房フェスタ」は、学校、地域の作品(習字や絵画等)の展示、児童の学習発表や「出田の獅子舞」、地域の演芸等を発表する地域文化祭である。また、児童が多くの地域人材(学校応援団)に指導を受けて、絵手紙、昔遊び体験、郷土料理づくり、餅つき体験等を行っている。

【実施に当たっての工夫】

地域コーディネーターは、地域の社会福祉協議会会長であり、地域に精通しており人望もある。学校授業に必要なゲストティーチャー等の依頼に対して、特技等をもった地域人材の紹介や、情報提供を行っている。活動を通して、地域人材にとって学校や児童との関わりができ、生きがいや達成感にもつながっている。特に、学校が授業や学校行事に地域人材の協力を依頼する場合、地域コーディネーターを通すことで、教職員の事務の負担軽減につながっている。また、学校運営協議会会長は地域の公民館長であり、地域のまとめ役として活動し、学校と地域が一体となった取組が容易であるとともに、学校への協力体制が強固なものになっている。また、コミュニティ・スクール便りを作成し、地域全戸に配付することにより、応援団活動の見える化を図るとともに、「地域の子どもたちを地域で育てよう」という共通認識を持つことで、スムーズな活動運営が行われている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

児童が、地域の伝統芸能「出田の獅子舞」を地域保存会から学び、地域の伝統を受け継ぐとともに、地域文化祭「花房フェスタ」で地域住民に披露することで、花房地域の素晴らしさを再確認している。「出田の獅子舞」等のように学校と地域が協働することで、「我が学校」の意識が高まるとともに、学校の授業参観や教育講演会、遠足、環境整備等への地域の参加がより積極的になった。また、学校への協力体制や地域での「児童への見守り」の意識が確かなものとなってきている。そして、学校を「地域の核」に据え、地域の活性化につなげようという意識の高まりが見られる。

●その他

ふるさとを愛する心やコミュニケーション能力を育むために、教科横断的な学習として、総合的な学習や土曜授業で地域の方と一緒に活動している。



をの地舞う統の子文人供たである出田のい獅、子地域舞



ナ虫地のにの域のえ観の方と察さやや幼校を虫区の小川での子さ供のた力蛍ちワの二幼

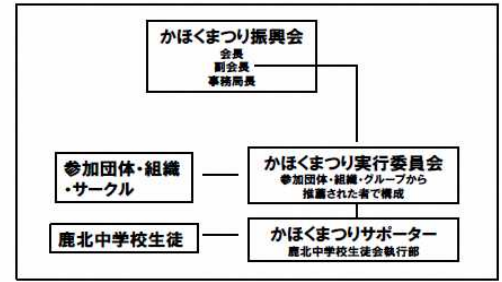
こんな活動です

かほくまつり「手をつなごうプロジェクト」 ～めざせ！500人のふれあいの輪～

熊本県山鹿市	●活動名	●関係する学校名
	かほくまつりサポーター会議	山鹿市立鹿北中学校

協働活動開始年度	平成 27 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	3 学級	のべ児童・生徒数	67 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成				
	地域未来塾	—	—				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	1人	—	7人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
	平成28年4月1日設置	—	50人	—	—		
参考URL	y-kahokuih@educet01.plala.or.jp						

体制図



●連絡先	山鹿市立鹿北中学校	☎ 0968-32-2019
------	-----------	----------------

鹿北町最大のイベントである「かほくまつり」に企画段階から参加したいとの中学生の要望に応え、かほくまつりサポーターとして中学生が活動に参加することとなる。サポーター会議を行う中で、中学生が考えた企画「手をつなごうプロジェクト」が採用された。会場に来られた方々500人で手をつなぎ世代を超えた一体感を演出するイベント。「手をつなぎみんなで伸ばそう鹿北町」というまつりのスローガンを、具体的な形として中学生が表現していった。この日のために、動画制作、ポスターづくり、首からかけるカードづくりなど、中学生が一つ一つ手作りで準備を進めてきた。当日は500人以上が集まり、まつり会場があるグラウンドいっぱい大きな人の輪ができ、感動の場面を創り出すことができた。中学生の取組は地域に元気と活気を与えるとともに、たくさんの感動の音が寄せられた。活動を通して地域と学校が共に地域活性化に取り組む方向性が見えてきた。次年度は、中学生が地域神輿の再興に取り組む予定である。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①中学生の要望を学校運営協議会で取り上げたことが、かほくまつり実行委員会への参加につながった。
- ②中学生が「かほくまつりサポーター」として、まつりのスタッフに位置づけられ、地域活性化を担うこととなった。
- ③地域学校協働活動推進員を通して、中学生が「社会の接点での学び」を充実させ、社会性の涵養を図ることができた。
- ④中学生によるPR動画作成を通して、たくさんの地域住民の方々との交流が生まれ、地域を巻き込んだ取組となった。
- ⑤PRポスターを作成し、保育園、小学校、町の各施設に掲示することで、中学生がまつりを主体的に宣伝する姿が見られた。
- ⑥町からの要請を地域学校協働活動推進員が中学校に連絡。生徒会が協議し抽選券配付やボランティア活動を行うこととなった。

【実施に当たっての工夫】

- ・鹿北市民センターが活動の拠点となり、中学校の取組をサポートするなど、コーディネーター役を担うことで活動を計画的かつスムーズに行うことができた。
- ・手をつなごうプロジェクトの企画とともに、マラソン大会への出場、まつり会場での赤い羽根共同募金、福もちまき、小中学生による合唱や吹奏楽部の演奏など、多岐にわたる活動への参加など、小中学生の活躍の場を意図的につくることで、地域と一体となった活動へと高めることができた。
- ・地域の方々を巻き込んだPR動画作成やポスター掲示などの事前活動の実施。また、当日は、500人が手をつなぐことで、人と人とのつながりをつくり、地域の人々の一体感を演出。

中学生がまつりの企画段階から参加することは、今までにないことである。そして、中学生が企画を考え、地域を巻き込んだイベントを成功させたことは、地域の方々にとって衝撃的なことであり、大きな喜びとなった。中学生にとっても、一つのイベントをやり遂げたことは大きな自信となり、地域の方々の笑顔が自己有用感を高めることとなった。学校という空間から地域へと目を向けるきっかけとなったのが、地域学校協働活動である。今後も、この活動を活性化させることで、地域と学校を結ぶ新たな取組の可能性を広げていくこととなる。まつりへの中学生の参画だけでなく、保育園児や小学生の参加をより活発化させ、地域行事を主体的に担う人材を育てていく活動としたい。

● その他

地域学校協働活動推進員のコーディネートにより、中学生が地域交流する場が数多く設定されている。各地区のサロン会、地域の祭、福祉施設などでは、中学校吹奏楽部の演奏会が実施された。



かほくまつり当日、手をつなぐ人々の輪が会場いっぱいでき



PR動画制作。消防署の方々と手をつなぐ場面を撮影。自働車整備工場なども訪問

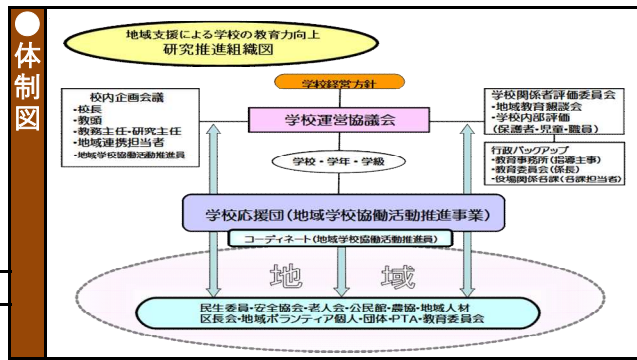
こんな活動です

地震にも負けない地域力で、子ども達の学びと成長を！

熊本県益城町	●活動名	益城中央小学校 地域学校協働活動	●関係する学校名	益城町立益城中央小学校

協働活動開始年度	平成 20 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	16 学級	のべ児童・生徒数	442 人
活動区分	学校支援活動	—		—		—	
	—	放課後子供教室		—		—	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数			
	—	—		2人			
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
	平成26年4月1日設置	—	169人	—	—		
参考URL	http://www.town.mashiki.lg.jp/kiji0032613/index.html						

●連絡先	益城町教育委員会 生涯学習課	☎ 096-286-3337
------	----------------	----------------



●活動の概要・経緯

公民館講座を受講した地域住民が、ボランティアとしてその成果を学校支援活動に活かしている。本活動は、公民館活動の充実、地域教育力の向上を狙っており、本町が目指す「知の循環型社会」を具現化している。学習支援(そろばん、習字、硬筆等)や総合的な学習の時間をはじめ、様々な分野で活動を実施している。地域学校協働活動推進員のうち1人を教育委員会に配置、また小学校には地域学校協働活動推進員を常駐に近い形で配置し、学校と地域住民がスムーズに連携協働した活動を展開している。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①公民館講座受講生が、様々な分野において地域学校協働活動を展開。
- ②放課後子供教室で、子供たちの学習向上に資するそろばん教室(支援員は公民館講座そろばん受講生を中心に組織)を実施。
- ③国語、理科、社会、算数で学習支援、生活科、総合的な学習の時間で体験活動支援、その他各教科で傾聴ボランティアを実施。
- ④3年生の総合的な学習の時間で、地域住民と共に防災マップを作成し、地域へ提供。
- ⑤避難所生活をしている方の支援で朝顔を栽培し、共に朝顔鑑賞会を実施。またソーイングボランティアの方々にエプロン作りの御礼として、交流会を実施。
- ⑥福祉課主管「地域サロン」で、地域の高齢者との交流を深めるための自己紹介の工夫(：私は〇〇の孫の〇〇です。)

【実施に当たっての工夫】

- ・学校配置の推進員は、学校教育課の補助職員配置事業の職員と兼務することで、常駐に近い形で活動し、地域の情報を提供することにより、学校のニーズを引出しやすくしている。
- ・推進員2名、教頭、教育委員会担当者による会議を実施し、成果、課題、共通実践内容の共有ならびに今後の対応について検討している。
- ・推進員が学校支援ボランティアへの支援要請文書を作成しており、教職員の負担軽減になっている。
- ・本部を含むボランティア組織等との連携や地域の人材の効果的な活用方策の検討を行っている。
- ・「熟識」「協働」「マネジメント」をキーワードにした「地域とともにある学校」づくりのための取組の検討を行っている。
- ・本協議会が、学校教育活動に積極的に参画している。例えば「丸付けボランティアが算数の学力向上につながっていない」との意見があり、「丸付けボランティア」の在り方に関して学校職員と協議を行い、新たな丸付け方法を考案した。また「当町の歴史的偉人を総合的な学習の時間等を活用し学ばせたい」という意見に対して、放課後子供教室で偉人講座を実施した。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ・ボランティアとして支援に参加した地域住民は学習成果の活用の場だけでなく、子供との交流や生きがいがつくりとなっている。また、きめ細やかな指導により、子供たちの学力や技能、意欲の向上が見られる。学校は地域の人的、物的資源を活かした能動的な授業を展開し、地域は学校への理解がより深まっている。
- ・「平成28年熊本地震」の際には、益城中央小学校も避難所として使用されたが、従来の学校支援活動により、地域と学校に深い繋がりが生まれてきたため、地域住民と学校の連携が上手いき、避難所運営も地域住民が主体となって行われた。地域学校協働活動による取組が、災害時にも活用された場面であった。益城中央小学校の地域学校協働活動の取組は、今後地震でつながりが失われたコミュニティ再生の中核とも成り得る。
- ・平成29年度には、文部科学省、県内外の自治体による視察も行われている。

●その他

年度末に一年間お世話になったボランティアの方に集まっていただき、「ボランティアの集い」を開催している。学年ごとに、ボランティアの方への御礼の手紙渡しや合唱等の発表等を通して、地域との交流を深めている。



理科の授業で
傾聴ボランティアの様子



そろばん授業の
指導・支援

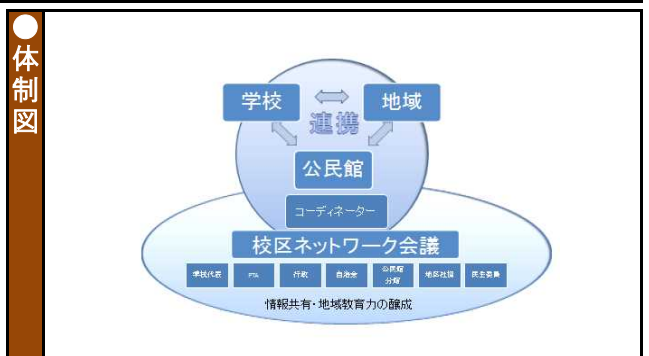
こんな活動です

子どもを中心に地域が元気！ありがたい気持ちで繋がろう！

大分県佐伯市	●活動名	●関係する学校名
	直川地区校区ネットワーク	佐伯市立直川中学校 佐伯市立直川小学校

協働活動開始年度	平成 20 年度	関係学校数	2 校	のべ学級数	10 学級	のべ児童・生徒数	84 人
活動区分	学校支援活動	—		—		—	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	1人		1人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携			
	平成31年4月1日設置予定		251人	有			
参考URL	http://svou.oita-ed.jp/saiki/naokawa/						

●連絡先 佐伯市教育委員会社会教育課生涯学習推進係 ☎ 0972-22-3245



●活動の概要・経緯
平成20年度に直川地区公民館に校区コーディネーターを配置し、学校や自治会、各種団体と連絡調整を図りながら、校区ネットワーク会議を設置した。子供の健全育成に関係する団体が集まり、定期的な情報交換や事業協力などの連携をもとに、地域の教育力の醸成を行っている。この関係性を軸に、コーディネーターがかかわりながら、学校支援活動や放課後・休日の子供の体験学習に取り組んでいる。このような活動の中で、地域での発表等、新たな取り組みも生まれており、ネットワークの深まりが子供たちを中心とした活力ある地域づくりに繋がっている。また、平成31年度には直川地区学校運営協議会を設置する予定となっており、さらなる連携・協働に向けた体制を構築することとなっている。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 学校支援事業：毎日の交通指導や読み聞かせ活動など、地域の方が子供たちと関わる機会が多く、この「顔を会わせての声かけ」が、地域と学校、子供たちとボランティアをつなぐ大きな礎となっている。
- 放課後子ども教室：茶道、ダンス、ギターなどの体験教室、4年生を対象にした学習指導を、放課後の居場所づくりの一環として行い、10月と2月に発表会を実施した。
- 直川サタデー苦楽部：登山などの自然体験や外部から講師を招いた体験学習の中で、他の校区ネットワーク会議との合同実施を行い、地域の伝統漁法である鮎のちよんがけ体験などで同世代交流を図っている。
- 通学合宿：キャンプ場に宿泊し、自分たちで調理洗濯等をしながら学校に通学する事業で、6月の実行委員会から始まり、事前研修会、本研修、10月の事後研修まで公民館を中心に学校、家庭、地域の協力のもと取り組んでいる。

【実施に当たっての工夫】

事業の実施に当たっては、事業を通じた「人の繋がり」を大事にしており、地域から学校への一方通行でなく、地域に発信する流れを意識した構築を行った。子ども教室では子供たちの学校生活や学習には地域のボランティアが多くかかわっており、子供たちがなるべく多くの方々と関わられるよう、他の校区ネットワークとの合同体験活動や、放課後子ども教室の発表会を行った。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

校区ネットワーク会議で、地域全体の情報交換や事業関係者の会議のほかに、コーディネーターを中心に学校と公民館が定期的な情報交換ができており、学校と地域の信頼関係が深まっている。地域の理解者も増え、子供たちと顔を会わせ声を掛け合う繋がりを喜びとして、子供のために何かできないかと学校支援活動に参加していただける地域の方も多い。今回、地域の祭りで発表した際には、地域の方から「ありがとう」「よかったよ」と感謝の声を掛けられ、子供たちも地域との繋がりをより感じる事ができた。最近では地域の祭り等への参加者が減少しており、地域から与えられるだけでなく、地域に感謝を伝えられる繋がりをもつ活動が活力ある地域づくりに繋がると考えている。

●その他

地域の子供が少なく子供の関係性が固定化しがちなため、自然体験活動の際に他の校区ネットワークと合同で同年代の交流事業として実施。



通学合宿
夕飯調理

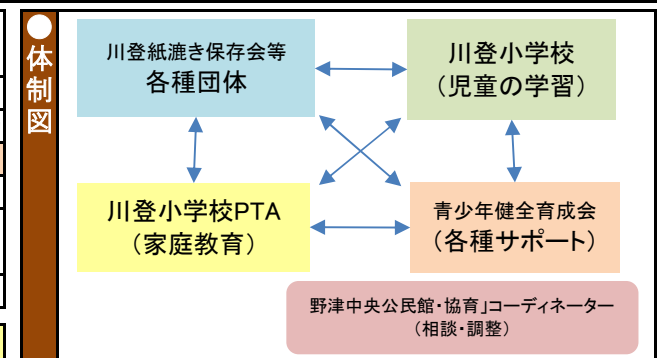


地域の秋祭りでの
ダンス発表

大分県臼杵市	●活動名	●関係する学校名
	川登小学校区青少年健全育成会	臼杵市立川登小学校

協働活動開始年度	平成 27 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	5 学級	のべ児童・生徒数	27 人
活動区分	学校支援活動	—	—	—	—	—	地域人材育成
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	1人	外部人材を活用した教育支援活動	
学校運営協議会	指定・設置日	平成31年4月1日設置予定	ボランティアの数	延べ登録人数	13人	企業・NPO等との連携	有
参考URL	http://svou.oita-ed.jp/usuki/kawanobori/						

●連絡先	臼杵市教育委員会 野津中央公民館	☎ 0974-32-2270
------	------------------	----------------



●活動の概要・経緯

川登地区では青少年健全育成会の活動として、あいさつ運動などの安心安全対策、除草・剪定作業や運動場整備などの学校環境整備、地域の歴史や特性を活用した教育活動の支援などに取り組んでいる。平成27年度からは、地域に「協育」コーディネーターを配置し、活動の実施主体である、川登紙漉き保存会や川登小学校愛護クラブ、読み聞かせボランティア、地元の史談会や地域の民間事業所など、多様な関係団体と連携して企画・運営を行う体制を構築している。

それらの活動の集大成である卒業証書づくりに象徴されるように、地域への誇りと愛情を育む6年間になるよう、地域資源を活用した「社会に開かれた教育課程」を具現化し、学校との連携・協働により地域ぐるみで子供たちを育む活動となっている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①地域産業の継承：地域の伝統産業である川登和紙について、子供たちは紙の成り立ちから川登和紙の歴史などを学習するとともに、地元で自生している材料で伐採から紙を漉くまでの一連の紙漉き工程を体験し、卒業にあたっては卒業証書を自らの手で作っている。
- ②他地域との交流活動：地域に伝わる「二孝女物語」の伝承が縁で始まった茨城県常陸太田市との交流も、児童を交えた市民訪問団を派遣するなど、地域と一体となった取組を継続している。
- ③地域資源を生かした活動：観光協会と連携しながら、校区内にある国指定の天然記念物である風連鍾乳洞の子供たちによるガイド活動を行っている。

【実施に当たっての工夫】

- ①和紙づくりでは、川登紙漉き保存会の協力の下、学校、PTA、地域住民からなる実行委員会を毎年開催し、情報の共有を図り、公民館の職員や協育コーディネーターが調整役を担い、組織的に実施している。
- ②「二孝女物語」の精神を継承するために、校内にある「二孝女」の石碑周辺の花壇を川登小学校愛護クラブが保護者と協力して整備するなど、学校環境の美化と合わせて地域の歴史の伝承にもつながる協働活動を行っている。
- ③郷土学習として実施している名所ガイドの活動では、案内文の作成や予行練習、ガイドの実践などを、鍾乳洞を運営する(有)風連鍾乳洞観光協会と連携して取り組んでいる。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

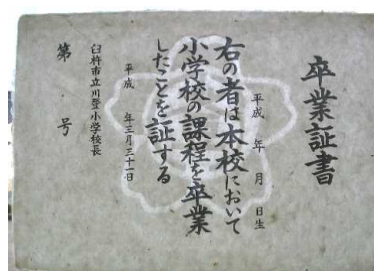
川登地区の多くの地域住民が、自分たちの持っている知識と技術を活かしながら、地域の特色を活かした学校支援活動に関心をもち、小規模となった学校を支え、学校と共に子供の成長を見守り育てる活動となっている。また、小学生は、自分の人生で初の卒業証書を自らの手で作る経験など、地域の特色を生かした郷土学習を通して、地元で自信と誇りを持つとともに愛着心が育っている。中学に進学した卒業生たちも、紙漉きを開催する日には母校に帰り、小学生の後輩を指導するなど、幅広い世代の人のつながりと地域の絆づくりにも貢献している。臼杵市全体で取り組んでいる「うすき土曜ふれあい学校」(土曜授業)においても、昨年度川登小学校の取組に多くの地域住民が参加するなど、みんなの「思い」「願い」「心」が響きあう教育の協働が実現されている。

● その他

地域の「ひと」「もの」「こと」を最大限に活用した「社会に開かれた教育課程」により、地域全体で6年間の子供の成長を支え、その集大成として、子供たちは地域の誇りと愛情が詰まった手作りの和紙の卒業証書を受け取り、学校を巣立っていく。



紙漉きの様子



和紙で作った卒業証書

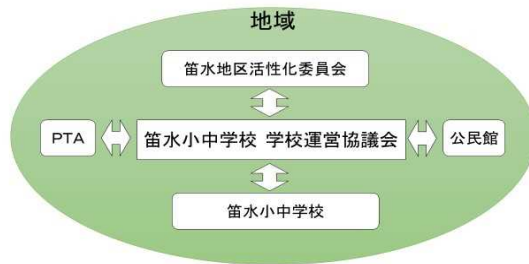


風連鍾乳洞のガイド活動

【学校運営協議会と地区活性化委員会との連携・協働】 地域の課題解決と学校の教育活動の充実を目指して

宮崎県都城市		●活動名 笛水地区活性化委員会			●関係する学校名 都城市立笛水小中学校		
協働活動開始年度	平成 27 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	2 学級	のべ児童・生徒数	12 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習		地域人材育成			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数 5人			
学校運営協議会	指定・設置日 平成25年4月1日設置	ボランティアの数		延べ登録人数 230人	企業・NPO等との連携		無
参考URL	http://cms.miyazaki-c.ed.jp/4336						
●連絡先	都城市立笛水小中学校			☎ 0986-62-4634			

●体制図



●活動の概要・経緯

学校運営協議会と連携をとり、米づくりなどの「体験活動」、地域の方と子供たちとの「ふれあい会」、「地域の祭り」、「ダム湖周辺整備作業」などの学校支援活動や地域貢献活動に取り組んでいる。また、学校が小規模特認校制度の指定を受けたことから、入学・転入学の子供を受け入れやすいよう地域が移住促進の支援体制を整備するなど、地域が「学校の応援団」、学校が「地域の応援団」として活動をしている。

本地区は、都城市の郊外(旧高崎町)にあり、人口減少、少子・高齢化などの地域課題を解決するために本地区活性化委員会を設立。さらに市教育委員会が進める学校運営協議会制度や小中一貫教育を受けて、本地区活性化委員会と学校運営協議会とが連携し、地区公民館等とのつながりをもちながら地域と学校が一体となった取組を進めている。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 1 学校支援活動
 - ①「ふれあい会」: 地域の高齢者の方とのグラウンドゴルフ等のレクリエーションや給食
 - ②「笛水夏祭り」: 学校やPTAの主体性を生かしながら毎年、企画・運営の支援をしていく地域の季節行事
 - ③「ふるさと教育」: 地域を巻き込んだ立志式、地域の方の講師による学習支援(そば打ち・米づくり体験等)
- 2 地域貢献活動
 - ①「笛水地区元気花壇整備」: 地区玄関として地域の方がボランティアでつくった花壇の整備
 - ②「ダム湖周辺整備作業」: 公民館と連携し、地区にあるダム湖周辺の環境美化作業

【実施に当たっての工夫】

本地区活性化委員会が学校運営協議会の委員になることで、地域の思いや願いを学校運営協議会に伝えたり、学校の思いや願いを地域に伝えたりできるようにし、目的や地域の実態、学校の教育方針、課題解決の方法等の共有化につながるようにしている。学校運営協議会が中心になり、コーディネーター役を担うことで、地域人材や地域団体等を学校教育諸活動と関連させた効果的な教育活動を工夫することができ、また、地域の高齢者への生きがいづくり、人間関係の希薄化などの地域課題への解決が可能となっている。学校の行事と地区の行事を合わせ、地域の子供から大人まで参画できる活動内容にし、人と人とのつながりができるようにしている。学校からの便りや地区の回覧板等により、「地域の子供は地域で育てる」という意識を高め、地域住民への周知を図るようにしている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 学校運営協議会と連携することで、地域の思いや願いや学校運営上の懸念事項を共有することで、よりよい対策等を熟議することができた。
- 教育活動の情報や諸行事のお知らせを地域の方へ周知することで、地域との連携が密になり、「ふるさと教育」の充実を図ることができた。
- 諸活動への地域住民の参加及び子供たちへの称賛が、子供たちのふるさとを思う気持ちの高まりや活動への意欲付けとなっている。

●その他

活性化委員会の主催のもとに、夏季休業中の第1土曜日、日曜日に、子供、保護者、職員が一緒になって「笛水キャンプ(宿泊体験学習)」を開催している。キャンプファイヤー、うなぎつかみ、カヌー体験、調理体験などの多様な体験活動をしている。



地域の子供たちを講師として受け入れ、学校でそば打ち体験を行っています。



子供たちが収穫したもち米を学校でももちつきに取り組みます。

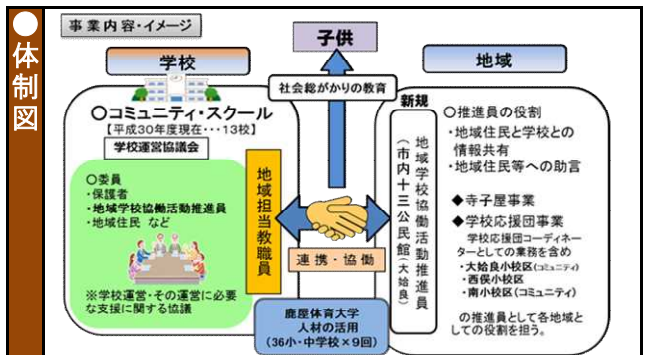
こんな活動です

地域の特色を生かして子供たちに輝く瞳を！ ～地域と学校の協働活動を通して～

鹿児島県鹿屋市	●活動名 かのや学校応援団大始良地域学校支援活動	●関係する学校名 鹿屋市立南小学校 鹿屋市立大始良小学校 鹿屋市立西俣小学校 鹿屋市立大始良中学校
---------	-----------------------------	---

協働活動開始年度	平成 27 年度	関係学校数	4 校	のべ学級数	31 学級	のべ児童・生徒数	598 人
活動区分	学校支援活動	—		地域人材育成	—		
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 4人				
学校運営協議会	指定・設置日 平成29年4月1日設置	ボランティアの数	延べ登録人数 62人	企業・NPO等との連携	無		
参考URL	hi.arimurae-kanoya.net						

●連絡先 鹿屋市教育委員会 生涯学習課 ☎ 0994-31-1138



●活動の概要・経緯
既存の学校応援団の活動の充実を目指し、学校教育活動を支援している団体や個人について、公民館がコーディネーターとしての役割を担い、学校と地域・関係団体をつないで活動している。公民館は、地域の多くの人たちが「集い」「学び」「むすぶ」役を担っている。そこで、公民館が中心となり既存の公民館運営協議会を活用し、地域ぐるみでの子供の育成についてテーマを決めて協議している。さらに、3小学校・1中学校の学校運営協議会事務局及び担当教員と公民館のコーディネーターとで協議の場を設け、実働的な活動になるよう取り組んでいる。
平日の放課後(週1日)と土曜日の子供の居場所づくりとして、公民館が中心となり教員や地域の人たちを指導者に、「鹿屋寺子屋」を開催し、地域で学べる多様な体験活動を取り入れている。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①多彩な学校支援:「にいま隊」…地域の伝統を継承するため「おやじの会」を母体に設立。学校とも連携。(西俣小)
- ②自学自習の機会を確保…放課後の子供の居場所づくりを地域ボランティアでサポート。(南小)
- ③地域ぐるみによる地域活動:地域での行事開催…「田植え」から「稲刈り」、「脱穀」までの取組を地域全体でサポート。(南小)
- ④朝の読み聞かせ(1～3年):年間を通して朝の活動の時間に読み聞かせを実施している。(大始良小)
- ⑤鹿屋体育大学の学生が部活動支援(バスケットボール、サッカー等)を行っている。また、キャリア教育では、地域の方をゲストティーチャーとして招聘している。(大始良中)

【実施に当たっての工夫】

公民館が中心になり、コーディネーター役を担うことで、多様な人材や活動団体・グループを、学校教育諸活動につなげることができ、より効果的な学習活動を仕組むことができる。学校がもっている学校支援ボランティアと公民館で活動している各種自主学習グループなど、地域の人たちをつなぐことで、多様な学習支援ボランティアの選択が可能となっている。学習ボランティアへの支援要請文書や礼状などは、公民館のコーディネーターが発送し、教職員の負担軽減にもなっている。
公民館がコーディネーター役を担うことで、「地域ぐるみで子供を育てる」という活動がより効果的に行える。「地域総がかりで子供を育てる」という活動内容や意図を公民館だよりも取り上げ、地域住民へ知らせ啓発に努めている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

地域住民や公民館の自主学習グループの方々がボランティアに登録し、今まで以上に地域の子供に関心をもち学校支援にも関わっている。また、子供たちと活動することを通して、「子供たちから元気もらった」との感想をもつ人も多い。学校応援団での活動を行うことで、校外でも子供たちに声をかけられ、ボランティアの方々も喜んでいるという声を聞く。また、顔が見える関係を築くことで、安心・安全の確保につながっている。
地域の方が、学校で支援を行うことで学校をより理解し、学校に協力的な方々が増えてきている。先生方も、支援員が入ってくださることで子供たち全体に目を向けられるようになり、感謝している。

●その他

生涯学習の拠点施設である公民館等を活用し、放課後学びたくてもその環境が整っていない子供たちを対象に、学力向上と郷土愛を育むことを目的として、学習活動の支援や地域のことを知る活動、地域の方々との交流活動等を実施している。これらの活動がまちづくりや地域の絆づくり、さらに、地域の教育力の向上につながっている。



放課後、子供たちが自習する場所として、鹿屋寺子屋事業が活用されている。地域の方々がボランティアとして参加し、子供たちの学習をサポートしている。

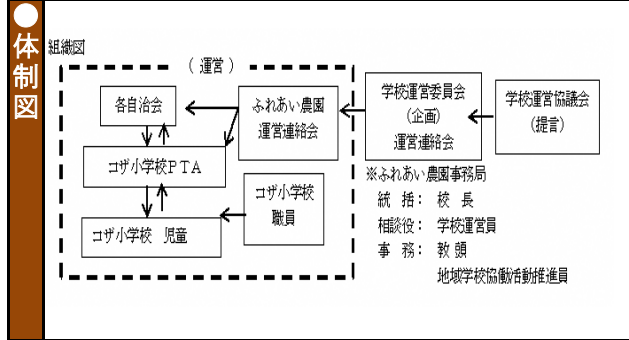


地域の史跡をめぐり、子供たちに体験活動（寺子屋事業）を説明しながら、地域の特色を生かして子供たちに輝く瞳を！

こんな活動です

～ 「ふれあい農園」の運営を通じた学校・地域・家庭の連携推進による児童の健全育成 ～

沖縄県沖縄市		●活動名 コザ小学校区地域学校協働本部				●関係する学校名 沖縄市立コザ小学校	
協働活動開始年度	平成 28 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	14 学級	のべ児童・生徒数	257 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	—				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		
	—		—		1人		
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
	平成26年4月1日指定	—	72人	—	—		
参考URL	kozsyo01@edu.city.okinawa.okinawa.jp						
●連絡先	コザ小学校区地域学校協働本部			☎ 098-937-3249			



- 活動の概要・経緯
- 平成21年度に「学校支援本部」の活動を開始。
 - 平成26年に小学校にCSが導入され、地域コーディネーターも学校運営協議会に参画。
 - 平成27年度の学校運営協議会にて、三者(自治会・PTA・学校)の抱える課題について協議
 - 自治会の抱える課題 ①地域住民の自治会活動の参加率低下 ②地域居住の児童(世帯)の把握の困難
 - PTAの抱える課題 ①PTA活動の参加世帯数の減少 ②PTA活動の活性化
 - 学校が抱える課題 ①体験学習の充実 ②保護者の学校教育への理解促進
 - 上記の課題解決策として、未活用の校舎跡地を農園としての利活用し、地域ぐるみで行う「ふれあい農園」の活動を開始。(平成27年6月～農園づくりスタート)。

●活動の特徴・工夫

- 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】
- ①地域・家庭・学校が連携協力した教育活動の実践を推進し、児童の健全育成を図ることを大前提に、下記3点を活動の基盤とし、三者それぞれの活動効果を図っている。
 - 【基盤1】地域:自治会活動の活性化を図る(顔見知りになり、より多くの自治会活動への参加)。
 - 【基盤2】家庭:PTA活動の活性化を図る(家族でPTA活動に参加できる機会をつくる)。
 - 【基盤3】学校:児童の体験活動を通して、地域・家庭と連携を深め、教育方針等の共有化と教育実践を図る。
 - ②地域学校協働活動推進員が学校運営協議会のメンバーとし会議に参加し、学校運営に関わっている。
 - ③地域学校協働活動推進員がコーディネート活動を幅広く行っている。(各自治会の子ども会の結成の支援、学校との支援ボランティアの配置調整、月に3回～4回の自治会訪問による情報交換等)
 - ④地域学校協働活動として、朝の交通指導、校外学習の引率、読み聞かせ、家庭科授業の補助、丸つけ等、多様な活動を展開している。
 - ⑤「ふれあい農園」として学校の空地を利用して校区内4地区と校区外の子供たちも活動できるように畑を区画整理し、耕地から灌水等の世話まで多くの方々に関われるように分担。

【実施に当たっての工夫】

学校・地域・PTAを取りまとめる要として「ふれあい農園運営連絡会」を立ち上げ、年間6回の実施計画を立て、三者の連絡調整に努めた。また、連絡会に事務局を設置し、学校(児童・職員)、家庭(PTA・地域住民)、地域(自治会)の役割も整備し、活動のゴールに収穫祭を設け農園の運営を通して三者が一体となれるような工夫を図った(組織図参照)。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 児童が植物を育てる体験活動をととして収穫の喜び等を実感することができた。
- 「ふれあい農園」の活動を機に、各自治会に子ども会が結成され、畑の水やりなどを子ども会を中心に行うことで、自治会内の子供たちの交流が図られ、活動の活性化が図られた。
- 活動を通して、地域住民が顔見知りになり、自治会活動やPTA活動への参加を促す機会となった。

●その他

活動後に情報交換会として、成果と反省を話し合う機会を持つようになっている。また、児童が地域ボランティアに感謝の気持ちを込めて招待する「給食お招き会」を開催している。



頑張親菜つ子も可愛く話した水やり！苦も手



小受「なるさけこなて起と芽キ人にかヤのピらベ比ッこッ嘉クんをさりな収ん！に穫の指大」導をきく

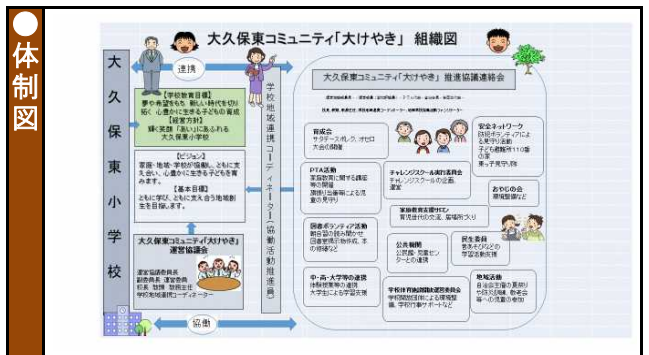
こんな活動です

心豊かに生きる子どもたちの笑顔のために！ ～ともに学び、支え合う大久保東コミュニティ「大げやき」～

埼玉県さいたま市	●活動名 大久保東コミュニティ「大げやき」	●関係する学校名 さいたま市立大久保東小学校
----------	--------------------------	---------------------------

協働活動開始年度	平成 24 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	24 学級	のべ児童・生徒数	715 人
活動区分	学校支援活動		—		地域人材育成		
	地域未来塾		放課後子供教室		外部人材を活用した教育支援活動		
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数			1人
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携			有
参考URL	http://okubohigashi-e.saitama-city.ed.jp/index.html						

●連絡先	さいたま市立大久保東小学校	☎ 048-852-3065
------	---------------	----------------



●活動の概要・経緯
学校の思いを中心とした、地域ぐるみで子供たちを育む既存の学校支援組織を改編し、学校と家庭及び地域のパートナーシップのもと双方向の連携・協働活動組織である『大久保東コミュニティ「大げやき」』を構築し、様々な活動を展開している。家庭・地域・学校が協働し、ともに学び、ともに支え合う地域創生と心豊かに生きる子供を育むことを共通の目的とし、地域学校協働活動を推進する組織として推進運営委員会、推進協議連絡会を設置した。また、平成31年4月からコミュニティ・スクールが導入されることで、地域ネットワークの拡充と地域学校協働活動の充実のためのコミュニティづくりを形成する中心的役割を担うのが『大久保東コミュニティ「大げやき」』となる。「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動に取り組んでいる。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①多様な学校支援「東っ子サポーターズ」:「チャレンジスクール東っ子」・子供の居場所づくりを目的としたスクールの企画・運営ボランティア。「東っ子見守り隊」・保護者の自主運営による子供の見守り活動。「東っ子学習タイムボランティア」・地域の方や保護者、学生による学習支援活動。「図書ボランティアえがおの会」・読み聞かせや図書室の環境整備、本の修繕。「おやじの会」・学校行事準備、片づけや施設の修繕活動。
- ②地域学校協働活動推進協議連絡会の実施:年2回の開催。「東っ子サポーターズ」が参加し、情報交換や「熟議」を行い、地域に関する課題等を協議する。
- ③授業における地域講師:6年生社会科「能楽教室」、2年生生活科「生き物の育て方」、特別支援学級の「野菜づくり」等。

【実施に当たっての工夫】

学校地域連携コーディネーターが中心となり、推進運営委員会や推進協議連絡会を開催し、地域学校協働活動の取組に関する情報交換や、学校や地域の課題について協議している。また、学校の一方的な思いだけの支援にならないよう、連携・協働活動の更なる推進と円滑な運営をサポートする「地域学校協働活動ファシリテーター」を配置し、ボトムアップを図った。ファシリテーターは保護者・地域の意向やアイデアを聴取・調整して運営参画する役割を担っている。さらに、『大久保東コミュニティ「大げやき」』の意図や地域学校協働活動を理解してもらうために、活動の実施例を掲載した『大久保東コミュニティ「大げやき」情報館』を発行し、保護者や地域、教職員に配布し、周知している。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

豊富な人材が多い地域の特性を活かした地域学校協働活動を実施することによって、学校の授業ではなかなか実施できない体験活動や、地域学習支援、環境の整備等が進むと同時に、「地域に開かれた学校」が具現化した。また、保護者や地域の方々積極的に地域学校協働活動に関わることで、学校への関心が深まり、多種多様なボランティア団体が自主的に発足した。生涯学習の視点からも、子供も大人も、ともに学び、ともに支え合う地域ネットワークの形成が確立しつつある。

● その他

地域講師の活動として、特別支援学級で「地域野菜名人」による夏野菜を育てる授業を行った。また、子供の居場所づくりとして放課後と土曜日にチャレンジスクール「東っ子」を開催し、ものづくり・スポーツ・理科実験等の多様な体験活動を展開している。



で地域での夏野菜の栽培活動により、地域住民の協力により、特別支援学級に地域野菜名人による授業が行われ、子供たちが野菜を育てる活動に参加している。

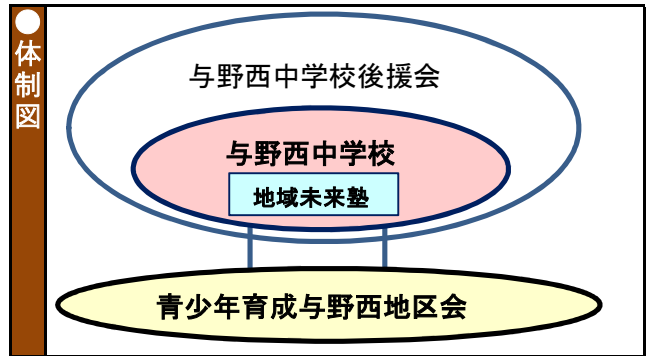


地域の高齢者との交流を促し、福祉体験活動の場を提供している。

「希望の登校 笑顔の活動 満足の下校」 のための地域と学校の連携

埼玉県さいたま市	●活動名 与野西中学校区コミュニティ・ネット	●関係する学校名 さいたま市立与野西中学校
----------	---------------------------	--------------------------

協働活動開始年度	平成 27 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	18 学級	のべ児童・生徒数	547 人
活動区分	学校支援活動	—		—		—	
	地域未来塾	—		—		外部人材を活用した教育支援活動	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	1人		地域学校協働活動推進員等の数	1人		
	指定・設置日	平成31年4月1日設置予定		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有
参考URL	http://yononishi-i.saitama-city.ed.jp/						



●連絡先	さいたま市立与野西中学校	☎ 048-852-6235
------	--------------	----------------

●活動の概要・経緯
与野西中学校後援会の支援を受けている本校と、校区の子供たちの健全育成に関わる青少年育成与野西地区会が密接に連携し、地域全体で子供たちを見守り、よりよい成長につなげるよう活動している。後援会を組織している校区の自治会と、青少年育成与野西地区会とは、それぞれの単独の活動のみならず、互いに連携して保護者や子供たちを包含しながら地域住民をまとめる役割を担っている。地域の祭りでは、青少年育成与野西地区会が中心となり、教職員、PTAと共に巡回を行うことで、子供たちが安全に地域の伝統文化を体験することを可能にしている。
土曜日には、統括的な地域学校協働活動推進員が中心となり、地域の大学生ボランティアを指導者に、「土曜チャレンジスクール」を開催し、生徒個別に対応した親身な指導を可能にし、学習意欲の向上につなげている。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

毎年、7月・11月・1月の土曜公開授業の後に校内と校区内の美化活動を実施している。生徒は全員参加し、保護者有志や各自治会への呼びかけに積極的に応じて多くの地域の方も参加している。校区をきれいにする体験活動を通して、地域で生活している一員としての自覚と、他者を思いやる心、親の世代から受け継がれる伝統を感じる心の醸成を図っている。また、教職員と育成会とが連携し、年7回の校区巡回パトロールも毎年実施している。さらに、授業日の8:00～8:30には、クラスごとに保護者が6～7名ずつ交代で、正門付近に立ち、登校してくる生徒たちにあいさつや声掛けを実施している。管理職、学校地域連携コーディネーターも正門に立ち、保護者と共にあいさつ運動を行うことで、生徒についての情報交換が可能となり、日々の教育活動に生かしている。

【実施に当たっての工夫】

校区環境美化活動では、青少年育成与野西地区会と連携し、地域の自治会向けにも事前に周知し参加者を募っている。また、保護者や地域の方が参加しやすいように、土曜日の学校公開日に実施するといった工夫をしている。保護者の有志は部活動ごとに生徒や顧問と一緒に美化活動を実施することで、親子の家庭外での交流を深めている。美化活動後には青少年育成与野西地区会が準備してくれた飲み物でリフレッシュの時間を共有しながら交流を図っている。年7回の巡回パトロールでは教職員と地域住民が一緒にパトロールをすることで校区内の危険箇所等についての理解を深めている。朝のあいさつ運動は、PTAが保護者全員を1日6～7人に分担し、学校安心メール等を利用して協力を呼びかけている。保護者の都合に配慮し、他の日と振り替えられるよう柔軟な対応をしているので、参加率は非常に高い。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

体育祭や文化発表会、合唱コンクールなどに多くの地域住民が参観に訪れる。「学校行事の開催を心待ちにしている。」という声を直接的、間接的に頻繁に耳にすることからも、今まで以上に学校教育諸活動に関心をもち学校支援に関わろうとする地域住民の意思が伺える。学校への関心の高まりに伴い、教育環境の整備を中心にきめ細かな援助活動を推進しようという与野西中学校後援会の活動も活発化している。これにより、AEDなど高額な医療機器の追加配置を可能にし、安心・安全な教育活動環境を実現している。また、保護者による毎朝のあいさつ運動や、年に7回の校区巡回活動の計画的な実施により、互いの顔が見える関係を築くことも、安心・安全の確保につながり、生徒たちは日々学習や部活動に集中して取り組んでいる。

●その他

JAF(日本自動車連盟)を招いての交通安全教室、私立高校の教頭を講師とする3年生と保護者へのキャリア教育、校区内の高校教諭による合唱コンクールの審査、産婦人科医を講師とする全校性教育講演会の実施等、外部人材を積極的に活用している。



こ察あ
のい保
も協さ護
あ力つ者
るに運が
。動毎り
りを朝
安行正
全つ門
指て付
導い近
るにを
行。立
う警ち



を校
年が青
3連少
回携年
携実育
し施成
て校与
区野
西西
の環区
境西
地境
。美地
区化
会
活
動学

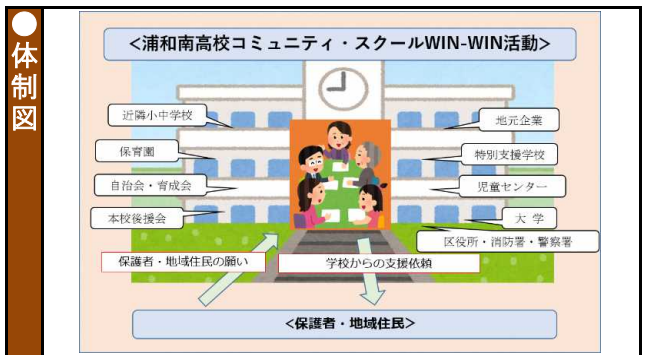
こんな活動です

地域連携を通して、体験的な学びを深める 浦和南高

埼玉県さいたま市	●活動名 浦和南高校コミュニティ・スクールWIN-WIN活動	●関係する学校名 さいたま市立浦和南高等学校
----------	-----------------------------------	---------------------------

協働活動開始年度	平成 27 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	24 学級	のべ児童・生徒数	979 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習		地域人材育成		外部人材を活用した教育支援活動	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		2人	
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数		延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有	
参考URL	http://www.urawaminami.ed.jp/						

●連絡先	さいたま市立浦和南高等学校	☎ 048-862-2568
------	---------------	----------------



- 活動の概要・経緯
- 1 小・中学校連携「書道教室」など8活動。小・中学生の学習支援、高校生にはコミュニケーション・プレゼン能力向上。
 - 2 特別支援学校との交流。大学との実習講義の連携、大学(教職課程)生の学習支援者連携。
 - 3 消防局との連携。教員と運動部員を対象に救命講習を実施。安心安全の環境整備と命を守る意識啓発。
 - 4 保育園、児童センターとの連携。「赤ちゃん教室」に母子を招待し、親になることを考察。保育実習の実施。
 - 5 地域イベント参加。浦和おどり、シンポジウム、タウンミーティング、ボランティア、交通安全活動など。地域参画意識啓発。
 - 6 地域住民、保護者参加の学校支援活動。文化祭安全活動、防犯パトロール、放課後の図書館開放、防災避難所開設訓練。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

小・中学校連携事業のひとつ「Jr.インタープリター」では、近隣小学生約70名を浦和南高生が引率し、日本科学未来館の案内解説人をつとめる。事前学習から発表学習までの活動は年間にかかる。日本科学未来館での事前学習、小・中学校へ訪問、各HRでの参加募集プレゼンとポスター掲示、しおり作成、当日の解説と安全指導、小学生の感想集・報告書作成、学年集会発表会など。小学生に解説することは思いのほか難しくつまらない説明をすると彼らはすぐに飽きてしまう。高校生は必然的に短く、分かりやすく、面白い解説をする工夫をしなければならない。プレゼン能力の向上やコミュニケーション能力の向上につながるのと同時に、地域の人材育成に高校生が直接かかわることができる貴重な体験である。

【実施に当たっての工夫】

地域連携の多くは希望参加事業である。学習や部活動等で忙しい高校生にとって、他の活動との兼ね合いや時間の確保が困難である。逆に、多くの高校生は社会参画に興味があり、機会があれば参加したいとのニーズがあることも事実である。本事業に参加できなかった生徒が将来的に社会参画できる機会を得た時のためにも、本校での地域連携事業参加者が「地域連携事業での体験的な学び」「社会参画の意義」など全体に発表する機会を設け、生徒全体に学習活動を還元することを心がけている。プレゼン研修は産業能率大学との連携を通して行う。発表の場は、校内発表会(生徒・希望保護者対象)、文化祭での掲示発表、HP報告書掲載などである。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 1 地域社会への参画意識の啓発。体験的に社会貢献を実感し、地域の一員として社会をより良くする意識の向上。
- 2 自己肯定感の醸成。社会貢献活動、地域の方との交流を通し、自己の活動が他者の支えになることを体験できる。
- 3 様々な人との交流を通して、多様な価値観を吸収する機会にもなっている。柔軟な思考やキャリア教育の一助ともなる。
- 4 思考の言語化の重要性を理解する。学びを言語化する際に思考が整理され、さらに自己の学びも深まる。
- 5 家庭教育力との連鎖。発表活動やHPでの活動周知を通して、家庭での会話が増えることを期待している。生徒にとって一番身近な保護者に話すことは、最良の言語活動である。発表にはない事由にまで、思考の整理が進む。

●その他

主な連携先: いちご保育園、文蔵児童センター、社会福祉協議会(学童保育)、(株)ビルメン、南区役所、埼玉県警察署、市消防局、埼玉大学、産業能率大学、東海大学、地域小・中・特別支援学校、辻自治会、青少年育成会、市教育委員会、本校後援会



を日J
引本r
率科・
し学イン
し案未
内来ター
して館に
に地プ
域リ
小・中
学生

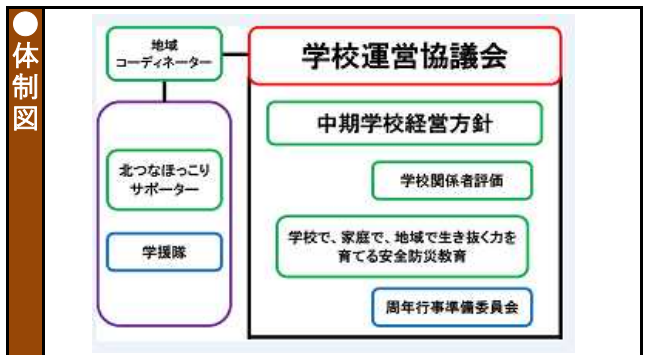


書道教室
の「土曜
チャレン
ジスクール」
との連携

神奈川県横浜市	●活動名 北綱島小学校地域学校協働活動	●関係する学校名 横浜市立北綱島小学校
---------	------------------------	------------------------

協働活動開始年度	平成 26 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	23 学級	のべ児童・生徒数	660 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成	外部人材を活用した教育支援活動			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	2人			
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
参考URL	http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kitatsunashima/						

●連絡先	横浜市立北綱島小学校	☎ 045-542-9248
------	------------	----------------



●活動の概要・経緯

学校運営協議会を通して、地域、家庭との連携を強化し、ともに安全防災教育や地域の教育力を活用した学習活動を充実させ、地域に開かれた学校づくりを推進している。学校は、学校運営協議会で地域が協力できることを助言いただき、地域コーディネーターを通して学校支援ボランティアである「北つなほっこりサポーター」や学援隊などの地域人材に繋げていただいている。

北綱島小学校の安全防災教育は、東日本大震災後の平成23年に始まった。学区内に住宅密集地があり、延焼火災時の避難対応などが課題となる一方、核家族が多く、いざという時に大人を頼れない家庭が少なくない。そうした地域性も踏まえて独自に「きたつな安全防災プラン」というカリキュラムを作成し、地域との日常的な関わりの中で育成される資質・能力が非常時にも生きるという考えのもと、教育活動を展開している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 学校総合防災訓練と地域防災拠点訓練を、児童・保護者を含む地域全体の防災力を高めるという目的のもと、休日の授業参観日に実施。毎年、学校運営協議会で事前の協議と事後の振り返りを行い、より充実した活動になるよう展開している。
- 毎年6月に行われる学校総合防災訓練は、保護者も防災の授業や、避難訓練に参加している。
- 秋の地域防災拠点訓練では、児童・保護者が地域住民と自宅から学校に避難し、家庭と地域が連携した実践的な訓練を実施。訓練後の授業で振り返りをしたり、学習を発展させたりしている。

【実施に当たっての工夫】

- 学校運営協議会の内容を教職員全体で共有し、安全防災教育の土台となる地域住民との関係を深めるために、学校は毎年、各学年の年間指導計画を見直している。年間指導計画は、児童と地域住民が意図的・計画的に交流できるよう、北つなほっこりサポーターや学援隊などの活動に反映している。
- 支援活動の事前に地域コーディネーターが教職員と活動の目的や内容を確認し、北つなほっこりサポーターや学援隊などへ協力を依頼して、教育活動がより円滑で効果的に推進できるようにしている。
- <具体的な活動内容> ○1年生の学援隊体験やむかしあそび(生活科) ○2年生のまち探検(生活科) ○3年生の七輪体験(社会) ○4年生の消防団調べ(社会) ○5、6年生の裁縫・ミシン補助(家庭科) ○個別支援学級の野菜や花の栽培活動

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 安全や防災に関する学習は主に生活科や総合学習の時間に行うが、理科や社会、道徳など他教科の時間にも関連させて、横断的に行っている。点になりがちな防災訓練と日常の学習を結び付け、学習の中で地域住民と交流できる場面を意図的、計画的に取り入れることで子どもたちの視野が広がり、学びがより深まった。
- 4年生では、安全防災教育をESD×福祉でとらえる実践が新たに行われるなど、各学年で多様な実践を展開している。
- 学習を通して地域住民と関わることができ、児童が自分の住むまちや人を好きになっている。

● その他

○中学年では安全防災教育を新しく「地域の自然」や「福祉」の視点からとらえ、地域と繋がりを持つことができ、活動に広がりを見せている。



地域の子や自然と安全防災を
 地域の早川の水を
 自然と安全防災を
 地域の子や自然と安全防災を



災害自由な方と交流する
 災害自由な方と交流する
 災害自由な方と交流する

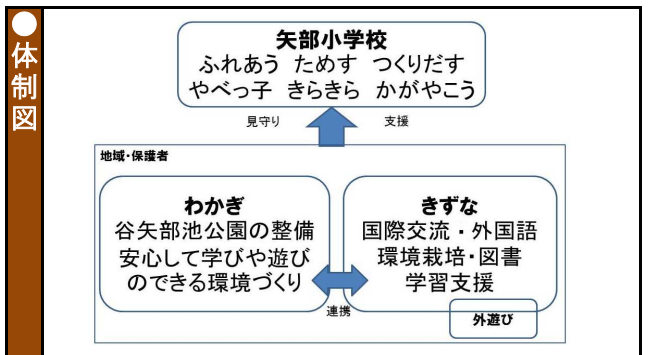
こんな活動です

豊かなネットワークで子どもたちを育てます ～まちを“心のふるさと”に～

神奈川県横浜市	●活動名 矢部小学校地域学校協働活動	●関係する学校名 横浜市立矢部小学校
---------	-----------------------	-----------------------

協働活動開始年度	平成 23 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	25 学級	のべ児童・生徒数	632 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	—				
	—	放課後子供教室	外部人材を活用した教育支援活動				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	—		12人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
	平成34年4月1日設置予定		142人				
参考URL	http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/yabe/						

●連絡先	横浜市立矢部小学校	☎ 045-871-3408
------	-----------	----------------



●活動の概要・経緯

矢部小学校には教育活動を広範囲に支援する2つの大きなボランティア組織が存在する。『わかぎの会』は、平成16年に保護者0Bによって結成され、隣接した谷矢部池公園を整備して、子供たちが生き物や植物、地域の人とふれあうことで五感を磨く様々な活動を企画運営している。谷矢部池公園が「子どもたちの学びの場」「地域の憩いの場」となるようにと、地道な活動を続けている。『きずな』は、主に校内の教育活動に関わり、地域・保護者の英知とパワーを生かす支援活動を多角的に実施している。組織には、国際交流・外国語・学習支援・環境栽培・図書の5つのグループがあり、毎月1回運営委員会を開催し、各ボランティアグループの活動状況や問題点、次月の活動内容の確認をする等、組織的計画的に活動が展開されている。また両組織の代表が学校づくり懇話会に参加し、自治会・町内会に活動をアピールする等して、積極的に外部へ情報発信を行っている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

『わかぎの会』の活動

○生き物観察会(夏・冬) ○工作教室 ○NPO法人による児童環境委員会への支援 ○森林インストラクターと連携した環境学習

『きずな』の活動

○国際交流(米国フォックスミル小学校との交流活動のサポート) ○外国語(英語活動のサポート) ○学習支援(算数・音楽・家庭科学習の補助) ○環境栽培(学年ごとの「みどりの活動年間計画」に則ったふれあい農場での畑作・稲作栽培活動の支援) ○図書(朝の時間、中休みの読み聞かせ・学校司書と連携した学校図書館整備) ○地域の方と遊ぶ外遊び(月2回、全職員と地域、体育協会と協働することで、休み時間の外遊びを活性化させる支援)

【実施に当たっての工夫】

○『わかぎの会』『きずな』とも、実施計画や報告等を広く保護者・地域に伝える活動を大切に存在を周知することに努めている。
○国際交流は、米国フォックスミル小学校との交流を始めるために、契約等の細かい諸手続きや両校長間の意見交換の場の設定、迎え入れてからのお世話等、全面的にボランティアグループが学校や地域との連携を大切にしながら活動を進めている。
○環境栽培では、農業に詳しい地域、保護者の方が谷矢部池公園の奥にある「ふれあい農場」で各学年の学習のねらいや学習の内容に応じて、稲や様々な野菜を育てる活動をアドバイスする等の支援をしている。
○『きずな』事務局が、名簿管理や当日の遊びコーナーの担当者割振り等の細かい仕事をしてくれるため、地域の方と遊ぶ外遊びが定着してきた。今年度7月からは、外遊びの重要性を再認識した職員とのコラボレーションが実現した。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

○保護者や地域の方々との交流が学校内外で活発に行われているので、自然と交流が生まれ、まちをあげて、子供たちを“地域の子”として、育てようという姿が見られる。
○子供たちとの交流で、心が通じ合い楽しさややりがいの実感をもたったりすることで、「子どもたちから元気をもらっている。できる限り続けたい」と、話される地域の方々の声をよく耳にする。子供たちから進んで行う明るい挨拶の輪も広がっている。
○市のまち普請事業として谷矢部池公園に新設された地域活動拠点「ぶらっと」とリンクした活動の可能性が今後大きく広がっている。
○学校も定期的に谷矢部池公園清掃をしたり、地域行事への子供たちの参加を促したりすることで、地域への愛着が生まれている。

● その他

○1年生が谷矢部池公園で行われる竹灯籠祭りの時に飾る竹灯籠作成のため、地域の方が竹の切り出し作業を行ったり、地域の方で構成される竹灯籠実行委員会が親子竹灯籠工作教室を開いたりする等、子供たちを取り巻く豊かな人材ネットワークが存在する。



米フォックスミル小学校と矢部小学校の交流が、低学年の側面から広がっている。



外部人材を招いて、「谷矢部池公園生き物観察会」を実施している。

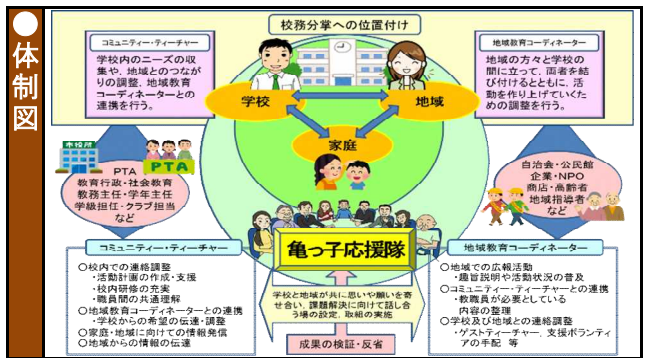
こんな活動です

地域と一体となって、次代の担い手を育てる ～ 推進会議「亀っ子応援隊」の取組を通して ～

新潟県新潟市	●活動名	●関係する学校名
	亀田小学校地域学校協働活動本部	新潟市立亀田小学校

協働活動開始年度	平成 19 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	20 学級	のべ児童・生徒数	511 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習					
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		1人	
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携		有	
参考URL	http://www.kameda-e.city-niigata.ed.jp/						

●連絡先 新潟市教育委員会 地域教育推進課 ☎ 025-226-3277



●活動の概要・経緯

○地域コミュニティ協議会の組織がしっかりしており、学校を助けようという雰囲気を感じられる地域である。区長や各種団体等から亀田の伝統・文化を継承してほしいという学校に対する要望、そして児童数の減少と共に校区の人口減が進んでいる現状等から、「地元『亀田』を愛する子供を育てる学校づくり」を、学校と地域が一丸となって推進している。

○「地域の伝統・文化をしっかり学び、亀田の良さを存分に知る。そして、亀田の人々の生き方に共感し、亀田の町を愛する子供」を目指して、多くの関係団体から出席を得た推進会議「亀っ子応援隊」においてワールドカフェ方式での熟議を重ね、目指す子供の姿や具体的な取組の共有を図った。その結果を受けて、地域と一体となった取組を一層充実させている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 1年「わたしたちのやさい」、2年「わたしのまち大すき」、3年「亀田のお宝調べ隊」「亀田のお宝伝え隊」、5年「亀田小の未来をを考えよう」等、総合的な学習の時間、生活科を核として、全学年で地域資源を活用した学びを進めている。
- 6年「プロデュース大作戦」では、商店街のお店の方にインタビューする活動を通して、地域の活性化に取り組んでいる方の存在を知り、自分たちも地域の一員として商店街活性化のプランを考え、プレゼンテーションを作成して発表したり、実際に実行したりした。
- 4年「亀田大すき」では、岩万燈保存会の方や亀田木遣りの方から指導を受け、児童は亀田祭り(8月)、杵打籠祭り(9月)に参加した。さらに、亀田の誇りである三九の市の歴史や課題を学び、自分たちにできることを考えてリーフレットにまとめたり、実際に出店したりした。

【実施に当たっての工夫】

- これまで、亀田小PTA、JAみらい、商工会議所青年部、江南区産業振興課、亀田縞応援隊、岩万燈保存会、主任児童委員、学校評議員、亀田郷土資料館、亀田地区公民館、亀田小学校区コミュニティ協議会等が、地域コーディネーターの尽力により学校支援活動にかかわった。関係団体の横の連携を密にし、「困ったときに助けてもらう」「教えてもらう」というボランティアだけではなく、団体1つ1つを「点の存在」から亀田の子供を取り巻くチームとして組織し、多様な活動にかかわっていただく「面の組織」にしたいという考えから「亀っ子応援隊」を発足。個々の活動にかかわってくれていた団体から、それぞれの活動だけではなく、全体的な視野から子供たちの育成にかかわってもらえるようになった。「亀っ子応援隊」には、立案の段階からかかわってもらっており、実際の地域学校協働活動推進の際にも大きな協力を得ている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 各学年の学習に「課題解決のために自分自身にできること」を考えさせる場面を意図的に設定し、実際に地域の方々から肯定的に聞いてもらったことで、子供たちは、「主体的に考え、解決に向かって行動すること」に自信をもち始めている。
- H30全国学力学習状況調査児童質問紙の「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の肯定的回答が85.3%となった。子供の地域行事への参加が大きく増加したことにより、ふるさと亀田の魅力を知り、亀田のことを誇りに思う子供が着実に増えてきた。
- 多くの関係団体から、子供たちの学習活動にかかわってもらい、学校が地域の活性化に寄与できたことから、「地域の中での学校づくり」「学校を核にした地域づくり」が具現化されてきた。

● その他

- 企業との連携:(株)長谷友が米の消費拡大をねらって開発を進める「米ピューレ」の可能性を5年生が社会科の学習と関連付けて学ぶ。また、亀田縞応援隊が商品開発を進める「亀田縞」について、3年生が綿の栽培、糸織りの仕方等について体験的に学ぶ。



高な亀田祭りにも歌う「亀田木遣り」を打たれ

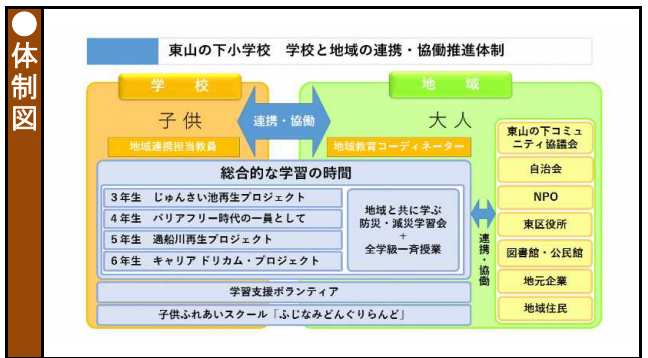


職員子供型員合(約八〇)防災訓練を(地域住民による)体教

新潟県新潟市	●活動名	●関係する学校名
	東山の下小学校地域学校協働活動本部	新潟市立東山の下小学校

協働活動開始年度	平成 21 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	36 学級	のべ児童・生徒数	921 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成	—			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	—			
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
参考URL	http://www.higashiyamanoshita-e.city-niigata.ed.jp/						

●連絡先	新潟市教育委員会 地域教育推進課	☎ 025-226-3277
------	------------------	----------------



●活動の概要・経緯

従来より、保護者の教育活動に対する関心が高く、特に核になる方々は大変熱心である。地域コミュニティ協議会も大変熱心であり、地域課題を解決すべく取組を進めてきた。数年前より、「学校が地域から助けをもらうだけではなく、教育課程の中で、何か地域のためにやっておられることはないか」と、学校が考えるようになった。学校と地域の各団体との情報交換の中で、「保護者世代から防災に関する意識をさらに高めてもらうための取組」そして「校区の環境問題に関する取組」についてが話題に上るようになった。そこで、関係団体との話し合いを経て、3年生以上の総合的な学習の時間を中心に「楽しくて、安心・安全なまち 大好き東山の下」の取組を実施するに至った。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①年間を通して、毎日のように学校支援ボランティアが入り、「健康診断補助」「新潟甚句指導」「水泳監視補助」等、様々な学校支援活動に参加してくれている。その数は年間で、延べ3,500人を上回っている。
- ②校区は、海拔0m地帯などの低地もあり、信濃川からの遡上により脇を流れる通船川からの水害を考えなくてはならない。そのため、「地震・津波」に関する学習内容を教育課程に位置付け、関係機関から多くの協力を得て、全学年による「防災教育」として組織し直した。
- ③「ふじなみどんぐりらんど」(放課後子供教室)を、月・水・土曜日に実施しており、子供たちの放課後の遊び場を提供している。「笹団子づくり」「ちまきづくり」「クリスマスイベント」「もちつき」等のイベントも実施しており、親子での参加も多い。

【実施に当たっての工夫】

- ①地域コーディネーターの尽力により、地域コミュニティ協議会や各自治・町内会を通じて、学校支援に参加するボランティアが大変多い。「読み聞かせ」ボランティアは、自分たちで勉強会まで開催している。
- ②休日に小学校体育館で実施する地域コミュニティ協議会主催の「地域防災訓練」「避難所運営訓練」の当日を地域と学校ウェルカム参観日とし、全学年がゲストティーチャー等を活用した「防災教育」「環境教育」の授業を実施して、地域住民を学校に招待し、参観を促した。
- ③「ふじなみどんぐりらんど」は、地域コミュニティ協議会、育成協議会、交通安全推進協議会、民生委員・児童委員、放課後児童クラブ、PTA正副会長が運営委員会を開催しながら検討を進めている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ①多くの学校支援ボランティアと接することで、「地域の方から褒められたり認められたりすることを通して、児童の自己肯定感が育まれている」と全ての教員が肯定的に評価している。
- ②参観に来た地域住民や保護者を巻き込んだ授業を実施したことで、地域住民や保護者世代の「防災や環境に対する意識」の高揚に寄与することができ、学校が地域の「学びの拠点」となった。高い評価を得たこの取組は、市内の研修会で発表する機会を得て、他校の参考となった。
- ③「ふじなみどんぐりらんど」と3つの「ひまわりクラブ」(放課後児童クラブ)の共催で、土曜日午前中の災害を想定した地震・津波避難訓練を実施した。その様子は、好事例として、市内で開催した放課後子供教室研修会の際に紹介された。

●その他

PTA以外では、「公民館」「図書館」「大学・専門学校」「NPO」「地元企業」「自治会・町内会」「地域コミュニティ協議会」「スポーツ振興会」「東区社会福祉協議会」「デイサービスセンター」「新潟市民謡連盟」等、大変多くの団体と連携・協働している。



「防災・減災学習会」がゲストティーチャーで地域の方



「通船川プロジェクト」の方より通船川の生き物について説明

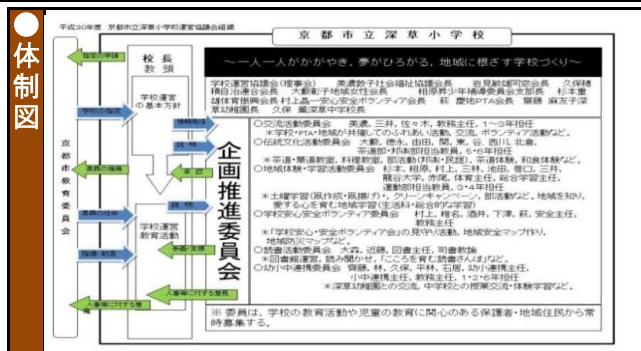


～一人一人がかがやき、夢がひろがる、地域に根ざす学校づくり～

京都府京都市	●活動名 深草小学校学校運営協議会	●関係する学校名 京都市立深草小学校
--------	----------------------	-----------------------

協働活動開始年度	平成12年度	関係学校数	1校	のべ学級数	23学級	のべ児童・生徒数	704人
活動区分	学校支援活動					地域人材育成	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		6人	
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携		有	
参考URL	http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=114509						

●連絡先	京都市教育委員会 生涯学習部	☎	075-251-0456
------	----------------	---	--------------



●活動の概要・経緯

古くから学校は地域と連携しながら学校運営を行ってきたが、平成12年に深草社会福祉協議会が授業の中で児童と交流する「なかよし会」の活動をきっかけに、協働的な学習活動が始まった。また学校週5日制がスタートし、土曜日の活動を地域の方々を指導者に迎え、児童の活動を行うようになった。現在では地元の中小工場と連携して、社会科の調べ学習を展開したり、NPO法人と連携して深草地域の特色を生かした学習を進めたりするようになってきている。部活動においては邦楽や茶道を地域の方を指導者として活動を行っている。平成29年度は「深草地域と伝統文化」をテーマにして、和菓子作りや茶道体験、琴の演奏体験などを総合的な学習の時間や教科の中で児童の豊かな体験活動を支える指導者として地域の方にきていただいた。また、少年補導や自治連合会と連携し、地域の中で児童のボランティア活動を推進する取組や、花き地方卸売市場が進める花育活動に参加して、様々な団体の協力を得ながら、児童の健全育成を行い、将来の地域の担い手を育てる取組を進めている。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①「なかよし会」による地域との交流活動…1～3年生まで地域の方と交流する。七夕飾り・おにぎり作り・昔遊び・音楽会・お餅焼き
- ②「伝統文化活動」…茶道部・邦楽部の部活動。総合学習における和菓子作り、茶道体験での指導。
- ③「深草の竹」…総合的な学習の時間でNPOと連携して竹細工の取組。平成28年に地域イベントで「同時に竹トンボを飛ばした人数」のギネス世界記録達成。
- ④「コミュニティプラザ図書館」…学校の図書館と公共の図書館が一体になった施設。休日や放課後の児童の居場所と教科学習の支援。
- ⑤「大正琴教室」…大正時代に生まれた楽器「大正琴」の教室を社協が土曜学習として運営。児童は毎年コンクールに参加。

【実施に当たっての工夫】

「地域の子どもは地域で育てる」の合言葉のもと、深草の様々な団体が学校教育や児童の健全育成に関わっていただいている。深草地域の各団体は横並びの組織で、学校を中心としてつながりを深めている。その中でも主だった団体長には学校運営協議会の理事を務めていただいている、学校関連の行事について取組を主体的に進めていただいている。その学校運営協議会がコーディネーター役となり、各取組の年間スケジュール作りや人材確保を行っている。学校は各団体と取組を進める上での連絡調整を行っている。学校事務職員は会計役となり、様々な事業の予算計画と執行を行っている。コミュニティプラザ事業(学校開放事業)と関連して取組を行ったり、休日地域児童クラブ事業に参加してもらったりするなど、児童の文化活動やスポーツ活動などの多様な体験活動を実現している。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

児童と地域の方々との関係は大変緊密になっている。学校の内外での取組の中で、児童が様々な立場の方と接していることで、地域の方から見守られ、育てられている。学校は地域の思いを受け止めることを大切にしている。学校教育の中に地域を教材とした単元を組み入れ、地域を知る取組を行うことや、取組について学校のホームページや学校便りで発信するなど、地域と連携した教育活動を心掛けている。保護者においても地域の方に登下校の見守り活動や、放課後の学び教室でお世話になり、感謝の気持ちを持ち、地域の方とのつながりが深まってきている。最近では町おこしとして「竹トンボを同時に飛ばした人数のギネスブックに挑戦」を行った時に、学校も実行委員会と協力して、学校の運動場で行ったが、あふれんばかりの人が来校し、実際に世界記録を達成した。児童も地域の方々も誇りとなる出来事であった。

●その他

土曜学習として「大正琴教室」「休日地域児童クラブ グランドゴルフ」を毎月開催しているほかにも、地域と協働した多様な取組を行っている。



総合的な学習の時間における「竹」の活用



土曜学習における「大正琴教室」

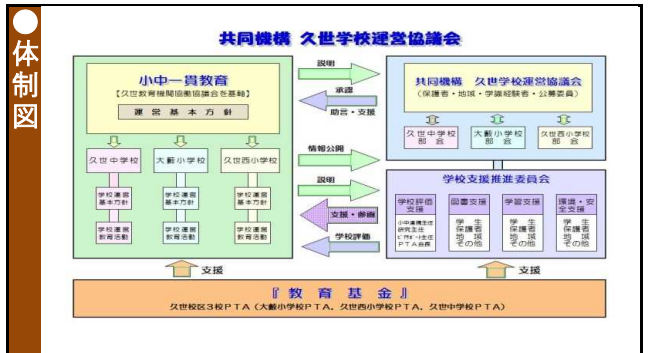
こんな活動です

「つながり」 地域の子どもは地域で育てる ～小小連携を基盤とした小中一貫教育の推進～

京都府京都市	●活動名	●関係する学校名
	共同機構久世学校運営協議会	京都市立久世中学校 京都市立大藪小学校 京都市立久世西小学校

協働活動開始年度	平成 23 年度	関係学校数	3 校	のべ学級数	52 学級	のべ児童・生徒数	1515 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成				
	地域未来塾	放課後子供教室	外部人材を活用した教育支援活動				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	—	—	4人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
	平成23年4月13日設置	—	176人	—	—		
参考URL	http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=202503						

●連絡先	京都市教育委員会 生涯学習部	☎ 075-251-0456
------	----------------	----------------



●活動の概要・経緯

久世三校では、小小連携を基盤とした小中一貫教育を進める中で、学校課題解決のため久世三校合同で分掌部会、教職員研修会、授業研究や事後研修会を実施している。また、久世三校の授業規律や生活規律を一貫させる「久世スタンダード」を作成して活用している。さらに、児童・生徒の育ちの課題を連続した観点で見据えるために、小学校と中学校とが協働できることをねらいとして、平成23年に小中合同の学校運営協議会（共同機構久世学校運営協議会）を設置した。

教育課題を学校と保護者が協働で解決を図るために、学校運営協議会の多くの理事を保護者中心として組織し、課題を共有し、協働して解決の取組を進展させることにより、家庭教育は家庭で行うという機運を醸成させ、子供たちの学力向上を図る取組を推進している。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

1. 小中一貫教育の推進…学校とともに小中一貫教育の充実に向けた協議・支援。
2. ピア・サポートの推進…社会性(ベースとなる自尊感情, 自己有用感)を育てる取組の支援。(ピア・サポート推進委員会)
3. 小小連携を軸とした学力向上「学力分析と対策」…小中合同教科主任会で課題を共有し、対策を図る。(学校評価支援推進委員会)
4. 「久世ノート」の作成…久世三校共通の家庭学習で活用するノートを作成する。(学習支援推進委員会)
5. スケアードストレート方式の交通安全教室…危険性を疑似体験し、交通安全意識の向上を図る。(環境安全支援推進委員会)

【実施に当たっての工夫】

1. 学校運営協議会理事会に客観性を持たせ、その信頼性を高めるために、公募により学識経験者(大学教授等)を招聘する。
2. 中学校区として運営する小中合同の学校運営協議会と学校支援推進委員会との連携を深め、それら学校運営協議会の理事・学校支援推進委員がコーディネーター役となり、保護者・地域参画のもと、それぞれの現状や課題を共有しながら、「久世スタンダード」の活用や小中合同教科主任会を開催するなど教育活動を充実させる。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

施設分離型の小学校・中学校(二小一中)でありながら、小中合同の学校運営協議会が設置している条件を生かし、学力向上に視点を当て、久世三校にまたがる教職員のチームを作りながら、主体的に学力分析の面で三校合同での検証を重ね、家庭・地域に対しても課題や改善策を投げかけ、リードしていく試みを進めてきた。現段階では学力調査での顕著な改善傾向は出ていないが、児童・生徒の学習意欲は高まりつつある。また、教職員、保護者、児童・生徒のそれぞれの行動指針「久世スタンダードver.2」の活用などを通して、三校教職員だけでなく、中学校区全体としての意識共有をさらに進めることができた。

●その他

「読書」をキーワードとして、校区の保育所、児童館、図書館、小学校、中学校で組織している久世教育機関協働協議会と緊密に連携している。また、久世PTA連合理事会を開催して、三校のPTAは同じ規約でそれぞれ活動している。



地域住民の畑で農作物の収穫体験



地域住民の方と木製ベンチを製作

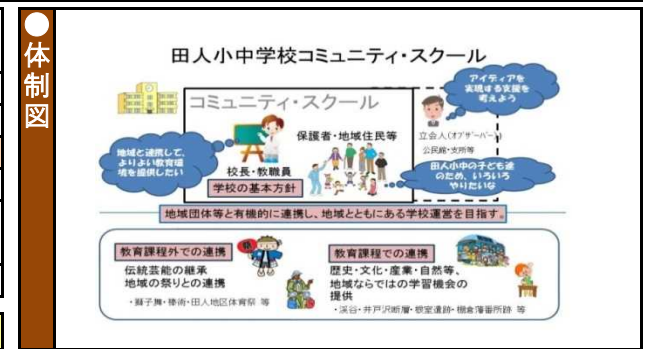
こんな活動です

田人ならではの コミュニティ・スクール ～地域とともにある学校づくり～

福島県いわき市	●活動名 ふるさと田人を支える人材育成	●関係する学校名 いわき市立田人小学校 いわき市立田人中学校
---------	------------------------	-----------------------------------

協働活動開始年度	平成 23 年度	関係学校数	2 校	のべ学級数	8 学級	のべ児童・生徒数	50 人
活動区分	学校支援活動		—		—	地域人材育成	—
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	1人		3人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携			有
	平成28年4月1日指定		38人				
参考URL	https://iwaki.fcs.ed.jp						

●連絡先	いわき市教育委員会学校教育課	☎ 0246-22-7542
------	----------------	----------------



●活動の概要・経緯

田人地区において「学校・家庭・地域・パートナーシップ推進事業」などの取組により育まれてきた、公民館を軸とした地域と学校との連携・協力体制を生かし、「地域とともにある学校づくり」を進めるため、平成28年に田人小・中学校をコミュニティ・スクールのモデル校として指定した。平成26年度の学校統廃合以降、地域全体で子供を育むという意識の醸成がいつそう進んでおり、「ふるさと田人の活性化」、「ふるさと田人を支える人材育成」という目的を地域住民、学校、保護者と共有し、相互に連携して学校運営への参画や諸活動に取り組み、より良い教育環境の実現を目指している。特に、特産品のコンニャクや自然薯づくり体験、林業体験、地域の歴史・文化・芸術についての学習と発信、地域内の多世代間の交流などは、子供たちの郷土を愛する心を養い、地域ならではの文化や伝統、資源を未来へつなぐ取組となっている。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 「田人への思いを深め」「田人の未来を創造し」「周囲と協働して目標に向かって挑戦できる」児童生徒の育成をめざして、地域の特産物である「コンニャク」「自然薯」の栽培、「木工教室」の実施等、地域の多くの団体の協力の下、郷土愛を育む様々な取組を進めている。
- 地域復興祭「たびとほっこり祭」においては、中学生がイベントを企画し、地域住民と共に主催者側として村外からの来訪者を温かく迎えている。
- 東日本大震災の巨大余震により地表に現れた約14kmに渡る正断層は、近年の日本では初めて出現した非常に稀なものであり(平成28年いわき市天然記念物に指定)、震災を後世に伝える試みとして、平成27年度に田人中学校生徒全員がこの井戸澤断層断面のはぎ取り作業に当たり、標本作成に関わった。

【実施に当たっての工夫】

- 田人小学校・田人中学校は、「小中一貫教育推進校」であることから、児童・生徒及び小・中の教職員が常に交流できる状態にあることを生かし、事業の計画・準備、実施の際は、異年齢集団として関係団体と協力しながら活動を進めるようにしている。
- 学校運営協議会の委員の多くが地域の諸団体の代表者であることから、諸活動の実施に際し学校運営協議会において十分協議を行うことで、関係団体から円滑な支援を得ている。
- 諸活動の実施の上で、学校と公民館が連携することにより、地域にかかわる多くのノウハウを有効に活用している。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 郷土愛の醸成
 - ・小学生が地域のお年寄りと交流活動を行ったり、中学生が地域復興祭「たびとほっこり祭」での会場準備や発表、各イベントブースの手伝いなどを行ったりすることを通じ、児童生徒が地域の一員としての自覚や地元の良さを再認識することにつながった。
- 汎用的能力の向上
 - ・アンケートによれば、「事業を企画したり、いろいろな状況に対応したりする力」「コミュニケーション能力や表現力」が向上したと感じた児童生徒が増加した。

●その他

○「井戸沢断層」のはぎ取りや「田人ほっこり祭」での企画等のように、児童・生徒が地域の一員としてのまちづくりに参加する機会が生まれている。



地域のみなさんの協力で自然薯栽培に取り組み（総合）

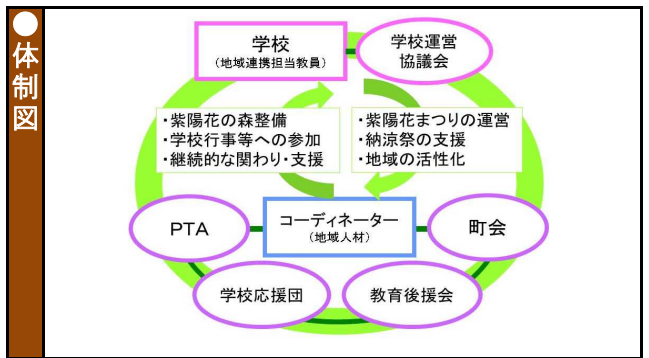


田人復興祭で、イベントブースの運営に参加（総合）

学校と家庭・地域が一体となった子供たちの育成

埼玉県川口市	●活動名	●関係する学校名
	川口市立小谷場中学校地域協働部	川口市立小谷場中学校

協働活動開始年度	平成 21 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	7 学級	のべ児童・生徒数	233 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	—				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		
	—		—		3人		
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
	平成29年4月1日設置	—	72人	—	—		
参考URL	http://www.sch.kawaguchi.saitama.jp/koyaba-j/						



●連絡先	川口市教育委員会 指導課	☎ 048-259-7661
------	--------------	----------------

●活動の概要・経緯
「生徒数が減少している中学校」と「高齢化が進んでいる地域」であることから、学校と地域が力を合わせて解決をしようと、連携・協働をするようになったのが背景である。3人の地域コーディネーターを中心に地域の住民達に少しでも学校に関心をもってもらいたいという願いから、「紫陽花の森」「紫陽花まつり」「納涼祭」を中心に学校と地域で共同開催をし、生徒や教職員、保護者の力を活用しながら地域との触れ合いを増やしていった。そのことにより、地域による学校支援も活性化し、学校・地域双方に活力を生み出していった。
今後も、小谷場中学校はコミュニティ・スクールとして地域に愛される学校になるべく、さらなる地域との連携・協働に努めようとして取り組んでいる。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①学校裏の斜面に、学校と地域が連携し、300本の紫陽花の挿し木を実施した。その後も除草や剪定作業を継続的に実施し、昨年度にはさらに400本追加し、現在は紫陽花の森が広がっている。
- ②紫陽花の森を地域に見せることを目的とし、学校と地域共催により、「紫陽花まつり」を実施している。
- ③高齢化等により中止となっていた町会の納涼祭を、学校と地域との共同開催とし、納涼祭の復活を図った。生徒が模擬店を出店したり、ダンス部の発表などを行っている。
- ④補習、技能教科の学習支援に加え、月2回Step up学習会を実施し、生徒の学力向上の支援を行っている。

【実施に当たっての工夫】

学校応援団(学校支援活動)、教育後援会、町会からなる3人のコーディネーターと学校の地域連携担当教員が連絡を密にし、活動内容を日頃から相談しているため、円滑に活動を実施することができている。また、学校長は学区内全ての町会の役員会(月1回程度)に参加したり、地域の行事に顔を出すことで、学校の情報を発信したり、地域からの願いを取り入れたりすることで、互いのビジョンの共有を図っている。なお、納涼祭や紫陽花まつりは地域と学校が共同開催しているため、事前・事後の会議を行い、開催中に気がついた点については実施後に確認をし、次年度の改善に繋がるよう努めている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

上記に挙げた活動を継続的に取り組んできたことにより、小谷場中学校の生徒数は増加し、全体的に教育活動が活発となってきた。地域の方が学校へ足を運ぶ数も増え、生徒や教職員からも校内に地域の方がいることが自然となってきている。また、生徒が登下校や校外に出た際に、地域から声を掛けられることも多く、地域の中の学校であるという意識が学校・地域共に高まってきている。

● その他

地域の方に、学校に来てもらいたいという願いから、学校の斜面に「紫陽花の森」をつくり、「紫陽花まつり」を実施したり、「納涼祭」を学校と地域が協働して実施することにより、多くの方に学校へ足を運ぶ機会となっている。



学校と地域住民が連携・協働して「紫陽花の森」づくり

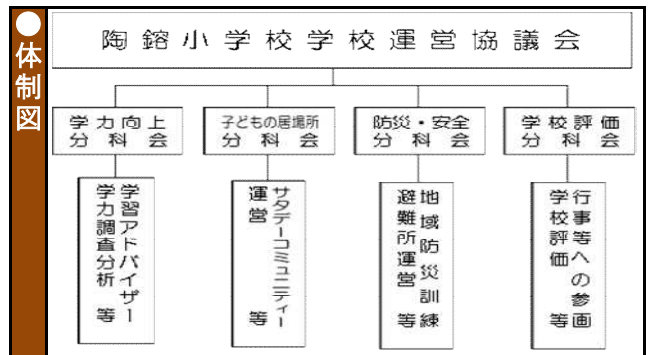


学校・地域で「納涼祭」を開催する

東京都八王子市	●活動名 陶鎔小学校学校運営協議会	●関係する学校名 八王子市立陶鎔小学校
---------	----------------------	------------------------

協働活動開始年度	平成 20 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	21 学級	のべ児童・生徒数	488 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成	放課後子供教室 外部人材を活用した教育支援活動			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 3人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
参考URL	http://hachioji-school.ed.jp/tovoe/						

●連絡先	八王子市立陶鎔小学校	☎ 042-623-3220
------	------------	----------------



●活動の概要・経緯

○「進んで学び、粘り強く自己を高める子供を育てる学校づくり」「子供の社会性を育てる地域づくり」「安心・安全な地域づくり」を推進するため、年11回開催する学校運営協議会定例会での審議のほか、学校や地域行事に参画し、学校、地域の実情把握に努めている。学校・家庭・地域が目指す目標を共有してそれぞれの活動に取り組み、学校運営協議会が中心となって、連携・協働を図ることで、協働体制を密にしている。

○学校運営協議会において、4つの分科会を組織し、コーディネーターとして地域・家庭・学校を協働させ、知育・徳育・体育の調和のとれた「真の学び舎」を目指した取組を実施している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 陶鎔サタデーコミュニティー
子供たちの「サードプレイス(心のよりどころとして集う場所)」の実現を目指し、毎月第1土曜日に実施。PTAサタコミ委員会と学校運営協議会が連携して運営を行い、地域の方を指導者とした「手織り」「和太鼓」「英語」「ソフトボール」「スポーツ探検」「楽しく合唱」の体験活動を6講座開設
- 「陶鎔小おやじの会」と学校運営協議会の共催で開催するイベント
夜の学校を巡る「ナイトツアー」や「餅つき」、「逃走中(鬼ごっこ)」を毎年実施。400名以上が参加する地域行事となっており、地域交流の場にもなっている。また、学校環境の整備の一環として、学校敷地内にある「どんぐり山」「心の池」の再生事業を実施
- 陶鎔小学校区防災訓練
地域の町会と学校運営協議会の共催により、市役所・消防署と連携し、学校の避難所運営マニュアルに沿った地域防災訓練を開催。教職員がいない状況を想定した訓練を行い、施設の開錠や避難者カードの記入、アルファ化米の炊き出し訓練等を実施

【実施に当たっての工夫】

- 「子供は地域の宝」のスローガンを元に学校運営協議会が中心となって、PTAやおやじの会、近隣の福祉施設や保育園、幼稚園、行政機関(消防署、警察署、市役所、児童相談所)等と連携を図り、地域人材を活用していくための体制を築くことで、地域で子供を育て、その子供が地域を支えていくシステムを作り上げている。また、学校運営協議会内に部会を作ることで、それぞれの分野に特化して他組織との連携を図ることができている。この連携体制を基盤に、地域全体で教育活動や地域活動に関わることで、学校・家庭・地域の各々が当事者意識を持ち、「地域とともにある学校づくり」が推進されている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 学校運営協議会が学校と地域の間に入り、学校や地域の行事に積極的に関わりながら、学校の応援団的な役割を果たすことで、学校への地域の理解が得られやすくなり、地域や外部団体との間で「協力を惜しまない関係」を構築することができた。
- 取組んでいる様々な活動には、地域の多くの子供たちが参加し、子供が地域の大人と関わりを持つ貴重な機会となっている。
- 学校と地域の協働による様々な活動を通して、学校運営協議会委員が、「学校や地域の伝統を次の世代に受け継ぐ重要な役割を担っている」ことを実感してやりがいを感じ、活動の継続や新たな取組への活力につながっている。

● その他

地域住民が指導者となり郷土学習や体験活動に取組む「陶鎔サタデーコミュニティー」を毎月第1土曜日に実施
放課後子供教室は「公益社団法人八王子シルバー人材センター」と連携して行っている。



「古多摩織の伝統工芸士による手織り体験」



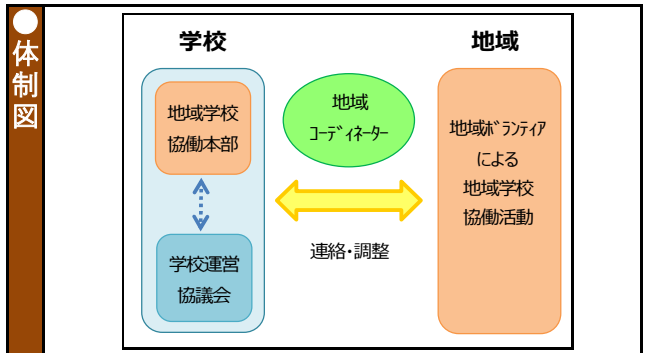
「大目ばやし」の会による和太鼓の指導」

地域みんなで学び支えあう 地域学校協働活動

石川県金沢市	●活動名	●関係する学校名
	金沢市立三馬小地域学校協働本部	金沢市立三馬小学校

協働活動開始年度	平成 26 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	25 学級	のべ児童・生徒数	681 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習		地域人材育成			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		
	—				3人		
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
	平成29年9月1日設置		162人				
参考URL	http://cms.kanazawa-city.ed.jp/minma-e/						

●連絡先	金沢市教育委員会生涯学習課	☎ 076-220-2441
------	---------------	----------------



●活動の概要・経緯

平成26年度に三馬小学校支援地域本部を立ち上げ、3名の地域コーディネーターにより学校支援活動を実施。実施4年目となる平成29年度より、金沢市立三馬小地域学校協働本部として新体制を整え、学校支援活動で培ったノウハウを活かしながら地域学校協働活動を展開。また、本事業を土台とし、平成29年9月よりコミュニティ・スクールの運営を開始。2つの事業を両輪とし、学校・保護者・地域団体が連携・協働しながら様々な活動に取り組んでいる。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ・昔たんけん：校区内でフィールドワークを実施し、学んだことについてポスターなどにまとめて、公民館文化祭等で発信。地域の方（公民館）が子供たちに守り伝えたいと思っている旧跡を紹介することができ、また、子供たちにとっても現地で実際に地域を知ることができる貴重な学びの機会となっている。
- ・交通安全教室：児童の交通安全への意識高揚を目的とし、交通推進隊、交通安全推進協議会、見守り隊、婦人会、育友会など、多くの地域団体と連携しながら地域ぐるみの活動を展開している。
- ・泉じょんがらを教えていただく会、虫送り太鼓を教えていただく会、茶道・和菓子作り体験、昔遊び教室：さまざまな分野の地域ボランティアの方に携わっていただき、子供たちにとって幅広い学びの場になっている。

【実施に当たっての工夫】

- ・地域コーディネーターは育友会副会長が担い、地域と学校の活動と行事予定のすり合わせや、地域ボランティアの確保など、学校・育友会・地域の連絡調整役となっている。また、育友会会長が学校運営協議会委員となり、双方の活動において会長と副会長で連絡を取り合いながら連携している。
- ・公民館行事とのタイアップ活動の場合、公民館主体で内容の検討、資料作成、ボランティア確保、スケジュール調整など実施するため、教職員の負担が少ない形で、子供たちに充実した学びの機会を提供できる。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ・地域の方が直接携わる郷土学習により、未来を担う子供たちの地域への愛着がますます深まった。
- ・指導する地域ボランティア自身のやりがいや、子供たちの育ちに関わる喜びにつながっている。
- ・多くの地域団体が参画・連携し、学校も含めた地域としての一体感の創出と地域ぐるみの子育てという機運の高まりがみられる。

● その他

三馬っ子見守り活動、校区パトロール、図書ボランティア、泉じょんがらを教えていただく会、虫送り太鼓を教えていただく会、茶道・和菓子作り体験、昔遊び、資源回収、交通安全標語募集など、地域ぐるみで様々な活動を展開。



校区内の旧跡を巡るフィールドワーク・昔たんけん



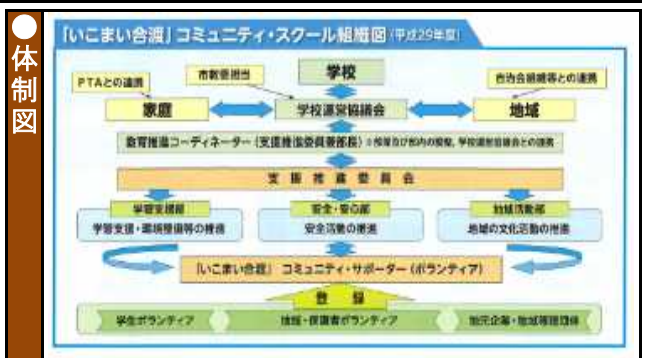
地域団体が連携して実施した交通安全教室

コミュニティで守り、育て、つなぐ、ふるさと合渡の心

岐阜県岐阜市	●活動名	●関係する学校名
	「いこまい合渡」コミュニティ活動	

協働活動開始年度	平成 23 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	13 学級	のべ児童・生徒数	353 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習		地域人材育成			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数	配置人数			
	—			3人			
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
	平成23年4月1日設置		434人				
参考URL	http://cms.gifu-gif.ed.jp/goudo-e/						

●連絡先	岐阜市立合渡小学校	☎ 058-251-7603
------	-----------	----------------



●活動の概要・経緯

平成23年度に設置した学校運営協議会「いこまい合渡」コミュニティ・スクールの支援推進委員会(学習支援部会、安全・安心部会、地域活動部会)の各部会の活動テーマに沿った年間活動計画を作成して、地域の諸団体と学校が相互に協働して活動を進めている。

学習支援部会では学校内外における学習活動の支援を、安全・安心部会では登下校の見守り活動や安全・防災に関する行事の支援を、地域活動部会では地域の行事・子ども会行事での支援を行っている。

さらに、学校での総合的な学習の時間では、各学年のテーマに応じて関係の地域人材が協働して支援を行っている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ・学習支援部会では、学校での本の読み聞かせ・クラブ講師の他、学校内外での教科学習の学習支援、夏休みに各地区ごとに「夏の寺子屋」を開催して補習的な学習の支援をしている。
- ・安全・安心部会では、登下校の見守り活動・児童会との合同あいさつ運動・学校の交通安全教室への支援・地域自主防災訓練への児童参加の支援などを行っている。
- ・地域活動部会では、「祭 いこまい河渡宿」・市民運動会・合渡おどりに児童参加の支援・子ども会主催の子どもフェスティバルへの協力などを行っている。

この他、「総合的な学習の時間」で、3年生枝豆作り・4年生高齢者福祉・5年生障害者福祉・6年生郷土の歴史と防災の学習支援

【実施に当たっての工夫】

- ・「いこまい合渡」コミュニティ・スクールの学校運営協議会で地域・学校相互の願いを共有し、支援推進委員会の各部会がテーマをもち活動計画を立案して、関係団体に働きかけたり、支援ボランティアを募集したりして活動を推進している。
- ・学校運営協議会が、支援推進委員会の地域学校協働活動の推進について関係団体間の意見調整を図り、活動が円滑かつ効果的に推進できるようにしている。また、細部にわたっては、自治会連合会長が地域関係諸団体の長として、小学校長が学校・PTA・子ども会の長として、それぞれの団体の意見を吸い上げながら意見交換をして調整を図っている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ・地域と学校が願いを相互に共有し、地域関係諸団体が学校の教育活動に参画し、学校の児童・職員・PTA・子ども会が地域活動に参加することで、相互理解の輪が広がり、「子どもを地域の宝として、地域と学校が協働して育てる」風土がより高まってきている。
- ・地域の協働意識・保護者の協働意識・学校と地域・保護者との協働意識が高まることで、児童の地域行事への参加意識や地域への愛着も高まり、児童一人一人の自己有用感やお世話になった方々への感謝の気持ちにつながっている。
- ・学校・地域で児童と触れ合う中で、「子供たちから元気をもらった」など、地域の方々にとっても、やりがいを感じられる活動として位置付けてきている。

● その他

・学習支援は、生活科1年生「昔の遊び」・2年生「町探検」、3年生算数「そろばん」・図画工作「木工工作」、4年生社会科「水防団の活動」、6年生家庭科「ミシン」学習の講師・支援ボランティアの他、クラブ講師、読み聞かせボランティア、「夏の寺子屋」指導を行っている。



自地域の方々の行事「河渡祭」に小学生も参加し、地域の歴史を学び、



のし自治会主催の地域合同自主防災訓練を実施

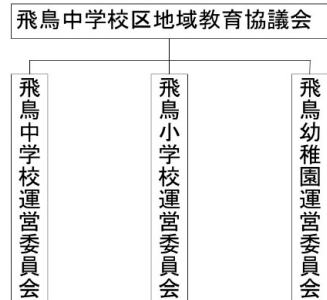
こんな活動です

地域に対する誇りと、地域を大切にできる心を持ち、自ら考え主体的に行動する子どもの育成

奈良県奈良市	●活動名 飛鳥中学校区地域教育協議会	●関係する学校名 奈良市立飛鳥中学校 奈良市立飛鳥小学校 奈良市立飛鳥幼稚園
--------	-----------------------	---

協働活動開始年度	平成 20 年度	関係学校数	3 校	のべ学級数	33 学級	のべ児童・生徒数	754 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習		地域人材育成			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数 16人			
学校運営協議会	指定・設置日 平成27年1月15日設置	ボランティアの数		延べ登録人数 310人	企業・NPO等との連携	有	
参考URL	http://www.naracity.ed.jp/asuka-e/index.cfm/1,0,17,469.html						

体制図



●連絡先	奈良市教育委員会 地域教育課	☎ 0742-34-5366
------	----------------	----------------

●活動の概要・経緯
飛鳥中学校区地域教育協議会は、平成20年に組織され11年目となる。現在は保護者、教員とともに学校運営協議会の地域連携部としても属しており、さらに深く各校園の支援を行っている。地域住民、保護者、教員の熟議から、「理想の学校像」「理想の地域像」「理想の家庭像」「理想の生徒像」「理想の教師像」を挙げ、地域、学校、家庭で子供を育てること、そして将来に向けた課題を見つけることを意識して活動している。コミュニティカレンダーの作成は平成24年度から続けられており、広く地域の方へ学校や地域の行事を知らせ、参加を募ることに成功している。コーディネーターを中心に学校園、児童、生徒、園児の力で行われる「あすかフェスティバル」は平成30年度には17回目を迎え、継続的事業としての成果を確認できる。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①「飛鳥ブランド」ということばに見てとれるように、「自尊感情の醸成」の観点をもってすべての活動に取り組む。
- ②学校園を中心とした地域づくりともいえる、「あすかフェスティバル」の開催は17年目を迎え、地域、学校園、生徒、保護者といった「平面軸のつながり」を強めている。「平面軸のつながり」の強化→学校力・地域力の向上→生徒の自尊感情の醸成及び学力の向上→10年後にはスムーズな世代交代、つまり「時間軸のつながり」に至る、という明確なビジョンを持ち活動している。
- ③「尊敬できる身近なモデルを見つけてほしい、モデルがいればヤル気になる」との思いから、子供たちに地域の大人の頑張る姿を見せることを共通認識としている。

【実施に当たっての工夫】

「あすかフェスティバル」において、幼稚園児・小学生・中学生それぞれに役割を持たせることや、また、地域の諸団体や校区内の大学とも連携して行う「防災プロジェクト」に、中学生が、教員、保護者とともに参加し、実際に災害が起きた際のシミュレーションをする中で、自分たちに期待されている役割があるということを認識させることにより、自尊感情を高める効果を狙う。コミュニティカレンダーは、地域、学校園の行事以外に、校区内の安全マップや非常時の携行品一覧、緊急連絡先などを記入できるようにし、また作成費用は市費に頼るのではなく、広告宣伝費ということで地域の方に寄付を募るなど、子供のいない世帯も含め、地域の方に協力を求める(巻き込む)工夫がみられる。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

地域の方と子供たちを結びつけることにより、地域の方には「小学生、中学生はこんなことができるのか」という発見が生まれ、子供たちには地域の方への感謝の気持ちが生まれている。実際に地域コーディネーターが行った生徒たちの面接によって「身近な大人モデル」を見つけた子供もいることがわかり、コーディネーターのモチベーションが一層高まっている。また、「めざす子ども像」を共有する地域と学校園の合同会議や、合同研修を行うことで地域と学校のつながりを深め、さらには個々人の信頼関係をも築くことに成功している。

●その他

小学校でのカヌー体験教室は(株)モンベル、奈良教育大学の協力を得て、小学校のプールで行われる。また中学校では、奈良教育大学の学生の協力で、「あすかスタサポ(放課後図書館学習)」を行うなど、地域と学校の多様な連携が展開されている。



ライ
フ
ジャ
ケ
ツ
ト
の
重
要
性
を
確
認
す
る
こ
と
も
飛
鳥
小
学
校
の
カ
ヌ
ー
体
験



平
成
二
十
九
年
度
か
ら
は
イ
ン
タ
ー
支
援
も
実
施
。
使
っ
た
プ
リ
ン
ト
学
習
支
援

こんな活動です

地域とつながる！！ 夢が広がる体験活動を！

長崎県佐世保市		●活動名 楠栖小放課後子ども教室				●関係する学校名 佐世保市立楠栖小学校					
協働活動開始年度	平成 18 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	7 学級	のべ児童・生徒数	163 人	●体制図 楠栖小放課後子ども教室運営委員会 放課後子供教室代表 コーディネーター 事務局 協働活動サポーター 補充学習 見守り・体験活動 通学合宿			
活動区分	学校支援活動	—		—		—					
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数 4人						
学校運営協議会	指定・設置日 平成29年4月1日設置	ボランティアの数	延べ登録人数 26人		企業・NPO等との連携		無				
参考URL	http://www.city.sasebo.ed.jp/es-kusuzumi/asp/default.asp										
●連絡先	佐世保市立楠栖小学校			☎ 0956-69-2513							

「地域とつながる！！夢が広がる体験活動を！」をテーマに、「体験活動」と「学習の基礎づくり」を活動の柱として、保護者が主体となって運営している。平成29年度は年間21回の教室を開催し、延べ1561名の児童が参加した。水曜日の補充学習では約50名の児童が参加し、ドリル学習など自分のペースに合わせた学習を行っている。木曜日の体験活動では約100名の児童が参加し、俳句づくり、木工品制作、まんじゅうづくり、囲碁教室等多様な活動に取り組んでいる。本校の放課後教室の大きな特徴は、多方面にわたる地域人材等を講師として積極的に活用し、地域と共にある活動を行っていることである。また、通学合宿を発足時から継続して実施し、今年度で13回目を迎えている。保護者だけでなく、健全育成会、自治協議会、老人会、婦人会、漁協など多くの団体の協力のもと実施しており、持続可能な取組として根付いている。

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①保護者による支援活動…保護者が主体となって運営している。地域性や伝統、人材等について協議しながら内容を決定し、保護者も一緒に楽しみながら活動している。
- ②地域人材の活用…公民館サークルや読み聞かせボランティア等地域の既存団体と連携したり、スタッフのネットワークをフル稼働し、多方面からの地域人材と連携したりすることで、多様な体験活動を実施することができている。
- ③多様な体験活動…俳句づくりや木工制作、かから団子づくり、囲碁、茶道等の伝統文化の継承、豆まき、ハロウィン、クリスマス等季節に応じた体験活動に取り組んでいる。また、通学合宿は設立当時から続き今回13回目を実施予定である。
- ④補充学習の実施…地域ボランティアがスタッフとなり、子供たちは宿題やドリル学習等に取り組んでいる。

【実施に当たっての工夫】

補充学習、体験活動の担当を明確にすることで、それぞれのスタッフが責任を持ち、アイデアを出し合うことで積極的な活動につながっている。地域の自然を生かした取組、地域に伝わる行事等、楠栖地区の良さや子供たちの興味が高まる内容を企画している。俳句作りで作成した俳句を作品展に出展する等子供たちの意欲が更に高まるような工夫も行っている。「つながり」を大切に、講師を学校行事に招いたり、学校支援ボランティアと連携したりしながら、活動の輪を広げている。通学合宿では地域ならではの活動も取り入れ、地域愛を育んでいる。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ・放課後子供教室のスタッフの数が活動の広がりと共に年々増え、保護者の輪が広がっている。
- ・多様な体験活動が人気となり、参加希望者が年々増加し、今年度は104名と全校児童3分の2の児童が参加している。子供たちの放課後の居場所、異学年交流の場として定着している。
- ・地域人材を活用した様々な活動を実施することで、地域の方が来校する機会も多く、地域からの信頼も高まっている。
- ・「子供たちから元気をもらっている」「学校に行くのが楽しみになった」「また来年も来たい」等の声が地域の方々から聞かれ、地域の方々のやりがいにもなり、Win-Winの協働活動となっている。活動の広がりが地域に広がっているところである。

● その他

毎週水曜日に放課後補充学習、木曜日に見守り活動と月1回の体験活動を実施している。補充学習には全校児童の3分の1となる50名の児童が参加し、地域ボランティアスタッフが指導を行っている。体験活動は地域人材を講師として招き、多様な活動を実施し、約100名の児童が毎回楽しみにしている。



た地域人材・保護者を講師とした団子作り



の地域のボランティアスタッフによる放課後補充学習